



昭和会誌

2014



ロゴマークは昭和会の「S」と今給黎の「I」をモチーフに、「S」を表す円と繋がり、働く人・総合力・コミュニケーションを意味し、患者様に見立てた「I」という1人に対して、積極的に立ち向かう姿勢を表現したものです。また黄緑は優しさ・温かさ、水色は誠実さ・清潔感をイメージしたものです。

ごあいさつ



公益財団法人昭和会 今給黎総合病院
代表理事 今給黎 尚典

病院誌発行 20 年目となりました。創立者として創刊号の所感を述べられた今給黎満幸会長 物故 14 年目となります。

本年度は救急車 2,605 台、常勤医師 91 名、年間手術 4,472 件、等々病院誌創刊時の約 2 倍強であり当病院の各診療科の皆さんの頑張りが記述されています。

今日までご指導ご鞭撻を頂いた各大学の先生方、ご紹介を頂いた全県下の各病院施設の皆様に更に御礼を申し上げたいと存じます。

高齢化の進行と共に、訪れる患者様は複数の合併症を有し、総合病院としての責務が年々増しているのではないかと感じています。さらなる全職員の医術医療の向上を図る必要があると思います。

急性期病院 450 床の総合病院として、鹿児島大学、昭和大学、福岡大学より医師の派遣を頂いています。

また、地域医療支援病院の認定を受け、国指定の厚生労働省地域がん診療連携拠点病院の許可を頂き、市立病院と共同で周産期母子医療センターとして新生児施設等を補完致しております。

院内に於きましても、専門医、指導医の資格を有するべき更なる努力をし、研修医の希望に合致する病院作りに努力する必要があると存じます。

現在の総合病院体制の更なる発展のために、病院が当面する喫緊の課題は病院の移転新築問題であります。現状の狭溢化、老朽化を解消し、特に耐震化を強化し安全性の確保と医療の効率化のために新病院の建築が必要となります。

近日中に市内に土地購入を予定しています。屋上にヘリポート発着地を設置し救急医療、離島診療等に 24 時間救急体制を目指す所存です。

皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

目次

■ 基本理念・基本方針・運営方針	02
■ I. 病院概要	03
■ II. 病院統計	17
■ III. 部門報告	
各診療科報告	29
各部署報告	77
■ IV. 会議・委員会活動報告	131
■ V. 研究実績	173
■ VI. 昭和会クリニックの現況	193
■ 巻末資料 公益財団昭和会事業実施概要書	

昭和会の理念

「協力・貢献・向上」

1. 全職員の協力体制
2. 地域社会への貢献
3. 自己研鑽と向上心

昭和会の基本方針

1. 質の高い医療の提供を目指し、全職員一致協力して努力します。
2. 生命の尊さを認識し、地域社会に貢献します。
3. 常に向上心を持って、自己研鑽に励みます。

昭和会の運営方針

1. 地域のセンター病院として、最新・最高の医療を提供すべく、高度の医療機器を充実し、全職員の医学研修を推進する。そのために、各分野関連の大学各教室・各研究機関との交流に努め、また夫々の学会参加を助成する。
2. 高度医療機器の公開利用に努め、最新で効率的且つ倫理的医療の充実を図る。
3. 救急医療24時間受け入れ体制の充実。
当病院全職員(全科オンコール体制)の協力のもとに24時間体制で全県下・離島の救急患者を積極的に受け入れ救急医療の使命を達成する。
4. 21世紀の少子高齢化社会の医療に対応すべく、地域の保健・医療・福祉施設と密な連携に努め、有効的な医療の提供を図る。
5. 地域に開かれた病院を目指し、健康増進活動に積極的に取り組み、活動の充実・発展を図る。

●●● 病院概要

I

- 病院概要
- 昭和会の沿革
- 昭和会の組織図
- 今給黎総合病院の現況
- 病院施設概要
- 医師研修施設指定の現況
- 諸制度の指定状況
- 会議・委員会組織図
- 医療設備概要

病院概要

(平成27年3月現在)

名 称	公益財団法人昭和会 今給黎総合病院(いまきいれそうごうびょういん) Imakiire General Hospital
創設者	今給黎 満幸 (いまきいれ みつゆき)
開設者	代表理事 今給黎 尚典 (いまきいれ たかのり)
管理者	院長 昇 卓夫 (のぼり たくお)
所在地	〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号(かごしまししもたつおちょう)
代表電話	099-226-2211
代表 FAX	099-222-7906
URL	http://imakiire.jp
病院開設日	1938年(昭和13年)7月 1964年(昭和39年)5月「医療法人昭和会」設立 1965年(昭和40年)7月「財団法人昭和会」設立 2009年(平成21年)12月「公益財団法人昭和会」法人名変更
病床数	450床 (うちICU8床 GCU10床、NICU9床 回復期リハビリテーション病棟33床)
看護基準	7:1
認定施設	厚生労働省地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 県へき地医療拠点病院(遠隔医療支援) 県指定地域周産期母子医療センター 基幹型医師臨床研修病院 洋上救急業務支援協力医療機関 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設 厚生労働省 DPC 対象病院 県脳卒中情報システム推進事業の情報提供協力医療機関 県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関 県エイズ治療拠点病院 県地域周産期医療支援病院 県重症難病医療協力病院(短期入所施設) 痛風治療協力医療機関 鹿児島市高規格救急車指示病院 県救急・災害医療情報システム参加登録病院 県消防・防災ヘリコプター急患搬送(医師搭乗)システム輪番病院 県指定 かごしま子育て応援企業 産科医療補償制度加入医療機関 県女性医師復職研修事業指定病院 各種健診(検診)・予防接種等受託医療機関
関連施設	昭和会クリニック

職員数	989名（非常勤134名含）		
有資格者	常 勤	非常勤	
	医師	83名	30名
	薬剤師	20名	
	診療放射線技師	23名	
	臨床検査技士	29名	1名
	臨床工学技士	8名	
	理学療法士	49名	
	作業療法士	19名	
	言語聴覚士	9名	
	管理栄養士	8名	
	視能訓練士	4名	
	社会福祉士	3名	
	看護師	465名	7名
	助産師	21名	
	保健師	5名	
	准看護師	21名	2名
診療情報管理士	10名		

標榜科目	27診療科 内科、糖尿病内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科(肝臓・消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門)、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、新生児内科、眼科、気管食道・耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科
診療受付時間	平日 午前：午前8時00分～午前11時30分 午後：午後1時30分～午後5時00分 土曜（午前のみ） 午前8時00分～午前11時30分
休診日	土曜午後・日曜・祝日・年末年始（12月31日～1月3日）

昭和会の沿革

- 昭和13年 7月 現在地に今給黎医院開設
- 昭和22年 11月 今給黎病院開設(24床)
- 昭和30年 2月 鉄筋コンクリート2階建 病棟増築(41床)
- 昭和32年 6月 65床認可
- 昭和35年 2月 看護婦寮新築
- 昭和35年 5月 80床認可
- 昭和32年 7月 医師住宅新築
- 昭和39年 5月 「医療法人昭和会」設立(120床)
- 昭和39年 7月 救急告示病院指定
- 昭和40年 7月 民法第34条による「財団法人昭和会」設立
- 昭和42年 1月 160床認可
- 昭和44年 4月 鉄筋コンクリート3階建病院新築
- 昭和44年 8月 鉄筋5階建第1看護婦寮・4階建医師住宅2棟新築
- 昭和45年 10月 220床認可
- 昭和47年 10月 鉄筋5階建職員住宅(20世帯)新築
- 昭和50年 12月 鉄筋コンクリート2階建第3女子寮・院内託児所新築
- 昭和53年 10月 鉄筋コンクリート7階建本館新築(300床)
- 昭和54年 3月 325床認可
- 昭和54年 8月 鉄筋コンクリート4階建第2女子寮新築
- 昭和58年 2月 医師住宅4階建新築
- 昭和62年 1月 第4看護婦寮3階建新築
- 昭和62年 9月 別館4階建新築
本館・別館の連絡路として地下道(巾3m)完成
- 昭和63年 1月 450床認可、本館全面改装、総合医療各診療科整備
- 昭和63年 8月 第5看護婦寮4階建新築、男子独身寮2階建新築
- 平成元年 1月 医師研修等3階建新築
- 平成9年 9月 外来患者専用自動管理式駐車場完成
- 平成10年 3月 医局棟3階建新築
- 平成13年 3月 (財)日本医療機能評価機構「認定証」(一般病院種別B)取得
- 平成14年 1月 民間ビル(3階建)、研修棟として購入
- 平成15年 10月 医師臨床研修病院 指定(管理型)
- 平成17年 5月 昭和会クリニック開院(診療録の電子化開始)
- 平成17年 12月 今給黎総合病院(外来診療録の電子化開始)
- 平成18年 8月 歯科・歯科口腔外科開設
- 平成19年 10月 リニアック棟造築(稼働開始)
- 平成21年 12月 「公益財団法人昭和会」へ法人名称変更
- 平成22年 2月 今給黎総合病院(入院診療録の電子化開始)
- 平成24年 4月 厚労省「地域がん診療連携拠点病院」指定
- 平成25年 3月 地域医療支援病院認定

今給黎総合病院の現況

(1) 標榜科目(27 診療科)

内科, 糖尿病内科, 血液内科, 神経内科, 呼吸器内科, 消化器内科, 循環器内科, 小児科, 外科 (肝臓・消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門), 整形外科, 形成外科, 脳神経外科, 呼吸器外科, 皮膚科, 泌尿器科, 産婦人科, 新生児内科, 眼科, 気管食道・耳鼻いんこう科, リハビリテーション科, 放射線診断科, 放射線治療科, 歯科, 歯科口腔外科, 麻酔科, 救急科, 病理診断科

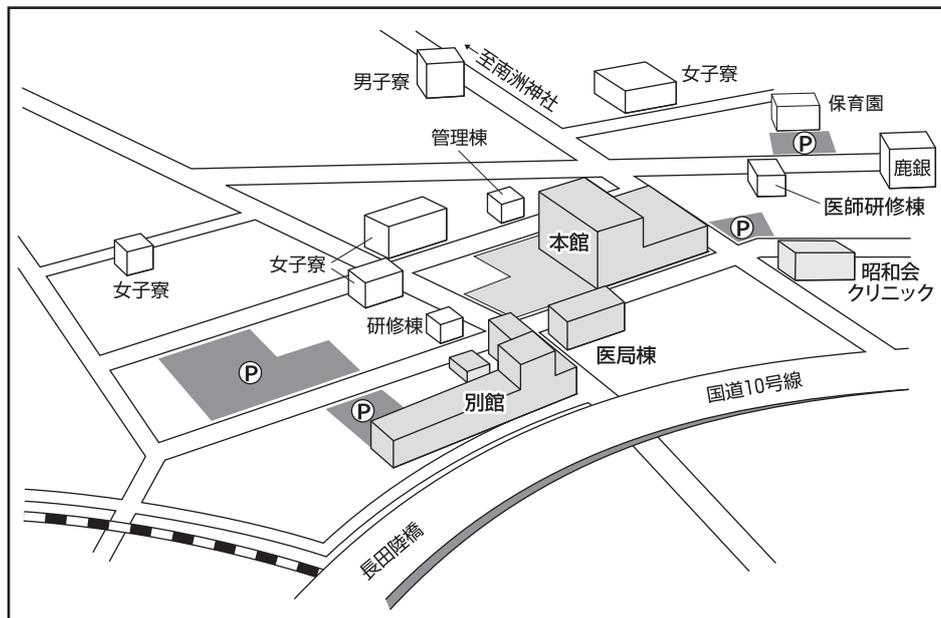
(2) 許可病床数 一般病床 450 床

病棟	病室数	病床数	主な診療科
本館	2 F 西	12	19 産婦人科
	NICU-GCU	2	19 新生児内科
	2 F 東	18	61 外科, 消内, 形成
	3 F 西	19	43 呼内, 呼外, 緩医
	3 F 中	7	37 循内, 糖内, 整形
	3 F 東	12	37 脳外, 泌尿
	4 F 西	10	31 眼科, 形成
別館	I C U	1	8 外科, 麻酔科
	2 F 北	13	45 放射線科, 総内
	2 F 南	10	43 神経内科, 皮膚科
	3 F 北	11	33 整形外科
	3 F 南	10	50 整形外科
	4 F 北	9	24 小児科, 歯科口腔外科 気管食道・耳鼻いんこう科
	合計	134	450

(3) 施設の概要

		敷地	建物
病院	本館	3,407.3 m ²	10,542.6 m ²
	別館	3,656.2	5,531.5
	医局棟	290.1	546.8
福利厚生施設	研修棟	156.6	280.1
	医師研修等	224.2	523.9
	第1女子寮	616.8	1,329.7
	第2 "	987.8	2,243.0
	第3 "	1,000.2	521.2
	第4 "	286.6	535.8
	第5 "	200.6	409.9
男子寮	1,582.0	433.5	
保育園	(第3寮と同敷地)	157.1	
管理棟		179.0	411.8
患者専用駐車場		2,632.5	—
医療関連施設建設予定地		81,642.0	—
患者用駐車場		170台収容可	

(4) 病院及び関連施設配置図



H27.3.31 現在

病院施設概要

本館

7 F	・会議室・和温療法室・患者図書室 ・高気圧酸素治療室・臨床工学部
6 F	・中央手術室6室(手術台8台)
5 F	・ICU室(8床)・サブライセンター
4 F	・病理部・看護部長室・言語聴覚室・当直室 ・病棟(眼、形)・ナースステーション(4F 西) ・病床管理部
3 F	・病棟(呼内、呼外、緩医、循内、糖内、整、脳外、泌) ・ナースステーション(3F 西、3F 中、3F 東)
2 F	・病棟(産婦、周産母子、外、消内、形) ・ナースステーション(2F 西、2F 東、NICU・GCU) ・薬剤部薬剤管理室
1 F	・総合案内・患者サポート相談室 ・総合受付・薬剤部・医事部 ・救急室・総合処置室・外来化学療法室 ・各科外来診療室・薬品情報室 ・内視鏡室(消化器)・がん相談支援センター ・外来検査室・心電図室 ・新入院患者様待合室・家族控室(ICU・手術)
B 1	・放射線科外来診察室・中央放射線部 ・画像診断室・診療情報管理部 ・中央監視センター・自家発電装置室 ・高圧変電室・空調機械室・売店
B 2	・前立腺シード室

医局棟

3 F	カンファレンスルーム・医局
2 F	医局・院長室
1 F	医局・当直室

管理棟

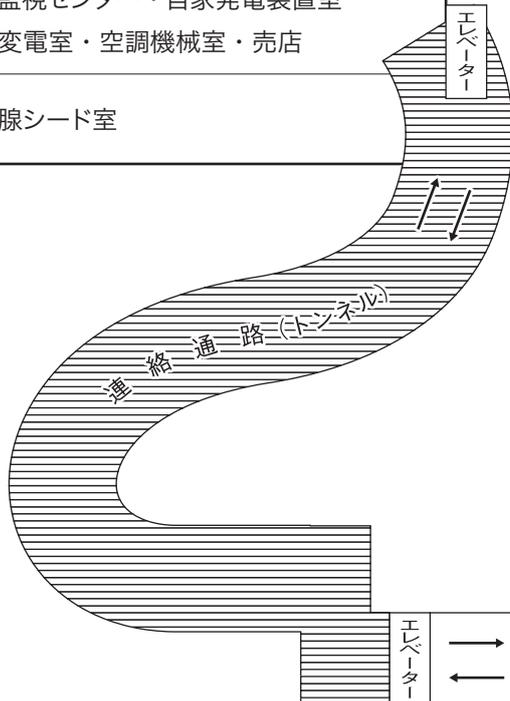
3 F	医療相談室・地域医療連携室・感染管理課 医療安全管理課・褥瘡管理課・緩和医療課 がん化学療法課
2 F	在宅医療部・看護師控室
1 F	公益財団法人昭和会 事務局

研修棟

3 F	研修室
2 F	研修室
1 F	テナント

別館

4 F	・病棟(小、気・耳、歯口外) ・ナースステーション(4F 北)
3 F	・病棟(整) ・ナースステーション(3F 北、3F 南)
2 F	・病棟(放、総内、神内、皮) ・ナースステーション(2F 北、2F 南)
1 F	・中央臨床検査部・リニアクセンター ・生理検査室(心エコー・脳波・筋電図) ・栄養管理室・調理室・浴場
B 1	・講義室(大ホール) ・機能訓練室(理学・作業・言語) ・ハーバードタンク室 ・洗濯室・リハビリテーション部
B 2	・気管支鏡準備室 ・病理解剖室・霊安室



医師研修施設指定の現状

S58.	4.	11	日本整形外科学会・専門医研修施設
S63.	1.	1	日本泌尿器科学会・専門医教育施設
S63.	9.	1	日本眼科学会・専門医研修施設
H2.	5.	18	日本麻酔科学会・麻酔科標榜研修施設
H2.	12.	19	日本内科学会・認定医教育関連病院
H3.	4.	1	日本医学放射線学会・専門医修練機関
H3.	4.	1	日本耳鼻咽喉科学会・専門医研修施設
H4.	7.	13	日本脳神経外科学会・専門医指定訓練場所
H7.	3.	22	日本形成外科学会・認定医研修施設
H7.	5.	10	日本呼吸器外科学会・専門医認定制度施設
H7.	11.	21	日本外科学会・専門医制度修練施設
H8.	4.	1	日本病理学会・認定病理制度登録施設
H13.	7.	30	日本胸部外科学会・認定医認定制度関連施設
H14.	4.	1	日本皮膚科学会・専門医研修施設
H15.	4.	1	日本神経学会・専門医制度教育関連施設
H15.	4.	1	日本臨床細胞学会・認定施設
H16.	4.	1	日本周産期新生児医学会・周産期(新生児)専門医暫定研修施設
H17.	2.	11	日本脳卒中学会 専門医研修教育施設
H17.	12.	1	日本消化器内視鏡学会・専門医指導施設
H18.	4.	1	日本周産期・新生児医学会 周産期(母胎・胎児)専門医暫定研修施設
H19.	10.	24	日本放射線腫瘍学会 認定施設
H19.	11.	1	日本がん治療認定医機構 認定研修施設
H20.	4.	1	呼吸器外科専門医合同委員会・基幹施設
H20.	4.	1	日本泌尿器科学会・基幹教育施設
H20.	12.	20	日本呼吸器学会・専門医制度関連施設
H21.	4.	1	日本集中治療医学会・専門医研修施設
H21.	4.	1	日本血液学会・認定研修施設
H21.	10.	1	日本産婦人科学会・専門医制度卒後臨床研修指導施設
H21.	10.	1	日本口腔外科学会・専門医制度研修施設
H22.	1.	1	日本救急医学会・専門医指定施設
H23.	1.	1	日本消化器外科学会・専門医研修施設
H23.	7.	1	日本胆道学会・指導医制度指導施設
H24.	1.	1	日本消化器病学会・専門医制度認定施設
H24.	11.	1	PEG・在宅医療研修会 専門胃瘻造設施設 (~H25.6)
H25.	1.	13	日本手外科学会研修施設
H26.	1.	1	日本IVR学会専門医修練施設

その他の施設認定

H16.	8.	1	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 認定施設
H17.	4.	1	日本栄養療法推進協議会NST稼動施設
H17.	11.	1	日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設
H23.	2.	17	日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士取得 実施修練施設
H23.	4.	1	日本臨床衛生検査技師会・精度管理保証施設

H27.3現在

諸制度の指定状況

● 各種法による当院の取扱指定状況

1. 保険医療機関
2. 国民健康保険医療取扱機関
3. 労災保険指定病院
4. 労災保険二次健診等給付病院
5. 生活保護法指定病院
6. 介護保険法「居宅介護支援事業所」指定病院
7. 生活保護法「居宅介護支援事業所」指定病院
8. 障害者自立支援法「更生医療」「育成医療」指定病院（整形外科・形成外科・耳鼻咽喉科・腎臓・免疫・口腔に関する医療）
9. 障害者自立支援法「精神通院医療」指定病院（神経内科に関する医療）
10. 感染症法（第37条の2）指定病院
11. 原子爆弾被爆者医療法一般疾病医療取扱病院
12. 母子保護法指定病院「不妊手術」
13. 特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
14. 小児慢性特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
15. 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る医療指定病院
16. 母子保健法指定病院「養育医療」
17. 出入国管理及び難民認定法指定病院
18. 救急告示病院

● 九州厚生局による当院の許認可事項

○ 基本診療料の施設基準等

- 一般病棟入院基本料(7対1)
- 総合入院体制加算
- 臨床研修病院入院診療加算（基幹型）
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
- 妊産婦緊急搬送入院加算
- 診療録管理体制加算
- 医師事務作業補助体制加算25:1
- 急性期看護補助体制加算25:1
- 急性期看護補助体制加算の注3に掲げる看護職員夜間配置加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 緩和ケア診療加算
- がん診療連携拠点病院加算
- 医療安全対策加算
- 感染防止対策加算1
- 感染防止対策地域連携加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク分娩管理加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- 退院調整加算
- 救急搬送患者地域連携紹介加算
- 救急搬送患者地域連携受入加算
- 呼吸ケアチーム加算
- データ提出加算2
- 特定集中治療室管理料4
- 新生児特定集中治療室管理料1
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料5
- 患者サポート体制充実加算
- 栄養サポートチーム加算
- 新生児特定集中治療室退院調整加算
- 回復期リハビリテーション入院料3

○特掲診療料の施設基準等

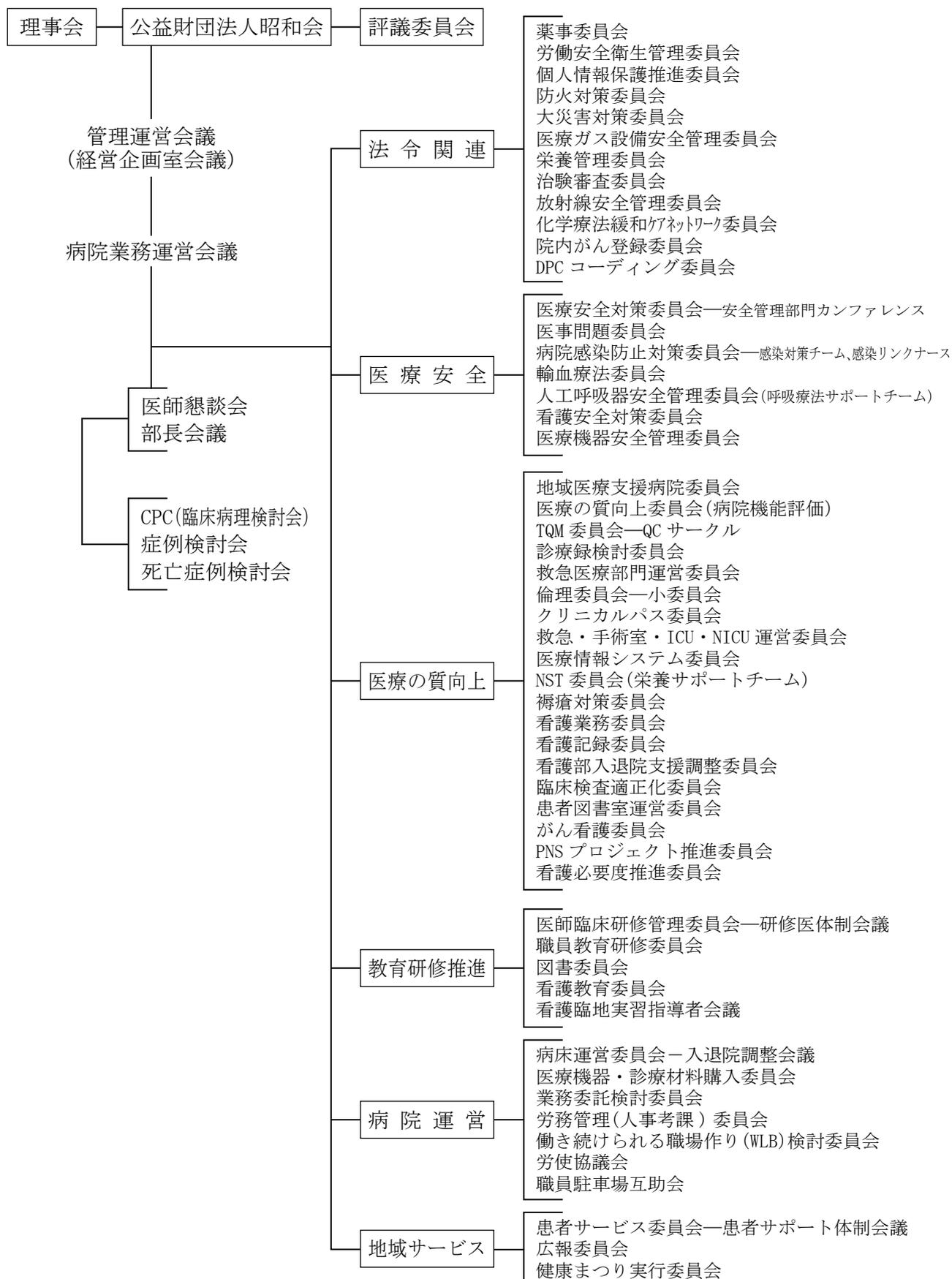
がん性疼痛緩和指導管理料
 がん患者指導管理料1, 2, 3
 外来緩和ケア管理料
 院内トリアージ実施料
 夜間休日救急搬送医学管理料
 外来リハビリテーション診療料
 外来放射線照射診療料
 ニコチン依存管理料
 開放型病院共同指導料
 地域連携診療計画管理料
 がん治療連携計画策定料
 がん治療連携管理料
 薬剤管理指導料
 医療機器安全管理料1, 2
 在宅訪問看護・指導料
 持続血糖測定器加算
 H P V核酸固定検査
 検体検査管理加算 (IV)
 時間内歩行試験
 皮下連続式グルコース測定
 神経学的検査
 C T透視下気管支鏡検査加算
 画像診断管理加算1
 画像診断管理加算2
 CT撮影及びMRI撮影
 冠動脈CT撮影加算
 放射線治療専任加算
 高エネルギー放射線治療
 1回線量増加加算
 病理診断管理加算1
 大腸CT撮影加算
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
 運動器リハビリテーション料 (I)
 呼吸器リハビリテーション料 (I)
 がん患者リハビリテーション料
 組織拡張器による再建手術
 乳がんセンチネルリンパ節加算1
 緑内障手術
 網膜再建術
 腹腔鏡下肝切除術
 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 輸血管理料 I
 輸血適正使用加算
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 麻酔管理料 (I)
 外来放射線治療加算
 直線加速器による定位放射線治療

●その他の取扱指定状況

1. 医師臨床研修病院 (基幹型)
2. 歯科医師臨床研修病院 (協力型)
3. 洋上救急業務支援協力医療機関
4. 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設
5. 厚生労働省 D P C対象病院
6. 県脳卒中情報システム推進事業の情報提供協力医療機関
7. 県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関
8. 県エイズ治療拠点病院
9. 県へき地医療拠点病院 (遠隔医療支援)
10. 県重症難病医療協力病院 (短期入所施設)
11. 痛風治療協力医療機関
12. 鹿児島市高規格救急車指示病院
13. 県救急・災害医療情報システム登録病院
14. 県広域災害医療情報システム (EMIS) 登録病院
15. 県消防・防災ヘリコプター救急搬送医師搭乗システム輪番病院
16. 県指定 かごしま子育て応援企業
17. 市指定 にこにこ子育て応援隊認定企業
18. 産科医療補償制度加入医療機関
19. 県女性医師復職研修事業指定病院
20. 県地域周産期医療支援病院
21. 県指定 地域周産期母子医療センター
22. 厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院
23. 県指定 地域医療支援病院
24. 各種健診 (検診) ・予防接種等受託医療機関

H27.3現在

会議・委員会組織図



平成27年3月31日 現在

医療設備概要

(放射線部門)

※印：今年度購入(新設・更新)
病棟・手術室・外来部門は除く

検査室名等		メーカー	機種名	台数
1	一般撮影室(I)	島津 キャノン	(1)UD-150L-30	1
			(2)CXDI-22(臥位用X線デジタルカメラ)	1
			(3)CM-100(超音波骨密度測定)	1
2	一般撮影室(II)	島津 キャノン	(1)UD-150L-30 (2)CXDI-11(立位用X線デジタルカメラ)	1 1
第1 操作通路	CR	コダック	※(1)EliteCR (2)CR850	2
5	FPD式X線テレビ室(Cアーム)	日立	SF-VA2000FP(Versi Flex)	1
6	FPD式X線テレビ室	日立	EXAVISTA	1
7	X線CT室(II)	日立	SCENARIA(64列MDCT)	1
8	アンギオ・DSA室	フィリップス	Allura Xper FD20	1
A9	X線CT室(I)	フィリップス エーディア	Brilliance64(64列MDCT)	1
			※プロットCO2(CT-C用)	1
10	MR I室	日立	ECHOLON Vega(1.5テスラ)	1
11	RI室	フィリップス	BRIGHTVIEW(特)	1
13	乳房専用室	ローラッド	(1)M-IV	1
			(2)マルチケアー・マンモトーム(組織生検)	1
14	前立腺シード室	バリアン 東芝	(1)バリシード	1
			(2)クリアスコープ9000	1
第2 操作通路	レーザーイメージャー	コダック	ドライビュー8900	1 1
受付・画像処理		テクマトリックス 富士	画像ネットワークシステム(PACS・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)	1式 1式
手術室 ・外科用イメージ ・ポータブル		東芝 GE シーメンス	(1)SXT-1000A	1
			(2)Brivo OEC 850	1
			(3)モビレット プラスHP	1
本館病棟(ポータブル)		シーメンス	モビレット プラス	1
別館病棟(ポータブル)		シーメンス	モビレットXP Hibrid	1
リニアックセンター		エレクタ フィリップス	(1)プリサイズ トリートメント システム (2)ピナクル	1 1

(検査部門)

コーナー	機器名称	メーカー	用途	台数
血液一般	※クリニテックアドバンタス コアプレスタ2000	シーメンス・メディカル・ソリューションズ	尿定性検査	1
	※総合血液学検査装置ADVIA2120i	シーメンス・メディカル・ソリューションズ	血液凝固項目	1
	自動血沈計 モニター20	常光	血液像、血算項目他	1
	遠心分離器2010	クボタ	血沈測定	1
	双眼顕微鏡 BH2	オリンパス	遠心作業	2
	血小板凝集能測定装置 MCM HEMA TRACER 313M	エル・エム・エス	血液像、尿沈査他	3
	集細胞遠心装置サイト・スピンド	サーモフィッシュサイエンティフィック	ADP、コラーゲン	1
	骨髄像分類計数装置F510	ERMA INC	遠心器	1
				骨髄像分類
生化学	JCA-BM9130	日本電子	生化学項目・免疫項目	1
	Toxinometer NX	和光	BDグルカン、エンドトキシン	1
	AIC全自動測定装置HA-8170	アークレイ	HbA1c、HbA1c	1
	OSMOSTAT OM6020	アークレイ	血液、尿、OSM	1
	分光光度計	エルマ	生化学他定量測定項目	1
	超低温フリーザー(-80℃)	日本フリーザー	凍血保存用(血清、リコール等)	1
	DRI-CHEM100	フジフィルム	NH3測定	1
	血中薬物濃度測定器Viva-E	シーメンス	ジゴキシン他7項目測定	1
	※RAPID Point 500	シーメンス	血ガスPH PCO2 PO2他	1

コーナー	機 器 名 称	メ ー カ ー	用 途	台数
生 化 学	遠心分離器2010・2410・※4000	クボタ	血清分離	3
	※cobas h232	ロシュ・ダイアグノスティクス	トロポニンT	1
	業務用冷凍冷蔵庫	ナショナル	試薬管理・血清保存	1
	THERMOSTATION TS100	和光	血清不活化用保温器(B-Dエンド)	1
	SDA 0080	オルガノ	蒸留装置	1
	※全自動免疫血清測定器AIA-2000ST	東ソー	腫瘍マーカー、ホルモン測定	1
	冷却遠心器	KUBOTA2800	血清分離	1
	mini VIDAS	日本ビオメリュー	HIV、風疹、トキソ、E2、他	1
	全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルスG1200	富士レビオ	感染症検査	1
	輸血免疫血清	ヘモクイックAC-185	テルモ	自己血採血装置
全自動洗浄器 MC450		日立	交差試験等セルウォッシュャー	1
サンフュージュ遠心器		三光純薬	交差試験専用遠心器	1
遠心分離器 2010		クボタ	血清分離	1
BIO-RAD輸血システム		BIO-RAD	輸血管理システム	1
ID-Gelstation		BIO-RAD	輸血検査システム	1
マイクロダイピングシステム用恒温器		BIO-RAD	輸血検査	1
マイクロダイピングシステム用遠心器		BIO-RAD	輸血検査	1
HS-12遠心器		コクサン	血液型、交差試験専用遠心器	1
恒温槽TR-S		アズワン	交差試験用恒温槽	1
テルモチューブシーラーAC-155		テルモ	自己血用チューブシーラー	1
FFPバッグ解凍器FP-40		Meditex	FFP解凍	1
外来検査室	自動採血管準備装置 BC-ROB0-686	テクノメディカ	採血管準備	1
	※クリニテックアドバンタス	シーメンス・メディカル・ソリューションズ	尿定性検査	1
	遠心分離器 2010、4200	クボタ	血清分離	2
	※cobas h232	ロシュ・ダイアグノスティクス	トロポニンT	1
	双眼顕微鏡BH-2	オリンパス	尿沈査	1
RPAID Point 500	シーメンス	血ガスPH PCO2 PO2他	1	
生理検査室	ホルター心電計	日本光電	24h 心電図	5
	ホルター心電図解析装置 DSC3100	日本光電	24h 心電図解析	1
	呼吸機能自動解析装置 FUDAC-77	フクダ電子	肺気量分画・フローボリューム他	1
	脳波計(18ch)	日本光電	脳波	1
	ポータブル用脳波計(14ch)(誘発電位検査装置付)	日本光電	脳波・ABR	1
	節電図・誘発反応検査装置	日本光電	節電図・ABR・SEP他	1
	磁気刺激装置	セルコム・日本光電	誘発反応刺激	2
	携帯用自動血圧モニター	日本光電	24hr 自動血圧計	1
	レポートジェネレーター	日本光電	24hr 自動血圧計解析	1
	VaSera VS-3000TE(血圧脈波検査装置)	フクダ電子	心電図・CAVI・ABI・TBI検査	1
	自動解析装置付心電計	フクダ電子	心電図	3
	パルスオキシメータ	タインヘルスケアジャパン	パルスオキシメータ	1
	ネイタスアルゴ3i	アトムメディカル	聴覚誘発反応測定装置	1
	脳波計(NICU用)	日本光電	脳波	2
	携帯型心電計	デイリーケアバイオメディカル	心電図	1
	電気味覚計	リオン	味覚計	1
	イベントレコーダー	日本ライフライン	心電図	2
	赤外分光分析装置	大塚製薬	ピロリ感染	1
	ウォッチパット	フィリップス	睡眠評価装置	1
I C U	自動解析装置付き心電計	日本電気三栄	心電図・CVRR	1
	輸液ポンプ TE171	テルモ株式会社	輸液ポンプ	11
	輸液ポンプ OT-808	株式会社JMS	輸液ポンプ	15
	シリンジポンプ TE-351	テルモ株式会社	シリンジポンプ	12
	IntelliVue MP70	フィリップス	生体情報モニタ	8
	IntelliVue X2 MMS	フィリップス	生体情報モニタ	1
	頭蓋内圧モニタ ICPエクスプレス	ジョンソンアンドジョンソン	生体情報モニタ	1
	パルスオキシメータ N-550	コヴィディエンジャパン	ネルコア	3
	除細動装置ハートスタート M4735A	フィリップス	除細動装置	1
	ECG8300	日本光電	心電図	1
	血液凝固計ヘモクロン401	平和物産	臨床検査機器(血液凝固測定装置)	1
	ABL90FLEX	ラジオメーター株式会社	血液ガス分析装置	1
	人工呼吸器 PB-840	コヴィディエンジャパン	人工呼吸器	4
	人工呼吸器 エビタXL	ドレーゲルメディカル	人工呼吸器	1

コーナー	機 器 名 称	メ ー カ ー	用 途	台数
I C U	人工呼吸器 エングストローム ケアステーション	GEヘルスケア	人工呼吸器	1
	メディサームII	GAYMAR	高・低体温維持装置	1
	アトムソニックライザー305	アトムメディカル	超音波 ^{初^{ライフ}}	3
	個人用透析装置DBBシリーズ	日機装株式会社	血液透析装置	4
	RO水製造装置NEWΩ	IMS	透析用RO水製造装置	1
	気管支ファイバースコープ P-20	オリンパス株式会社	気管支内視鏡	1
	吊下げ式体重計スケルトロニクス モデル2001	ウベ循環	体重計	1
	フットポンプSCDエクस्प्रेस	コヴィディエンジャパン	コヴィディエンジャパン(シャウト)	1
細 菌 室	全自動細菌検査システム(マイクロスキャン)	シーメンス・メディカルソリューションズ	一般細菌同定、感受性	1
	全自動オートクレーブ	平山	滅菌	1
	ふらん器	池本理化	培養器	2
	顕微鏡 BX50	オリンパス	グラム染色・抗酸菌染色他	1
	クラスII生物キャビネット	日本エアアテック	安全キャビネット	1
	顕微鏡Ni-U	ニコン	グラム染色・抗酸染色他	1
BACTEC 9050	日本ペクトン・ディッキンソン	全自動血液培養検査	2	
病理検査室	Synergy UV	日本ミリポアリミテッド	蒸留水作成	1
	解剖台 (PM-S-3型)	ホザナ	病理解剖	1
	ディスプレイング・コンソール	ティシューテック	包埋	1
	クライオ・コンソール	ティシューテック	冷却(包埋カセット)	1
	臓器撮影台CPM-2000	コメット, 白井松	写真撮影	2
	超低温フリーザー MDF-190AT	サンヨー	凍結保存	1
	超低温フリーザー MDF-U281AT	サンヨー	凍結保存	1
	Elix UV3	日本ミリポアリミテッド	蒸留水作成	1
	マイクロトーム	ヤマト	パラフィン標本薄切	2
	パラフィン溶融器	サクラ	パラフィン溶融	1
	浮卵器(37℃)	サクラ	染色反応	1
	最高級写真顕微鏡 (PROVIS)AX-80	オリンパス	組織顕微鏡用	1
	卓上小型遠心器 (クボタ2420)	クボタ	遠心器	1
	安全キャビネット	エアテック	検体処理	2
	オートクレーブ	サクラ	免疫染色	1
	PCRサイクラー	フナコシ	PCR	1
	クライオ3D	ティシューテック	凍結標本作製	1
	VIP5ジュニア	ティシューテック	脱水、透徹	1
	PCRサイクラー PC818	アステック	PCR	1
	冷却遠心器 3500	クボタ	PCR	1
	ブロックインキュベーター BI-525A	アステック	PCR	1
	VENTANA BenchMark ULTRA	ロッシュ	免疫染色	1
	HISTOSTAINER36A	NICHIREI	免疫染色	1
	HEAT PROII	NICHIREI	免疫染色	1
	LEICA BOND-III	Leica	免疫染色	1
	Histo-Tek Air-Pro	サクラ	局所排気装置	1
	Tissue-Tek Glas	サクラ	自動封入装置	1
	NANO DROP	Thermo	PCR	1
	遺伝子解析装置アニデンシー™ IS-5320	arkray	遺伝子変異解析	1
	Maxwall®ib AS2000	Promega	核酸抽出	1
	バーチャルスライド装置 Fino	CLARO	組織顕微鏡用	1
	FINE FROST PRINTER MINI	マツナミ	スライドガラス印字	3
内 視 鏡 室	胃ファイバースコープ(電子)	オリンパス	胃精密検査	8
	胃ファイバースコープ(処置用)	オリンパス	処置用	1
	胃ファイバースコープ(XP-260N)	オリンパス	経鼻内視鏡	1
	十二指腸ファイバースコープ(電子)	オリンパス	膵胆管造影	2
	大腸ファイバースコープ	オリンパス	大腸精密検査	4
	超音波ファイバースコープ	オリンパス	食道・胃・十二指腸	1
	気管支ファイバースコープ	オリンパス	気管支	2
	気管支ビデオスコープ	オリンパス	気管支	3
	光源装置	オリンパス	光源	4
	自動洗浄機	J&J	洗浄(気管支鏡室4/内視鏡室1)	5
	自動洗浄機	オリンパス	洗浄	2
	※小腸カプセル内視鏡ワークステーション	Given	小腸カプセル検査読影	1
	高気圧酸素治療室	高気圧酸素治療装置	川崎エンジニアリング	高気圧酸素治療

❧ 病院統計 II

- (1) 科別外来患者数
- (2) 科別在院患者延べ数
- (3) 年度別手術症例数
- (4) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数
- (5) 外来患者市町村別分類図
- (6) 退院患者市町村別分布図
- (7) 市町村別紹介施設数・患者数
- (8) 市町村別逆紹介施設数・患者数
- (9) 紹介率
- (10) 逆紹介率
- (11) 外来患者初再診
- (12) 外来患者時間外・深夜・休日患者数
- (13) 入院患者に関する実績比較
- (14) 年度別救急車受入台数(患者数)
- (15) 救急患者受入時間帯・年齢別分類
- (16) 市町村別救急患者数
- (17) 退院患者ICD大分類(主傷病名大分類)
- (18) ICD大分類(科別、性別退院患者数)

・○印:時間内診療はクリニックで実施 ・在宅医療含む
 ・1日平均:患者数÷平日・土曜日数(祝日除く)

(1) H26年度 科別外来患者数(複数診療科受診を各々1とした場合)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	1月平均	1日平均
○(一部) 内科 (糖・神内・呼・循・血)	1,845	1,684	1,729	1,673	1,558	1,589	1,657	1,534	1,759	1,708	1,570	1,620	19,926	1,661	73.7
外科 (肝・消・乳・甲・小・肛)	374	334	370	365	391	378	390	380	402	333	376	372	4,465	372	16.5
呼吸器外科	217	186	175	210	184	171	205	185	180	184	166	195	2,258	188	8.3
○ 整形外科	354	348	378	351	273	337	300	280	277	222	258	266	3,644	304	13.5
○ 形成外科	72	113	80	66	97	84	71	42	79	59	97	101	961	80	3.6
○ 脳神経外科	20	24	34	38	21	28	33	36	32	29	37	36	368	31	1.4
産婦人科	315	360	371	392	360	443	446	397	414	324	343	399	4,564	380	16.9
○ 小児科	4	9	1	4	2	4	4	4	5	1	1	1	40	3	0.1
泌尿器科	742	687	731	742	706	718	718	589	750	637	640	751	8,411	701	31.1
眼科	1,020	1,014	1,129	1,173	1,035	1,082	1,074	1,010	1,100	935	1,031	1,172	12,775	1,065	47.2
○ 気管食道・耳鼻いんこう科	9	8	11	8	18	11	9	5	27	10	11	10	137	11	0.5
○ 皮膚科	42	9	19	18	28	83	8	12	6	3	37	5	270	23	1.0
麻酔科	26	20	17	25	23	24	30	28	27	25	24	34	303	25	1.1
○(一部) 放射線科 (診断・治療)	143	154	224	185	124	207	208	126	158	169	144	200	2,042	170	7.5
緩和医療科	17	12	12	14	14	15	11	16	13	11	15	22	172	14	0.6
病理診断科	6	3	6	4	3	1	3	5	1	3	4	8	47	4	0.2
○ 歯科口腔外科	0	0	0	0	1	0	3	1	0	2	1	2	10	1	0.0
合計	5,206	4,965	5,287	5,268	4,838	5,175	5,170	4,650	5,230	4,655	4,755	5,194	60,393	5,033	-
1日平均	226	226	230	220	206	235	215	227	227	222	226	221	-	-	223.3



(2) H26年度 科別在院患者延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	1月平均	1日平均
内科 (内・神経・呼吸器・消化器・泌尿器)	2,976	2,958	2,911	3,074	3,113	2,893	3,113	3,132	3,089	3,348	3,082	3,371	37,060	3,088	102
外科 (肝・消化器・乳・小・小児)	638	720	680	762	687	764	738	659	741	804	649	717	8,559	713	23
呼吸器外科	178	212	255	256	301	273	341	220	296	282	307	312	3,233	269	9
整形外科	3,483	3,402	3,406	3,454	3,475	2,830	2,731	3,003	3,177	3,456	3,208	3,804	39,429	3,286	108
形成外科	686	601	776	671	672	757	717	918	866	874	822	716	9,076	756	25
脳神経外科	547	631	667	639	598	522	640	551	694	673	612	665	7,439	620	20
産婦人科	350	341	443	416	490	504	552	552	396	454	365	343	5,206	434	14
新生児内科	505	440	508	466	475	485	512	499	497	455	405	492	5,739	478	16
小児科	105	116	65	117	148	97	99	100	114	67	81	131	1,240	103	3
泌尿器科	411	395	384	387	364	442	458	395	390	316	394	480	4,816	401	13
眼科	529	453	511	671	600	511	635	629	699	520	763	705	7,226	602	20
気管食道・ 耳鼻いんこう科	271	266	312	285	372	315	364	239	228	223	253	281	3,409	284	9
皮膚科	56	32	97	84	147	143	111	200	74	43	93	89	1,169	97	3
麻酔科	0	11	0	3	10	28	7	0	8	0	17	1	85	7	0
放射線科 (診断・治療)	39	95	67	52	58	64	110	104	157	90	87	111	1,034	86	3
緩和医療科	31	96	50	74	80	32	56	51	20	25	12	7	534	45	1
歯科口腔外科	67	62	43	82	100	73	59	64	81	40	61	120	852	71	2
合計	10,872	10,831	11,175	11,493	11,690	10,733	11,243	11,316	11,527	11,670	11,211	12,345	136,106	11,342	-
1日平均	362	349	373	371	377	358	363	377	372	376	400	398	373	-	373

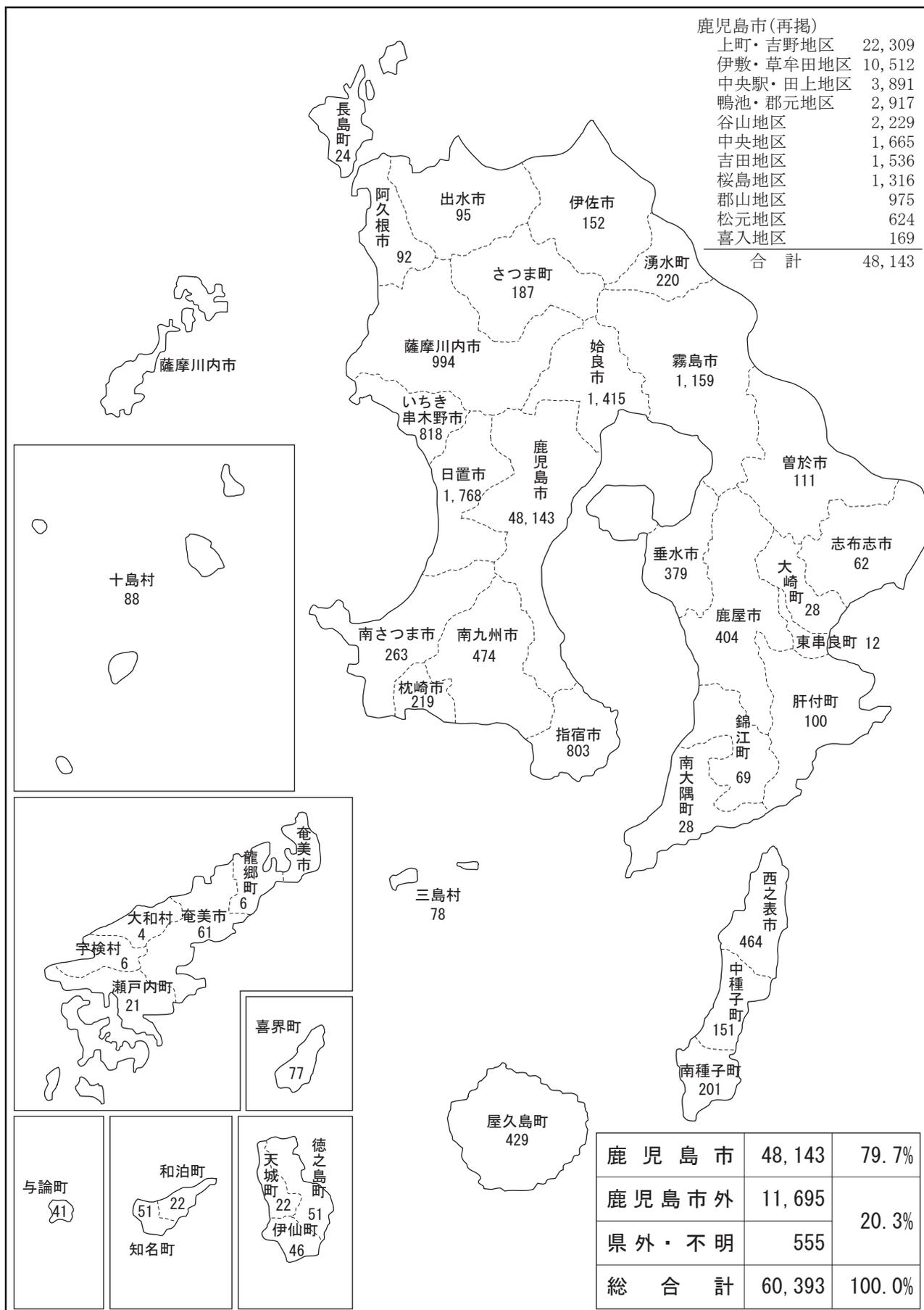
(3) 年度別手術症例数 (病院手術室実施手術)

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
4 月	330	305	293	391	375
5 月	326	293	356	352	344
6 月	336	341	326	325	373
7 月	354	314	335	415	399
8 月	311	388	370	394	406
9 月	312	280	338	353	341
10月	350	313	372	397	400
11月	332	313	333	379	340
12月	286	315	278	353	369
1 月	290	263	320	361	344
2 月	289	286	337	371	382
3 月	338	299	355	387	399
合 計	3,854	3,710	4,013	4,478	4,472
月平均	321	309	334	373	373

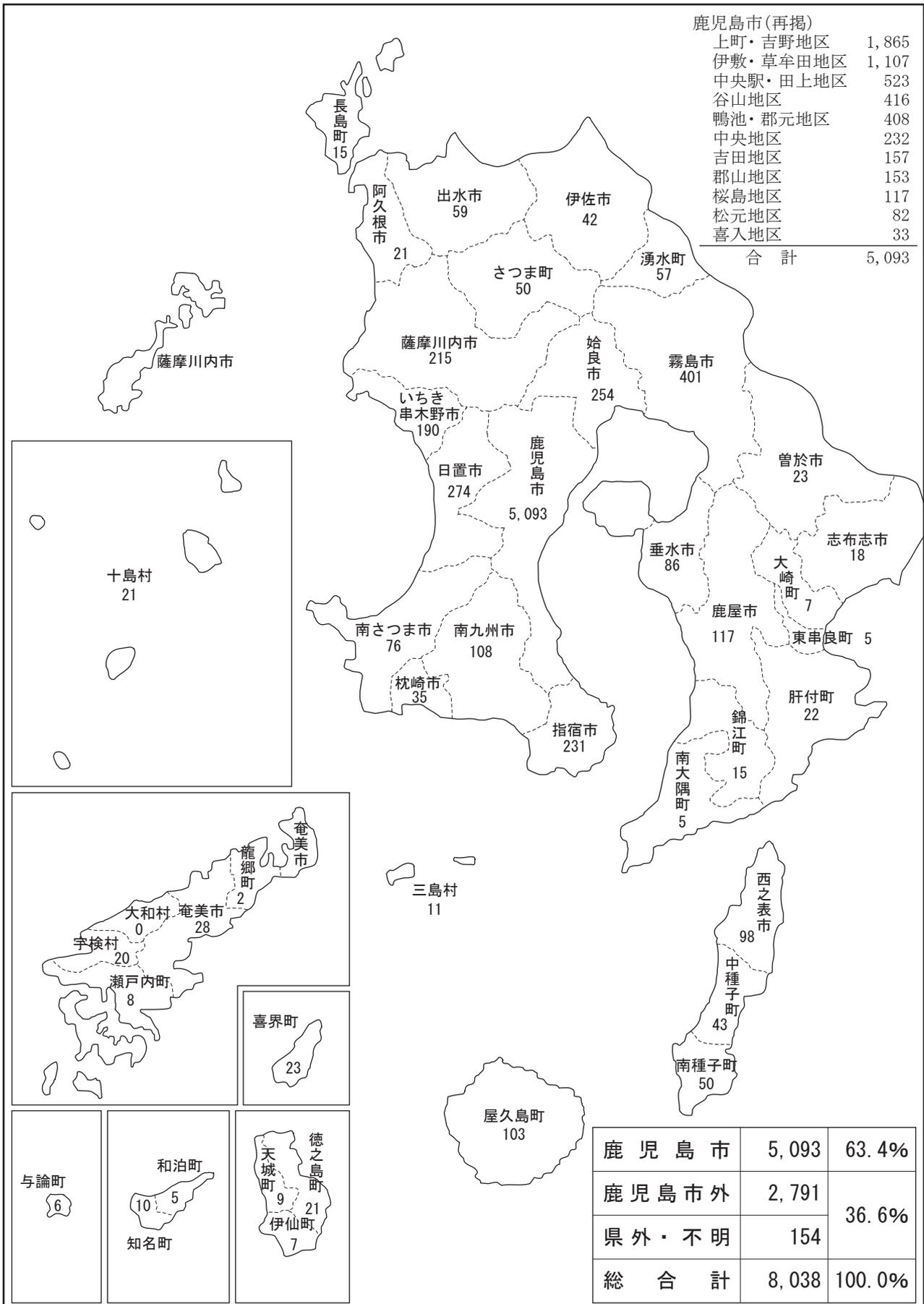
(4) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数

	平成22年		平成23年		平成24年		平成25年		平成26年	
	死亡数	解剖数								
4 月	18	1	11	0	18	0	17	0	18	0
5 月	21	0	21	0	17	1	19	0	18	0
6 月	12	0	15	0	13	0	13	0	10	0
7 月	25	0	15	0	12	0	16	0	13	0
8 月	12	0	14	0	18	0	11	0	17	0
9 月	12	0	19	0	21	0	13	0	16	0
10月	24	0	18	0	14	0	20	0	4	0
11月	15	0	15	0	19	0	21	0	19	0
12月	17	0	15	0	9	0	19	0	20	0
1 月	17	0	17	0	14	0	19	0	19	0
2 月	15	0	19	0	18	0	12	0	12	1
3 月	15	0	20	0	18	0	13	0	20	0
合 計	203	1	199	0	191	1	193	0	186	1
剖検率	0.5%		-		0.5%		-		0.5%	

(5) 平成26年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



(6) 平成26年度 退院患者市町村別分布図



(7) 平成26年度 市町村別紹介施設数・患者数(他院より当院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数	
鹿児島	鹿児島郡	鹿児島市	515	7,182	曾於	曾於市		5	11	
		三島村	4	32		志布志市		3	5	
		十島村	7	46		伊佐	伊佐市		14	56
始良	霧島市	63	539	熊毛郡	西之表市		7	237		
	始良市	47	268		中種子町		4	7		
始良郡	湧水町	2	21	屋久島町		7	96			
日置	日置市		30	222	大島郡	奄美市		8	34	
川薩	薩摩川内市		35	396		大島郡	瀬戸内町		2	2
	いちき串木野市		20	252			喜界町		2	17
	薩摩郡	さつま町	9	54			徳之島町		4	20
川辺	南さつま市		13	40			和泊町		3	3
	枕崎市		8	30			知名町		4	6
	南九州市		15	49			与論町		1	1
指宿	指宿市		25	230	県内		906	10,086		
出水	出水市		10	46	県外		151	257		
	阿久根市		3	21	総合計		1,057	10,343		
	出水郡	長島町	2	2						
肝付	鹿屋市		23	77						
	垂水市		7	70						
肝付	肝付郡	肝付町	3	8						
		錦江町	1	6						

※病院・クリニック合算の数です

(8) 平成26年度 市町村別逆紹介施設数・患者数(当院より他院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数	
鹿児島	鹿児島郡	鹿児島市	433	4,433	曾於	曾於市		2	6	
		三島村	1	1		志布志市		3	7	
		十島村	1	1		伊佐	伊佐市		9	44
始良	霧島市	51	282	熊毛郡	西之表市		6	122		
	始良市	44	232		中種子町		3	4		
始良郡	湧水町	2	8	屋久島町		8	57			
日置	日置市		28	186	大島郡	奄美市		7	29	
川薩	薩摩川内市		32	128		大島郡	瀬戸内町		1	1
	いちき串木野市		19	149			喜界町		1	6
	薩摩郡	さつま町	8	23			徳之島町		4	23
川辺	南さつま市		12	32			和泊町		1	1
	枕崎市		9	34			知名町		2	5
	南九州市		6	11			与論町		2	2
指宿	指宿市		22	219	県内		774	6,337		
出水	出水市		12	53	県外		122	196		
	阿久根市		6	20	逆紹介先不明			428		
肝付	鹿屋市		32	169	総合計		896	6,961		
	垂水市		5	44						
肝付	肝付郡	肝付町	1	5						
		錦江町	1	5						

※病院・クリニック合算の数です

(9) 今給黎総合病院 紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	293	275	320	344	308	330	349	286	307	315	324	348
紹介率 (%)	45.9	49.8	62.3	67.2	65.5	63.7	68.2	66.8	63.4	68.8	67.5	67.2

(算定方法は地域支援病院に準ずる)

(10) 今給黎総合病院 逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
逆紹介患者数	511	459	504	532	526	523	505	421	515	414	510	516
逆紹介率 (%)	80.0	83.2	98.1	103.9	111.9	101.0	98.6	98.4	106.4	90.4	106.3	99.6

(算定方法は地域支援病院に準ずる)

(11) 平成26年度 外来患者初再診数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	1日平均
初診	981	881	823	812	695	834	698	756	769	795	777	754	9,575	798
再診	4,225	4,084	4,464	4,456	4,143	4,341	4,472	3,894	4,461	3,860	3,978	4,440	50,818	4,235
合計	5,206	4,965	5,287	5,268	4,838	5,175	5,170	4,650	5,230	4,655	4,755	5,194	60,393	5,033
初診率 (%)	18.8	17.7	15.6	15.4	14.4	16.1	13.5	16.3	14.7	17.1	16.3	14.5	-	15.9

(12) 平成26年度 外来患者時間外・深夜・休日患者数 (診療報酬加算をもとに集計)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	1日平均
時間外	125	126	128	131	125	117	127	111	118	157	123	132	1,520	4.2
深夜	58	67	58	53	66	48	45	50	79	65	52	66	707	1.9
休日	109	105	99	118	66	162	54	185	144	201	170	81	1,494	21.3
合計	292	298	285	302	257	327	226	346	341	423	345	279	3,721	-

休日：休日在宅医（当番日）含む

(13) 入院患者に関する実績比較

1. 年度別

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
定 床	450	450	450	450	450
新 入 院 数	6,997	7,021	7,631	8,136	8,060
退 院 数	7,043	7,039	7,652	8,112	8,038
在院患者延数	137,974	135,970	132,825	136,860	136,106
1日平均 在院患者数	378.0	371.5	363.9	375.0	372.9
平 在 院 日 均 数	18.2	17.0	15.4	15.3	17.2
病 利 用 床 率	84.0%	82.6%	80.9%	83.3%	82.9%

2. 平成26年度 月別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
定 床	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	-	450
新入院患者数	642	635	662	729	706	667	722	599	635	680	675	708	8,060	672
退院患者数	635	641	653	705	745	672	695	607	715	589	678	703	8,038	670
在院患者延数	10,872	10,831	11,175	11,493	11,690	10,733	11,243	11,316	11,527	11,670	11,211	12,345	136,106	11,342
1日平均 在院患者数	362.4	349.4	372.5	370.7	377.1	357.8	362.7	377.2	371.8	376.5	400.4	398.2	-	372.9
平 均 在 院 日 数	17.0	18.3	17.8	16.4	16.9	16.5	16.6	19.6	17.5	17.7	15.8	16.8	-	17.2
病 床 利 用 率 (%)	80.5	77.6	82.8	82.4	83.8	79.5	80.6	83.8	82.6	83.7	89.0	88.5	-	82.9

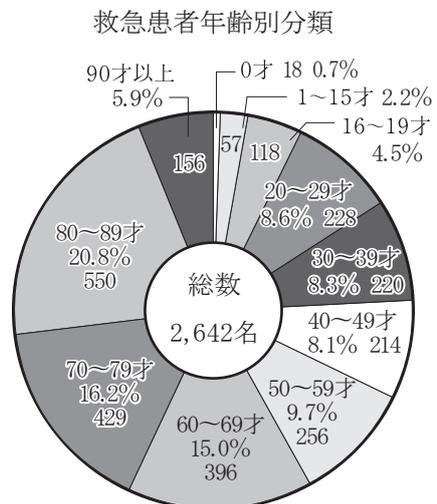
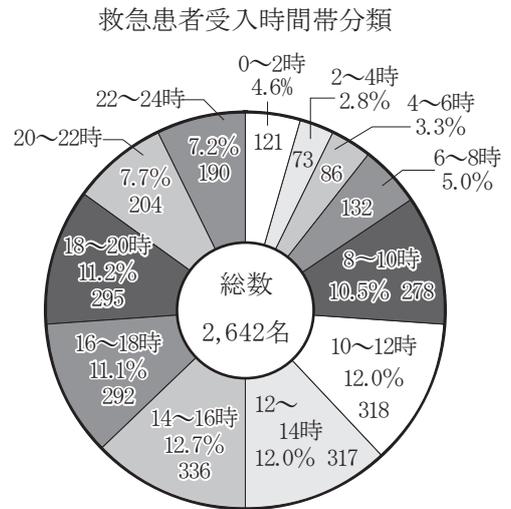
3. 平成26年度 科別

	総内	血内	糖内	消内	循内	呼内	神内	外	呼外	整形	形成	脳外
新入院患者数	279	1	23	494	73	546	546	541	345	1,228	437	315
退院患者数	296	0	17	489	75	524	532	543	310	1,268	432	316
在院患者延数	8,488	18	493	4,973	1,992	9,913	11,183	8,559	3,233	39,429	9,076	7,439
1日平均 在院患者数	23.3	0.0	1.4	13.6	5.5	27.2	30.6	23.4	8.9	108.0	24.9	20.4
	産婦	新内	小児	泌	眼	耳鼻	皮	麻	放	緩和	歯口外	
新入院患者数	427	210	152	483	1,115	503	76	9	48	19	190	
退院患者数	425	205	157	493	1,104	502	72	14	43	35	186	
在院患者延数	5,206	5,739	1,240	4,816	7,226	3,409	1,169	85	1,034	534	852	
1日平均 在院患者数	14.3	15.7	3.4	13.2	19.8	9.3	3.2	0.2	2.8	1.5	2.3	

(14) 年度別救急車受入台数(患者数)

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
4 月	156 (160)	180 (182)	220 (221)	214 (220)	199 (202)
5 月	184 (187)	196 (196)	219 (221)	228 (235)	213 (217)
6 月	164 (165)	185 (188)	194 (195)	208 (213)	206 (209)
7 月	196 (205)	212 (216)	218 (223)	247 (251)	225 (229)
8 月	186 (188)	250 (266)	251 (256)	249 (253)	212 (216)
9 月	187 (190)	214 (218)	217 (222)	197 (201)	224 (226)
10 月	202 (205)	247 (251)	238 (242)	230 (233)	202 (205)
11 月	185 (188)	212 (215)	245 (249)	224 (226)	222 (224)
12 月	215 (215)	237 (239)	224 (225)	218 (223)	227 (232)
1 月	201 (205)	239 (241)	214 (219)	201 (208)	244 (243)
2 月	155 (157)	172 (175)	209 (210)	212 (221)	204 (209)
3 月	203 (204)	228 (228)	214 (215)	209 (217)	227 (230)
合計	2,234 (2,269)	2,572 (2,615)	2,663 (2,698)	2,637 (2,701)	2,605 (2,642)
月平均	186.2 (189.1)	214.3 (217.9)	221.9 (224.8)	219.8 (225.1)	217.1 (220.2)
日平均	6.1 (6.2)	7.0 (7.1)	7.3 (7.4)	7.2 (7.4)	7.1 (7.2)
高規格救急車 指示(再掲)	18	26	17	18	21

(15) 平成26年度 救急患者受入時間帯・
年令別分類



(16) 平成26年度 市町村別救急患者数

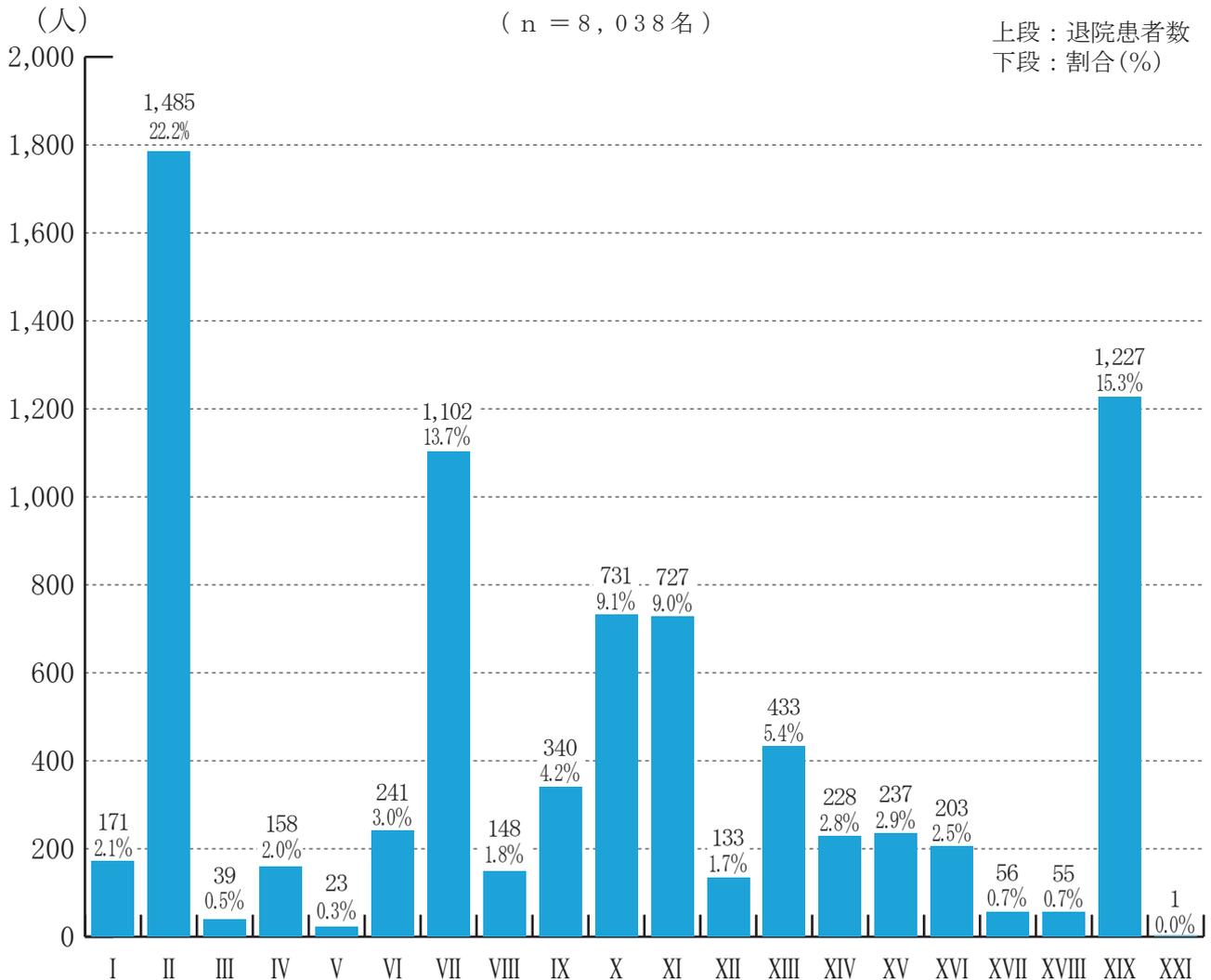
		市町村名	救急患者数			市町村名	救急患者数			市町村名	救急患者数	
鹿	鹿	上町・吉野	909	日置	日置市	62	曾於	曾於市	6	伊佐	伊佐市	4
		伊敷・草牟田	322		薩摩川内市	18		志布志	3			
		中央・田上	286		いちき串木野市	25		伊佐市	4			
		中央駅・田上	220		さつま町	4		西之表市	5			
	児島	鴨池・郡元	141	川辺	南さつま市	5	熊毛	南種子町	1	大島	屋久島町	5
		谷山	151		枕崎市	8		喜界	1			
		桜島	27		南九州市	14		県内	2,640			
		吉田	104		指宿市	19		県外	2			
	島	松元	30	指宿	出水市	3	洋上救急(再掲)		0	総合計	2,642	
		喜入	6		阿久根市	2						
郡山		79	鹿屋市		20							
始良	十島村・三島村	2	肝属	垂水市	14							
	霧島市	39		東串良町	1							
	始良市	99										
		湧水町	5									

(17) 平成26年度 退院患者 ICD大分類

主 傷 病 名 大 分 類

(n = 8,038名)

上段：退院患者数
下段：割合(%)



- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| I 感染症及び寄生虫症 | XII 皮膚及び皮下組織の疾患 |
| II 新生物 | XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | XIV 腎尿路生殖器系の疾患 |
| IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 | XV 妊娠、分娩及び産褥 |
| V 精神及び行動の障害 | XVI 周産期に発生した病態 |
| VI 神経系の疾患 | XVII 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| VII 眼及び付属器の疾患 | XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| VIII 耳及び乳様突起の疾患 | XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| IX 循環器系の疾患 | XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |
| X 呼吸器系の疾患 | |
| XI 消化器系の疾患 | |

(18) 平成26年度 ICD大分類・診療科別・性別・退院患者数

ICD大分類	男女合計	総数	総内	神内	呼内	消内	循内	糖	小	外科	呼外	皮	整形	脳	泌	産	新内	婦	眼	耳	放	麻	口腔	緩和	
総数	8,038	男 4,187 女 3,851	147	269	360	264	40	7	84	326	220	39	579	225	173	399	-	110	-	536	301	32	7	46	23
I 感染症及び寄生虫症	171	男 79 女 92	7	17	8	10	-	-	11	1	1	14	-	-	3	-	-	-	1	6	-	-	-	-	
II 新生物	1,785	男 1,116 女 669	34	4	272	49	1	-	-	184	130	5	19	54	4	293	-	-	1	15	31	-	1	19	
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	39	男 20 女 19	3	4	3	1	-	-	2	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	158	男 77 女 81	10	15	-	1	1	7	11	-	1	2	2	3	2	1	-	-	21	-	-	-	-	-	
V 精神及び行動の障害	23	男 13 女 10	1	6	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
VI 神経系の疾患	241	男 128 女 113	1	79	1	-	1	-	2	1	4	-	9	4	20	-	-	-	-	5	-	1	-	-	
VII 眼及び付属器の疾患	1,102	男 516 女 586	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	497	1	-	-	-	-	
VIII 耳及び乳様突起の疾患	148	男 66 女 82	2	11	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	50	-	-	-	-	
IX 循環器系の疾患	340	男 169 女 171	4	53	4	5	29	-	2	4	3	1	3	1	57	1	-	-	-	-	-	1	-	1	
X 呼吸器系の疾患	731	男 464 女 267	48	23	67	3	2	-	49	5	53	1	2	-	7	-	-	-	203	1	-	-	-	-	
XI 消化器系の疾患	727	男 359 女 368	3	7	-	181	1	-	-	116	1	2	-	2	2	-	-	-	3	-	-	-	41	-	
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	133	男 64 女 69	5	-	1	-	-	-	1	-	-	12	2	36	-	1	-	-	2	3	-	1	-	-	
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	433	男 226 女 207	10	18	-	-	1	-	-	-	-	1	178	13	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	228	男 116 女 112	7	5	1	2	1	-	3	2	1	-	-	1	2	88	-	-	-	3	-	-	-	-	
XV 妊娠、分娩及び産褥	235	男 - 女 235	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
XVI 周産期に発生した病態	205	男 108 女 97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	108	-	-	-	-	-	
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	56	男 20 女 36	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11	2	3	-	2	-	1	-	-	-	-	
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	55	男 35 女 20	2	8	1	6	-	-	2	-	6	-	-	1	3	1	-	-	-	5	-	-	-	-	
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,227	男 610 女 617	9	15	2	4	3	-	1	9	14	1	362	85	70	6	-	-	14	5	-	4	4	2	
XX 健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	1	男 1 女 -	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

部門報告

Ⅲ-1

各診療科報告

- 内科(総合内科)
- 血液内科
- 糖尿病内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 神経内科
- 外科(消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門)
- 呼吸器外科
- 整形外科・リハビリテーション科
- 形成外科
- 脳神経外科
- 産婦人科
- 新生児内科
- 小児科
- 泌尿器科
- 眼科
- 気管食道・耳鼻いんこう科
- 皮膚科
- 麻酔科
- 放射線診断科
- 放射線治療科
- 緩和医療科
- 病理診断科
- 在宅診療科
- 歯科
- 歯科口腔外科
- 救急科



総合内科

部長 生野 博久

当院総合内科は休診状態でしたが、平成16年より生野博久と二木真琴先生が担当し再開しました。

総合内科の業務は、外来では感染症、健康診断、ワクチン接種、午後の外来のバックアップ、入院では感染症、不明熱の診断治療などです。ワクチン接種に関しては昨年度インフルエンザを含めて886件行いました。日本はワクチンに関しては後進国と言われていましたが、今後は種類、接種も増加すると思われます。色々な科の研修を続けて消化器疾患、内科全般に詳しい大磯先生に加えて外科出身の三宅先生にも参加していただき更に総合的な治療を行う体制となってきています。

2009年から2010年はメキシコより感染が広がったブタ由来A型インフルエンザ(H1N1)の流行が日本にもおしよせ、当科へも多く患者様が来院されました。当院は発熱外来を設けて患者様に受診していただきましたが、集団発生する感染症への対応の困難さを痛感しました。この感染症により世界中で1万4千人以上(WHOの報告より)が亡くなっています。日本でも200人程度(厚生労働省報告より)が亡くなりました。世界的に見て早期の診断、タミフル、リレンザの投与は効果的であったと思われます。

2008年4月より特定健診が開始されました。これは話題となった代謝症候群を診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があると言われていました。代謝症候群とは腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合は程度の軽い危険因子の組み合わせによっても動脈硬化が非常に進行しやすいという概念です。自覚症状のある前に早期に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要と思われます。

当科は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先での follow up が大変重要と思われます。専門性が利用できる場所は生かし、MSW(ソーシャルワーカー)、在宅医療部との連携を保ち、より良い quality of life を目指した治療を考えていきたいと思えます。

2005年よりNST(nutrition support team)の活動も行っています。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師と供に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。また栄養補給の一環として安全な中心静脈カテーテルの留置にも力を入れています。当科としては三宅先生を中心に、この活動にも力を入れていく方針です。これからも地道に診療、委員会活動を続けようと思えます。

【スタッフ】

部長 生野 博久

NST認定医

医師臨床研修指導医養成講習修了医

医学博士(鹿児島大学)

二木 真琴

日本血液学会 専門医

医学博士(日本医科大学)

三宅 健治

日本外科学会認定医

日本医師会認定産業医

日本体育協会スポーツドクター

【診療実績】（平成26年1月1日～平成26年12月31日）

クリニック外来患者数

初診	再診	患者延べ数	1日平均（稼働日数269.5日）			初診率
			合計	初診	再診	
3,992	6,398	10,390	38.6	14.8	23.7	38.4%

今給黎総合病院外来患者数

初診	再診	患者延べ数	1日平均（稼働日数269.5日）			初診率
			合計	初診	再診	
929	556	1,485	5.5	3.4	2.1	62.6%

【予防接種件数】（平成26年1月1日～平成26年12月31日）

	インフルエンザ	おたふく	エイムゲン	ビームゲン	日本脳炎	麻しん	風しん	狂犬病	破傷風	水痘	麻しん風しん	ポリオ	ニューモバックス	合計
1月	19	1	2	3					2	1	1		6	35
2月	7	1	4	7			1	2	2		2		2	28
3月		2	2	2				2	2	1	1		3	15
4月		1								1	3		2	7
5月											2		1	3
6月				1						1	3			5
7月		1		5					1				1	8
8月		3		7		1				1	1			13
9月		1	1	3			1	1	1	1			2	11
10月	54	2											51	107
11月	338	1				2				1			47	389
12月	225	1		4									33	263
総合計	643	14	9	32	0	3	2	5	8	7	13	0	148	884



血液内科

部長 小濱 浩介

【診療内容、特色】

当院血液内科は現在常勤医師1名(総合内科兼任)で運用されており、白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液の悪性疾患から、各種貧血、出血傾向をきたす疾患(紫斑病等)の診療を行っています。当院は血液学会認定研修施設となっており、県内最大級の総合病院として放射線治療をはじめとしたスムーズな多科連携を伴う集学的治療が可能であることが最大の特徴です。

外来は基本的には月曜、火曜、金曜ですが、詳細は随時外来までお問い合わせください。

【スタッフ】

小濱 浩介(おばまこうすけ) 血液内科部長、医学博士

略歴 鹿児島大学病院、九州がんセンター、東京大学医科学研究所附属病院、鹿児島市立病院、今村病院分院などで血液内科医として勤務。

資格 血液学会専門医、同指導医、内科学会認定医、がん治療認定医、その他日本輸血学会、緩和ケア学会などに所属。

【診療実績】

平成26年度 新規入院患者数52名(悪性リンパ腫14例、多発性骨髄腫12例、成人T細胞白血病リンパ腫5例、急性骨髄性白血病4例、その他)であり、総合内科との連携で診療を行っています。



糖尿病内科

部長 盛満 慎吾

【診療内容、特色】

鹿児島県内最大の民間の総合病院であることの人的および設備的なメリットを生かして、あらゆる病期の糖尿病患者様につきまして、血糖コントロールおよび慢性透析を除く全ての糖尿病に伴う合併症の管理が出来ます。ただ、平成26年度も担当医師が常勤医1名のみのため、管理出来る患者様の数は限界に達しており、十分な診療を提供出来なくなっております。また、当院が地域連携支援病院に指定されたこともあり、当院の経営方針として、外来患者様よりは入院患者様を積極的に受け入れるようにとの方針もあり、入院患者様につきましては受け入れ可能ですが、外来患者様につきましては受け入れ不可能となっております。

【スタッフ紹介】

部長 盛満 慎吾

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会

資格：日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医

【外来診察担当】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	盛満*	盛満	盛満	盛満	盛満*	休診
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

* 予約再診のみ

【平成 27 年度の計画】

前述のように平成26年度も常勤医1名と少ない医師数での診療体制に対し、患者様の増加、特に無治療や合併症をお持ちの重症な患者様の増加が著しく、現在の当科の診療体制では質および量の面において限界に達しております。また、当院が地域連携支援病院に指定されたこともあり、病院の経営方針として、入院患者様を積極的に受け入れるようにとの方針もあり、入院患者様につきましては受け入れ可能ですが、外来患者様につきましては受け入れ不可能となっております。そのため、外来での治療のご依頼はお受けすることは出来ませんが、もし、入院治療が必要な患者様がおられましたら、ご紹介頂ければと思い、この場をお借りしてお願いする次第です。その際は宜しく願い申し上げます。

また、糖尿病性細小血管障害の評価につきましては、現在も入院下で十分に行えておりますが、以前は、入院下で行ってございました動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが、DPC（診断群分類包括評価）といわれる包括医療制度上、入院下では十分に行い難くなってきております。そのために、末梢血管の動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックは外来で行えるようにシステムを構築し、通院中の全患者様に検査を受けて頂くようにしているところであります。他方、生命予後に係わる心血管疾患および脳血管疾患等の動脈硬化性疾患の評価は、まだ、不十分かと思っておりますので、今年度は、上記疾患に対する動脈硬化性疾患の評価システムを、順次、構築してまいりたいと考えております。また、糖尿病の新たな合併症としての認知症につきましても、定期的にチェック出来る体制を構築したいと考えております。

最後に、糖尿病患者様方に対して、一病息災という理念の下に、QOLを維持しつつ健康な方々とかかわらない寿命を可能な限り保障出来るように、努力してまいりたいと思っております。今後ともかわらぬご支援の程をお願い申し上げます。



消化器内科

部長 吉永英希

消化器内科は、月曜日から土曜日まで外来患者様の検査・治療、入院患者様の診療・加療を行っております。消化器外科や放射線科との共同で集学的な治療をご提供しております。

検査に関しましては腹部超音波検査、上・下部内視鏡検査、超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下生検～穿刺吸引細胞診、ERCP：内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査、IDUS、食道胃透視撮影検査、注腸透視撮影検査、肝生検、肝炎ウイルス検査等を行っております。

治療に関しましてはほぼ全ての消化器疾患の内科的治療をはじめとし、上部・下部内視鏡的止血術、イレウスチューブ留置術、内視鏡的異物除去術、内視鏡的消化管拡張術、消化管ステント留置術、内視鏡的静脈瘤結紮術・硬化療法、EMR：内視鏡的粘膜切除術、ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的ポリープ切除術、超音波ガイド下穿刺～ドレナージ術、内視鏡的胆道ドレナージ術、内視鏡下乳頭切開術～拡張術、内視鏡下胆道拡張術、内視鏡下胆管結石砕石～採石術内視鏡下胆管～膵管ステント留置術、内視鏡下胃瘻造設術、消化器癌に対する化学療法など多岐にわたっております。

当科の特徴としましては消化器内視鏡に関するほとんど全ての検査から治療をまんべんなく取り扱っていること、当院が総合病院である特色からの他科疾患合併症を有するリスクの高い患者様の多いこと、救急病院である特色からの緊急処置を必要とする患者様の救急搬送が多いこと等です。外来は離島を含め県内各地の多数の医療機関と病診連携をとっております。

当院は日本消化器病学会、消化器内視鏡学会認定指導施設で有り、内視鏡室には4名の専属スタッフが常勤し、当科の安全性と質の高い医療を提供する要となっております。

【スタッフ紹介】

常勤医師

吉永 英希

日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医

今給黎 和幸

日本内科学会認定医

日本消化器病学会消化器病専門医

日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医

日本人間ドック学会認定医

日本胆道学会認定専門医

水流 弘文

日本外科学会専門医

日本消化管学会胃腸科専門医・指導医

医学博士（福岡大学）

非常勤医師

松元 淳 税所篤郎 大磯陽子 瀬戸山 仁

川本洋一郎

内視鏡室 看護師

梅北裕司 山元真貴子 江口真美 大迫 翔

【外来診療日】

月曜～土曜日 午前（完全予約制）

月	火	水	木	金	土
吉永 税所	今給黎	今給黎	吉永 大磯	吉永 今給黎	交代制

診療、検査、投薬などは全て完全予約制です。

午後からは検査のみとなっております。

【診療状況】（2014年1月～12月）

外来患者数 初診 1,344名、再診 6,798名

入院患者数 544名

【検査件数】（2014年1月～12月）

検査名	件数
胃・十二指腸内視鏡検査	1,953
食道内視鏡検査	2
下部消化管内視鏡検査	872
小腸内視鏡検査	2
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)	41
超音波内視鏡検査(EUS)	88
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(FNA)	1
IDUS	4

【内視鏡治療・処置件数】（2014年1月～12月）

治療・処置名	件数
上部消化管内視鏡的止血術	32
下部消化管内視鏡的止血術	10
経口イレウス管留置術	27
経肛門的イレウス管留置術	1
内視鏡的消化管異物除去(上部・下部)	18
内視鏡的静脈瘤硬化療・結紮術(EIS・EVL)	4
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ粘膜切除術(EMR)	3
内視鏡的早期食道癌粘膜下層剥離術(ESD)	1
内視鏡的早期胃癌粘膜下層剥離術(ESD)	4
内視鏡的大腸ポリープ粘膜切除術(EMR)	138
内視鏡下食道狭窄拡張術	8
食道ステント留置術	6
内視鏡下胃・十二指腸狭窄拡張術	9
胃・十二指腸ステント留置術	3
内視鏡的乳頭切開術(EST)	20
内視鏡的乳頭拡張術(EPBD)	2
内視鏡的胆道結石砕石術(EML)	3
内視鏡的胆道結石採石術	15
内視鏡的胆道ドレナージ(ENBD・ERBD)	20
内視鏡的胆道ステント留置術	4
内視鏡的膵管ステント留置術	1
内視鏡下胃瘻造設術(PEG)	32
胃瘻交換	33
内視鏡下軸捻転整復術	2
胃瘻閉鎖術	2

【活動】

- ・院内講習会～鹿児島大学医学部消化器疾患・生活習慣病学、井戸教授を院外講師に迎えて開講
- ・久木田学園看護専門学校、非常勤講師として講義開講



循環器内科

部長 大場 一郎

【特色】

当科は鹿児島大学大学院医師学総合研究所心臓血管・高血圧内科学教室（大石充教授）から循環器内科スタッフとして派遣された三名の常勤医で構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼の術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢動静脈エコーなど超音波検査、運動・薬物負荷検査、冠動脈造影 MDCT を駆使し生理検査室、放射線科と連携のもと多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成26年度の循環器内科の診療実績について御紹介申し上げます。現在は部長大場一郎と、鹿児島大学医学部心臓血管・高血圧内科から派遣された下舞浩二と本年6月から赴任の志岐健三郎が常勤医として勤務しています。その他に毎年院内または鹿児島大学研修ローテーションによる研修医を加えて外来・病棟の診療を行っています。超音波検査は主に生理検査技師の富吉裕児、森田修康他が行います。院内や外来、他院からの問い合わせを外来受付・看護師が対応し、患者様への治療が円滑に行えるよう皆が心を一つに協力しています。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は三人の医師で新患、再来、術前他科依頼などを曜日交替りで担当しています。外来患者数は再来・新患併せて一日あたり30-50名程度で、再来患者については待ち時間の解消のための予約制をとっています。鹿児島県下の病院やクリニックから心疾患の精査依頼や鹿児島医療センターなどから診療の依頼などで紹介され受診される患者が最近では増加している印象です。一方で病状が安定している患者については自宅近くの施設への逆紹介を増やし病診連携を図っています。

高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患、陳旧性心筋梗塞後や拡張型心筋症など心筋疾患による慢性心不全、心房細動、上室性頻拍、症候性徐脈などの不整脈および弁膜疾患、下肢閉塞性動脈硬化症（PAD）や深部静脈血栓症（DVT）など下肢血管疾患、大動脈解離などの救急対応と循環器疾患全般の診察や治療を行っています。

当院における当科の特徴としては術前心機能評価および入院中の胸部症状出現などによる診察依頼などでの院内他科からの紹介の多さです。

冠動脈疾患の精査については冠動脈造影MDCT診断が放射線部のレベルアップによる解析の迅速化

で従来より大量かつ詳細な画像診断が可能になりました。併せて心筋シンチなど核医学検査による画像診断を放射線科医師と行うことで診断の精度向上を常に心がけています。当院では心臓カテーテル検査およびカテーテル治療は行いませんので、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院・天陽会中央病院といった心臓カテーテル施設との緊密な連携によりスピーディな診断・加療を実現しています。また、上記の鹿児島市における循環器基幹病院と合同でカンファレンスや研究発表を行う機会も多く、先進医療の動向にも充分対応出来ます。

2) 入院診療

最も多い症例は高齢者の慢性心不全の増悪により救急搬送されるケースです。循環・呼吸状態を改善させ内科病棟へ転棟し全身状態の改善をみて退院となります。ペースメーカー植え込み術はほぼ毎月1-2件のペースで行っています。整形外科など長期臥床化する症例が多いことから下肢静脈血栓症例は増加がみられ、放射線科と留置型下大静脈フィルターによる肺塞栓予防を積極的に行っています。

【平成 27 年度に向けて】

現在の診療内容をさらに充実させながら、大病院や鹿児島医療センターといった最新機器や情報の豊富な施設との人的・物的交流をいっそう深めていきます。人員の増員を受けて毎日の日常診療からの研究発表を目標に挙げています。総合病院である当院の特色から循環器科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医の対応にも力を入れています。

【手術症例数】（平成 25 年～26 年）

ペースメーカー移植術

- 1) 新規 : 5 件
- 2) 入れ替え : 4 件

【超音波検査件数】（平成 26 年度）

- ・心エコー : 約 3,000 件
- ・頸動脈エコー
経胸壁心エコー時にルーティンに行っています。
- ・下肢血管エコー 約 300 件

【冠動脈MDCT】

約 300 件



呼吸器内科

部長 川 畠 寿 史

平成26年4月より川畠、窪田は残留のまま、松山、谷川から美園、鶴木へメンバー交代となり、4人の常勤医で診療にあたっております。

当科は引き続き日本呼吸器病学会関連施設の認定を受けており、呼吸器外科、放射線科、病理診断科とも協力し、最良の医療を提供できるように努めております。

【当科の主な診療疾患】

- ・ 肺癌、胸部悪性疾患
- ・ 肺炎、呼吸器感染症
- ・ 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）
- ・ 間質性肺炎、びまん性肺疾患

主に上記の疾患の診療を行っております。呼吸器診療の中心ともいえる肺癌患者数は年々増加しております。肺癌の治療現状は依然として厳しいと言わざるを得ませんが、特に分子標的薬等の治療進歩により、進行期肺癌でも中には年単位での生存可能な例も増えてきています。ガイドラインに基づいた診療が基本ですが、今後益々個々の患者様に応じた丁寧な治療、個別化医療の実践が重要になると思われます。癌診療は内科だけでは成り立たず、外科、放射線科、病理診断科、緩和医療科とのチームワークが欠かせません。癌以外にも、感染症やアレルギー疾患、膠原病やびまん性肺疾患等呼吸器診療は意外に幅広いというのも特徴です。また今や死因第3位の肺炎やCOPDは高齢者に多く、死に携わる場面が多い診療科ともいえま。特に全人的医療の観点が必要な診療科ではないかと思ひます。

【外来・入院診療】

当科外来では、平成24年12月から予約制を導入しました。午前の外来が夕方までかかるのは当たり前ということがなくなり、新患患者様にはより時間を割けるようになりました。基本予約制ですが、飛び込みの患者様はなるべく診るようになっています。予約制導入後の新患患者数は年々減少傾向となっておりますが、延べ総数は前年度よりやや増加しておりました。個人的には予約制の方が良い方向かと考えますが、今後入院患者数が減る場合は、予約制も見直しが必要となるかもしれません。入院患者は例年通り、肺癌患者が最も多くなっております。平成26年の気管支鏡検査数は81例とやや少なめでしたが、診断率は例年同様約70%で問題となる合併症例はありませんでした。当院はやはり外科系が売りの病院かと思ひますが、呼

吸器内科も診療の質をより高め、そして優しく厳しい心を持って、静かに密やかに貢献していければと思ひます。最後に当科の診療が円滑に行っているのは、勤勉を美德とし、またサービス精神あふれる看護師・医療事務はじめ各種メディカル、スタッフの方々のお蔭であり、ここに深謝致します。

表1) 外来患者数

	延べ患者数	新患患者数
平成24年	6,758	739
平成25年	6,345	664
平成26年	6,398	522

表2) 入院患者疾患内訳

	24年	25年	26年
肺癌	328	365	356
肺炎	59	51	43
びまん性肺疾患	36	29	25
気管支喘息	9	5	9
慢性閉塞性肺疾患	20	22	12
肺結核	2	5	5
その他	56	108	65
合計	510	585	515



神経内科

部長 長堂 竜 維

当院神経内科は鹿児島大学神経内科・老年病学講座を母体とした医局で、丸山・長堂・林・野村は同科の出身または同科在籍中の医師です。この4人と鳥取大学脳神経内科出身の甲斐を含めた5人が当科の常勤医で、この5人のうち野村を除く4人が日本神経学会神経内科専門医で、野村も取得要件は満たしており取得予定です。加えて5人の非常勤医師にも応援をいただき、頭痛・めまい・しびれ等の症状や脳卒中・パーキンソン病・アルツハイマー型認知症等の一般神経内科外来から急性期神経疾患の救命救急医療・急性期リハビリテーションまでの神経内科診療をこなしています。鹿児島大学の神経内科・老年病学講座が日本においても最も規模が大きく且つ歴史のある神経内科教室のひとつであることもあり、鹿児島県は他の県に比べ神経内科医の非常に多い県です。しかし、神経内科専門医5人を常勤として抱え神経救急を行っている私立病院は全国的にもそう多くはなく、鹿児島県における神経内科診療に多少なりとも貢献できているものと私どもは自負しております。

次に今年度の診療実績について書かせていただきます。まず入院患者ですが、昨年の入院患者総数477人に比し64人増の541名（H26年1月1日～12月31日）が一年間で入院されました。その中には脳血管障害・感染症・パーキンソン病の3疾患が大きな割合を占めました。神経内科という科の性格上、予定入院に比べ圧倒的に緊急入院が多いことを考えると、ほぼ毎日1.5人の入院患者を平均的に受け入れてくれる病棟スタッフには頭の下がる思いがします。外来患者は、一年間の初診患者総数1,350人、外来患者総数が11,261人で、一日平均外来患者数は約36人でした。病棟は別館2階南病棟42床で神経内科と皮膚科の混合病棟となっており、皮膚科の児浦先生・玉井先生には時間を問わず的確なご指導をいただき、神経内科一同感謝の気持ちでいっぱいです。

病棟スタッフは稲森師長以下31名の看護師が激務をこなしながらも、笑顔を絶やさず日夜仕事に励んでいます。神経内科は他科に比べ高齢の患者様やADLの低下した患者様も多い中でクオリティの高い看護・介護を実践してもらい、医師にとって本当に働きやすい病棟です。外来は有能で気配りのできる医療クラークの郡山と片山が、5人の常勤医師と5人の非常勤医師を上手くおだてながら、神経内科外来のすべてを取り仕切っています。

日常診療以外の業務としては、丸山は副院長としての多くの院内・院外激務に加え、各種研究会の世話人、血液凝固・神経関連の講演を行い、長堂は鹿

児島大学医学部非常勤講師として学生講義、大学病院専門外来、看護学校の授業、臨床研修医対応、各種講演会などを行っています。甲斐・野村の両名は各種学会で口演発表し、論文も複数発表しています。また林・甲斐・野村の3名は訪問診療も行っています。このように全員が医療以外にも多くの雑多な用事を両手いっぱい抱えながらコマネズミのように毎日走り回っています。

以上、簡単ではありますが今給黎総合病院神経内科の日常をご紹介します。ありがとうございました。

【スタッフ】

丸山芳一 副院長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、日本神経学会評議員、
鹿児島大学臨床教授、久木田学園非常勤講師、
愛媛大学医学部卒

長堂竜維 神経内科部長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、
鹿児島大学医学部非常勤講師、
日本神経学会九州地方会世話人、
久木田学園非常勤講師
鹿児島大学医学部卒

林 茂昭 在宅医療部部長

日本神経学会専門医、日本内科学会認定医、
日本内科学会総合内科専門医
鹿児島大学医学部卒

甲斐 太

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、鳥取大学医学部卒

臼元 亜可理（平成27年4月～）

鹿児島大学医学部卒

非常勤医師

丸山征郎医師（血管病）
有村由美子医師（電気生理検査）
橋口照人医師（神経内科、糖尿病）
荒田仁医師（神経内科）
橋口良也医師（頸部血管超音波検査）

【診療状況】(2014年1月1日～12月31日)

【外来患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初診	113	109	133	108	110	135	115	107	117	120	82	101	1,350
再診	834	766	851	854	794	788	878	799	847	853	767	880	9,911
合計	947	875	984	962	904	923	993	906	964	973	849	981	11,261
1日平均初診患者数	5.4	5.2	5.9	4.7	5.0	5.9	4.8	4.6	5.3	5.0	4.0	4.4	-
1日平均再診患者数	39.7	36.5	37.8	37.1	36.1	34.3	36.6	34.0	38.5	35.5	37.4	38.3	-
1日平均患者数	45.1	41.7	43.7	41.8	41.1	40.1	41.4	38.6	43.8	40.5	41.4	42.7	-
診療実日数	21.0	21.0	22.5	23.0	22.0	23.0	24.0	23.5	22.0	24.0	20.5	23.0	269.5

(昭和会クリニック含)

【入院患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
入院	44	30	37	47	44	38	52	50	44	49	46	44	43.8
退院	26	41	33	38	37	45	51	51	37	51	43	49	41.8
在院	703	627	719	848	938	886	923	844	816	951	1003	995	854.4
平均病床数	22.7	22.4	23.2	28.3	30.3	29.5	29.8	27.2	27.2	30.7	33.4	32.1	28.1
平均在院日数	20.1	17.7	20.5	20.0	23.2	21.3	17.9	16.7	20.1	19.0	22.5	21.4	20.0

【入院患者内訳】(2014年1月1日～12月31日)

脳血管障害	110	頭部打撲	4	頸髄症	2
感染症	77	横紋筋融解症	3	結節性多発動脈炎	2
パーキンソン病	62	解離性障害	3	視神経脊髄炎	2
てんかん	17	腰部脊柱管狭窄症	3	小脳失調	2
良性発作性頭位変換性めまい	15	周期性四肢麻痺	3	小脳性運動失調症	2
筋無力症	14	頭部外傷	3	進行性核上性麻痺	2
脱水症	11	脳炎	3	進行性多巣性白質脳症	2
多系統萎縮症	9	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	3	脊髄炎	2
多発性硬化症	9	HAM	2	低Na血症	2
めまい	7	ギラン・バレー症候群	2	低血圧発作	2
リウマチ性多発筋痛症	6	シェーグレン症候群	2	低血糖発作	2
筋萎縮性側索硬化症	6	ベーチェット病	2	肺がん	2
頭痛	6	ランバート・イートン筋無力症候群	2	不随意運動	2
シャイ・ドレーガー症候群	5	亜急性連合性脊髄変性症	2	変形性腰椎症	2
意識消失発作	5	悪性症候群	2	片頭痛	2
糖尿病	5	意識消失	2	末梢性顔面神経麻痺	2
カサバハ・メリット症候群	4	一過性低血圧症	2	その他	86
脊髄小脳変性症	4	外転神経麻痺	2	総計	540
低カリウム性ミオパチー	4	関節リウマチ	2		

感染症の内訳

中枢神経感染症	39
呼吸器感染症	27
その他感染症	6
尿路感染症	4
皮膚感染症	1
原因不明の感染症	1

脳血管障害の内訳

脳梗塞	77
脳幹梗塞	8
脳出血	7
T I A	6
外傷性硬膜下血腫	3
多発性脳梗塞	3
脳塞栓症	1
慢性硬膜下血腫	1
右視床出血	1
脳幹梗塞後遺症	1
出血性脳梗塞	1
前脊髄動脈症候群	1

死亡症例（11例）

死因	例数
脳梗塞後遺症	4
急性肺炎	3
脳炎	2
筋無力症	1
急性腎不全	1

【対外活動】

丸山芳一

鹿児島県エイズ対策委員
日本神経学会評議員・代議員
鹿児島大学臨床教授
久木田学園非常勤講師

脳血管疾患の再発に対する高脂血症薬HMGCoA阻害薬の予防に関する研究
研究協力 丸山芳一
主任研究者 広島大学 松本昌泰

脳卒中既往患者を対象とした厳格降圧療法の2次予防効果を検討する大規模臨床研究
研究協力 丸山芳一
研究代表者 自治医科大学 島田和幸

長堂竜維

日本神経学会九州地方会世話人
鹿児島大学非常勤講師
久木田学園非常勤講師

【教育関連講義】

2014年1月8日～1月9日
鹿児島大学医学部3年生
「内分泌系構造と機能」合計4回
長堂竜維

2014年4月15日～6月3日
久木田学園看護専門学校
系統看護学講義 脳・神経系 講義 合計7回
長堂竜維

【学会発表・講演】は研究実績を参照



外科 (肝臓・消化器・乳線・内分泌・小児・肛門)

部長 濱之上 雅博

今年度、外科の人員構成は、下記のとおりであり吉満 工平先生のあと1月～6月まで下之菌 将貴先生が赴任され7月～12月まで和田 真澄先生が頑張ってくれました。他のメンバーは変わらず安定した診療ができたものと思っています。当科の守備範囲として救急も含めた一般外科と専門性もとめられる腫瘍外科があります。また、消化器・甲状腺・乳腺外科という広い範囲の臓器を受け持っています。特に病院が“がん拠点病院”を標榜する限りは、診断から手術さらに術後の補助療法がシームレスに行われる必要があります。このため週一回の消化器カンファレンスを中心に消化器内科・放射線科・麻酔科・病理との垣根のない症例検討を行っています。看護師さん・paramedical staffの参加もあり、情報共有に寄与しています。また2か月に一回 cancer boardも行っており治療方針が複雑となった現在に多方面の考え方より治療を考える偏りのない治療を目指しています。さらに牟禮 洋先生を中心に研修医の増員と研修の充実が図られており、研修医の人数も年々増えており、このためにもカンファレンスは症例発表など研修のためにも重要なものとなっています。当科は、大学よりの病院実習生（ポリクリ）も週2～4名受け入れており、実際の患者さんに接してもらいまた手術への参加もあり病院スタッフおよび患者さんにお世話になっています。また最近、県外・県内の医学生の見学者が増加しており、彼らに接すると彼らが自分の将来像を真剣に描こうとしているのに感心させられます。外部の人の評価は内部の人の評価と異なり意外な面が評価されていることがあり考えさせられることも多い日々です。

近年、がんの治療法として化学療法が大きな部分を占めるようになり消化器癌化学療法は手術との関連も強く外科で対応させてもらっています。今後、救急・腫瘍外科・化学療法と広範囲の仕事を効率よくしていくために各部署との漏れのない情報交換がさらに重要となると思います。外科は医学界の絶滅危惧種とも呼ばれ、その厳しい中で当科staffは本当に頑張ってくれていると感謝しております。この忙しい中で外科のスタッフが地方および全国学会・研究会で病院での臨床上の結果と得られて知見をまとめ発表してくれています。

外科の標準術式となりつつある鏡視下手術の進展・先進医療に遅れないよう大学との連携にも勤めています。また全国手術症例登録システム

(NCD)は、各種学会における専門医制度に導入され当院の症例もすべて登録されています。最近、化学療法の多様化に伴い様々な全国規模の臨床治験が行われています。当科も院内の倫理委員会の承認をえながら参加できるものへは手を挙げていこうと考えています。臨床治験は、その参加することによる病院評価の上昇もありますが、患者さんへの治療説明の徹底、経過観察の精度の向上など診療の質の向上も期待できます。

近年、高齢者の手術が増加し家族関係の問題・術後に行き先が決まらないなど社会的な問題に対応が求められることも多くなりました。連携室・事務の方々との協力なくしては手術をすることさえ難しいのが現実です。この場を借りて御礼申し上げます。

今後も外科としての仕事を明確にしつつ他科との協力を重んじ治療を行い、また新たな臨床知見にかかわる発信ができればとよくばりつつ考えています。

【人事】

勤務者

<医師>

継続 今給黎 和典、牟禮 洋、濱之上 雅博、野口 智弘、立野 太郎

(転入)

下之菌 将貴 : 平成 26 年 1 月～6 月
和田 真澄 : 平成 26 年 7 月～12 月

<診療アシスタント>

手塚あゆみ、
上鶴 智美

<看護師>

熊迫 智枝、中村 唯子、藺牟田 里美

【診療状況】

<外来患者状況>

平成 26 年の外来受診者総数（延べ）は 4,417 名であった。

その内訳は 初診患者： 418 名

再診患者： 3,999 名

<入院患者> 543 名 / 年

【手術症例内訳】

全身麻酔症例 264 例
 脊椎麻酔症例 18 例

全麻症例 疾患部位	例数	悪性	良性	鏡視下
甲状腺	6	4	2	2
乳	2	2	0	
胃	15	15	0	13
十二指腸・小腸	14	3	11	5
大腸	21	20	1	19
直腸	14	14	0	10
肝	15	14	1	3
胆	45	2	27	42
膵	4	4	0	0
ソケイヘルニア	69			52
大腿ヘルニア	2			
腹壁ヘルニア	12			4
虫垂炎	18	1	18	18



呼吸器外科

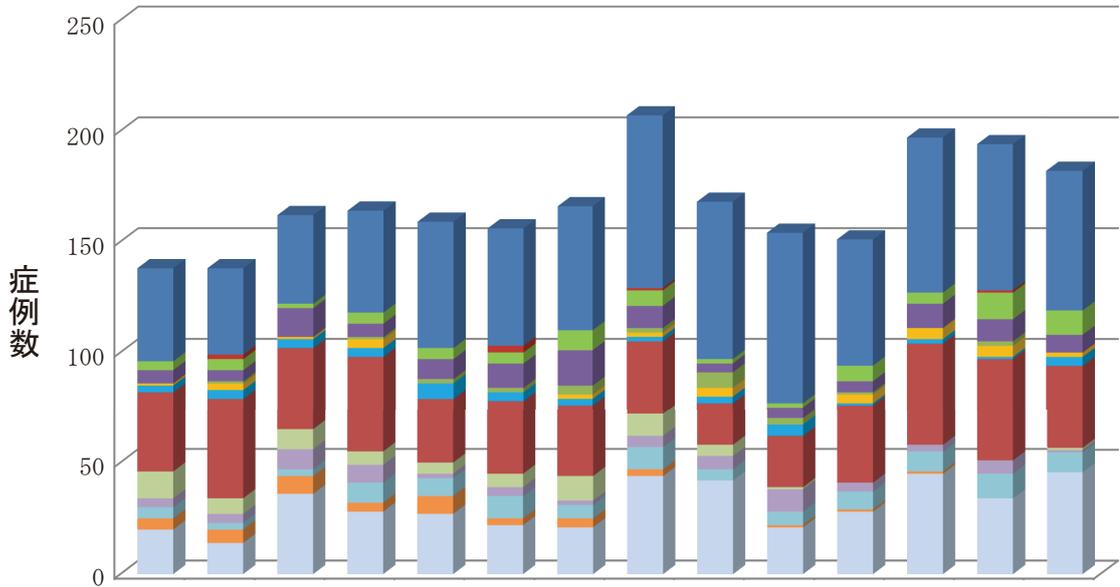
部長 米 田 敏

日本外科学会認定医・専門医・指導医
日本呼吸器外科専門医認定機構専門医
日本呼吸器外科学会評議員
日本胸部外科学会九州地方会評議員

日本呼吸器外科学会専門医・指導医
日本胸部外科学会認定医・正会員
九州外科学会評議員
日本肺癌学会九州支部会評議員

2014年度は、今給黎尚幸先生、巻幡 聰先生と3人体制でした。
今年度の手術症例は183例で肺癌63例、転移性肺腫瘍11例、縦隔腫瘍8例、気胸41例、胸壁腫瘍2例、膿胸1例、良性肺腫瘍9例、多汗症1例などでした。あいかわらず肺癌症例の伸び悩みが懸念されますが、何とか踏ん張っていかうと思っております。

【手術症例】



	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年度
■ 原発性肺癌	42	39	40	46	57	53	56	78	71	77	57	70	66	63	
■ 気管・気管支腫瘍	0	2	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	0	
■ 転移性肺腫瘍	4	5	2	5	5	5	9	7	2	2	7	5	12	11	
■ 縦隔腫瘍	6	5	13	6	9	11	16	10	4	5	5	11	10	8	
■ 胸膜中皮腫	0	1	0	1	2	2	4	2	7	3	1	0	2	0	
■ 胸壁腫瘍	1	3	1	4	0	0	2	2	4	0	4	5	5	2	
■ 肺気腫	3	4	4	4	7	4	3	2	3	5	1	2	1	4	
■ 自然気胸・血気胸	36	45	37	43	29	33	32	33	19	23	35	46	46	37	
■ 局所性多汗症	12	7	9	6	5	6	11	10	5	1	0	0	0	1	
■ 膿胸	4	4	9	8	2	4	2	5	6	10	4	3	6	1	
■ 良性肺腫瘍	5	3	3	9	8	10	6	10	5	6	8	9	11	9	
■ 気道狭瘻	5	6	8	4	8	3	4	3	0	1	1	1	0	0	
■ その他	20	14	36	28	27	22	21	44	42	21	28	45	34	46	
■ 総計	138	134	162	164	159	155	164	207	168	154	151	197	194	183	

最後に、私事です。昨年妻が亡くなり、理事長先生をはじめ病院スタッフの方々に大変御世話になりました。心より御礼申し上げます。誌面を借り御礼申し上げます。娘も4月より広島に旅立、元気に過ごしております。今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。健康第一！！



整形外科・リハビリテーション科

部長 松永俊二

整形外科の平成26年度の活動状況を報告します。平成26年度の整形外科の手術総数は999例と前年より約100例増加し1000例の大台に近づきました。特に脊椎関係の手術が飛躍的に増え脊髄腫瘍や側弯症などこれまで行っていなかった手術も施行しました。また高齢化に伴い骨粗鬆症関連の骨折手術も年々増加しています。クリニックの患者数は平均約105名/日であり昨年度とほとんど変化はありませんでした。しかし、救急外来の対応件数は整形外科が圧倒的に多く、病院の過去最高数の救急車受け入れに貢献しています。新入院患者総数は1,287名で昨年度より約100名増加しましたが平均稼働率は91.6%とやや減少しています。病院の事情で回復期病棟が出来ましたがほとんどの患者さんは整形外科病棟からの転棟患者さんでした。平均在院日数が30.8日でした。学術活動は日本の主要学会はもちろん海外の学会でも発表を行い今給黎総合病院の学術的評価を高めることができました。当院整形外科が参加している多施設研究では日本整形外科学会が発行している海外向けの機関誌のJ Orthopaedic Sciで2014年最優秀論文に選ばれました。鹿児島大学の関連病院として今給黎総合病院は整形外科医が勤務したい病院のひとつとして人気が高い病院であります。大学からの初期研修施設としての整形外科研修の協力もしております。日本整形外科学会認定の臨床専門研修施設として今後益々臨床実地教育にも力を注いでいきたいと考えています。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉10名

今給黎尚典 (理事長)
 松永俊二 (クリニック副院長・整形外科部長)
 井尻幸成 (整形外科部長)
 宮口文宏 (整形外科部長)
 石田育男 (整形外科部長)
 山口聡 (整形外科部長)
 川畑直也 (整形外科科長)
 堀川良治 (整形外科医長)
 岡松伸明 (専門医)
 前迫真吾 (後期研修医)

【人事異動】

入職 5名

堀川良治 平成26年4月1日入職
 城光寺豪 平成26年4月1日入職
 岡松伸明 平成26年4月1日入職
 川畑直也 平成26年10月1日入職
 前迫真吾 平成26年10月1日入職

退職 7名

城光寺豪 平成26年3月31日退職
 岡良臣 平成26年3月31日退職
 救仁郷修 平成26年3月31日退職
 音羽学 平成26年3月31日退職
 内村暢幸 平成26年3月31日退職
 井尻幸成 平成26年8月31日退職
 城光寺豪 平成26年9月30日退職
 前迫真吾 平成27年3月31日退職
 岡松伸明 平成27年3月31日退職

【整形外科初期研修医】

佐保明 (基幹型) 平成26年4～5月
 小倉拓馬 (協力型) 平成26年11月～平成27年1月

【鹿児島大学医学部5年生整形外科臨床実習者】

古川淳一郎、瀬戸山 優、白石一光、岡本かよ、小吉尚裕、野崎健司、谷山朋彦、古賀裕樹、伊藤舞衣、上釜浩平、中村英仁、永野大河、吉永礼香、川内健寛、劉景晨、瀬川萌子、下村育史、福永希梨、カサノバヒロシ、濱田拓人、田島隆弘、宇都寛高、牛飼純平、岡田聡司、山本章裕、前田絢子、辛島 淳、古園美和、岩崎正大、田中隆堂、伊藤渉、五嶋大悟、有馬純夫、末永智大 (以上34名)

【主催セミナー】

鹿児島外傷セミナー
 平成26年11月10日 今給黎総合病院講義室

第24回今給黎総合スポーツフォーラム
 平成26年12月6日 今給黎総合病院講義室

【症例検討会】

レ線カンファレンス 毎日
 鹿児島脊椎症例検討会 1回/月

【診療実績】

昭和会クリニック

外来総数 34,373名 新患4,397名 1日平均106.7名

今給黎総合病院

外来総数 3,986名 新患1,108名 1日平均3.4名

入院総数 1,287名

平均稼働率 91.6% 平均在院日数23.8日

手術総数 999件

【手術内訳】 (2014年4月1日～2015年3月31日) 手術内訳の入力はデータ待ち

脊椎 (258件)		切断術 (12件)	
後頭頸椎固定術	1	下肢	12
環椎後弓切除術	1	上肢	1
頸椎椎弓形成術	13	関節手術 (107件)	
頸椎後方固定術	26	鏡視下肩関節脱臼制動術	1
頸椎前方固定術	20	肘関節形成術	2
頸椎椎間孔拡大術	1	橈骨頭脱臼整復術	1
軸椎骨折骨接合術	1	人工股関節置換術	16
胸椎後方固定術	14	人工股関節抜去術	1
胸椎椎弓切除術	2	人工股関節再置換術	1
胸椎前方固定術	3	股関節脱臼観血的整復術	1
腰椎後方固定術	76	人工骨頭置換術	47
化膿性脊椎炎手術	4	骨盤骨切り術	1
椎体形成術	1	膝関節視鏡下滑膜切除術	4
腰椎開窓術	20	膝関節視鏡下半月板切除術	4
腰椎前方固定	5	脛骨高位骨切り術	2
腰椎椎間板ヘルニア摘出術	41	人工膝関節置換術	24
経皮的髄核摘出術	3	膝前十字靭帯再建術	1
椎間板搔爬術	5	膝関節固定術	1
体外式脊椎固定術 (ハローベスト装着術)	3	筋・腱・神経手術 (51件)	
脊髄腫瘍摘出術	8	アキレス腱縫合術	2
転移性脊椎腫瘍手術	4	デュイピイトレン手術	1
仙腸関節固定術	2	腱縫合術(手)	7
CT下生検	3	腱鞘切開術	14
骨折 (412件)		神経移行術	1
鎖骨骨折手術	22	神経剥離術	3
鎖骨骨折偽関節手術	2	ギオン管開放術	1
上腕骨近位部骨折手術	10	肘部管症候群手術	2
上腕骨外顆骨折手術	2	手根管開放術	15
上腕骨内顆骨折手術	2	指靭帯縫合術	2
上腕骨顆上骨折(含経皮的ピンニング)	8	神経縫合術	3
上腕骨骨幹部骨折手術	11	腫瘍手術 (17件)	
上腕骨骨幹部骨折偽関節手術	2	骨軟部腫瘍手術	15
上腕骨通顆骨折手術	2	良性骨腫瘍切除術	2
肘関節内骨折手術	3	抜釘術 (114件)	
肘頭骨折手術	6	その他 (25件)	
モンテジア骨折手術	2	開放創デブリードマン・創傷処理	17
橈骨遠位端骨折手術	61	筋膜減張切開術	1
橈骨頭骨折手術	1	創外固定術	1
前腕骨骨折手術	6	皮膚植皮術	1
舟状骨骨折手術	2	断端形成術	1
手指骨折手術	16	筋皮弁形成術	1
骨盤骨折手術	12	外反母趾手術	2
大腿骨頸部骨折手術	141	異物除去術	1
大腿骨骨幹部骨折手術	5	感染症手術 (3件)	
大腿骨顆部骨折	5	感染持続洗浄術	1
大腿骨顆部骨折後偽関節手術	2	骨髄炎手術	2
大腿骨骨幹部開放骨折	3		
膝蓋骨骨折手術	15		
脛骨開放骨折骨接合術	2		
脛骨近位部骨折手術	11		
下腿骨骨折手術	23		
足関節脱臼骨折手術	20		
リスフラン関節脱臼骨折	2		
足根骨骨折骨接合術	1		
踵骨骨折手術	8		
足趾骨折手術	4		

【学会発表・講演】は研究実績の項目参照



形成外科

部長 高木 信介

【当科の歴史】

1983年(昭和58年)、当院に鹿児島県で初めて形成外科が設立され、初代部長に宇田川晃一先生(千葉県立こども病院)が赴任されました。以来、昭和大学形成外科の関連施設として、鹿児島県の医療に携わってまいりました。

【診療内容】

形成外科とは

先天性および後天性の身体外表の醜状(形、色の異常)を対象とし、これを外科手技により機能はもとより形態(美容)解剖学的に正常(美形)にすることを手技とし、その目的は個人を社会に適応させるものである(鬼塚、1964)と定義されています。

形成外科は、体表を治す外科であり、他の外科には無い特徴があります。そして、日常に戻れるようにしてあげることが最大の目的としております。

当科の主な仕事内容は、

1. Hand and Microsurgery
(手とマイクロサージャリー)
2. Oculoplastic Surgery(眼形成)
3. Breast Surgery(乳房再建)
4. Vascular anomalies(血管腫・血管奇形)
5. Cleft Lip and Palate(口唇口蓋裂)
6. Maxillofacial Surgery(顎顔面外科)
7. Oncoplastic Skin Surgery(皮膚腫瘍外科)

特に、1は鹿児島で唯一の日本手外科学会認定基幹病院で、整形外科の手外科医とともに専門外来を行っています。

3は、乳癌術後の乳房再建が保険適応となり今後症例が増加する分野です。

Aesthetic and Functional Surgery(整容機能外科)をモットーに日々治療を行っております。

【スタッフ紹介】

高木 信介(たかぎ しんすけ)

- 2002年 昭和大学医学部卒業
- 2002年 昭和大学形成外科学教室入局
昭和大学病院、毛山病院(高知)、
荏原病院(東京)、藤枝市立総合病院(静岡)、
埼玉県立小児医療センター、
昭和大学横浜市北部病院勤務
- 2008年～今給黎総合病院形成外科勤務
- 2010年4月～現職

日本形成外科学会専門医
日本手外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医
日本褥瘡学会認定師
医学博士

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本手外科学会、日本マイクロサージャリー学会、
日本頭蓋顎顔面外科学会、日本口蓋裂学会、
日本美容外科学会、日本美容医療協会、
日本褥瘡学会、日本臨床皮膚外科学会、
日本創傷外科学会、
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会、
日本血管腫・血管奇形研究会

春山 勝紀(はるやま かつのり)

- 2005年 福岡大学医学部卒業
- 2007年4月 福岡大学形成外科学教室入局
- 2015年4月～今給黎総合病院勤務

日本形成外科学会専門医

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本創傷外科学会、
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会

外薮 寿典(ほかぞの としのり)

- 2010年 千葉大学医学部卒業
- 2008年 信州大学医学部卒業
- 2010年4月 千葉大学形成外科学教室入局
- 2014年10月～今給黎総合病院勤務

所属学会

日本形成外科学会、日本頭蓋顎顔面外科学会
日本熱傷学会、日本褥瘡学会、日本創傷外科学会

佐々木 彩乃(ささき あやの)
 2011年 昭和大学医学部卒業
 2013年4月 広島大学形成外科教室入局

所属学会
 日本形成外科学会
 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
 日本手外科学会、日本マイクロサージャリー学会
 日本創傷外科学会

【講義】

原田学園 鹿児島医療技術専門学校
 2014年4月～6月 毎週火曜日 形成外科について
 高木信介、信太薫

【学会発表・講演】は研究実績の項目参照

非常勤医師
 門松 香一(かどまつ こういち)
 昭和大学形成外科 講師

有村 和子(ありむら かずこ)

泉 朝望(いずみ あさみ)
 歯ならびの歯医者さん 院長

【診療状況 (2014年1月～12月)】

外来診療

外来初診患者数 1,539名

入院診療

入院患者数 403名

手術件数

入院手術件数 486件

外来手術件数 383件

【手術件数】

外傷	135件
先天異常	31件
腫瘍	525件
癒痕・癒痕拘縮・ケロイド	44件
難治性潰瘍	55件
炎症・変性疾患	72件
美容	2件
その他	5件
顔面骨骨折	49件
切断(指、四肢)再接合	20件
手外傷(骨折、腱損傷、神経損傷、血管損傷)	41件
四肢再建(有茎皮弁、遊離皮弁)	20件
皮膚良性腫瘍	436件
皮膚悪性腫瘍	62件
悪性腫瘍再建	27件
眼瞼下垂	45件
血管奇形硬化療法	30件
耳下腺腫瘍	12件
顔面神経麻痺	10件



脳神経外科

部長 西澤輝彦

【特色】

脳神経外科は当院の総合病院化に伴って平成元年に開設されました。平成の時代と共に四半世紀を越える歴史を刻み、微力ながら脳血管障害の外科的治療を中心に地域医療に貢献してきました。特に鹿児島で最も早くからカテーテルを用いた脳神経血管内治療を手がけ、脳動脈瘤の瘤内塞栓術や頸動脈狭窄症に対するステント留置術、頭蓋内脳血管の拡張術など虚血性脳疾患に対する血行再建術などを鹿児島の主導的施設として積極的に取り組んで来ました。

また、脳動脈瘤のクリッピング術や脳腫瘍摘出術などの開頭手術にも積極的に対応しています。この数年は開業医の先生との連携が進み、未破裂脳動脈瘤や診断が難しい脳血管障害の検査依頼などが急激に増えています。開頭手術、脳血管内治療の両者を患者様の状況に応じて最適な方法を選択し、より良い治療成績を目指しています。

当院は年間2700台の救急車を受け入れる救急病院でありその中で外傷系疾患、特に複数の領域に亘る高エネルギー外傷や多発外傷などの重症の患者さんが多いのが特徴です。多発外傷は複数科による迅速なチーム医療が必要で整形外科、形成外科、胸部外科、麻酔科などと良好な関係のもと治療に当たっています。鹿児島市立病院が運営するドクターヘリ、ドクターカーで搬送される地方の重症例を積極的に受け入れています。また、当院は癌拠点病院の指定も受けており癌の脳転移への対応を依頼されることも多く摘出手術、生検術、定位的放射線治療などで協力しています。神経内科からは脳腫瘍、脳血管狭窄のみならず脳や脊髄の生検術の依頼や、形成外科とは協同で頭蓋骨や頭皮の形成術などもあり積極的に対応して行く方針です。

【人事・スタッフ】

平成26年度も副院長兼任の部長西澤と科長松邨の二人体制ではありますが、初期研修医の受け入れもあり活気ある活動状態を維持しております。積極的な救急患者の受け入れに加えて、開業医の先生からの紹介の増加により手術件数も118件から148件と三年連続の増加となりました。脳神経外科医一人当りの手術件数としては近隣の病院と比較すると多い状態です。病院規模や救急車の搬入台数、手術件数から言って3～4名体制は必要な状況でありますので、今後も大学からの増員を要請して行きたいと思っています。

また医学教育の面からは初期研修医の受け入れのみならず鹿児島大学の医学生の実習受け入れも

行っています。大学からは有田教授に月一回来院いただき神経内科、放射線科との脳神経カンファレンスを行い、脳神経外科のみならず脳神経全般の画像診断を中心にレベルアップを図る努力を行っています。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉

【部長（副院長、医療情報システム管理者兼任）】

西澤 輝彦（平成2年10月～）

1979年 鹿児島大学医学部卒業
1983年 鹿児島大学大学院単位取得退学
2013年 鹿児島大学医学部臨床教授

〈取得資格〉

医学博士
日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療専門医
日本脳卒中学会治療専門医
鹿児島市立病院非常勤医師
PNSLインストラクター
(Primary Neurosurgical Life Support)

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、
脳卒中の外科学会、
日本脳神経血管内治療学会、
日本小児脳神経外科学会、
日本脳神経外科コンgres、脳ドック学会他

【脳神経外科 科長】

松邨 宏之（平成24年1月～）
1997年 東京医科大学卒業

〈取得資格〉

医学博士
日本脳神経外科学会専門医

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、脳神経外科コンgres、
脳卒中の外科学会

〈非常勤医師〉

有田 和徳 鹿児島大学脳神経外科教授
平野 宏文 鹿児島大学脳神経外科講師

【診療実績】入院患者疾患別分類 (2014年1～12月)

脳腫瘍	グリオーマ	3
	下垂体腺腫	1
	転移性脳腫瘍	4
	合計	8
血管病変	クモ膜下出血(破裂脳動脈瘤)	7
	未破裂脳動脈瘤	36
	高血圧性脳出血	15
	脳梗塞	20
	血管腫	1
	動脈狭窄(閉塞)	21
	モヤモヤ病	6
	その他	8
合計	114	
慢性硬膜下血腫	合計	42
頭部外傷	頭蓋骨骨折	4
	急性硬膜外血腫	8
	急性硬膜下血腫	8
	脳挫傷	22
	その他	8
	合計	50

小児神経外科	水頭症	8
脊椎・脊髄疾患	脊椎症・ヘルニア	1
	その他	3
	合計	4
機能的脳神経外科	三叉神経痛	1
	てんかん	8
	その他	3
	合計	12
感染症	脳膿瘍	1
その他	合計	12
合計		247人

【手術症例】(2014年1～12月)

開頭術	腫瘍 全摘出術/亜全摘	5	
	動脈瘤 クリッピング(破裂)	4	
		クリッピング(未破裂)	6
	合計	10	
	動静脈奇形/血管腫 全摘出術	4	
	血管吻合術 直接的血管吻合術	3	
	開頭血腫除去術	脳内血腫	4
		硬膜外血腫	4
	合計	8	
	減圧開頭手術	1	
合計	31		
穿頭術	硬膜下血(水)腫洗浄術	57	
	脳室ドレナージ	3	
	オンマイヤ設置術	1	
	脳膿瘍排膿術	1	
	合計	62	
短絡術	V-P シャント	4	
	その他	11	
	合計	15	

定位脳手術	定位的血腫吸引術	1
	生検術	2
合計	3	
頭蓋骨形成術	合計	2
脊髄手術	血管奇形	2
	その他	1
	合計	3
血管内手術	動脈瘤 coiling	10
	血管形成術(PTA)	6
	血管形成術(STENT)	6
	その他	4
	合計	26
その他	合計	10
合計		148件



産婦人科

部長 加藤明彦

【診療内容・特色】

当院の産婦人科は産科・婦人科一般診療を行っておりますが、当院には新生児内科があることから、鹿児島県の周産期医療システムの一旦を担う病院として、リスクのある妊婦さんの妊娠・分娩管理を行っております。また1次施設からの母体搬送の受け入れも行っております。婦人科は子宮癌検診や良性・悪性の婦人科疾患のみならず、下腹部痛などの婦人科救急疾患の対応も行っております。

【人事・スタッフ紹介】

今年度は鹿児島市立病院産婦人科より稲田加奈子医師に11月30日まで勤務して頂き、12月1日以降は比嘉(旧姓橋口)莉沙医師に勤務して頂いております。

【診療状況】

産科

入院総数	243件
分娩件数	168件
(うち帝王切開 77件 その他産科手術 14件)	
母体搬送	77件

婦人科

入院総数	188件
手術件数	90件
D&C	4件
付属器切除術	17件
円錐切除術	11件
卵巣嚢腫核出術	8件
単純子宮全摘術	23件
準広汎子宮全摘術	5件
腹腔鏡下手術	7件
筋腫核出術	5件
腔式単純子宮全摘術	5件
その他	5件

【資格取得】

NCPR (Aコース):

高江 真都香、附田 加織、梅木 真澄、
片平 幸恵、野間 愛子、平山 美穂、森山 朋佳

ALSO (プロバイダーコース) :

加藤 明彦、本田 里美

【平成27年度の計画】

寺原賢人、加藤明彦、比嘉莉沙の3名で診療を行って参ります。当院の各診療科、鹿児島市立病院、鹿児島大学病院と連携を取りつつ診療を行って参りたいと思います。

【院外教育活動】

加藤 明彦

久木田学園看護専門学校 看護科

母性看護学・女性生殖器 40時間

野間 愛子

公益財団法人出水郡医師会

広域医療センター附属看護学校

母性看護学 新生児の沐浴について演習



新生児内科

部長 丸山 有子

【診療内容】

当院の NICU・GCU は、NICU：9 床、GCU：10 床の合計 19 床の、県内では鹿児島市立病院 NICU に次ぐ規模の新生児医療施設であり、Late Preterm Baby の管理、Preterm Baby の Growing Care および Family Care を担当しています。

外来業務として、新生児フォローアップ外来がありますが、当院 NICU を退院した Baby 達の発育発達をフォローしてゆく外来です。キーエイジでの発達・知能テストも行い、発達支援の要否について家族と話し合う場となっています。

本年より、NICU 退院直後の児を対象とした訪問看護を開始しました。入院中に児を担当していた NICU 看護師が家庭を訪問することにより、NICU 退院直後から看護の継続と育児の支援が可能となり、地域の訪問看護ステーションへのスムーズな移行も実現しました。

【診療の担当】

医師2名、看護師35名（認定看護師1名）、助産師3名、保健師1名、作業療法士1名、理学療法士1名、メディカルクラーク1名、ナースアシスタント1名で日々の業務を行なっています。

NICU・GCUは、新生児内科部長の丸山と鹿児島市立病院新生児科から1週間交代で1名の先生が来られ、2人体制で日々の診療を行ってきました。

フォローアップ外来は、金曜日には鹿児島市立病院の井之上寿美先生も来てくださり、2人体制で行っています。

夜間当直業務は、当院と鹿児島市立病院新生児科の医師で担当しています。

ハイリスク児の発達知能検査（新版K式発達検査・WISC-IV）は、吉永明美臨床心理士により行なわれています。

月1回の療育指導外来には、埼玉医科大学総合医療センター カルガモの家から奈須康子先生に来ていただいています。

毎月1回、鹿児島大学小児科河野嘉文先生にNICU、GCUの回診をお願いしています。

【入院状況】（グラフと表を参照）

入院児総数と体重別入院児数の経年推移をグラフ・表1に、入院経路別入院児数を表2に、人工呼吸管理患者数を表3に示しました。

【外来状況】

* フォローアップ外来・シナジス外来

平成19年より開始した新生児内科の外来業務ですが、フォローアップ外来とシナジス外来の総受診者数は増え続けてきましたが、平成24年からはほぼ安定してきました。(表4)。

* 発達検査

平成26年は169名が受けました。

* 療育相談外来

月1から2人ずつ行い、平成26年は14名が受けました。

* PIPC(早産児の両親学級)

今年は24回開催し、173人の方が聴講してくださいました。

【ハイリスク新生児へのNICUからの訪問看護】

12月8日より開始、12月1件（訪問回数7回）

【活動・業績など】

* アウトリーチ活動

➤出張もじょかくらぶ：開催回数4回

- 1) 出水 3月9日 参加者：児15名 家族32名 関係者40名 計87名
- 2) 種子島 5月18日 参加者：児10名 家族23名 関係者28名 計61名
- 3) 始良 11月16日 参加者：児7名 家族16名 関係者27名 計50名
- 4) 国分 12月14日 参加者：児7名 家族14名 関係者25名 計46名

* 他の社会資源との連携

➤地域保健師と家族の面談をsetting

NICU入院中から保健師と家族の面談を企画し、その後の良好な関係作りを図っています。
平成26年度は75件（児98名）のご家族と地域保健師との面談が当センターで行なわれました。

➤ハイリスク児の家庭生活を支援するためのケース会議の開催依頼

複雑な事情をもつ家庭が増えています。そのような家庭へハイリスク新生児が退院する際には、福祉課や保健所、保健センター、児童相談所、訪問看護師を始め、民生委員や子育て支援NPOの方などとの会議を主催し相互の情報交換をはかっています。今年は7件（11回）行なわれました。

➤公的な連携会議への参加

- 1) 鹿児島市立病院・今給黎総合病院 施設間連携会議（3月6日）：古川 秀子、原田 純子
- 2) 鹿児島県子ども在宅推進委員会（5月17日、6月28日、12月13日）：原田 純子
- 3) 鹿児島県庁子ども福祉課・鹿児島市立病院・今給黎総合病院 連携会議（5月26日・8月7日）：
：古川 秀子、原田 純子
- 4) 子どもすこやか安心ねっと事業調整会議（7月2日）
：山口 妙子、末永 瞳、中村 環、木下 恵、原田 純子
- 5) 鹿児島県周産期母子医療センターコメディカル連絡会（10月21日）
：古川 秀子、山口 妙子、立石 桂子
- 6) 母子保健連絡会議（12月8日）：原田 純子 体操の指導なども実施しました。

【教育的な活動】

* 研修の受け入れ（鹿児島県小児訪問看護推進研修会 実地研修：10月22日～12月5日）

平成24年から鹿児島県こども福祉課の主催で行なわれている県内訪問看護師に対する研修を今年も行ないました。

研修参加者は43名（看護師28名、作業療法士8名、理学療法士7名）で、退院後の児の観察や日常ケア、新生児フォローアップ外来の見学や作業療法士による赤ちゃん体操の指導などを実施しました。

* 看護学生の実習

- 1) 久木田学園看護専門学校 3年21期生33名
- 2) 神村学園専修学校看護学科 3年8期生32名

* 他施設より見学

千葉愛友会記念病院NICUより3名（4月17日）

* スタッフのための勉強会

朝レクチャー：45回開催

茨 聡先生のレクチャー：12回、新生児医療に関するレクチャーを行っていただきました。

その他の勉強会：25回

【その他】

南日本新聞社の取材（12月14日）

もじょかくらぶ@国分

【入院児総数】

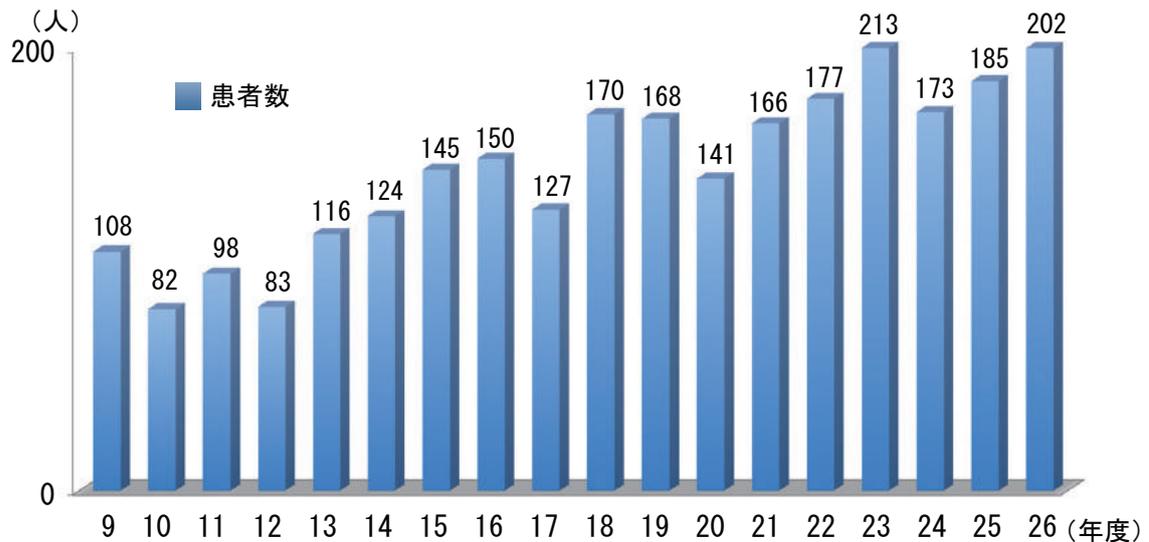


表 1 : 【出生体重別患者数内訳】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
～999g	6	8	12	3	3	5	7	7	3	0	1	3	3	2	8	19	20	13
1000g～1499g	23	21	16	16	15	16	25	36	27	18	32	35	26	40	34	43	35	42
1500g～1999g	31	25	26	21	35	48	53	58	46	67	61	43	46	49	68	53	64	72
2000g～2499g	18	9	28	21	36	23	33	25	34	55	31	35	52	46	59	42	35	47
2500g～	30	19	16	22	27	32	27	24	17	30	43	25	37	40	44	15	31	28

表 2 : 【入院経路別患者数および院内出生率】

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
当院外来管理後の院内出生	31	24	13	10	25	17	24	14	15	24	26	9	29	28	36	17	22	32
母体搬送後の院内出生	4	3	3	17	27	20	17	15	17	33	51	42	39	47	43	20	48	49
市立病院より新生児搬送	67	51	69	35	48	70	94	112	89	100	75	66	66	80	105	118	100	109
大学よりgrowing care入院											3	3	6	1	9	9	10	0
他院よりの新生児搬送	6	4	13	21	16	17	10	9	6	13	13	23	24	21	20	9	5	12
院内出生率(%)	32	33	16	33	45	30	28	19	25	34	46	36	41	42	37	10	37	40

表 3 : 【人工呼吸管理施行患者数】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
人工呼吸管理施行数(nasal CPAP)					1		5	4	5	9	15	19	12	44	33	49	46	55
人工呼吸管理施行数(挿管症例)	10	5	4	9	7	10	4	2	4	4	21	19	13	13	11	4	16	15
人工呼吸管理施行数	10	5	4	9	8	10	9	6	6	13	36	38	25	57	44	53	62	70

表 4 : 【フォローアップ外来+シナジス外来のべ受診者数】

年度(平成)	19	20	21	22	23	24	25	26
のべ人数(人)	307	684	770	890	1219	1641	1365	1651



小児科

部長 玉田 泉

【診療内容・特徴】

鉦之原昌医師、堀之内兼一医師、堀之内泉医師、玉田の4名で診療いたしました。

一般外来のほか、堀之内兼一先生は小児腎疾患患者の follow、また玉田は小児内分泌疾患の専門外来を実施しています。一般外来の特徴としては検査の出来る総合病院といった位置付けでの受診が多く、セカンドオピニオンを求めている受診を希望されての受診が多いです。その他市県からの委託による乳幼児健診、予防接種業務を行っており、又新生児マスキリーニング、学校健診・学校検尿や生活習慣病予防健診での精密受診者の受け入れや精密検査後の follow も行っています。内分泌疾患の負荷試験も外来でも実施する機会が増え年間で20件ほど実施しています。スタッフも習熟してきましたが、今後も安全に正確に、専門性を生かした診療を行っていききたいと思います。

入院については、昨今、予防接種などの徹底から小児科入院事例が激減している中、地域の開業の先生方からの紹介もあり、減少しながらもある程度の数を保っています。また糖尿病初発やコントロール目的、ほか内分泌疾患、急性糸球体腎炎や紫斑病性腎炎など腎疾患での専門性を求められる入院で入院数が保たれている状況です。当院の特長を生かし、役割を果たしていけたらと考えます。

職員の子供さん対象の病児保育室も設置後6年が経過し、年間のべ約600名の子どもさんを受け入れています。子育て世代の職員のバックアップのため、今後も貢献できたらと思います。

【スタッフ紹介】

鉦之原昌：小児科専門医、小児リウマチ専門医
鹿児島県小児科医会監査
日本小児科学会鹿児島地方会監事
鹿児島子どもの虐待問題研究会 会長
鹿児島県膠原病研究会 代表世話人
鹿児島小児保健学会役員
日本小児リウマチ学会役員
鹿児島文化サロン 委員
鹿児島小児膠原病父母の会ひまわりの会 委員
鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会 委員
鹿児島県保育所乳児保育研修会講師
NPO法人子ども医療ネットワーク 役員

堀之内兼一：小児科専門医
日本補完代替医療学会学識医 学会理事
鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員
久木田看護専門学校 非常勤講師
European Univ. Vandrina 非常勤講師 (漢方の講義)

玉田 泉：小児科専門医
日本糖尿病協会療養指導医
鹿児島大学小児科 非常勤講師
鹿児島県立短期大学 非常勤講師

【診療状況】

外来診療 外来患者数延べ 11,898人
入院診療 入院患者数延べ 1,188人
(平均在院日数8.3日)

【診療実績】

入院疾患 (実数)

急性気管支炎・肺炎 (喘息増悪含む)	66人
内分泌疾患 (成長ホルモン検査・糖尿病を含む)	28人
急性胃腸炎	8人
腎疾患 (AGN・紫斑病含む)	5人
その他 (虫垂炎・無菌性髄膜炎他)	14人

【予防接種件数】 (2014年1月1日～12月31日)

	インフル エンザ	おた ふく	エイ ムゲ ン	ビー ムゲ ン	日 本 脳 炎	狂 犬 病	ヒ ブ	子 宮 頸 がん	水 痘	麻 し ん 風 し ん	四 種 混 合	三 種 混 合	二 種 混 合	B C G	肺 炎 球 菌	ロ タ ウ イ ル ス	ポ リ オ	合 計
1月	61	2	2	8	11	2	30		4	9	24	9		9	33	18	13	235
2月	16	5	2	11	10		38	1	7	10	24	5		4	36	16	9	194
3月	4	10		4	9		25		7	11	29	4	2	9	28	10	7	159
4月	2	1			22		31	1	3	12	27	5	3	11	32	9	12	171
5月		5		2	16		25		2	15	24		7	8	24	8	6	142
6月		5		5	14		29		4	22	24	4	2	6	31	13	9	168
7月		3		12	20		34		2	14	31	3	2	5	39	11	3	179
8月				8	40		24			17	28	3	14	7	24	10	10	185
9月		4		5	32		25		1	13	29	1		9	24	10	4	157
10月	95			8	26		23		45	14	28	1	1	7	25	13	3	289
11月	272	5		7	20		14		34	13	22		3	3	18	2	4	417
12月	282	6		9	12		20		17	10	24			6	18	9	7	420
総合計	732	46	4	79	232	2	318	2	126	160	314	35	34	84	332	129	87	2,716

【院外活動】

銚之原 昌

- ・2014年9月10日
南日本子ども健康セミナー
(鹿児島県小児保健協会・山形屋主催)
市民の育児支援のために、育児相談
- ・鹿児島子ども虐待問題研究会
会長として年6回開催
- ・鹿児島県膠原病研究会 顧問として年2回開催
- ・鹿児島県小児科医会
2013年5月18日 監査として監査
- ・鹿児島文化サロン 委員として年3回開催 参加
- ・鹿児島市子ども子育て会議 委員として参加
(2014年8月1日、8月29日、10月23日)
- ・平成26年度鹿児島県母子保健事業功労者県知事
表彰(2014年11月21日) 鹿児島県

堀之内 兼一

- ・鹿児島市医師会学校腎臓病検診 委員、年一回
委員会出席

玉田 泉

- ・1型糖尿病家族会「さくらんぼの会昭和会支部」
指導医、年に2回定例会
- ・1型糖尿病サマーキャンプ指導医として参加
- ・ターナー症候群家族会「MIRAIの会」、
年に2回定例会参加
- ・鹿児島県小児慢性特定疾患対策協議会委員、
年12回審査会、年一回委員会

・その他

平成26年3月、平成26年8月には医師会主催のこども予防接種週間に参加して予防接種業務を行いました。

【平成27年度計画】

銚之原昌医師、堀之内兼一医師、堀之内泉医師、玉田泉で引き続き診療にあたります。

【学会発表・講演】は研究実績の項目参照



泌尿器科

部長 立和田得志

平成 26 年度は、中目康彦、立和田得志、水間浩平、栢木太郎、西山賢龍（非常勤:月のみ）で診療しました。外来患者数は 1 日 50 人前後、入院は 20 人前後です。外来では新患担当医が初診の方を担当しています。再診の方は原則予約制でできるだけ待ち時間のないようにしています。

当院は CT 検査まですぐ行える体制ですので、その日のうちに診断、治療方針をたてるようにしています。血液透析は入院患者のみで維持透析は行っておりません。基本的に月、水、金の週 3 回です。

手術は腹腔鏡手術に力をいれています。平成 26 年 3 月に 3D 内視鏡システムを導入し、より精度の高い手術が可能になりました。限局性前立腺癌に対しては、腹腔鏡手術から密封小線源治療（ブラキセラピー）まで行っており、早期退院（術後 1 週間前後）が可能になっています。経尿道的手術から骨盤内臓器脱手術（TVM 手術）、尿失禁手術（TOT 法）まで幅広く治療を行っております。

【スタッフ紹介】

部長 中目 康彦

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本透析医学会 認定医

水間 浩平

日本泌尿器科学会専門医

部長 立和田 得志

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会
泌尿器腹腔鏡技術認定医
医学博士（鹿児島大学）

栢木 太郎

日本泌尿器科学会専門医

【2014 年 4 月～ 2015 年 3 月手術統計】

分類	手術	例数
前立腺	腹腔鏡下前立腺全摘術	70
	経尿道的前立腺切除術	30
	密封小線源治療	14
腎 副腎 尿管	腹腔鏡下副腎摘出術	3
	腹腔鏡下腎摘出術	7
	腹腔鏡下腎部分切除術	9
	腹腔鏡下腎尿管全摘術	14
	腹腔鏡下腎盂形成術	3

分類	手術	例数
膀胱	腹腔鏡下膀胱全摘術＋回腸導管造設術	2
	腹腔鏡下膀胱全摘術＋尿管皮膚ろう造設術	2
	膀胱全摘術＋代用膀胱造設術	3
	腹腔鏡下膀胱部分切除術	2
	経尿道的膀胱腫瘍切除術	71
尿道	TVM（骨盤臓器脱）手術	5



眼科

部長 薄井 隆宏

平成26年度は従来通り3人体制での診療・手術を行いました。平成26年10月には、鹿児島大学の吉村医師が吉永医師と交代になり、平成27年4月には、昭和大学の徳永医師が油井医師と交代になりました。

外来は月曜日から金曜日までの午前を3診で行い、午後は金曜日を除き担当制で連日行っています。土曜日は午前のみで、予約制となっています。

【特色】

当科は難症例の白内障手術が多く、眼内レンズ縫着も多くなっています。当科では小切開での眼内レンズ縫着を標準術式とし、眼内レンズ強膜内固定などの新しい方法での手術を行っています。また、網膜硝子体手術は去年の件数に比べ大幅に増加し、広角観察系を用い安全に短時間で行えています。緑内障手術も新しい器具を用い低侵襲な手術が可能であり、より良い治療成績を目指しております。

【スタッフ紹介】

薄井 隆宏（うすい たかひろ）

2000年北里大学医学部卒業

〈取得資格〉

医学博士（昭和大学）

日本眼科学会専門医

〈所属学会〉

日本眼科学会 日本眼内レンズ屈折手術学会

日本眼科手術学会

吉村 寿彦（よしむら としひこ）

2006年久留米大学医学部卒業

〈取得資格〉

医学博士（鹿児島大学）

日本眼科専門医、PDT認定医

〈所属学会〉

日本眼科学会

日本網膜硝子体学会

油井 一敬（ゆい かずひろ）

2009年岩手医科大学医学部卒業

〈所属学会〉

日本職業災害医学会

〔看護〕

看護師：川崎・川口・出之口・有村・中村

〔検査〕

視能訓練士：上村・川畑（真）・川畑（直）・今吉

眼科検査員：木之下・鶴之園・鳥原

〔事務〕

受付：赤塚・泊

秘書：日高・久富・岩元

【診療状況】

外来新患数 1,385名

外来再診数 11,298名

入院患者数 1,058名

【手術件数】

白内障手術 952件

眼内レンズ縫着 39件

緑内障手術 14件

網膜硝子体手術（網膜剥離） 162件

硝子体内注射 212件

その他内眼手術 20件

斜視手術 1件

眼瞼下垂手術 39件

眼瞼内反手術 6件

翼状片手術 56件

その他外眼手術 10件

合計 1,511件

【講義】

久木田学園看護専門学校

病態学Ⅳ 眼科系 2014年9月 毎週金曜日

薄井 隆宏



気管食道・耳鼻いんこう科

部長 昇 卓 夫

【スタッフ】

福田勝則 部長

医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
鹿児島大学医学部卒

昇 卓夫 院長

医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本気管食道科学会専門医、補聴器相談医
鹿児島大学臨床教授、久木田学園非常勤講師
鹿児島大学医学部卒

鎌田知子 医師

信州大学医学部卒

非常勤医師：

宮崎康博医師 今村洋子医師

【入院患者内訳(非手術例)】

(平成26年1月1日～12月31日)

扁桃周囲膿瘍(炎)	35例
急性咽喉頭炎、扁桃炎等	18例
急性喉頭蓋炎	10例
その他咽喉頭疾患	2例

突発性難聴 64例

(治療効果判定)

治癒：7例11.1%、著明回復：7例11.1%、
回復：19例30.2%、不変・悪化：30例47.6%
；1984年厚生省特定疾患突発性難聴研究班に
よる判定

顔面神経麻痺

(ベル麻痺、ラムゼイ・ハント症候群)	5例
めまい(メニエル等)	8例
鼻出血	14例
中耳癌	1例
鼻副鼻腔癌	1例
その他急性炎症等	7例
非手術例の入院総症例数	100例

悪性腫瘍：	
下咽頭癌	2例
中咽頭癌	1例
喉頭癌	4例
中耳癌	1例
舌癌	1例
鼻副鼻腔癌	2例
計	11例

【手術実績】(平成26年1月1日～12月31日)

手術総件数 648件

a) 耳科領域 87件(悪性0件)

鼓膜チューブ留置術	23件
先天性耳瘻孔手術	11件
鼓膜形成術	9件
鼓室形成術	9件
鼓膜切開術	24件
その他	1件

b) 鼻科領域 361件(悪性2件)

鼻内副鼻腔手術	162件
鼻中隔矯正術	75件
下鼻甲介切除術	111件
鼻粘膜電気焼灼術	8件
鼻茸	3件
その他	2件

c) 口腔・上中咽頭領域 156件(悪性1件)

口蓋扁桃摘出術	107件
アデノイド切除術	14件
扁桃切除	11件
扁桃周囲膿瘍切開	18件
その他	6件

d) 喉頭・気管(支)・下咽頭・食道領域

28件(悪性3件)

声帯ポリープ・結節切除術	19件
喉頭・下咽頭手術	6件
気管切開術	3件
喉頭全摘	1件
その他	1件

e) 顔面・頸部等領域 16件(悪性1件)

唾液腺腫瘍	9件
唾石(含顎下腺)摘出術	2件
その他	5件



皮膚科

医長 玉井真理子

平成26年4月から玉井真理子が担当しました。

【診療内容・特徴】

県内でも有数の入院施設を有する皮膚科として、湿疹、アレルギー疾患、細菌・真菌感染症などのcommon diseaseから、膠原病や自己免疫性疾患、腫瘍性疾患まで、皮膚疾患全般を診療しております。

平成26年度は、マンパワーの減少により午後の診療を休診せざるを得ない状況でしたが、外来・入院患者総数の大きな減少はなく、かえって紹介患者数は増加が見られました。

今後も、スタッフや診療体制の変更はありますが、設備の整った総合病院のメリットを生かして多くの患者さまへ医療を提供していくよう努めて参ります。

【スタッフ紹介】

医長 玉井真理子

医学博士

〈所属学会〉

日本皮膚科学会

日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会

日本皮膚悪性腫瘍学会

日本研究皮膚科学会

日本美容皮膚科学会

非常勤医師 児浦 純生

医学博士 日本皮膚科学会専門医

鹿児島大学医学部臨床教授

〈所属学会〉

日本皮膚科学会

日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会

【昭和会クリニック 外来診療体制】（2014年8月～2015年3月）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	玉井・児浦	玉井	玉井・児浦	玉井	児浦・玉井	非常勤医
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

* 木曜：初診のみ

（2015年4月から変更あり）

【外来患者・紹介患者数：最近5年間の動態】（病院・クリニック）

	平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	初診	再診	計												
4月	219	601	820	231	714	945	199	677	876	241	755	996	234	733	967
5月	322	637	959	222	720	942	269	762	1031	235	736	971	219	727	946
6月	297	716	1013	249	762	1011	254	766	1020	287	717	1004	230	721	951
7月	314	727	1041	333	778	1111	418	784	1202	336	878	1214	256	819	1075
8月	333	711	1044	279	696	975	368	825	1193	371	775	1146	286	835	1121
9月	243	729	972	236	651	887	226	696	922	242	696	938	272	809	1081
10月	277	705	982	193	632	825	230	817	1047	226	764	990	203	797	1000
11月	243	652	895	240	647	887	196	728	924	225	675	900	172	685	857
12月	190	710	900	217	648	865	183	641	824	239	728	967	158	689	847
1月	195	590	785	179	527	706	275	623	898	196	619	815	143	621	764
2月	186	604	790	171	572	743	197	651	848	178	635	813	173	607	780
3月	246	723	969	238	634	872	258	728	986	209	666	875	180	682	862
計	3,065	8,105	11,170	2,788	7,981	10,769	3,073	8,698	11,771	2,985	8,644	11,629	2,526	8,725	11,251
紹介患者数	190			190			236			227			262		

【入院患者数：最近5年間の動態】

	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院
4月	6	105	7	120	3	31	5	187	6	56
5月	6	117	7	80	8	74	1	62	5	32
6月	14	154	9	81	10	47	10	110	10	97
7月	16	201	9	143	10	107	13	134	7	84
8月	10	117	1	9	8	107	10	211	6	147
9月	13	174	1	33	6	23	7	134	7	143
10月	9	163	5	35	12	127	8	94	7	111
11月	12	165	1	19	13	103	4	106	8	200
12月	12	161	5	65	3	80	10	98	3	74
1月	10	173	4	24	6	64	5	92	3	43
2月	12	137	2	31	6	84	1	89	9	93
3月	9	169	2	45	4	116	5	84	5	89
計	129	1,836	53	685	89	963	79	1,401	76	1,169

【手術件数】（2014年4月～2015年3月）

94件

【講義】

久木田学園看護専門学校（皮膚科学総論・各論）



麻酔科

部長 池田 耕 自

当院における麻酔科の診療内容は手術麻酔、集中治療室等における重症患者管理等です。

今年度における麻酔科の陣容は、5名の麻酔科常勤医と非常勤医5名（週3回1名、週1回2名、隔週1回2名）体制でした。さらに卒後研修医1名の研修を行いました。

平成26年度の今給黎総合病院における麻酔科管理症例数は2554件でした。（患者さんの平均年齢は54.8歳 最高齢は101歳）この内、緊急手術は180件（時間外126件）であり全体の7.0%（4.9%）程度を占めます。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能です。

各科別の麻酔件数は、整形外科848件（33.2%）、外科284件（11.1%）、耳鼻咽喉科328件（12.8%）、泌尿器科251件（9.8%）、形成外科244件（9.6%）、歯科口腔外科168件（6.6%）、産科婦人科176件（6.9%）、呼吸器外科153件（6.0%）、眼科56件（2.2%）脳神経外科46件（1.8%）、といった現状でした。

麻酔症例内訳	
総症例数（緊急）	2,554 (180)
全身麻酔	1,734
全麻＋硬麻等	275
脊麻・硬麻等	537
伝達麻酔	0
その他	8

【各科別麻酔依頼件数】

	件数 (%)	緊急
整形外科	847 (33.2)	36
外科	328 (12.8)	10
耳鼻咽喉科	284 (11.1)	37
泌尿器科	251 (9.8)	4
形成外科	244 (9.6)	12
歯科口腔外科	177 (6.9)	65
産科婦人科	168 (6.6)	1
呼吸器外科	153 (6.0)	3
眼科	56 (2.2)	6
脳神経外科	46 (1.8)	6
その他	0	0

【ICU】

平成26年のICU入室件数は580件でした。各科の内訳は以下の通りです。

【各科別 ICU 入室者数】

科名	入室者数
外科	131
呼吸器外科	115
整形外科	79
泌尿器科	120
脳神経外科	70
神経内科	6
産婦人科	11
麻酔科 s	12
循環器内科	6
呼吸器内科	3
形成外科	13
消化器内科	8
総合内科	4
耳鼻科	1
小児科	1
合計	580

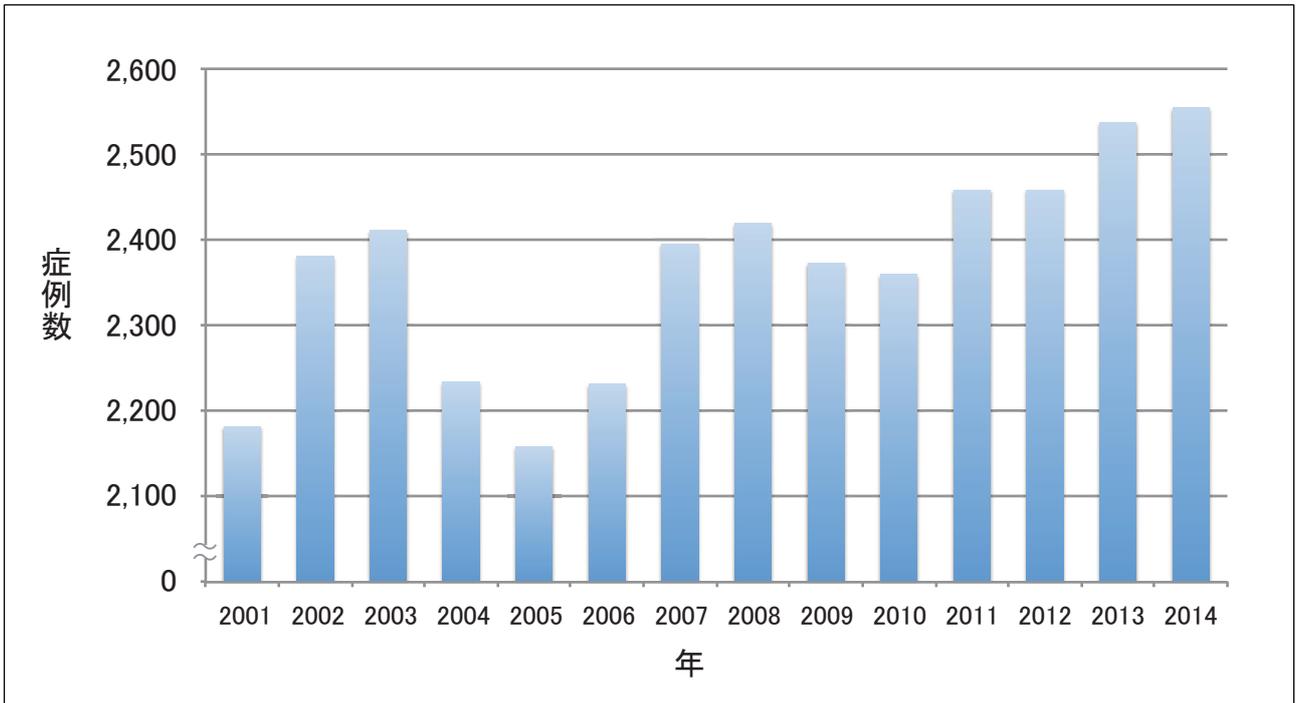
麻酔科管理患者は12名で内訳は心肺停止蘇生後3名、急性薬物中毒4名、熱中症1名、気道熱傷1名、スティーブンス・ジョンソン症候群1名、マムシ咬傷1名、急性腎不全1名でした。

【麻酔科医名】

池田 耕自
 西山 淳 (平成17年10月～)
 山下 順正 (平成23年7月～)
 村山 裕美 (平成23年7月～)
 内田 陽治 (平成25年8月～平成26年7月)
 児玉 健士 (平成26年8月～平成27年3月)

嵐 藍 (平成26年8月～9月)

【麻醉科管理症例数年次推移】





放射線診断科

部長 鉾立博文

【診療内容・特色】

当院では画像診断機器として CT (64 列：2 機、16 列：1 機械)・MRI (1.5T：2 機)、RI・血管造影装置 (Cone-beam CT)・透視装置 2 機・乳房 X 線装置・マンモトームなどを備えています。平成 23 年度に CT・MRI・RI 装置を更新し、PACS・フィルムレス運用にて画像診断を実施しています。救急患者に対する緊急 CT などの読影も on call 対応しています。また、院内で定期的に行われる整形外科・呼吸器・消化器・循環器・脳神経・泌尿器科系のカンファレンスに積極的に参加して画像診断・日常診療の質の向上に務めています。

画像診断情報を元にして低侵襲的な治療法を行う IVR (Interventional radiology：画像下治療) の手技を必要に応じて実施しています。主に原発性肝癌や転移性肝癌に対する肝動脈 (化学) 塞栓療法 TA(C)E や膀胱癌などへの動注化学療法、外傷に伴う肝臓・脾臓・腎臓などの臓器損傷や喀血・血胸・腫瘍性病変からの出血に対するカテーテルを用いた動脈塞栓術、US/CT ガイド下生検・膿瘍ドレナージなどに取り組んでいます。その他、各診療科と協力して IVC フィルター留置・消化管ステント・四肢などの血管奇形に対する血管内治療なども行なっています。

【人事・スタッフ紹介】

部長 鉾立博文

〈資格〉日本医学放射線学会 放射線診断専門医
 日本 IVR 学会 専門医・代議員
 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
 検診マンモグラフィ読影認定医
 緩和ケア研修会修了医
 医師臨床研修指導医養成講習修了医
 医学博士(鹿児島大学)

医師 西森宏雄(平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月)

クリニック院長 大久保幸一

〈資格〉日本医学放射線学会 放射線診断専門医
 検診マンモグラフィ読影認定医
 医学博士(鹿児島大学)

非常勤医師

小林秀章(鹿児島徳州会病院)

中條正典(鹿児島大学)

上村清央(鹿児島大学)

永田行隆(垂水中央病院)

【検査件数】(平成 26 年 1 月～12 月)

	件数
1. 一般撮影	40,865
2. 透視・造影撮影	1,081
3. 骨塩定量測定	348
4. X線CT	14,075
5. DSA/Angio	185
6. RI	469
7. MRI	6,014

【主病名別患者数】

肺癌	5
食道癌	5
直腸癌	4
肝細胞癌	3
転移性肺腫瘍	2
転移性肝腫瘍	2
腋窩混合細胞型古典的ホジキンリンパ腫	1
放射線肺臓炎	1
放射線肺炎	1
非ホジキンリンパ腫	1
尿路感染症	1
尿管癌	1
転移性脳腫瘍	1
転移性骨腫瘍	1
多発性肝細胞癌	1
鎖骨上リンパ節転移	1
鎖骨遠位端骨折	1
後腹膜悪性腫瘍	1
胸椎転移	1
S 状結腸癌	1
総計	35

【悪性新生物原発巣別患者数】

肺癌	7
肝細胞癌	5
食道癌	5
直腸癌	4
乳癌	3
悪性リンパ腫	2
胃癌	2
結腸癌	1
後腹膜悪性腫瘍	1
尿管癌	1
総計	31

【IVR 症例内訳】

胆道系IVR	29
CT/USガイドドレナージ	9
CT/USガイド生検	14
動注化学療法	12
消化管ステント	11
IVC filter留置・抜去	5
その他	20
総計	100

【平成 27 年度の計画】

平成 26 年度は鹿児島大学放射線科医局員減少などで 2 名減員となっておりますが、10 月より 1 名復活し平成 27 年度からは縮小していた業務内容を従来通りの入院病棟管理をやりながらの画像診断・IVR 遂行を目標としております。ただ、画像診断に関する業務においては週 3 回非常勤医師の応援を頂きながらの報告書作成となっておりますが、非常勤医師確保困難な状況でもあり常勤医の増員を待ちたいところです。

平成 27 年度は日本 IVR 学会の施設認定が得られたこともあり更に精度の高い IVR 手技の提供が行えるよう努力していきたいと考えております。また、本年も初期研修医のローテーターが当科を選択しておりテーピングファイルの整備など進めながら放射線診断学の魅力を発信していきたいと思っております。



放射線治療科

部長 中禮久彦

平成19年10月に当院での本格的な放射線治療のための「リニアックセンター」が開設されて早8年が経過いたしました。

一昨年より診断科を含む当科スタッフの減員があり、マンパワー不足から当科病棟は実質閉鎖の状態でありました。そのため特に院外からの入院照射依頼が減少し、結果として平成26年はリニアック患者総数もこれまでより減少しております。

幸い鹿児島大学医局の吉浦新教授のご厚意で、平成26年9月から西森先生、交代で平成27年4月より仮屋先生が常勤医として加わっていただいております。二人とも新進気鋭の優秀な若手放射線科医で、それに伴い当科病棟も再開いたしました。また診断科部長の銚立先生には膨大なCT・MRI読影やIVR業務で多忙を極める中であっても、赴任以来変わらず快く治療業務のご協力をいただいております。

おかげさまで他院からの当科紹介患者様も徐々に増加傾向にあります。大学医局スタッフの先生方にはこの場をお借りして深く感謝を申し上げる次第です。

原発巣では肺癌及び前立腺癌が大多数を占めておりますが、中でも当院呼吸器内科及び外科から紹介の早期肺癌に対する定位集光照射（SRT; Stereotactic Radiation Therapy）、当院泌尿器科の中目先生のお力で前立腺の放射性ヨード小線源治療（前立腺シード）も継続して施行しております。

周囲の理解あるプロフェッショナルなスタッフに支えられながら、充実した日常診療及び教育活動に従事させていただいております。微力ながら鹿児島の癌患者様のお役に立てるべく、謙虚に日々精進していきたいと考えております。

【平成26年】

○リニアック照射新患者数【全213名】 主な原発巣 内訳

呼吸器系(肺・気管・縦隔)	66名(内 肺：62名)
泌尿器系	48名(内 前立腺：26名)
消化管系(食道・胃・腸)	33名(内 食道：13名)
造血・リンパ系	15名
肝・胆・膵系	11名

○リニアック照射新患者及び再患者数 主な転移 内訳

骨	53名
脳	7名

○定位集光照射(SRT)新患者数 内訳

肺：15名	脳：3名	肝：1名
-------	------	------

○前立腺シード【全14名】

【スタッフ紹介】

放射線治療科 部長 中禮久彦

〈経歴・資格〉

平成元年 宮崎医科大学卒業

鹿児島大学医学部放射線科入局 研修医

同3年 国立がんセンター中央病院

放射線治療部レジデント(国内留学)

同6年 一誠会 三宅病院

同7年 今給黎総合病院放射線科

同8年 鹿児島大学医学部放射線科 医員

同9年 同上 助手

同17年 同上 講師

同18年 同上 退局

今給黎総合病院放射線科 治療部長

平成9年 日本医学放射線学会 専門医(第2999号)

同12年 博士学位(鹿児島大学 医論第1267号)

同13年 日本放射線腫瘍学会 認定医(第336号)

同25年 研修指導者認定

(日本医学放射線学会 第R07590R0号)



緩和医療科

部長 松添大助、小玉哲史

【身体症状担当；松添大助】

平成 21 年度に緩和ケアチームがスタートし、紹介患者数は 21 年；39 名、22 年；74 名、23 年；103 名、24 年；105 名、25 年；169 名、26 年；157 名でした。

昨年まで非常勤医師として週一回お手伝いいただいていた小玉先生が、4 月から常勤医師となりました。

《緩和ケアチームメンバー》

身体症状担当医師：松添大助

精神腫瘍担当医師：小玉哲史

専従看護師：大西玲子、岩山友紀

保健師：植屋明代

薬剤部：

尾上博隆、財間富士子、寺田真衣子、中目貴子

リハビリテーション部：

木原智美、古市寿子、宮之原俊一

栄養管理部：田中美帆

《講義》

鳳凰高等学校看護学科専門課程

2014年5月～6月

呼吸器疾患；10時間、緩和ケア概論；2時間
松添大助

鹿児島医療センター緩和ケア研修会

2014年1月12日

緩和ケア概論
松添大助

鹿児島大学緩和ケア研修会

2014年3月1日

呼吸困難
松添大助

南九州病院緩和ケア研修会

2014年7月13日

呼吸困難
松添大助

南風病院緩和ケア研修会

2014年11月23日

呼吸困難
松添大助

【精神腫瘍担当；小玉哲史】

精神症状担当医師が常勤となった平成 27 年 4 月から同年 12 月までの精神症状に関する紹介数は 94 件(月平均 10.4 件)であり、内がん患者 23 件、非がん患者 71 件であった。非がん患者の内訳としてはせん妄が最も多かったが、統合失調症、うつ病、パーソナリティ障害、アルコール依存など多岐にわたっていた。症状的に精神科病床の適応と考えられる患者も一部含まれており、有床精神科病院との連携に課題が残る。

【診療科別紹介患者数】

	平成 26 年
呼吸器内科	32
外科	39
呼吸器外科	13
整形外科	13
泌尿器科	5
婦人科	12
血液内科	7
消化器内科	23
放射線科	0
耳鼻科	6
総合内科	3
神経内科	0
脳外科	1
形成外科	2
皮膚科	0
他院	1
計	157

【依頼内容】（複数重複あり）

疼痛コントロール	84	53.5%
疼痛以外の身体症状	41	31.8%
メンタルケア	72	35.7%
家族ケア	7	2.5%
退院支援	17	10.8%

【在宅緩和ケア診療件数】

平成 21 年	4
22 年	10
23 年	9
24 年	9
25 年	10
26 年	10

【学会発表・講演】は研究実績の項目参照



病理診断科

部長 田代幸恵

今年は初めて研修医が病理研修を行いました。狭い病理施設内にどのように机、本棚、顕微鏡を配置するかなど昨年より検討してきましたが、研修期間に間に合うようになんとか配置ができました。6月の僅か一ヶ月間でしたが、昨年より度々病理に顔を出してくれており、スタッフともども和気あいあいとした時間があっという間に過ぎました。

昨年より行ってきた新しい病理診断システム作りが長引いており、なかなか思うように指導できなかったことが悔やまれますが、今後の病理研修や病理専門医取得希望者に備えて日本臨床細胞学会教育研修施設の認定を取得しました。

また7月には昨年より検討を行ってきた、アークレイ社の遺伝子解析装置 i-densy と自動核酸精製装置を購入し検査をスタートさせました。院外検査センターに依頼した場合、結果報告まで一週間以上要していた肺がんの EGFR 遺伝子変異解析や大腸ガンの Kras 遺伝子変異解析が、これにより最短で依頼日当日に結果報告が可能となり、早期治療開始に繋がるものと考えております。

当院は免疫染色を早くから導入しており、現在ロッシュ、ニチレイ及びライカ (Bond III) の3台の自動免疫染色装置を使用し毎日多数の症例の検討を行っております。院外施設からの免疫染色の依頼も受けておりますが、今年は依頼数が約1800件近くになり、昨年よりさらに150件増加しました。腫瘍細胞の遺伝子変異や異常蛋白の発現状況による個別化治療のため、病理標本での遺伝子異常の検索が行われるようになりましたが、免疫染色による ER, PgR, KIT, EGFR, HER2, ALK1 の蛋白発現検索の院外から依頼も増加しており、院内や院外施設での患者様への迅速な診断報告に努めています。

また田代が行っている悪性リンパ腫の診断において、診断根拠となる遺伝子解析等が必要な症例が含まれています。当院では行っていない検査を院外検査センターに外注しますと結果が分かるまでに時間を要し、また院外からの症例ではその結果を教えて頂けない症例が大半です。このため、診断の精度を図るため、来年度よりフローサイトメトリー、染色体分析、遺伝子解析など外部検査センターに委託した検査結果を院内で迅速に閲覧できるようにし、さらに当院の免疫染色の結果と照らし合わせ診断を行う、システム作りを12月にスタートさせました。来年度早々の開始を予定しています。院内で順調に活用できたら、他院からの依頼症例にも応用を広げ、より正確で迅速な病理診断の提供につながるのではないかと期待しています。

4月に「リビングかごしま」のリビング医療ホットラインに病理診断科のことを書いていただき、スタッフの写真が掲載されました。記事にも書いて頂きましたようにこれらもチーム医療で迅速、且つ正確な診断の提供に努め、これからはますます地域医療に貢献していきたいと思っております。

【病理部スタッフ】

医師

白濱 浩

日本病理学会病理専門医
日本臨床細胞学会細胞診専門医
日本病理学会病理専門医研修指導医
臨床検査管理医
鹿児島大学医学部臨床教授

田代 幸恵

日本病理学会病理専門医
日本臨床細胞学会細胞診専門医
日本病理学会病理専門医研修指導医
鹿児島大学医学部臨床教授
鹿児島大学医学部非常勤講師

技師

徳永 敬之 (臨床病理技術士)

肥後 真 (臨床検査技師、国際細胞検査士)

新村 泰子 (臨床検査技師)

田邊 尚子 (臨床検査技師、国際細胞検査士)

有村 郷司 (臨床検査技師)

組織診および細胞診検体数

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
組織件数	3,644	3,346	4,065	4,039	3,727
細胞診件数	3,168	2,751	2,689	2,689	2,453

組織診断統計(平成26年1月1日~12月31日)

	生検		内視鏡切除など		切除		合計
	全件	(悪性)	全件	(悪性)	全件	(悪性)	
心血管	0		1	(0)	3	(0)	3
血液・骨髄・脾	7	(4)	12	(2)	5	(0)	24
リンパ節	13	(8)	52	(38)	207	(56)	272
鼻・咽頭・喉頭	43	(5)	112	(2)	15	(0)	170
肺	75	(38)	3	(2)	123	(71)	201
胸膜・縦隔・腹膜	17	(10)	2	(0)	23	(9)	42
口腔・唾液腺	13	(2)	11	(0)	65	(4)	89
食道	48	(12)	2	(0)	2	(1)	50
胃・十二指腸	366	(39)	6	(3)	22	(18)	394
小腸	11	(1)	0	(0)	21	(5)	32
大腸・肛門	157	(39)	178	(18)	74	(35)	409
肝・胆・膵	8	(2)	2	(0)	81	(21)	91
腎・尿路男性	127	(82)	101	(63)	225	(116)	453
女性器	60	(10)	34	(0)	137	(21)	231
乳腺	4	(3)	2	(1)	3	(3)	9
内分泌	0		0		13	(7)	13
中枢末梢神経	3	(1)	2	(0)	16	(3)	21
耳・眼	2	(0)	2	(0)	6	(0)	10
皮膚	187	(37)	20	(1)	727	(77)	934
骨・関節	6	(5)	2	(0)	113	(8)	121
軟部	12	(6)	86	(8)	10	(1)	108
その他	13	(8)	77	(5)	10	(5)	100
合計	1,186	(316)	633	(141)	1,908	(457)	3,727

細胞診診断統計(平成26年1月1日~12月31日)

	陰性	擬陽性	陽性	材料不適	合計
婦人科(内膜)	122	4	5	0	131
呼吸器	185	35	159	2	381
消化器	22	19	8	0	49
泌尿器	299	67	48	0	414
乳腺	22	4	10	8	44
甲状腺	14	8	4	8	34
体腔液	157	15	81	1	254
リンパ節	3	1	5	0	9
その他	49	5	10	1	65
総件数	873	158	330	20	1,381

婦人科(膣頸部)

検体不適	NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL
0	918	56	26	28	26
AGC	SCC	Adeno. Ca.	Other	合計	
4	5	3	6	98	1,072

総件数 2,453

- ・術中迅速診断：193件（内、院外からの依頼：2件）（H26. 1. 1-H26. 12. 31）
（H22年度：225件、H23年度：255件、H24年度：255件、H25年度：218件）
- ・院外からの血液疾患関連Marker検索および診断依頼：50件（H26. 1. 1-H26. 12. 31）
（H22年度：22件、H23年度：44件、H24年度：29件、H25年度：32件）
- ・院外からの免疫染色依頼（パラフィン切片による）：1787件（H26. 1. 1-H26. 12. 31）
（H22年度：966件、H23年度：1,257件、H24年度：1,405件、H25年度：1,639件）
- ・HER2タンパク：82件、EGFRタンパク：19件、ALK（肺癌）：8件
- ・i-densyによるEGFR遺伝子変異解析：31件、Kras遺伝子変異解析：15件（院内：3件、院外：12件）
- ・院外からのコンサルテーション 31件（H26. 1. 1-H26. 12. 31）
- ・RT-PCR 2（院外からの依頼：2件）

【院外活動】

- 1) 「今給黎病院における免疫染色について」相良病院病理にて講演（新村）H26. 2. 18
- 2) 子宮の日キャンペーン活動実行委員（田邊）H26. 4. 12
- 3) 細胞検査士養成研修会（呼吸器）スタッフ（肥後）H26. 8. 10
- 4) 細胞検査士養成研修会（総合2）責任者（田邊）H26. 11. 16
- 5) リビングかごしま H26. 4. 19

鹿児島県細胞検査士会 事務局（田邊）

平成26年度登録施設取得

- ・日本臨床細胞学会教育研修施設

【学会発表・講演】は研究実績を参照



在宅診療科

部長 林 茂 昭

【診療科紹介】

平成26年12月現在、在宅診療科は昨年同様常勤医2名体制をとっています。通院が困難で自宅療養を希望されている方を対象に訪問診察を行っています。訪問診察には当科2名の医師が中心となり、他科医師の協力も頂き、また理学・作業療法士及び在宅医療部の保健師・看護師と連携を図りつつ訪問診察を行っています。基本的に、2回／月の定期訪問診察を行っております。

神経内科、総合内科の4人の先生に協力いただき診療をすすめています。

【スタッフ紹介】

常勤医

林 茂昭 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医
甲斐 太 日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

訪問診察医師

甲斐、林、野村(神経内科)、生野(総合内科)、二木(総合内科)、三宅(総合内科)

【診療状況】

平成26年12月31日において当院在宅医療部の訪問診療を受けている方は28名となっています。

全身状態が悪化した場合は、在宅で経過をみていく場合もあれば、入院での治療も適宜行っており、自宅療養が再度できるように対応しております。高齢の方が多く、入院回数が多くなることで、自宅での介護が困難となり施設入所となったり、亡くなられた方もおられ、本年は訪問診察の人数が徐々に減少しております。

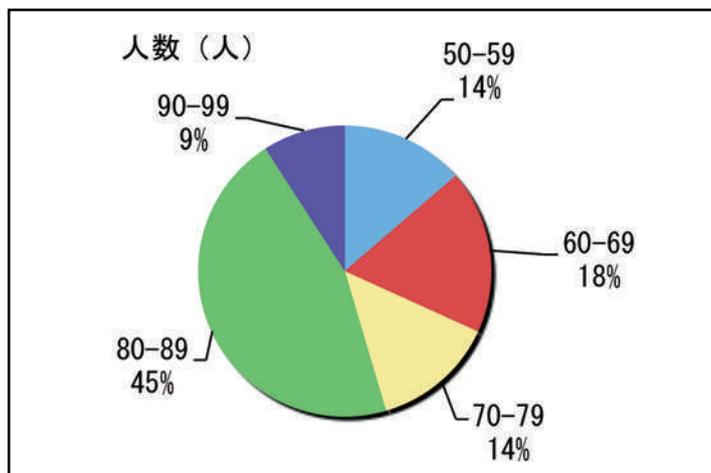
平成26年の診療実績は下記のような状況であります。

【年間訪問診察患者数】

年間訪問診察患者総数 52名 (男性 25名 女性27名)
(訪問診察：22名 男性 10名 女性 12名)

【患者年齢】

年代	人数	(訪問診察)
30-39	0	0
40-49	1	1
50-59	6	6
60-69	9	9
70-79	12	12
80-89	17	17
90-99	7	7
100以上	0	0
合計	52	52

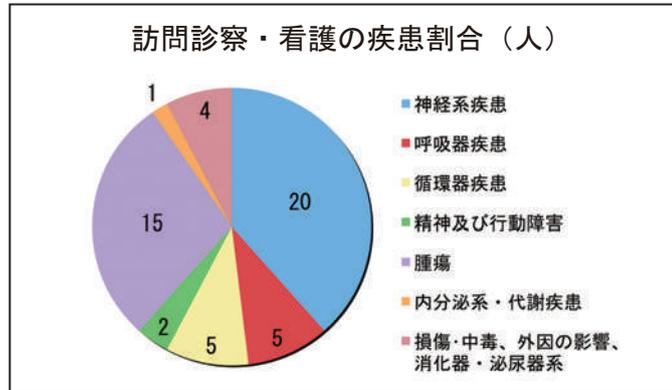


【平成 26 年 月別訪問診察人数（緩和医療科分は含めず）】（平成26年1月1日～平成26年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	19	18	18	18	19	20	18	16	16	15	13	13
(入院数)	(3)	(1)	(2)	(1)	(4)	(5)	(3)	(5)	(3)	(3)	(3)	(3)
終了：死亡	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
終了：その他	1	0	1	0	0	2	1	0	1	2	0	0

【主疾患名】（訪問診察、訪問看護）

疾患	(人)
神経系疾患	20
呼吸器疾患	5
循環器疾患	5
精神及び行動障害	2
腫瘍	15
内分泌系・代謝疾患	1
損傷・中毒、外因の影響、 消化器・泌尿器系	4
合計	52



【平成 26 年 月別訪問看護件数】（緩和医療科分も含めて）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	31 (0)	34 (3)	37 (3)	38 (4)	33 (0)	33 (0)	35 (4)	35 (8)	38 (8)	31 (5)	25 (1)	24 (3)	394 (39)
訪問リハビリ	4	5	7	7	3	5	3	4	4	3	2	4	51
訪問看護	81	83	96	103	101	96	103	97	104	126	109	109	1,208
合計 (件)	116	122	140	148	137	134	141	136	146	160	136	137	1,653

【平成 25 年 月別訪問看護件数】（緩和医療科分も含めて）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	40 (5)	44 (6)	40 (4)	34 (2)	35 (0)	37 (0)	39 (1)	35 (2)	40 (5)	37 (2)	29 (1)	29 (0)	439 (28)
訪問リハビリ	12	11	12	14	12	12	13	7	12	9	7	5	126
訪問看護	101	104	102	103	114	113	112	90	101	109	91	86	1,226
合計 (件)	153	159	154	151	161	162	164	132	153	155	127	120	1,791

【平成 24 年度 月別訪問看護件数】（緩和医療科分も含めて）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	43 (1)	43 (3)	36 (0)	38 (0)	35 (0)	38 (0)	45 (8)	46 (5)	44 (2)	43 (2)	40 (2)	38 (3)	489 (26)
訪問リハビリ	12	81	13	16	14	12	16	12	12	12	9	11	152
訪問看護	90	13	86	94	102	94	105	112	95	110	101	98	1,168
合計 (件)	145	137	135	148	151	144	166	170	151	165	150	147	1,809

【平成 23 年度 月別訪問看護件数】（緩和医療科分も含めて）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察	42	37	47	40	34	39	49	48	48	47	47	60	538
訪問リハビリ	12	12	12	12	13	13	12	13	12	13	14	12	150
訪問看護	72	75	92	89	66	110	106	101	106	102	108	117	1,144
合計 (件)	126	124	151	141	113	162	167	162	166	162	159	189	1,822



歯科

部長 鎌田 ユミ子

【診療内容・特色】

平成18年8月に歯科口腔外科が開設され、当初は歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、受付各1名の常勤スタッフと非常勤歯科医師でスタートしました。その後、一般の歯科治療や口腔ケアを必要とする外来・入院患者様の増加に伴い、平成24年4月に新たに歯科を標榜科として開設しました。

診療は、主に今給黎総合病院に入院中の患者様や他科からの紹介患者様、本院スタッフの歯科治療や口腔ケアを昭和会クリニック歯科外来にて行っています。また、入院患者様で外来受診できない方には、随時、病室へ往診して対応しています。

診療内容は、う蝕・根管治療、歯周治療、冠やブリッジ、義歯などの補綴治療です。

一般の歯科診療に加え、病院歯科でもあることから、入院患者様の口腔ケアにも積極的に取り組んでいます。高齢者や寝たきりの患者様は、ご自身で口腔ケアをできないことが多く、口腔内汚染が進んだり、飲み込む力が低下したりするなど誤嚥性肺炎を発症するリスクが高くなります。この予防には、口腔ケアが有効であると言われており、平成22年6月に院内の多職種が集まり、口腔ケアチームを立ち上げ、定期的に勉強会や研修会を開催したり、口腔ケアの病棟ラウンドを行ったりして、入院患者様の口腔ケアの質の向上を図り、誤嚥性肺炎予に寄与できるように努めています。

また、院内のNST（栄養サポートチーム）にも参加しており、NST対象患者様の口腔アセスメントを行い、栄養状態がよくない患者様の口腔内や入れ歯の問題の早期発見に努めています。NST対象の患者様は高齢の方も多く、入れ歯の調子や口腔衛生状態がよくない方も多く見られます。そういう患者様がいらした場合は、速やかに歯科医師や歯科衛生士が、義歯調整や口腔ケアなどを行い、口腔衛生状態の改善を図り、食べるためのお口作りの準備をサポートしています。

本院はがん拠点病院であり、がん治療を受ける患者様も多くいらっしゃいます。がん治療の中でも抗がん剤治療や放射線治療などでは、その副作用でひどい痛みを伴う口腔粘膜炎になる場合があります、食事などに支障をきたすこともあります。この口腔粘膜炎は、がん治療前から、歯科で専門的な口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つことで、軽症化を図ることができると言われています。この専門的な口腔ケアを行う主体となる歯科衛生士は現在3名おり、がん治療を受ける患者様が口腔トラブルに悩まされることなく、がん治療を遂行できるようサポートしています。

【スタッフ紹介】

部長 鎌田 ユミ子（歯科医師）

所属学会：日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会、摂食嚥下リハビリテーション学会、
日本口腔ケア学会

【病院指定】

平成25年～ 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 歯科医師臨床研修プログラム
研修協力施設

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院歯科医師臨床研修 研修歯科医受け入れ

【講義】

専門学校講師：鹿児島歯科学院専門学校技工士科 非常勤講師

外来患者数・手術件数は歯科口腔外科に掲載



歯科口腔外科

部長 吉田雅司

【診療内容】

歯科口腔外科は、平成18年8月1日に開設されました。現在、歯科と歯科口腔外科を標榜して日常診療を行っています。歯科は一般歯科を常勤歯科医師1名が担当し、歯科口腔外科外来診療は、常勤歯科医師2名が主に担当しています。歯科衛生士3名、歯科技工士1名、および受付1名の常勤スタッフが歯科と歯科口腔外科を兼務し、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様の治療を主に行っています。また、当科は長崎大学歯学部口腔外科の関連病院となり、常勤歯科医師の派遣が行われるようになり、現在は、古賀喬充先生が赴任しています。

診療は、主に昭和会クリニックで外来診療を、今給黎総合病院で入院診療を行っています。

1. 外来診療

- 1) 埋伏智歯抜歯を中心とした抜歯、歯の破折や歯槽骨骨折、歯根のう胞や粘液のう胞などの摘出術、顎関節症、および外傷治療
- 2) スポーツ選手に対するマウスガード（マウスピース）の作成や咬み合わせのチェックなどを行うスポーツ歯科
- 3) 顎矯正手術患者の術前・術後管理

2. 入院診療

- 1) 顎矯正手術：さまざまな顎変形症に対応した手術が行われています。最近の傾向としては、小顎による睡眠時無呼吸症候群患者の顎骨形成術が増加しています。
- 2) 有病者の抜歯や外科治療
- 3) さまざまな口腔外科的疾患の手術や治療に対応しております。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。その一環として、歯科と歯科口腔外科との役割分担化を図り、歯科部長の鎌田先生が院内の核として口腔ケアチームを立ち上げ、総合的に入院患者や外科手術前患者の口腔清掃に努め、嚥下性肺炎の防止、外科手術後の創感染可能性の減少に努めています。

看護師やその他のスタッフの方々への献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。さらに、努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信が出来るよう、頑張っていきたいと思います。

【スタッフ紹介】

吉田雅司（歯科医師）専門分野：歯科口腔外科、スポーツ歯科

日本口腔外科学会 指導医 専門医、日本顎顔面インプラント学会 指導医、
日本スポーツ歯科医学会 理事 評議員、日本自己血輸血学会 理事 評議員、
日本体育協会認定スポーツデンティスト、鹿児島大学非常勤講師、長崎大学非常勤講師、
ヤンゴン歯科大学客員教授

古賀喬充（歯科医師）専門分野：歯科口腔外科、一般歯科

日本口腔外科学会 専修医

瀬戸山智香（歯科衛生士）日本スポーツ歯科医学学会認定スポーツデンタルハイジニスト

吉田千代子（歯科衛生士）

満尾 裕子（歯科衛生士）

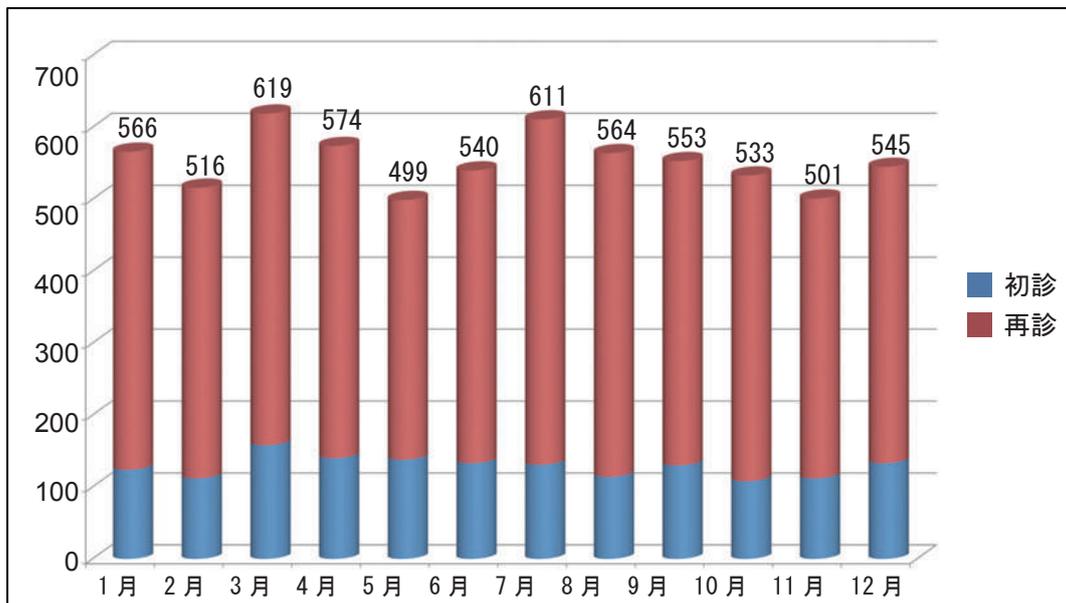
前田まどか（歯科技工士）

【2014年統計】(2014年1月1日～2014年12月31日)

・ 外来患者数 6,621人 (新患1,533人) (病院・クリニックの合計)

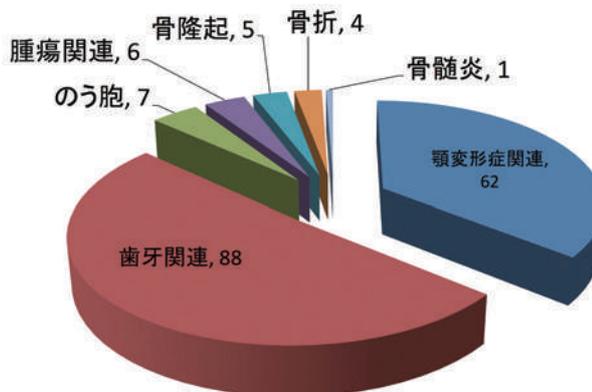
・ 入院患者 173名

【月別外来患者数】



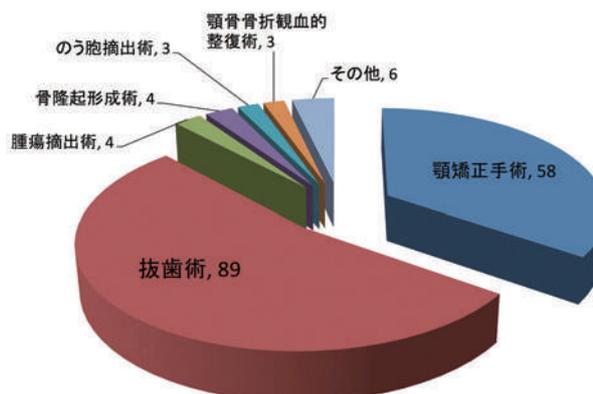
【入院患者数】

病名	症例数
顎変形症関連	62
歯牙関連	88
のう胞	7
腫瘍関連	6
骨隆起	5
骨折	4
骨髓炎	1
計	173



【手術症例(全身麻酔)167件(のべ件数)】

手術名	症例数
顎矯正手術	58
抜歯術	89
腫瘍摘出術	4
骨隆起形成術	4
のう胞摘出術	3
顎骨骨折観血的整復術	3
その他	6
計	167





救急科

部長 西山 淳

【スタッフ】

救急科部長・麻酔科科長 西山 淳

【資格・活動】

日本救急医学会 救急科専門医
日本麻酔科学会 麻酔科専門医
日本救急医学会九州地方会評議員
薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会
鹿児島県ドクターヘリ医療作業部検証医
鹿児島県集中治療研究会世話人
ICLSディレクター
エマルゴトレインシステムシニアインストラクター
JADMSプレインストラクター
医学博士（鹿児島大学大学院）

救急の診療状況に関しては病院統計を参照して下さい。

部門報告

Ⅲ-2

各部署報告

- 看護部
- 薬剤部
- 中央放射線部
- 中央臨床検査部
- リハビリテーション部
- 臨床工学部
- 在宅医療部
- 居宅介護支援事業所
- 相談支援センター 医療相談室
- 相談支援センター 地域医療連携
- がん相談支援センター
- QCセンター
 - ・医療安全管理課
 - ・褥瘡管理課
 - ・緩和医療課
 - ・感染管理課
 - ・がん化学療法課
 - ・施設課
- 栄養管理部
- 診療情報管理部
- 患者サポートチーム
- 事務部



看護部

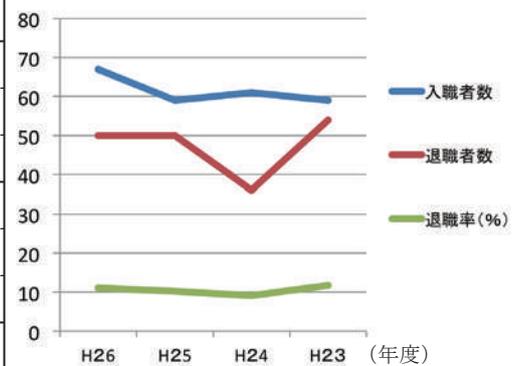
看護部長 有村 智代

平成26年度の看護部の動きを下の表にまとめた。前年度より、各部署に稼働目標が与えられ、目標達成に向けてどの部署もスムーズな受け入れが出来、年度の後半は、病院全体の稼働が目標値を上回った。

平成27年度よりPNS開始の準備期間として、今年度は、学習会を重ね、殆どの部署がPNSによる看護体制を取り入れていったが、パートナーシップマインドの醸成は難しく、退職率は、前年度より上昇し、超過勤務の減少・リスクの減少へは結び付かなかった。しかし、PNSが上手く起動し始めている部署では、前の看護体制へは戻りたくないという声が聞かれている。

また、今年度より、「看護職の労働環境の改善と看護の質向上に向けて」看護協会主催のD i N Q L (データベース)事業に5部署が参加した。自部署のデーターを把握し、そのデータが何を意味するのか分析し、ケアを見直し、看護の質の向上へ生かしていきたいと思っている。

		平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度
入職者数	新卒者数	31	33	34	32
	既卒者数	36	26	27	27
	合計	67	59	61	59
退職者数	新卒者数	2	2	1	4
	既卒者数	48	48	35	50
	合計	50	50	36	54
退職率(%)		11.1%	10.2%	9.1%	11.7%



		平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度
平均年齢(歳)		34.9歳	37.7歳	34.9歳	34.5歳
平均在勤年数		8.7年	7.5年	6.43年	6.96年
年休取得率		54%	32%	34%	26%
出産者看護師数(名)		17名	19名	23名	21名
研修参加状況	院外参加回数(回)	223回	109回	143回	223回
	院外参加人数(名)	853名	223名	718名	918名
	院内参加回数(回)	82回	91回	70回	86回
	院内参加人数(名)	2769名	2368名	2663名	3089名
	単位別参加回数(回)	135回	201回	153回	257回
	単位別参加人数(名)	2202名	3459名	2667名	3614名
院内見学・研修受け入れ		28	9	6	10
院外講演・ボランティア活動		39	38	33	13
院外看護研究発表		17	13	12	12
公的会議・研修会		102	65	60	16
院外講師を招いての研修		1	0	2	3
看護学校訪問(のべ訪問回数)		48校	56校	44校	42校
実習受け入れ	学校数	11校	11校	10校	7校
	延べ学生数	1862名	889名	1164名	875名
認定証・資格取得、表彰授与		5名	11名	6名	3名



薬剤部

薬剤部長 高橋 真理

【平成 26 年度の概要】

平成26年度は新入職員を迎えることができず、増員は叶わなかった。2月に1名退職し、年度末の薬剤師数は18名となった。

薬剤師を増員できなかったため、薬剤管理指導件数を大幅に増やすことはできないが、持参薬鑑別システムの活用により、持参薬に関する業務は進めたいと考えていた。そのためには、1月より仮稼働している持参薬鑑別システムの改良が必要である。メーカーとの調整を進めたところ、ようやく改良され、ほぼ問題なく使用できるようになっている。来年度こそは、持参薬鑑別システムを本稼働させ、持参薬に関する業務を実施する病棟を増やす予定である。

【スタッフ】

薬剤師 神門優子 久津輪久世 財間富士子 前嶋一友 古賀亜希子 竹内さやか 濱崎かおる
 児玉理子 園田奈緒子 中目貴子 壽明伸 堀内智裕 山之内樹里 肥田香織
 尾上博隆 下舞千香子 寺田真衣子 福崎久美子 高橋真理

薬剤部助手 竹之内清美 寺田素子

【部門実績】

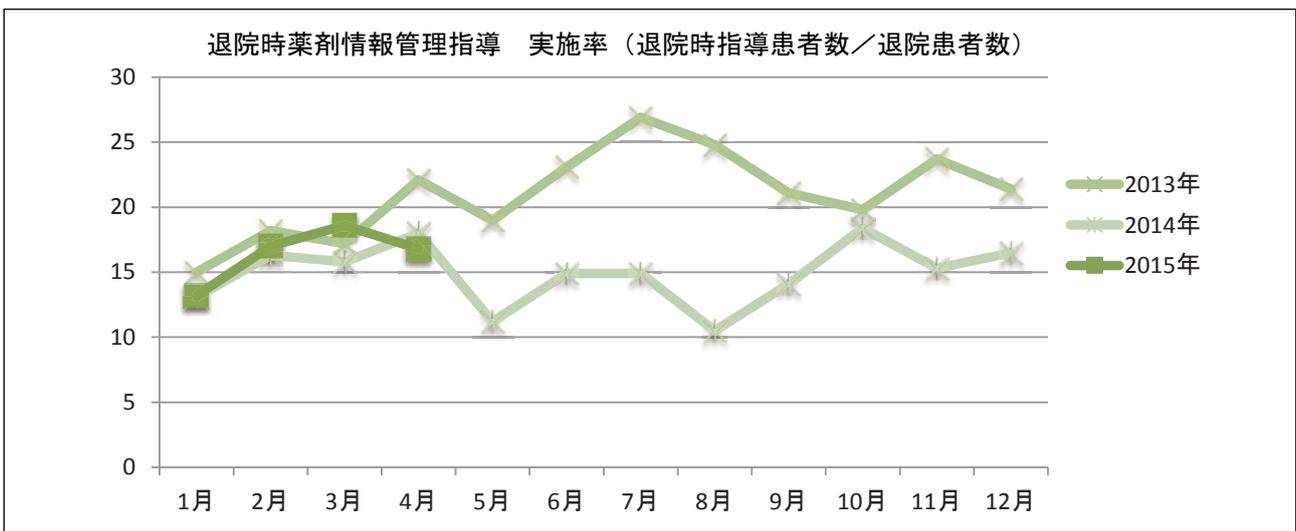
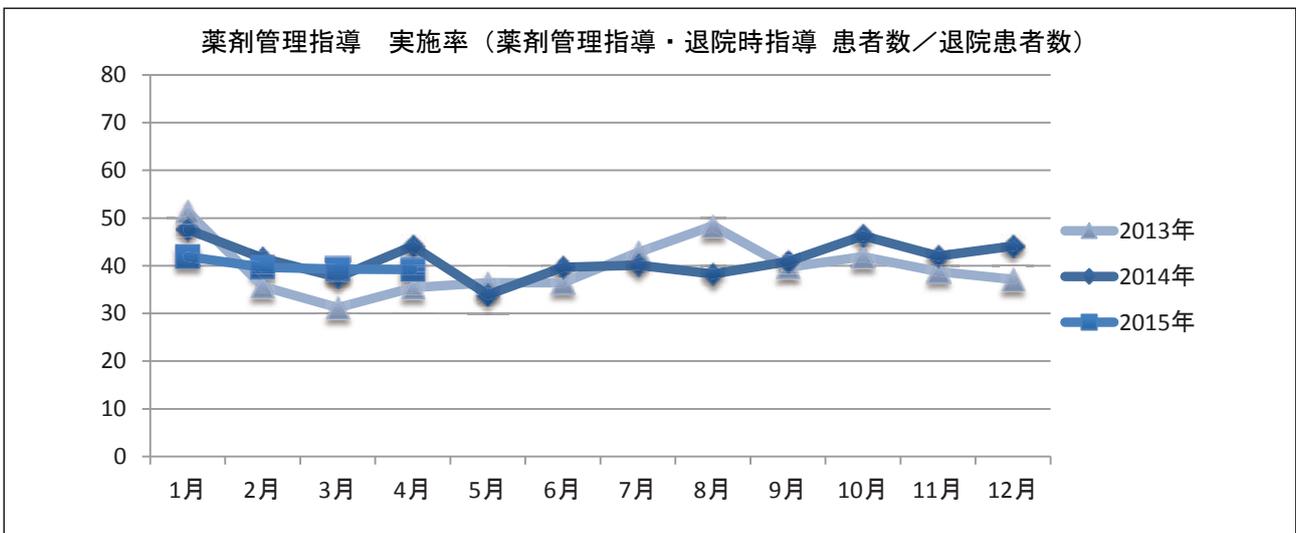
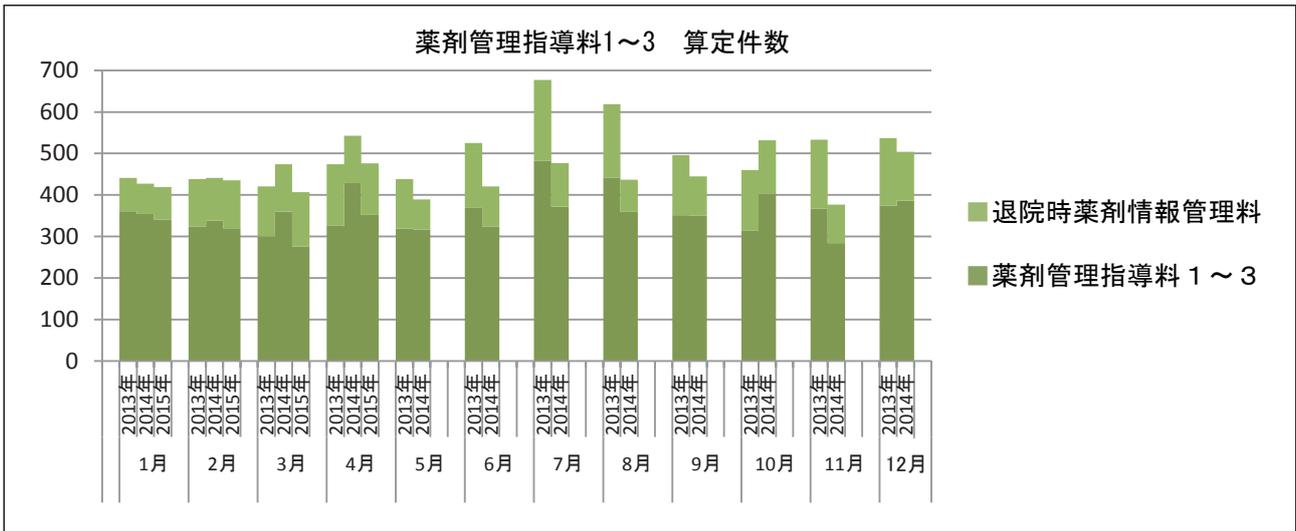
■ 薬剤管理指導実施状況と化学療法患者数 平成26年度と平成25年度の比較

	平成25年度 月平均	平成25年度 月平均
退院患者数	676	682
薬剤師数	21.5	18.9
薬剤管理指導 患者数	292	268
薬剤管理指導 1～3 件数	366	352
薬剤管理指導実施率 (薬剤管理指導患者数/退院患者数)	39.4%	39.20%
退院時薬剤情報管理指導料 算定件数	141	115
退院時薬剤情報管理指導算定率 (算定患者数/退院患者数)	20.6%	16.80%
薬剤管理指導 退院時指導 件数/薬剤師数	23.6	24.7
薬剤管理指導料 計 (円)	1,368,048	1,283,363
持参薬 鑑別件数	403	414
外来化学療法患者数	65	69
入院化学療法患者数	118	102
化学療法 計 (円)	471,685	493,806

1. 薬剤管理指導

薬剤管理指導に携わる時間は、昨年度に比べると減ってしまった。薬剤管理指導 1～3 の件数は、昨年度よりやや少なく月平均 352 件、薬剤管理指導実施率 (=薬剤管理指導・退院時指導 患者数/退院患者数) は 39.2% であった。退院時薬剤情報管理指導件数は昨年度の 8 割ほどで、退院時薬剤情報管理指導算定率 (=算定患者数/退院患者数) は 16.8% であった。

薬剤師一人あたりの指導件数 (=薬剤管理指導件数+退院時指導件数/全薬剤師数) は 24.7 と昨年度よりやや増えた。昨年度に比べ入院患者数が増える一方で、薬剤師数が減った状況であっても、皆が業務に前向きに取り組んだ成果は出ていると思われる。



2. 持参薬に関する業務

持参薬鑑別件数は月平均 414 件と、昨年より 10 件ほど増えた。

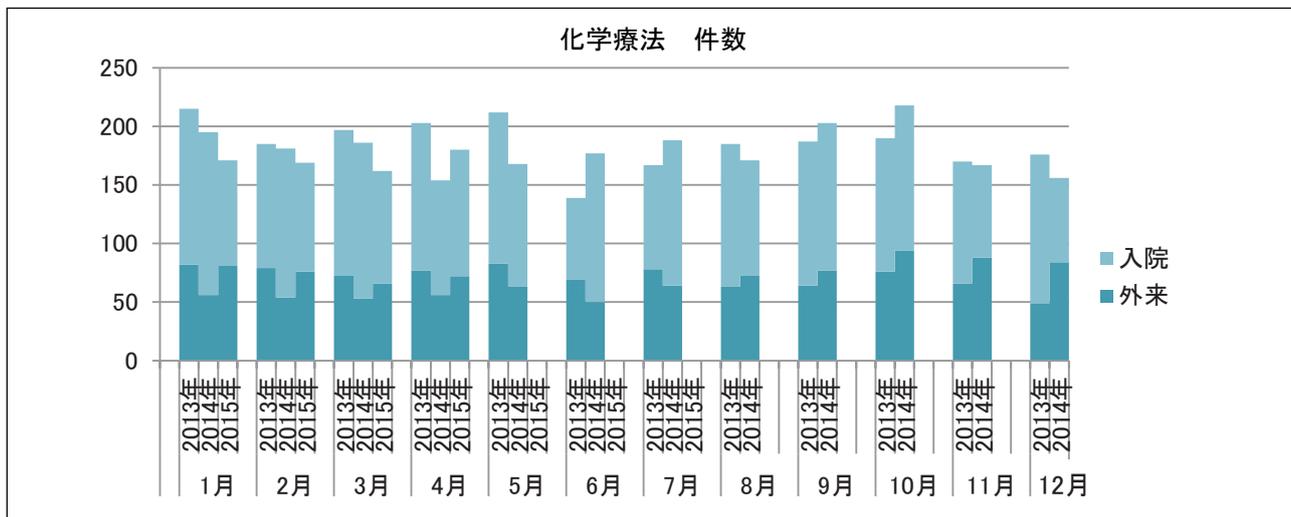
今年度は持参薬鑑別システムを本稼働できるように調整し、持参薬管理に関する業務を拡大することを目指していた。システムに関する調整を重ね、ほぼ問題なく使用できるシステムとなっている。来年度は持参薬鑑別システムを稼働する病棟を増やし、持参薬に関する業務を拡大できる見込みである。

3. 化学療法

入院と外来を合わせた化学療法の件数は、昨年度よりやや減少した。月平均件数は入院 102 件、外来 69 件であった。

抗がん剤への曝露対策として、調整時や投与時に閉鎖性デバイスを導入することを今年度の目標としていたが、10 月より、揮発性の高い薬剤を調整する際に閉鎖性デバイスを使用している。

1 月以降、3 成分 6 剤の抗がん剤を後発品へ変更することとなった。電子カルテ 抗がん剤プロトコルシステムに登録されたレジメン毎に薬剤を変更するには多くの時間を要するが、化学療法担当者が皆で協力して取り組んでくれた。その結果、混乱なくスムーズに後発品へ切替えることができた。



4. 薬薬連携（保険薬局との連携）

院外処方に関する問題点の解決や、外来化学療法をより安全に行うために、病院薬剤部と保険薬局の連携は不可欠である。今年度も薬薬連携会議とがん化学療法に関する薬薬連携研修会をそれぞれ3ヶ月毎に4回ずつ開催した。

■平成26年度 がん化学療法薬薬連携研修会

- 5月21日(水) 薬剤部より 咽頭がんについて
- 8月20日(水) 薬剤部より 前立腺癌について
- 11月19日(水) 薬剤部より 副作用 下痢の対策
- 2月18日(水) 薬剤部より 抗がん剤による悪心・嘔吐対策
- 保険薬局より 疑義照会事例収集・分析事業から見えてきたこと

近年、院外処方箋に検査値を印刷する施設がでてきている。当院でも新電子カルテ稼動を契機として、院外処方箋で検査値情報を提供できる体制を構築することを目標としている。対応するプログラムが7月に完成したとのことだったが、当院の院外処方箋のレイアウトには適応できないものであった。

システムによらず薬剤師が関わることによって改善できることを検討した結果、経口抗がん薬 TS-1、ゼロダについては、検査値や投与スケジュールを記載したチェックシートをお薬手帳に添付することにより、保険薬局との情報共有を図る試みを始めた。

今後も保険薬局との連携を深め、より安全で効果の高い化学療法が実施できるよう努めていく。

5. 専門薬剤師 認定取得・更新など

- 久津輪 久世 日本病院薬剤師会認定 感染制御認定薬剤師 認定取得
- 前島 一友 日本病院薬剤師会認定 がん薬物療法認定薬剤師 認定取得



中央放射線部

技師長 室屋 純一

【はじめに】

平成 26 年度スタッフは、放射線科専門医 4 名、技師 22 名、看護師 7 名、医療クラーク 5 名の総計 38 名の陣容となっています。

装置・設備関係については、3 機種 of 更新や新規導入が図られました。(医療設備概要：p. 13、p. 196 を参照) 現状、骨密度装置と CR 読取装置の経年変化による故障等の増加で稼働率の低下も見られましたので、更新の運びとなりました。また、簡易でしかも患者負担の少ない CT コロノグラフィ検査の行える装置の新規導入を図りました。

業務実績としては、前年度と比べて全体では 8,799 件の大幅減で各モダリティ装置による検査が軒並み減少しました。一般撮影で、5,893 件、リニアック治療で 1,893 件の減で減少件数全体の 88.5% を示しました。(表)

今後も厳しい状況は続きますが、運用面の改善と広報等で使用効率を高め、創意工夫で精度の高い画像作りを行ってまいります。

学術・各種イベント活動に於いては、ボランティア活動(災害支援)や院内・外のセミナーや学術講演、研修等に引き続き参加し、資格取得にも対応して行く所存です。

また、トータルチーム医療の下スタッフのレベル向上を図り患者様、スタッフ等から信頼頂ける安全・安心の検査を推進して参ります。

【放射線部組織(陣容)】

1. 放射線科(4名)

クリニック院長	大久保 幸一(放射線科専門医会認定医)
放射線治療部長	中 禮 久彦(放射線科専門医会認定医・放射線治療認定医)
放射線科部長	鈴木 博文(放射線科専門医会認定医)
	西 森 宏雄(10月着任→3月離任)

2. 中央放射線部

<技術部門担当>(22名)

技師長	室屋 純一		
副技師長	新村 栄次		
●本院	永山 照明(主任)	大迫 良一(主任)	飯伏 順一(主任)
	四本 齊	浮田 啓一郎(主任)	篠原 なつき
	濱田 智太郎	稲留 久恵	加治屋 博一
	小屋 彰俊	川畑 朋之	川原 美咲
	○中村 圭太	○宮ヶ谷 瑠	
リニアックセンター	松下 芳正(主任)	田川 伸夫(主任)	
●クリニック	竹之内 学(主任=室長兼務)		
	丸尾 美由紀	池田 真一	小谷 祐樹

<事務部門担当>(5名)

医療クラーク	四本 春香(主任)	武田 美里	奥 ひとみ
	時任 八千代	西村 さおり	

<看護部門担当>(7名)

看護師	有村 まち子	武田 きみこ	中馬 たまみ
	宮崎 浩子	岩川 るみ	佐々木 まゆみ
	小園 浩子		

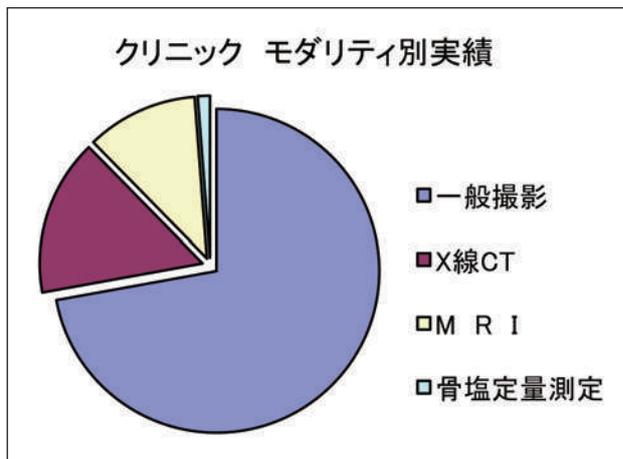
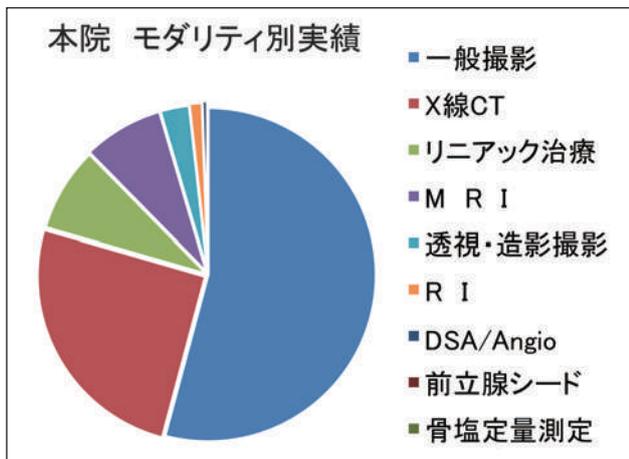
○は、新入職、配属者を示す。

合計 38名

【資格 検査業務実績】

業務実績は、下記の通りです。全体として対前年度比 12%の減でした。

検査・治療		26年度		
		依頼件数等		
		本院	クリニック	計
1	一般撮影	21,063	19,471	40,534
2	X線CT	9,869	4,206	14,075
3	M R I	3,022	2,993	6,015
4	透視・造影撮影	1,081	—	1,081
5	R I	469	—	469
6	骨塩定量測定	22	326	348
7	DSA/Angio	185	—	185
8	リニアック治療	3,191	—	3,191
9	前立腺シード	9	—	9
合計		38,911	26,996	65,907



【学会発表・著述】は 研究実績の項目を参照

【認定資格取得・更新者等】

更新	2014年4月	磁気共鳴専門技術者	浮田 啓一郎
更新	2014年9月	検診マンモグラフィ撮影認定技師	丸尾 美由紀
取得	2014年10月	放射線治療専門放射線技師	田川 伸夫
取得	2015年2月	肺がんCT検診認定技師	丸尾 美由紀
取得	2015年2月	肺がんCT検診認定技師	加治屋 博一
取得	2015年3月	X線CT認定技師	飯伏 順一
取得	2015年3月	X線CT認定技師	稲留 久恵
取得	2015年3月	X線CT認定技師	加治屋 博一

【その他の活動】

【研修・視察受け入れ】

平成 26 年			
7月24日	岡山県病院協会	放射線部	21名
11月12日	東高校インターンシップ研修	放射線部	2名
11月15日	マレーシア国	MRI 装置視察	2名
平成 27 年			
1月28日・2月20日	大海クリニック	MRI 検査	1名
3月13日	臨床研修病院見学ツアー (医学4・5年生)	放射線部	1名

【実習生受け入れ】

平成 26 年			
6月2日～6月27日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	1名
6月30日～7月25日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	1名
9月1日～9月30日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	3名
10月1日～10月31日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科3年	2名

【ボランティア】

平成 26 年			
5 月 10 日	リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま	ウォーターフロントパーク	6 名
10 月 5 日	市民健康祭り	実行委員活動	1 名
平成 27 年			
2 月 22 日	ピンクリボンフェスタ	イオンモール鹿児島実行委員	2 名
3 月 15 日	市民公開講座	実行委員活動	1 名

【院外の会議・研修会等への参加】

平成 26 年			
6 月 14 日	診療放射線技師基礎技術講習会	MR I 検査講師	1 名
7 月 13 日	認知症対応力向上研修会	鹿児島県医師会館	3 名
8 月 3 日	診療放射線技師基礎技術講習会	マンモ検診講師(乳房検査)	1 名
9 月 5 日	肺がん検診均てん化研修会	市勤労者交流センター	2 名
11 月 18 日	心臓 CT 学術講演会	CT 検査(当院における心臓 CT の使用経験)	2 名
12 月 3 日	出前事業「リアルしごとびと」	診療放射線技師とは	1 名
平成 27 年			
2 月 6 日	肺がん検診均てん化研修会	市勤労者交流センター	4 名
2 月 6 日	乳がん検診従事者研修会	県民総合保健センター	4 名
2 月 14 日	診療放射線技師基礎技術講習会	MR I 検査講師	1 名
2 月 27 日	大腸がん検診研修会	鹿児島県医師会館	3 名
3 月 11 日	乳がん検診均てん化研修会	鹿児島東急イン	4 名



中央臨床検査部

部長 佐藤 榮一 技師長 村中 利也(報告)

平成26年度は血液、生化学検査部門の血球自動分析装置【アドビィア 2120i】と血液ガス分析装置【RAPID Point500】が更新されました。更新したことにより処理能力、処理速度、精度の向上等で従来実施している多くのマニュアル作業を削減し、効率とスピードを最大化することができました。また、スタッフに新卒の福迫俊介技師、牧之段李奈技師を迎え、総勢24名の検査態勢で当院の救急医療に対応しました。中央臨床検査部実績は、生化学検査が509,164件、輸血・免疫血清検査が86,353件、血液・一般検査が494,500件、臨床微生物検査が22,173件、生理検査が25,585件、合計1,137,775件で前年と比較して検査件数は少し減少しましたが、輸血・免疫血清検査、臨床微生物検査は微増しました。

結果として平成25年度に比べ平成26年度の検査部総収入は約1.5%の増加となりました。日々、臨床検査データの標準化に努め精度管理は、日本医師会、日本臨床検査技師会、鹿児島県医師会、その他メーカー主催の外部精度管理への参加と毎日行う内部精度管理で良好な成績を収めました。これからも精度保証認証施設として精度管理の向上に努めたいと思います。学会、研修会等へは多くのスタッフが参加し自己研鑽に励み、7演題を発表することができました。

●平成26年度中央臨床検査部スタッフ

臨床検査部長 佐藤榮一(鹿児島大学医学部名誉教授)

臨床微生物検査 村中利也(感染制御認定臨床微生物検査技師) 今堀小百合
播磨佐江子(緊急臨床検査士)

輸血・免疫血清検査 今堀貴之(認定輸血検査技師) 岩崎明日香

血液・一般検査 原菌真由美(二級臨床検査士・血液学) 西田智佳(認定一般検査技師)
広崎うた 福迫俊介

生化学検査 山崎泰代 花房雅子 永岡伸代 來住和剛 牧之段李奈

外来・生理検査 岩本雅代 平原千代子 上轟昭知 福崎愛 小原旅人(緊急臨床検査士) 池本菜月

超音波検査 富吉祐児(認定超音波検査士) 森田修康(認定超音波検査士)

クリニック検査 久永洋一郎

●平成26年度中央臨床検査部実績

生化学検査	件数	件数	件数	件数	
セット検査	432,070	セット外検査	73,393	血液ガス	2,542
血中薬物濃度	546	血糖	613		
合計	509,164				
輸血・免疫血清検査					
輸血	16,407	免疫血清	7,005	感染症	29,222
腫瘍マーカー	16,766	ホルモン	11,099	その他	5,854
合計	86,353				
血液・一般検査					
血液	441,509	凝固系	37,926	尿	12,429
糞便	317	穿刺液	2,318	その他	1
合計	494,500				

臨床微生物検査					
細菌塗抹培養	12,890	嫌気培養	2,692	薬剤感受性	2,121
抗酸菌塗抹培養	1,942	PCR	1,659	その他	869
合計	22,173				

生理検査					
心電図	8,660	筋電図	1,659	ABI	321
脳波	319	肺機能	5,354	超音波UCG	6,716
超音波腹部	2,556				
合計	25,585				

●精度管理への参加

- ①第48回日本医師会精度管理
- ②第25回日本臨床検査技師会精度管理
- ③第37回鹿児島県医師会精度管理
- ④2015年度関東化学ユーザーズコントロールサーベイ
- ⑤ニッポーユーザーズコントロールサーベイ
- ⑥第16回血液検査コントロールサーベイ
- ⑦第7回コアプレスタ(凝固系)コントロールサーベイ
- ⑧エームス尿検査コントロールサーベイ
- ⑨第21回ルミパルスコントロールサーベイ
- ⑩第19回A I Aコントロールサーベイ
- ⑪平成26年度特異 I gEコントロールサーベイ

●実習生(学生)の受け入れ

熊本保健科学大学保健科学部医学検査学科	4年生	1名	平成26年8月20日(1日間)
熊本大学医学部保健学科検査技術科学専攻	4年生	1名	平成26年8月25日～平成25年8月29日(5日間)
熊本大学医学部保健学科検査技術科学専攻	3年生	2名	平成27年3月10日(1日間)
山口大学医学部保健学科検査技術科学専攻	3年生	2名	平成27年3月16日(1日間)
熊本保健科学大学保健科学部医学検査学科	3年生	1名	平成27年3月18日～平成27年3月20日(3日間)

●学会・研究会への参加

月	学会・研修会名	人数	備考
H26. 4月	第20回鹿児島 ICT ネットワーク学術講演会	1	
	第1回臨床微生物検査部門研修会	3	座長：村中
5月	鹿児島県臨床検査技師会春季研修会・総会	1	
	第63回日本医学検査学会	1	
6月	第3回九州 ICMT を育てる会	1	
	第1生物化学分析部門研修会	1	
7月	鹿児島県 血液ガス基礎講座	1	
	臨床微生物検査部門・薬剤師会合同研修会	2	講師：村中
	第1生物化学分析部門研修会	3	
8月	第1回臨床生理部門研修会	4	座長：富吉
	第1回輸血・移植部門研修会	1	
	第1回臨床一般部門研修会	4	
	第2回輸血・移植部門研修会	3	
9月	生物化学分析・臨床検査総合部門合同研修会	3	
10月	第3回輸血・移植部門研修会	2	

	第4回生物化学分析部門研修会	3	
	第24回南九州臨床微生物研究会	1	座長：村中
	第2回臨床血液検査部門研修会	3	
11月	第21回鹿児島ICTネットワーク学術講演会	1	講師：村中
	第49回九州医学検査学会	1	発表：上鶴
	日本クリニカルパス学会	1	発表：原菌
	第2回臨床一般部門研修会	2	
	第2回臨床生理部門研修会	3	
12月	新人・新任 スキルアップ研修会	4	
	第3回臨床微生物検査部門研修会	3	座長：村中 講師：村中
	第5回生物化学分析部門研修会	2	
	臨床心電図セミナー	5	
	第4回輸血・移植部門研修会	3	座長：今堀 講師：今堀
H27. 1月	第26回日本臨床微生物学会	1	
	第5回輸血・移植部門研修会	2	
	平成26年度鹿児島県標準化サーベイ報告会	4	
2月	第3回臨床一般部門研修会	3	
	日臨技九州支部一般検査研修会	1	講師：西田
	第4回九州地区循環器エコカンファレンス	1	
3月	平成26年度鹿児島県医師会精度管理調査研修会	2	
	第3回臨床生理部門研修会	5	
	第6回輸血細胞治療部門研修会	1	座長：今堀
	第4回臨床微生物検査部門研修会	3	座長：村中 講師：村中

●学会・研究会への参加

	月	発表者	発表テーマ
H26	5月	明治製菓	hMPV（ヒトメタニューモウイルス）について
	7月	富吉祐児	深部静脈血栓症
	7月	西田智佳	尿細管上皮細胞
	8月	大塚製菓	尿素呼気試験について
	10月	花房雅子	CCR（CG式）について
	12月	池本菜月	Lambert-Eaton 症候群の鑑別に decrement test が有用であった一症例
H27	1月	テクノメディカ	BC ロボ 8000 RFID
	2月	岩崎明日香	不規則抗体検査酵素法の重要性

●学会発表 は研究実績の項目を参照



リハビリテーション部

療法士長 児島 邦幸

【平成 26 年度の概要】

1. はじめに

今回の診療報酬改定では、2025(平成 37)年に向けて、医療提供体制の再構築、地域包括ケアシステムの構築を図る。そのための重点課題として、入院医療・外来医療を含めた医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等が示されました。各々法人が、将来の自院のポジションを模索し、今後も病床の機能分化促進のため、段階的に施策が図られることが考えられます。

リハビリ関係では、ADL 維持向上等体制加算の新設や地域包括ケア病棟のリハビリ要件等、急性期病棟におけるリハビリ提供体制のひとつのモデルとして示されました。各々法人の事情に応じて、通常の疾患別リハビリとの選択が図られることとなりますが、基本的には、医療の質を上げていくために、リハビリ専門職として何をすべきかということが大切なことと考えています。急性期医療にも在宅復帰機能についての指標が取り入れられ、「重症患者を対象に、できるだけ短い期間で、しかも在宅に帰っていただく」ための具体的な取り組み、政策的にリハビリが何を期待されているのか、その将来像をイメージしつつ、専門性を高め、チーム医療に貢献していくことが、結果的には、自院の他職種や地域に信頼されていくと感じています。

2. 届出承認

施設承認	受理番号	算定開始
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	(脳Ⅰ)第 46 号	平成 18 年 4 月 1 日
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	(呼Ⅰ)第 28 号	平成 18 年 4 月 1 日
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	(運Ⅰ)第 7 号	平成 22 年 4 月 1 日
がん患者リハビリテーション料	(がんリハ)第 9 号	平成 23 年 7 月 1 日

3. スタッフ(平成 27 年 3 月 31 日現在)

専任リハ医師	1 名	
理学療法士	40 名	
作業療法士	13 名	(1 名育休中)
言語聴覚士	8 名	(1 名育休中)
リハビリ事務	4 名	
リハビリ助手	2 名	

4. 人事

入職	H26. 4. 1	理学療法士	谷吉 航	鹿児島医療技術専門学校
	H26. 4. 1	理学療法士	川崎 岳	鹿児島医療技術専門学校
	H26. 4. 1	理学療法士	横小路 彩乃	鹿児島医療技術専門学校
	H26. 4. 1	理学療法士	岡崎 麻子	帝京大学福岡医療技術学部
	H26. 4. 1	理学療法士	岩元 大地	鹿児島医療福祉専門学校
	H26. 4. 1	言語聴覚士	弓元 康平	宮崎リハビリテーション学院
	H26. 4. 1	作業療法士	下柳田 莉加	鹿児島医療技術専門学校
	H26. 4. 1	作業療法士	前田 美香	沖縄リハビリテーション福祉学院

退職	H26. 7. 31	理学療法士	甲斐 美由紀	宮崎県へ転出
	H26. 10. 31	理学療法士	青木 里美	自宅
	H26. 11. 30	作業療法士	宮路 智香	自宅
	H27. 3. 31	理学療法士	倉元 充	宮崎県へ転出
	H27. 3. 31	理学療法士	松川 優香	宮崎県へ転出
	H27. 3. 31	言語聴覚士	米田 沙矢香	自宅
	H27. 3. 31	作業療法士	玉田 理恵	兵庫県へ転出

【部門実績】

1.(1)26年度療法明細

療法明細	□外来			□入院			■合計		
	件数	単位数	人数	件数	単位数	人数	件数	単位数	人数
脳血管リハ I	93	187	93	40,298	85,739	21,146	40,391	85,926	21,239
脳血管リハ I (廃用症候群)				7,557	14,829	4,328	7,557	14,829	4,328
運動器リハ I	2,394	4,996	2,394	58,163	123,452	45,322	60,557	128,448	47,716
呼吸器リハ I				5,754	10,648	5,533	5,754	10,648	5,533
◆◆◆合計◆◆◆	2,487	5,183	2,487	112,827	236,914	77,265	115,314	242,097	79,752
摂食機能療法				985		985	985		985
がん患者リハ				1,055	2,246	936	1,055	2,246	936
リハビリ総合計画書評価料	538		538	4,116		4,116	4,654		4,654
退院時リハ指導料				1,175		1,175	1,175		1,175
初期加算				31,639	62,269	23,966	31,639	62,269	23,966
早期リハビリテーション加算				58,162	118,947	41,538	58,162	118,947	41,538

2)疾患別リハビリ単位

	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	H26.9	H26.10	H26.11	H26.12	H27.1	H27.2	H27.3
脳 I	6,246	7,224	7,272	6,849	6,138	6,414	8,484	7,749	7,813	7,927	7,078	6,732
廃用	1,279	1,233	1,839	1,742	1,786	1,130	1,148	707	1,083	633	822	1,427
運 I	10,745	11,533	10,441	10,672	11,391	10,638	10,273	10,110	10,141	10,320	10,385	11,799
呼 I	743	858	967	975	787	893	935	857	889	804	834	1,106
がんリハ	0	149	177	126	98	92	279	322	372	300	157	101
	19,013	20,997	20,696	20,364	20,200	19,167	21,119	19,745	20,298	19,984	19,276	21,165

(3)診療科別処方件数

	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	H26.9	H26.10	H26.11	H26.12	H27.1	H27.2	H27.3
外科	30	27	29	26	33	30	29	21	24	25	19	27
緩和医療科	4	3	1			1	1			1		
眼科				1	3	3	1		1	2		1
形成外科	19	18	21	15	16	18	23	28	29	22	22	21
血液内科	5	6	6	4	5	5	3	3	5	4	3	2
呼吸器外科	12	14	19	23	21	26	29	20	16	18	22	23
呼吸器内科	22	25	16	13	10	13	12	18	25	20	21	25
産婦人科	1	3	3	1		2	2			1	2	2
耳鼻咽喉科	1								1	1		
循環器内科	8	4	2	5	6	7	5	4	4	9	14	6
小児科	3	4	2	2	2	1	3	2	1	1	1	1
消化器外科						1	1	1				
消化器内科	10	8	4	7	11	21	13	16	15	8	6	10
新生児内科	25	28	26	28	30	23	30	24	32	33	29	28
神経内科	59	68	72	64	63	53	66	64	71	64	73	59
整形外科	204	180	202	193	193	178	167	171	185	173	183	203
総合内科	26	18	22	19	21	18	21	21	24	25	26	31
糖尿病科						2						
脳神経外科	28	27	34	38	26	29	34	27	32	31	36	37
泌尿器科	5	2	5	1	6	5	4	4	4	4	6	7
皮膚科		1	1	3	7	4	3	5	1	1	3	3
麻酔科									1			
放射線科				1	1					1	1	
総合計	462	435	465	444	454	440	447	429	471	444	466	486

3. 実習受入

種別	養成校		人数	開始	終了
理学療法学	鹿児島医療福祉専門学校	第3学年長期臨床実習	1名	H26.5.12	H26.7.19
		第3学年長期臨床実習	1名	H26.8.11	H26.10.18
		第2学年臨床検査測定実習	2名	H26.7.28	H26.8.2
		第2学年臨床評価実習	2名	H27.2.2	H27.2.21
		第1学年介護体験実習	2名	H27.2.23	H27.2.25
	鹿児島医療技術専門学校	第4学年臨床評価実習	1名	H26.5.5	H26.7.11
	宮崎リハビリテーション学院	臨床実習Ⅱ	1名	H26.8.18	H26.10.29
	鹿児島大学	第4学年臨床実習	1名	H26.7.14	H26.9.5
		検査測定実習	1名	H26.9.8	H26.9.12
福岡リハビリテーション専門学校	第3学年長期臨床実習	1名	H27.1.13	H27.3.5	
作業療法学	鹿児島医療技術専門学校	第4学年長期臨床実習	1名	H26.8.4	H26.6.7
	神村学園専修学校	第3学年臨床実習	1名	H26.6.23	H26.8.16
		検査測定実習	1名	H26.7.28	H26.8.16
		検査測定実習	1名	H26.8.25	H26.8.30
	琉球リハビリテーション学院	第4学年臨床実習Ⅳ	1名	H26.4.7	H26.6.7
	九州中央リハビリテーション学院	第4学年臨床実習Ⅳ	1名	H26.5.19	H26.7.12
	鹿児島第一医療リハビリ専門学校	第3学年長期実習	1名	H25.7.15	H25.8.24
	沖縄リハビリテーション福祉学院	第3学年長期臨床実習	1名	H26.5.12	H26.7.12

【認定資格者】

3学会合同呼吸療法認定士	6名	豊留研二 木下知恵 吉永美実 上之園彩 宮之原俊一 中塩屋佳子
心臓リハビリテーション指導士	1名	豊留研二
リンパ浮腫指導技能者	1名	古市寿子
褥瘡認定作業療法士	1名	宮之原俊一
健康運動指導士	1名	兒島邦幸

【部門の取組み】

平成17年11月～	NSTにST参加
平成18年4月～	疾患別リハ施設承認
平成18年4月～	専従常勤の療法士が20名
平成19年10月～	褥瘡対策チームにPT・OT・ST参加
平成20年4月～	専従常勤の療法士が30名
平成20年7月～	療法士の病棟担当制の開始
平成21年3月～	日祝含めた均等配置勤務体制開始
平成21年4月～	専従常勤の療法士が40名
平成22年6月～	口腔ケアチームにST参加
平成22年10月～	緩和ケアチームにPT・OT参加
平成23年6月～	専従常勤の療法士が50名
平成23年7月～	がん患者リハ施設承認
平成24年4月～	日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医を専任配置
平成25年4月～	専従常勤の療法士が60名
平成25年7月～	NSTにPT・OT参加
平成26年3月～	RSTにPT参加
平成27年1月～	回復期病棟開始

【平成 26 年度診療報酬改定(リハビリ関係分)】

医療機関相互の連携や医療・介護の連携の評価について

維持期リハビリテーションの評価（医療・介護の連携の評価）

- ✓平成26年3月31日までとされていた、要介護被保険者等に対する維持期の脳血管疾患等リハビリテーション、運動器リハビリテーションについて、以下の見直しを行う。
 - i. 過去1年間に介護保険の通所リハビリテーション等の実績がない医療機関は、100分の90に相当する点数で算定する。
 - ii. 入院患者については、期限を設けずに維持期リハビリテーションの対象患者とし、外来患者については、原則として平成28年3月31日までとする。（2年間の延長）

急性期病棟におけるリハビリテーション専門職の配置に対する評価

入院患者のADLの維持、向上等に対する評価

（新）ADL維持向上等体制加算 25点（1日につき、14日間）

リハビリテーションの外来への円滑な移行の推進

外来における早期リハビリテーションの評価

- ✓脳卒中及び大腿骨頸部骨折の患者について、リハビリテーションの初期加算、早期加算を、入院中から引き続き実施する場合に限り、外来で算定可能とする。
- ✓地域連携診療計画管理料等を算定した患者について、退院後の外来リハビリテーションを担う他医療機関に対して、リハビリテーション総合計画を提供した場合の評価を行う。

（新）リハビリテーション総合計画提供料 100点（退院時1回）
（発症、手術又は急性増悪から14日以内に限り）

運動器リハビリテーション料 I の評価の見直し

- ✓外来の患者についても運動器リハビリテーション料 I を算定可能とする。

廃用症候群に対するリハビリテーションを含む疾患別リハビリテーション等の適切な評価

廃用症候群に対するリハビリテーションの評価の適正化

- ✓廃用症候群に対するリハビリテーションの評価を適正化するとともに、対象患者から他の疾患別リハビリテーション等の対象患者を除く。

脳血管疾患等リハビリテーション料（I） 旧 235点 ⇒ 改定後 180点

疾患別リハビリテーション等の評価の充実

心大血管疾患リハビリテーション I	旧 200点 ⇒	改定後 205点
運動器リハビリテーション I	旧 175点 ⇒	改定後 180点
呼吸器リハビリテーション I	旧 170点 ⇒	改定後 175点
がん患者リハビリテーション料	旧 200点 ⇒	改定後 205点

回復期リハビリテーション病棟の評価の見直し

回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の見直し

- ✓専従医師及び専従社会福祉士を配置した場合の評価を新設

回復期リハビリテーション病棟入院料 1
（新）体制強化加算 200点（1日につき）
- ✓休日リハビリテーション提供体制加算を算定要件として包括して評価

旧 1,911点 ⇒ 改定後 2025点
- ✓重症度・看護必要度の項目等の見直しを行う。

回復期リハビリテーション病棟入院料全体の見直し

- ✓患者の自宅等を訪問し、退院後の住環境を評価した上で、リハビリテーション総合実施計画書を作成した場合の評価を新設

リハビリテーション総合計画評価料

（新）入院時訪問指導加算 150点（入院中1回）



臨床工学部

技士長 齋藤 謙一

1. 高気圧酸素療法

高気圧酸素療法は、第1種装置(川崎エンジニアリング社製KOH-2000)2台で月～金曜日8:30～17:00、土曜、祝祭日8:30～12:00実施。緊急時にはオンコールでいつでも実施できる体制になっています。平成26年度は、227名(男137名、女90名 平均年齢62歳)の患者様に対して治療回数は2,914回(救急適応539回(18.5%)、非救急適応2,375回)でした。前年度比は治療患者数+4.8%、総治療回数+13.6%、救急適応-6.6%でした(表1)。診療科別では、整形外科61%(前年+41.2%)、耳鼻咽喉科22%(前年+12.4%)と2診療科で全体の約8割を占めています(表2)。

表1 高気圧酸素治療実施状況

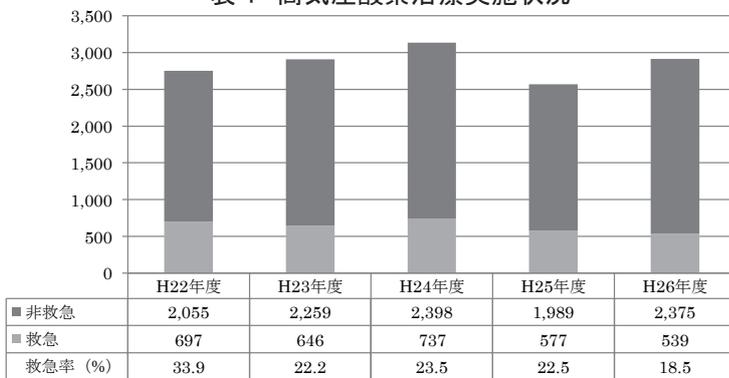


表2 診療科別HBO依頼件数

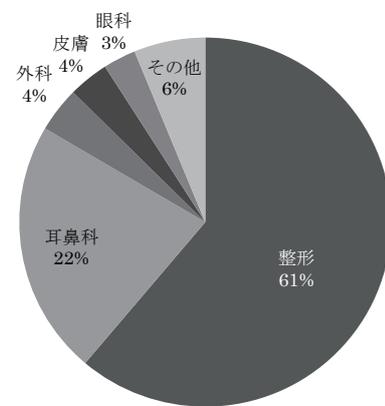
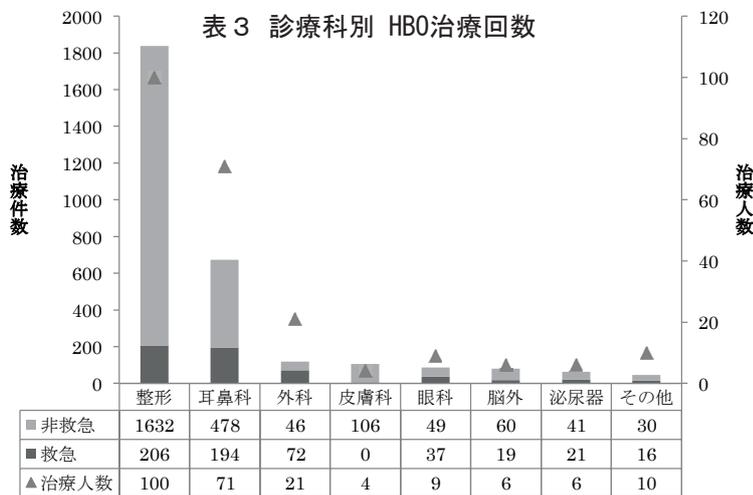
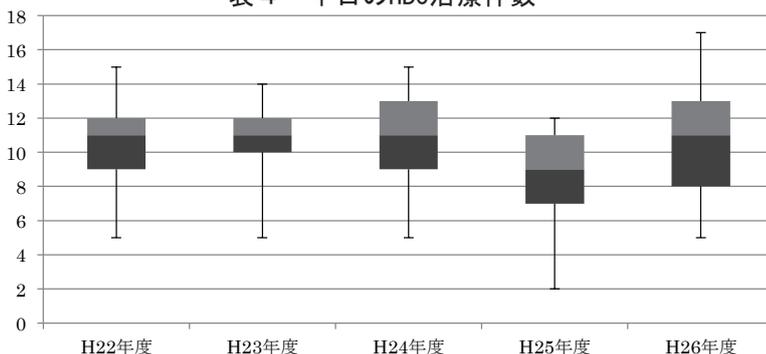


表3 診療科別 HBO治療回数



診療科別の治療回数は整形外科 1843 件(救急 11%、1 人当たりの平均治療回数 18.4 回)、耳鼻咽喉科 672 件(29%、9.5 回)、外科 119 件(6.5%、5.7 回)でした(表3)。また、平日の1日治療件数の中央値(四分位範囲)は11件(12-9)でした(表4)

表4 平日のHBO治療件数



2. 人工呼吸

平成 25 年度の人工呼吸器使用状況は、合計 297 件（昨年比 - 6.3%）、機種構成は IPPV（invasive positive pressure ventilation）57%、NPPV 27%、在宅用持込 16% でした（表 5）。これまで気管挿管の人工呼吸は減少傾向にありましたが今回増加しています。

診療科別の使用頻度では、整形外科での使用がこれまでになく多かったのが特徴的でした（表 6）。当院所有の人工呼吸器を表 7 に示します。新規に新生児専用の Babylog VN500（ドイツ Dräger 社）を導入しました。HFO（高頻度振動換気）も実施できる大変高性能な人工呼吸器です。また、n-CPAP 器の sindi（ドイツ MedIn 社）を従来機の後継として 2 基導入しています。

平成 25 年度から導入されたネーザルハイフロー（NHF）の使用状況を表 8 に示します。NHF は 21 ～ 100% の酸素を最大 60L/min で鼻カニューラを通して供給できるシステムで各種酸素療法と NPPV との間の治療法として NPPV の拒否患者や気管挿管チューブ抜管後などに有効とされます。

表 5 人工呼吸器使用状況

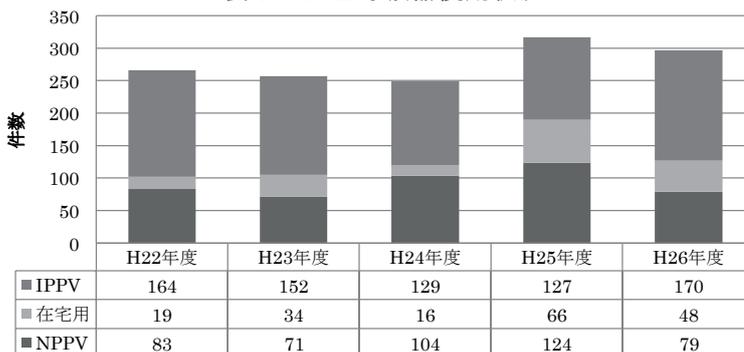


表 6 診療科別人工呼吸器取扱い

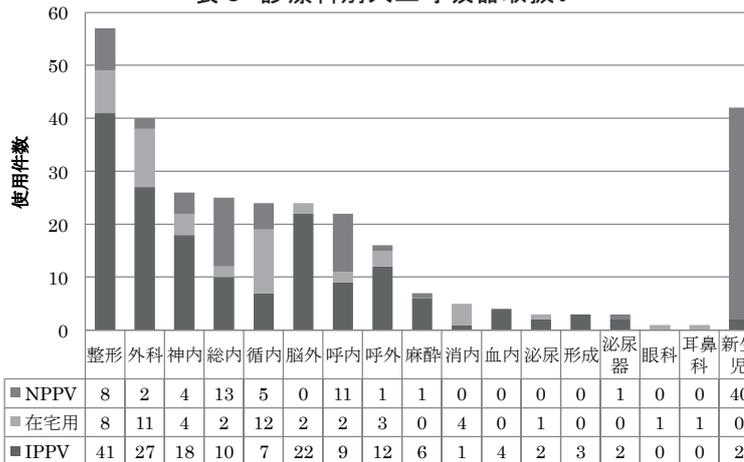
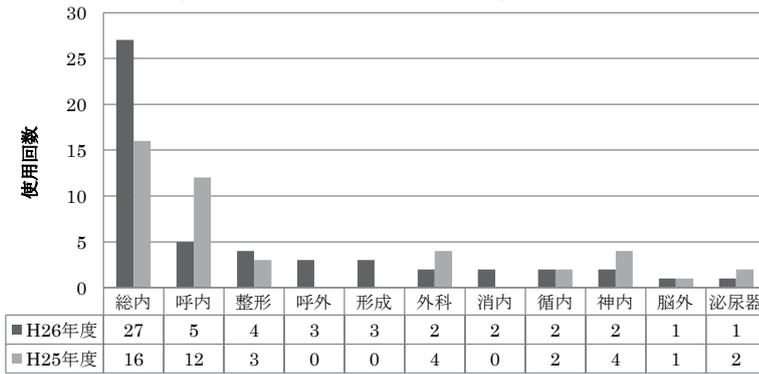


表 7 当院の人工呼吸器

メーカー	機種名	台数	コメント
Covidien	NPB-740	5	コンプレッサ内蔵、長時間バッテリー搭載、病棟用
Covidien	NPB-840	4	高性能、高度な設定が可能、
Dräger	Evita_XL	1	高性能、APRV モード、スマートケア搭載
GE Healthcare	Engstrom Carestation	1	高性能、酸素消費量や CO2 産生量、エネルギー消費量、呼吸商、FRC 測定
Philips	BiPAP vision	2	NPPV 専用機
Philips	V 60	2	NPPV 専用機 常時レンタル
Dräger	Carina	1	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV 可
Dräger	Babylog 8000plus	3	新生児専用人工呼吸器
Dräger	Babylog VN500	1	HFO 搭載の新生児専用高性能人工呼吸器
CareFusion	infant Flow SiPAP	2	新生児専用 n-CPAP 装置 +3 台レンタル中
MedIn	sindi	2	新生児専用 n-CPAP 装置
HAMILTON	HAMILTON-C1	2	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV 可、ASV・APRV モード搭載
O-TWO Medical	CARE vent MRI	1	ガス駆動、搬送用、MRI 対応

表8 ネーザルハイフロー実施状況



人工呼吸器患者の搬送について

人工呼吸器装着患者の CT や MRI の検査や院外への転院などは医師がバッグバルブマスクなどを用いて用手換気を行いながら実施していましたが、当院では搬送にも適した人工呼吸器や MRI 対応人工呼吸器導入により必要な時にいつでも検査することができます。また、人工呼吸に関わる搬送には必ず臨床工学技士が同伴して医師や看護師の労力軽減につなげられるよう努力しています。平成 26 年度は 168 回の搬送があり CT/MRI は 64 件（内 MRI : 8 件）他院への転院搬送は 12 件でした。転院時には搬送先での人工呼吸器設定などの申し送り等実施しています（表 9）。

表9 人工呼吸患者搬送先

搬送先	回数
大勝病院	1
大隅鹿屋病院	1
小田原病院	1
霧島杉安病院	1
鹿児島大学病院	3
三船病院	4
湯田内科	1

3. 血液浄化

血液浄化のうち血液透析は 3 台の個人器（+ ICU 内に 1 台）で実施しています。平成 26 年度の透析実施回数は 348 回、昨年度比+20% でした（表 10）。その他、持続的腎代替療法（CRRT）、アフエレーシスの実施状況を（表 11）に示しました。今年度の特徴は、神経内科における免疫吸着、血漿交換が 114 件と多く実施されました。

表10 血液透析実施状況

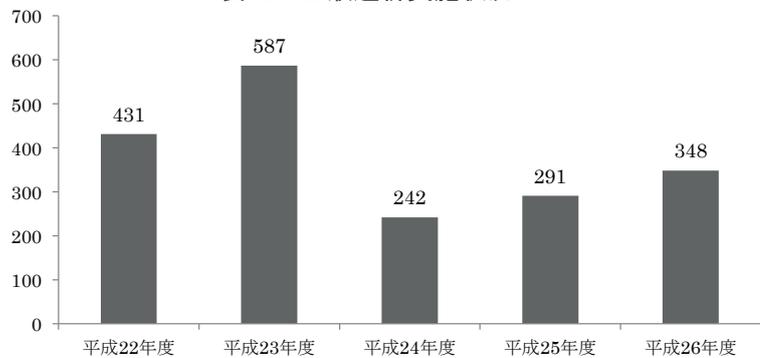
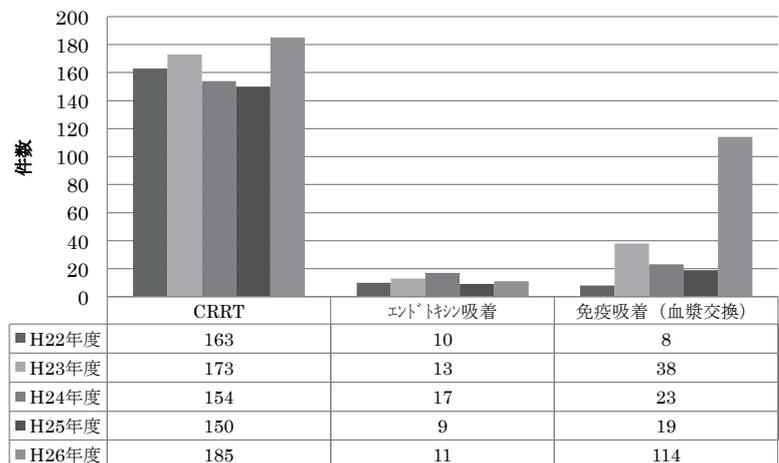


表11 アフエレーシス実施状況



4. 術中脊椎誘発電位モニタリング

脊椎、脊髄の手術の際、MEP(運動誘発電位) および SSEP(体性感覚誘発電位) による術中モニタリングを施行しています。脊髄モニタリングとは脊髄の電気伝導能を評価する方法であり、圧迫性病変や脊髄腫瘍などによる脊髄の損傷の程度を評価することができます。(K930 脊髄誘発電位測定等加算 3, 130 点)

本年度、10月に検査機器を更新しました。Endeavor CR (アメリカ natus 社) は省スペースですが 16ch アンプを搭載した多機能・高性能な術中モニタリング装置です(図1)。

表12 術中モニタリング推移

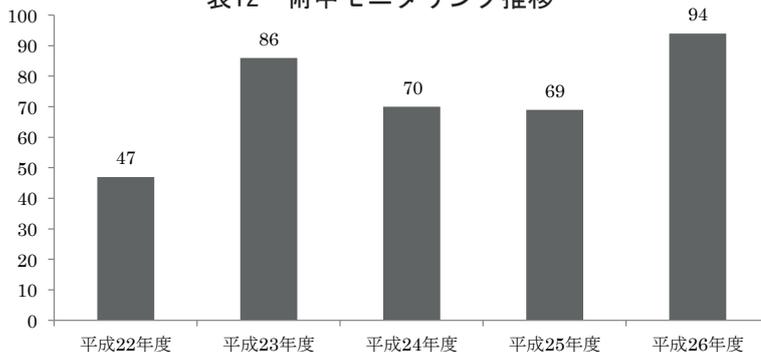
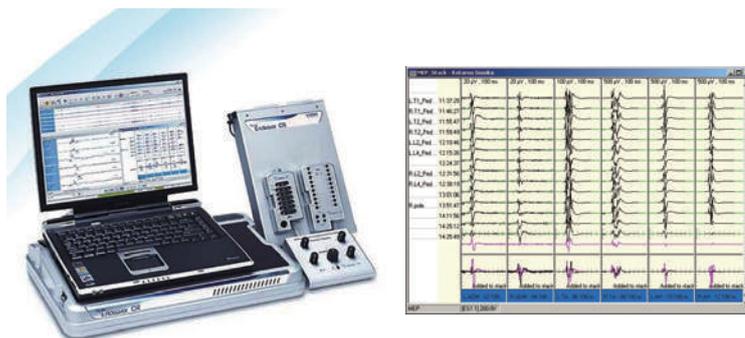


図1 Endeavor CR 術中モニタリング装置



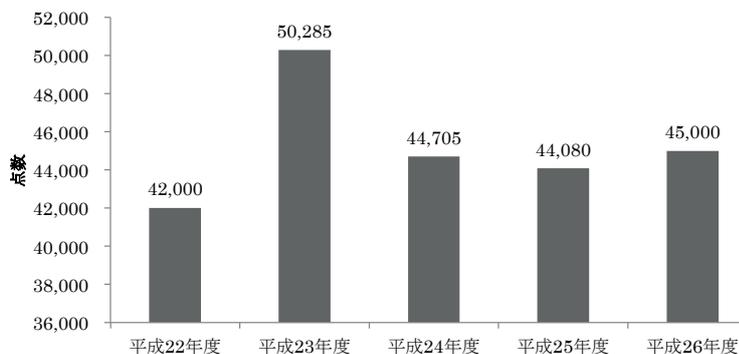
5. 医療機器安全管理料

平成20年度診療報酬改訂で、医療機関における医療機器の安全確保や適正使用を一層推進するため、特に安全管理の必要性が高い生命の維持に直接関与する医療機器の専門知識を有する臨床工学技士の配置について評価するという事で「医療機器安全管理料1 50点(1月に1回)」が新設され、平成22年度改訂で100点に引き上げられました。表13に点数の推移を示しました。

医療機器安全管理料1に関する施設基準

- 1) 医療機器安全管理に係る常勤の臨床工学技士が1名以上配置されていること。
- 2) 医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置していること。
- 3) 当該保険医療機関において、医療機器の安全使用のための責任者以下「医療機器安全管理責任者」という。)が配置されていること。
- 4) 当該保険医療機関において、従業者に対する医療機器の安全使用のための研修が行われていること。
- 5) 当該保険医療機関において医療機器の保守点検が適切に行われていること。

表 13 医療機器安全管理加算 1





在宅医療部

主任 竹ノ下美子

在宅医療部は、訪問診察と訪問看護を行っています。訪問診察は在宅診療科の林先生、甲斐先生をはじめ他に総合内科、神経内科の4名の先生方に協力していただいています。また、緩和医療科の松添先生と連携し、在宅での看取りも支援しています。

平成26年は保健師3名、看護師1名で活動しました。

I. 訪問看護活動(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

1) スタッフ (五十音順)

保健師・看護師	4名	小野・生野・竹ノ下・南
訪問診察医師(兼任)	7名	甲斐・生野・野村・林・二木・松添・三宅
兼任理学療法士	1名	豊留
兼任作業療法士	1名	児島

2) 患者総数 52名 (男性25名 女性27名)

① 転帰

転帰	人数(人)
軽快	1
転院	8
施設入所	2
長期入院	1
死亡(病院)	9
死亡(在宅)	2
合計	23

② 月別訪問件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計(件)
訪問診察 (緩和診察)	31 (0)	34 (3)	37 (3)	38 (4)	33 (0)	33 (0)	35 (4)	35 (8)	38 (8)	31 (5)	25 (1)	24 (3)	394 (39)
訪問リハビリ	4	5	7	7	3	5	3	4	4	3	2	4	51
訪問看護	81	83	96	103	101	96	103	97	104	126	109	109	1,208
合計(件)	116	122	140	148	137	134	141	136	146	160	136	137	1,653

3) 相談ケース

① 相談内容

相談内容	件数
訪問診察と看護について	18
訪問看護について	31
訪問診察について	6
介護保険について	1
その他	0
合計	56

② 相談依頼者

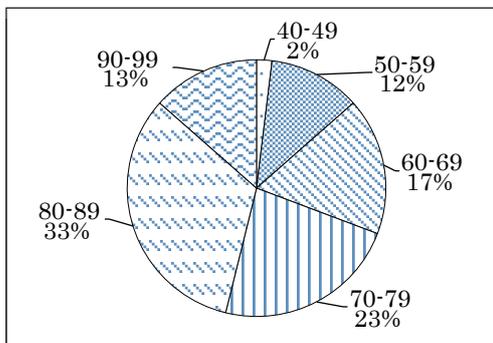
相談依頼者	件数
緩和ケアスタッフ	22
医師	12
ケアマネージャー	9
MSW	8
患者・家族	3
看護師	2
その他	0
合計	56

4) 主疾患名(52名)

疾患	(人)	疾患	(人)
神経系疾患	20	尿路器系疾患	0
悪性新生物	15	消化器系	2
循環器疾患	5	内分泌系・代謝疾患	1
呼吸器疾患	5	精神及び行動障害	2
損傷、中毒外因の影響	2	感染症	0

5) 患者年齢(平均 75.83 歳 49～94 歳)

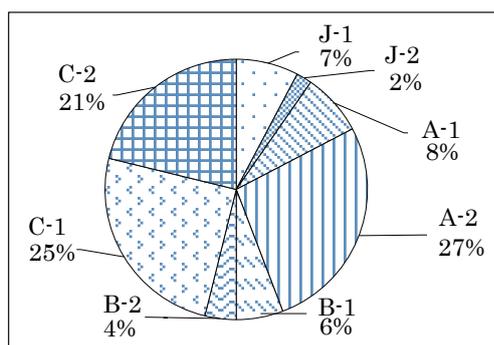
年代	人数(人)
30-39	0
40-49	1
50-59	6
60-69	9
70-79	12
80-89	17
90-99	7
100以上	0
合計	52



6) 寝たきりランク

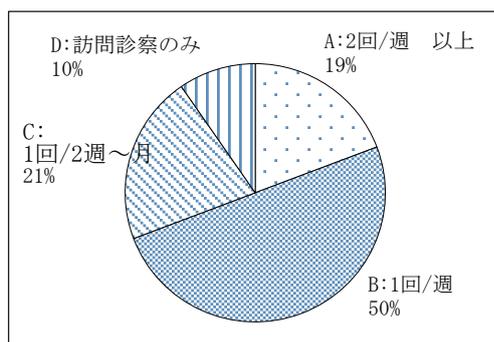
生活自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活は自立しており独力で外出する 1. 交通機関を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ 1. 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車椅子に移乗する
	ランク C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうたない

ランク	人数(人)
J-1	4
J-2	1
A-1	4
A-2	14
B-1	3
B-2	2
C-1	13
C-2	11
合計	52



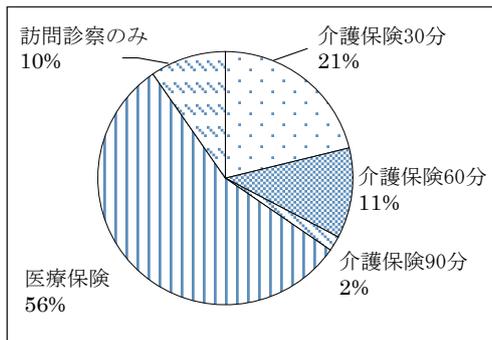
7) 訪問看護の頻度

訪問回数	人数(人)
A:2回/週 以上	10
B:1回/週	26
C:1回/2週～月	11
D:訪問診察のみ	5
合計	52



8) 訪問看護の保険の種類

介護保険30分	11
介護保険60分	6
介護保険90分	1
医療保険	29
訪問診察のみ	5
合計	52

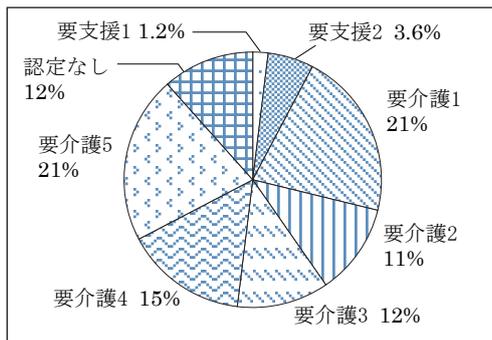


9) 医療依存度ケース

内容	人数(人)	内容	人数(人)	内容	人数(人)
軟膏塗布	25	坐薬挿入	2	吸入	2
創処置	17	人工呼吸器	1	血糖チェック	1
排便・浣腸	8	バルンカテーテル留置	7	人工肛門・ウロストミー	0
点滴・注射	5	リハビリ	3	点眼	1
麻薬・抗癌剤管理	3	気管切開	4	IVH(ポート)	0
胃ろう・経管栄養	9	在宅酸素療法	11	服薬管理	14
吸引	8	導尿	3	その他	4

10) 介護保険利用者

介護度	人数(人)
要支援1	1
要支援2	3
要介護1	11
要介護2	6
要介護3	6
要介護4	8
要介護5	11
認定なし	6
合計	52



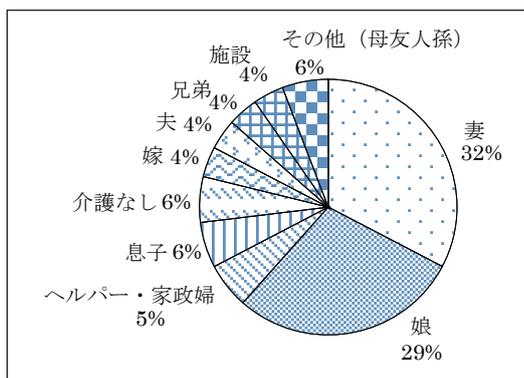
11) 清潔介助

内容	人数(人)
全身浴	3
部分浴	13
部分保清	18

全身浴: 入浴・シャワー浴・全身清拭など
 部分浴: 足浴・手浴・陰部洗浄・洗髪など
 部分保清: 口腔ケア・耳垢除去・髭剃り・爪きりなど

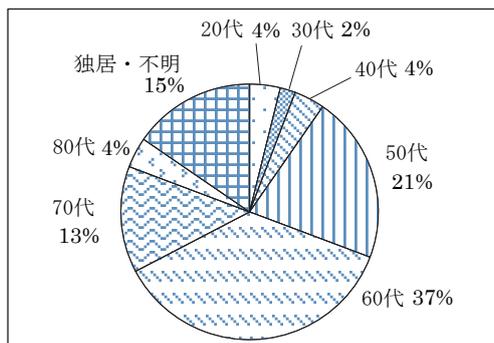
12) 主な介護者

介護者	人数(人)
妻	17
娘	15
ヘルパー・家政婦	3
息子	3
介護なし	3
嫁	2
夫	2
兄弟	2
施設	2
その他(母友人孫)	3
合計	52



13) 介護者の年齢(平均 62.02 歳 40～88 歳)

年代	人数 (人)
20代	2
30代	1
40代	2
50代	11
60代	19
70代	7
80代	2
独居・不明	8
合計	52



14) 介護保険利用状況

内容	人数 (人)	内容	人数 (人)
訪問介護	25	通所リハビリ	13
訪問入浴	9	通所サービス	16
訪問リハビリ	16	ショートステイ(病院を含む)	9

15) 指導内容

内容	人数 (人)	内容	人数 (人)
服薬指導	42	精神的支え	14
栄養指導	30	認知症対応方法	10
介護指導	25	家族の健康相談	7
福祉サービス紹介	14	終末期の援助	10

16) 他の専門機関・職種との連携

- 1) 訪問歯科診療の利用 3名
- 2) 訪問薬剤指導の利用 4名

Ⅱ. 健康教室

平成 26 年 7 月 31 日	「熱中症予防と対策」 (株)大塚製薬工場 O S - 1 事業部 中村環先生	17 名聴講
平成 26 年 9 月 30 日	「高齢者の腰と肩の痛みについて」 整形外科 松永副院長	25 名聴講
平成 26 年 11 月 25 日	「心臓の病気について」 循環器内科 大場部長	16 名聴講

Ⅲ. その他の活動

- 1) 家族会だより 第 27 号 平成 26 年 5 月発行
- 2) 実習生受け入れ実績
 - ・久木田学園看護専門学校 : 4/14 ~ 9/4 14 名
 - ・鹿児島中央看護専門学校 2 年課程(通信制)看護科 : 7/22 ~ 8/12 19 名
 - ・神村学園高等部 看護学科専門課程 : 9/22 ~ 12/12 10 名
- 3) 院内感染防止対策委員会 : 月 1 回
- 4) 労働安全衛生委員会 : 月 1 回
- 5) 病院業務運営会議 : 月 1 回
- 6) 死亡患者初七日訪問 : 5 名



居宅介護支援事業所

管理者 主任介護支援専門員 中村とも子

今年は鹿児島市指導監査課による実施指導が行われました。結果は「概ね適正な運営と認める」との結果にホッとした反面、細かい調査内容に身が引き締まる思いでした。

また、平成27年度介護保険報酬に伴い複雑化する介護保険を高齢者へ理解して頂く為日々自己研磨に励んでいます。同年より所得に応じた請求が2割負担となる事で介護以外の悩みを抱える利用者家族が増加することを懸念しながら今後の高齢化社会を見守る考えです。

【概要】

当院は高度医療により急性期病院ではありますが疾病の回復が早期解決しても急なADL低下により介護計画(ケアプラン)や変更等が必要とされる場合もあります。

平成27年2月に全機関統一した入退院サマリー様式が決定し医療との連携もスムーズとなりました。当院のみならず転院先やセカンドオピニオンへ足を運び利用者の病状やADLの情報収集を行い現場の職員と顔を合わせた連携ができることで患者様(利用者)の安心感と適切なケアプラン作成とつながっています。

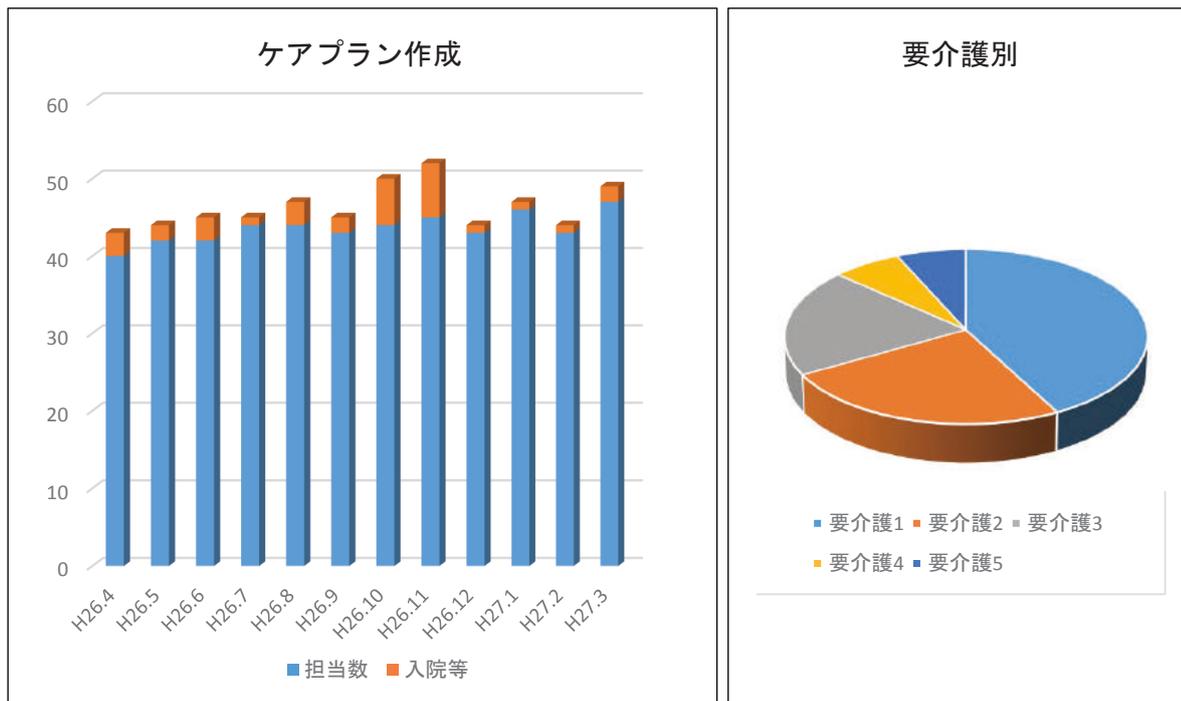
【スタッフ】

専従二人の主任介護支援専門員(厚生労働省に基づく研修修了者)中村、八坂が在住しそれぞれのケースに奮闘しております。利用者の状況においては県外家族、市生活保護課職員、主治医、メディカルソーシャルワーカー、民生員、長寿あんしん相談センターと合同カンファレンスで検討し高齢者福祉サービスの福祉電話訪問給食申請、介護保険サービスの通所リハビリ、訪問看護、訪問介護、福祉用具等導入決定の担当者会議を開催します。

【居宅関連 会議及び研修の参加】

- H26. 5. 8 大竜地区多職種地域ケア会議(たてばば公民館)
- H26. 5. 19 神経難病の症状・治療・在宅医療について学習(消費生活センター)
- H26. 6. 16 難病患者のコミュニケーションについて学ぶ(消費生活センター)
- H26. 6. 27 主任介護支援専門員フォローアップ研修会(県民交流センター)
- H26. 6. 28 多職種連携「今後の介護保険について」県民交流センター
- H26. 7. 1 医療と介護の連携について(鹿児島県民交流センター)
- H26. 7. 5~7. 6 難病コミュニケーション支援講座
- H26. 8. 30 北部地域多職種連携会議(よかセンター)
- H26. 10. 9 重症難病医療ネットワーク研修会(ハートピアかごしま)
- H26. 10. 25 NPO法人主催「地域ケア会議とその役割」主任ケアマネ対象(県民交流センター)
- H26. 10. 30 集団指導(市民プラザ)
- H26. 11. 20 鹿児島市長寿支援課主催「認知症見守りメイト連絡会」(鹿児島市役所講堂)
- H26. 11. 21 NPO法人主催「改正介護保険制度、介護支援専門員の役割」(市民文化ホール)
- H26. 11. 28 困難事例の取り組み連携「認知症の理解が難しい家族とアプローチ」(県民交流センター)
- H27. 2. 9 保健所主催難病患者研修会「事例を通して神経難病支援を考える」(消費生活センター)
- H27. 2. 21 NPO法人主催「ケアプランの作り方研修会」(県民交流センター)
- H27. 3. 14 NPO法人主催「課題整理総括の記載方法とICF」(県民交流センター)
- H27. 3. 17 介護保険課主催 介護保険改正に伴う説明会(市民プラザ)

【平成26年4月～平成27年3月 居宅介護支援計画作成数】



【主な疾病】

ネフローゼ症候群、先天性ミオパチー、慢性Ⅱ型呼吸不全、成人細胞性白血病、肺非結核性抗酸菌症、先天性ろうあ、特発性間質性肺炎、僧帽弁閉鎖不全症、慢性心房細動、血管炎症候群、糖尿病、脊柱管狭窄症、全盲、股関節人工骨抜去後、レビー小体症、パーキンソン病関連疾患、多系統萎縮症、アルツハイマー認知症、脳血管性認知症、特発性正常圧水頭症、肺癌、肝細胞癌、頸部リンパ節転移

【ケアプラン関連】

年間相談数 (件数外)	37件
新規プラン作成	23件
担当者会議開催	96件
死亡・施設入所	8件
軽度判定・地域包括へ	3件

【市役所申請 介護保険課 高齢者福祉課 障害者福祉課】

要介護認定申請 (区分含)	33件
住宅改修打ち合わせ、書類作成	10件
介護手当申請	9件
例外給付申請	1件
吸引器申請	1件
福祉電話申請	1件
理容券申請	1件
安心通報システム申請	1件

この他訪問給食回数増減申請、オムツ受給申請、介護保険負担限度額申請、虚弱高齢者介護保険対象外福祉用具給付申請等も適宜行っています。



相談支援センター 医療相談室

主任 吉 満 実

当院は地域の基幹病院としての性格を持ち、高度救急医療の提供を行う当院では入院外来治療において阻害要因としての様々な問題が発生しています。また、医療制度の変遷により役割分担が更に明確になってきており、このような背景において平成26年度のMSWとしての活動を報告致します。

平均在院日数の短縮

当院におけるMSWとしての最大の役割としては、院内外との連携であります。

現在の当院の基準としては、『平均在院日数 17日以内』です。

今年度より在院日数の集計が長期入院患者の算入・短期滞在手術の除外などにより、昨年より在院日数は長期化してしまいました。

「平均在院日数の短縮」は、DPC病院として最大の課題です。質の高い医療の提供とともに患者様の早期退院や転院、社会復帰を目指し援助を行っています。

◆MSWの早期介入の促進

MSWが入院初期より、患者様の状態・基本情報等を把握することにより、いろいろな問題を未然に防ぎ、円滑な退院・転院への援助が可能となります。

早期での患者様との関わりを持つことで、信頼関係の構築が容易になり、患者様・その家族の理解を得ることにより、入院・治療期間の短縮につながります。また、整形外科・脳神経外科・神経内科・呼吸器内科・総合内科のカンファレンスに同席し患者様の状態や状況の変化に応じて対応しています。また、退院調整部門として退院調整カンファレンスの他職種介入により患者様の退院や転院に関して質の高い支援が構築されつつあります。

◆社会的入院患者へのアプローチ

核家族化が進む中、一人暮らしの為に家に帰れない・日中仕事で自宅介護が困難等いわゆる「社会的入院」が、問題になっています。当院においても例外ではありません。

現時点においては、MSWの早期患者把握・介入によって、かなり減少傾向にあります。

常日頃より療養型の医療機関、回復期リハビリテーション病院・介護老人保健施設グループホームや在宅復帰の場合は居宅介護支援事業所等と綿密に連携をとることで、迅速な援助を行うことが出来ています。

◆長期入院患者へのアプローチ

長期入院患者(入院期間3ヶ月以上)の的確な把握を行い、「なぜ、長期になっているのか」を明確にすることが重要です。長期入院となっている患者様の中には、治療の経過で長期になられた患者様や病状的に退院・転院が困難な患者様への理解は忘れてはなりません。

社会的入院患者・長期入院患者へのアプローチの結果、長期入院患者の占める割合が4%台に減少しています。長期入院患者の内訳としては、感染症、重度の褥創、人工呼吸器管理等が多くなっています。

以上のような取り組みで、在院日数を意識した活動が行なわれました。

DPC導入医療機関である当院としては、更に他の医療機関や介護施設との連携が必要となってきます。

「平均在院日数の短縮」は、各スタッフ間の協力・連携等の複合的要素の充実にて可能となることも忘れてはなりません。

地域の医療機関・介護保険関連事業所との連携強化

当院が急性の DPC 医療機関として体制を維持していく為には、地域の各医療機関との連携を推進していかなければなりません。

また、療養型の医療機関もそれぞれ役割や特徴があります。その状況を把握して患者様の橋渡しをしなくてはなりません。リハビリテーションにおいても疾患別限度日数が導入され、リハビリ目的で早い時期での転院が必要となってきました。地域の医療機関との連携もより迅速に行っていかなければならなくなりました。

介護保険に関連した施設や居宅会議支援事業所との連携もより多様化し多くの事業所との関係が必要となっています。

医療相談室の開設

当院本館 1 階に医療相談室や患者サポート窓口が開設しており、個室での面談・相談が可能です。患者様のプライバシーに配慮した面談が可能です。

医療相談室では、患者様や御家族に来室してもらい相談援助を実施する形を取っていますが、来室が困難な場合は各病室への訪室も可能です。また、がん相談・経済的相談・社会的相談・各種申請書類についての相談や苦情や個人情報に関する相談窓口としての機能を有しています

その他の業務として

変遷していく医療保険制度や介護保険制度において、MSW として対処しなければならない事柄は多いものです。

MSW の業務として、外来・入院患者を問わず、医療費の相談や社会福祉サービス等の相談を、受けています。

介護保険・特定疾患・身体障害者手帳の手続き代行や苦情処理・個人情報に関わる相談・平均在院日数の管理・紹介患者の管理・問題患者への対処等々、その他の細かい業務は多いものです。

今年度も退院調整部門(病棟看護師・MSW)として、早期に退院カンファレンスを実施し、早期退院・転院をスムーズに行っていくように取り組んで行きたいと思えます。

当院は整形外科の入院患者様の割合が高く重症度及び複雑性が高い患者の割合が高いことが DPC の分析で結果がでていますが、効率性が低い点が指摘されています。効率性を高めるため院内・院外を含め連携を強化していくことが課題です。

MSWスタッフ・勤務状況

原口 一博 吉満 実 上西 章子 山崎 留美

現在、月曜日から金曜日までの午前・午後、土曜日の午前の勤務となっています。

事前に連絡を頂ければ、時間外でも相談には応じます。

平成26年度 平均在院日数、長期入院患者、退院援助の統計表

平均在院日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成24年度	16.4	15.4	15.2	14.3	13.9	15.0	15.8	14.7	15.9	17.1	15.9	15.0	15.38
平成25年度	16.1	16.9	16.4	16.0	16.2	17.2	16.5	15.8	15.3	15.3	15.6	16.1	16.12
平成26年度	17.0	18.3	17.8	16.4	16.9	16.5	16.6	19.6	17.5	17.7	15.8	16.8	17.24

長期入院患者（3ヶ月以上入院患者）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成24年度	7.4%	6.9%	6.9%	6.8%	6.2%	6.3%	5.1%	5.7%	7.6%	4.2%	7.0%	8.2%	6.5%
長期（人数）	24	23	24	23	24	22	20	21	19	16	27	30	22.75
病床稼働	323	335	346	340	386	350	395	367	250	382	386	367.9	352.3
平成25年度	6.6%	6.3%	6.4%	7.1%	6.2%	4.8%	3.2%	3.4%	5.7%	5.9%	5.7%	5.7%	5.6%
長期（人数）	24	22	23	27	23	19	12	13	21	22	22	22	20.83
病床稼働	362	348	362	380	372	393	377	382	371	373	384	389	374.4
平成26年度	4.7%	5.7%	4.8%	5.9%	4.2%	4.2%	2.8%	3.7%	4.0%	3.2%	3.5%	4.3%	4.2%
長期（人数）	17	20	18	22	16	15	10	14	15	12	14	17	15.83
病床稼働	362	349	372	370	377	357	362	377	371	376	400	398	372.6

長期入院患者（3ヶ月以上入院患者）

	病院	在宅	老人保健施設	他施設・GH	死亡退院	平成26年度合計
4月	86	18	1	2	3	110
5月	67	15	0	4	3	89
6月	73	17	2	4	3	99
7月	72	20	1	4	5	102
8月	65	15	0	3	5	88
9月	87	22	0	6	3	118
10月	80	13	3	5	0	101
11月	63	14	2	1	3	83
12月	74	25	3	7	1	110
1月	51	11	1	13	2	78
2月	69	16	3	8	4	100
3月	85	16	0	5	3	109
平成24年度合計	864	240	26	53	27	1,210
平成25年度合計	899	260	26	53	27	1,265
平成26年度合計	872	202	16	62	35	1,187



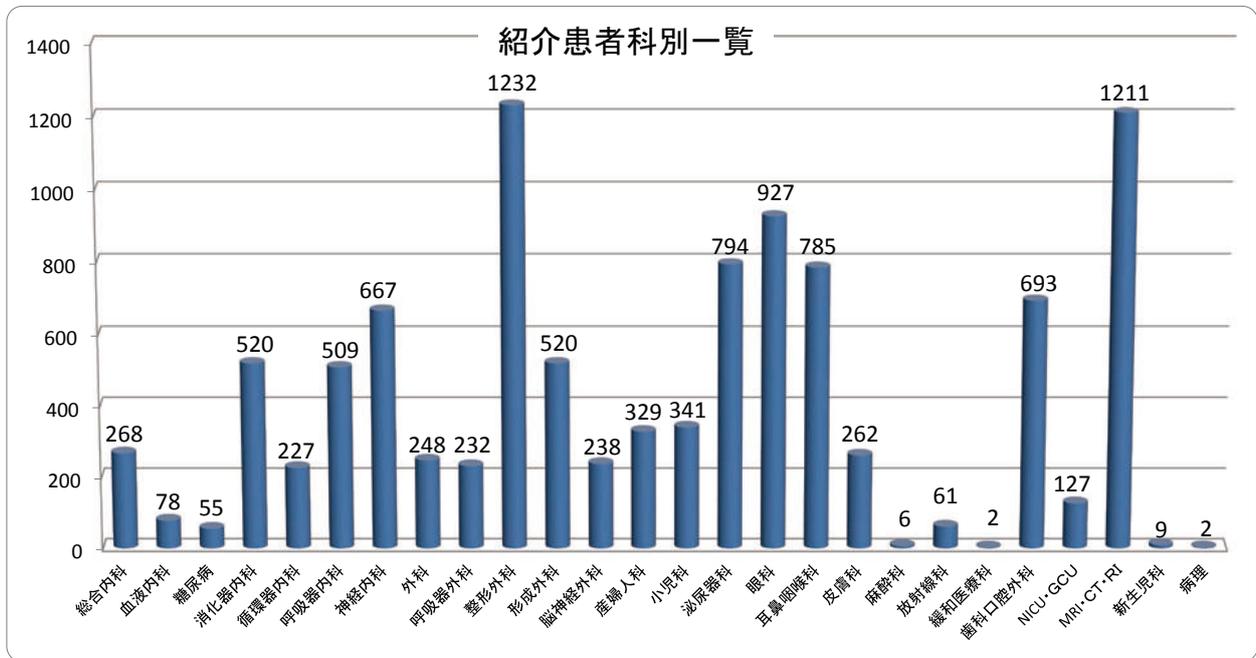
相談支援センター 地域医療連携

岡本美穂

平成 26 年度関連施設は、
 紹介施設 《市内 515 施設》 《市外 391 施設》 《県外 151 施設》 合計 1057 施設ご紹介いただきました。
 逆紹介施設 《市内 433 施設》 《市外 341 施設》 《県外 122 施設》 合計 896 施設になります。

紹介率 63.0%、逆紹介率 98.2%になります(紹介率・逆紹介率は、地域支援病院計算式)。 紹介率・逆紹介率をいかに並行して高めていくかが急性期病院の機能を果たすためにも重要です。その一環として、紹介いただいた患者様に関する返書が確実に行われるように、院内医師の協力を得ていきたいと思っております。

当院では、病診・救急医療へ積極的な取り組みを病院方針の一つとして、今後とも、紹介患者や救急患者を積極的に受け入れていくことにより、地域医療に貢献していきたいと考えております。



小児科	整形外科	形成外科	脳神経外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	泌尿器科	麻酔科
341	1,232	520	238	329	927	785	61	794	6
皮膚科	外科	呼吸器外科	総合内科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	糖尿病科	血液内科
262	248	232	268	667	227	509	520	55	78
口腔外科	緩和医療科	CT・MRI・RI		新生児内科	NICU・GCU	病理			
693	2	1,211		9	127	2			

※今給黎病院・昭和会クリニック紹介総数

- 紹介患者及び逆紹介市町村別統計は、病院統計にて参照
- 年度別救急車受け入れ台数・患者数統計病院統計にて参照



がん相談支援センター

専従保健師（緩和医療課） 植屋 明 代

がん相談支援センターは本館1階にあり、専従相談員の植屋が常駐、不在時は緩和ケア認定看護師の大西・岩山が対応しています。MSWは主に転院支援に関わり、相談内容によっては管理栄養士、薬剤師、医事課などの協力ももらいながら対応しています。今年度は当院以外の患者様・ご家族からの相談の割合が増え、内容も治療や代替医療についての相談が増えました。これからもその人らしく療養できるように来談者と一緒に考え、辛さが少しでも緩和されるようながん相談支援に努めていきたいと思いをします。

【スタッフ】植屋・大西・岩山（緩和医療課） 原口・吉満・中村・春山（地域医療連携室）

相談内容 （*重複相談対応あり）	緩和医療課対応			MSW対応			合計
	患者	家族	その他	患者	家族	その他	
がん治療	55	36	3	0	0	0	94
がんの検査	9	7	0	0	0	0	16
症状・副作用・後遺症	18	7	2	0	0	0	27
セカンドオピニオン	23	19	10	0	0	0	52
治療実績	2	1	0	0	0	0	3
受診方法・入院	8	4	6	4	3	1	26
転院	12	40	17	0	120	0	189
医療機関の紹介	1	22	7	1	2	1	34
がん予防・検診	3	1	0	0	0	0	4
在宅医療	9	22	2	2	14	2	51
ホスピス・緩和ケア	18	66	12	0	0	0	96
症状・副作用・後遺症への対応	15	9	4	0	0	0	28
食事・服薬・入浴運動・外出など	5	6	3	1	0	1	16
介護・看護・養育	5	28	1	0	0	0	34
社会生活(仕事・運動・外出)	3	2	1	0	0	0	6
医療費・生活費・社会保障制度	10	10	0	0	0	0	20
補完代替医療	18	22	3	0	0	0	43
不安・精神的苦痛	71	92	3	0	0	0	166
告知	1	9	0	0	0	0	10
医療者との関係・コミュニケーション	28	21	6	0	0	0	55
患者-家族の関係・コミュニケーション	4	17	1	0	0	0	22
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	1	1	0	0	0	0	2
患者会・家族会	5	2	1	0	0	0	8
その他	23	34	14		0	1	72

★緩和医療課のがん相談 422 件の内訳は『緩和医療課』のページに詳細掲載。

【院外会議】

鹿児島県がん相談員部門会議（鹿児島大学病院）7月：原口、植屋 11月：原口、大西 3月：大西、植屋
地域連携会議（相良病院主催）：9月：大西、岩山 2月 大西、植屋

【その他】・南日本情報リビング メディカルナビにて紹介（2月）

・今村病院分院よりがん相談支援センター見学 3月19日（3名）



医療安全管理課

課長 千田 清美

当院は、医療安全対策加算1を取得しており、組織的な医療安全活動を促進するため、医療安全対策委員会が設置され、チーフ統括セーフティマネージャー（副院長1名）を委員長とし、各部署へのセーフティマネージャー、安全管理活動を実務とする専従の医療安全管理者および医薬品安全管理責任者と医療機器安全管理責任者を配置しています。平成26年度より、専従医療安全管理者として看護師1名が増員され、医療安全管理課のスタッフは看護師2名の体制となりました。今後も、各部門・部署の安全管理担当者と連携を図り、現場の安全と業務の質向上を目指し取り組んでいきたいと考えています。

【スタッフ】

看護師 千田清美、長野みつ美

【部門実績及び活動内容】

- ・1回/週の安全管理部門カンファレンス開催（第1火曜日と毎週月曜日）
- ・医療安全対策委員会開催（毎月第2水曜日）
- ・看護医療安全対策委員会参加（毎月第3火曜日）
- ・診療録検討委員会および診療録監査への参加（毎月第2火曜日と第4金曜日）
- ・院内報告システムにおけるレポートの管理および定例会でのフィードバック
- ・外部情報の提示（東京海上日動メディカルサービス株式会社からのリスクマネジメント情報、医療機能評価機構発行の医療安全情報、PMDA情報など）
- ・医療安全管理指針の見直し
- ・患者相談（3診療科において対応事案あり）
- ・多職種チーム活動（RSTチーム〈木曜日/週〉、口腔ケアチーム〈金曜日/週〉）
- ・院内BLS講習会及びICLS講習会の開催

【医療安全管理部門カンファレンス（1回/週）】

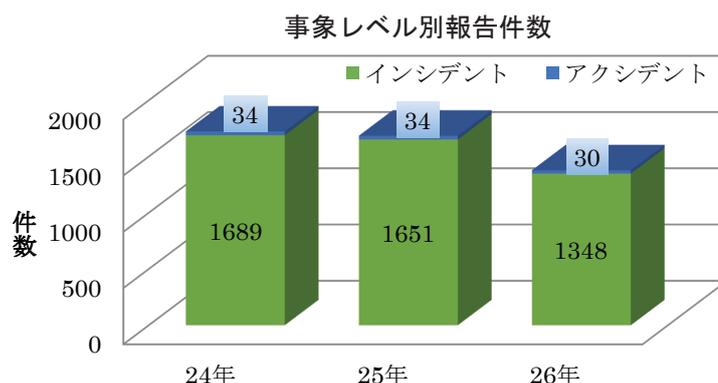
第1週目は火曜日、2週目以降は月曜日に毎週定例で開催。カンファレンス開催前1週間分の登録されたインシデントレポートを情報共有し、要因と改善策について検討。

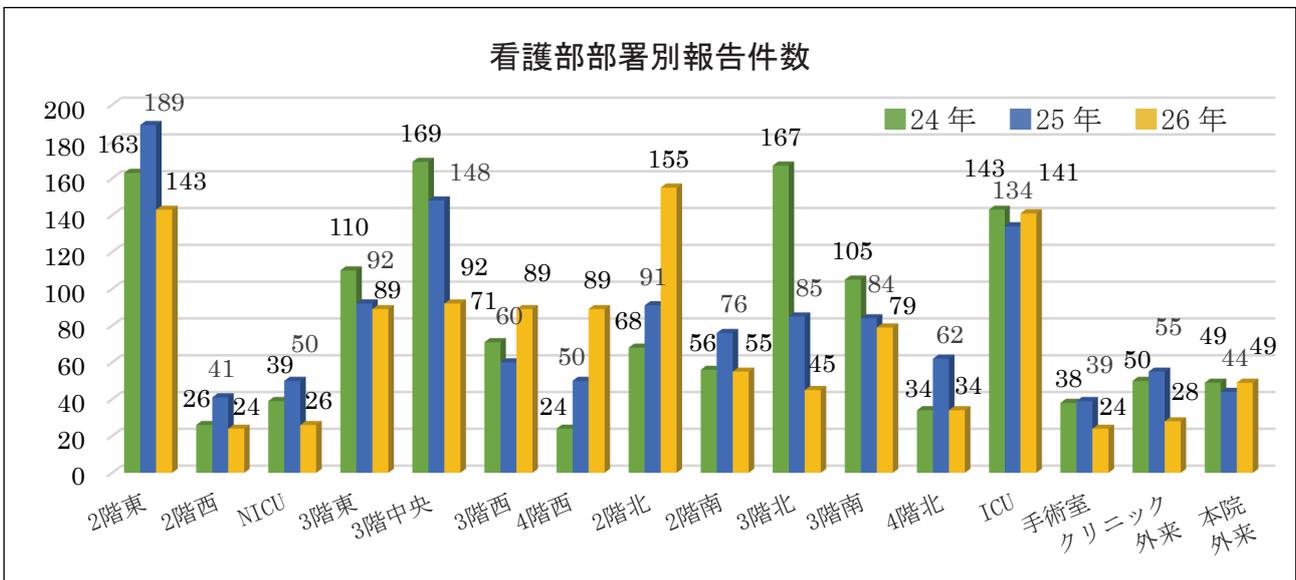
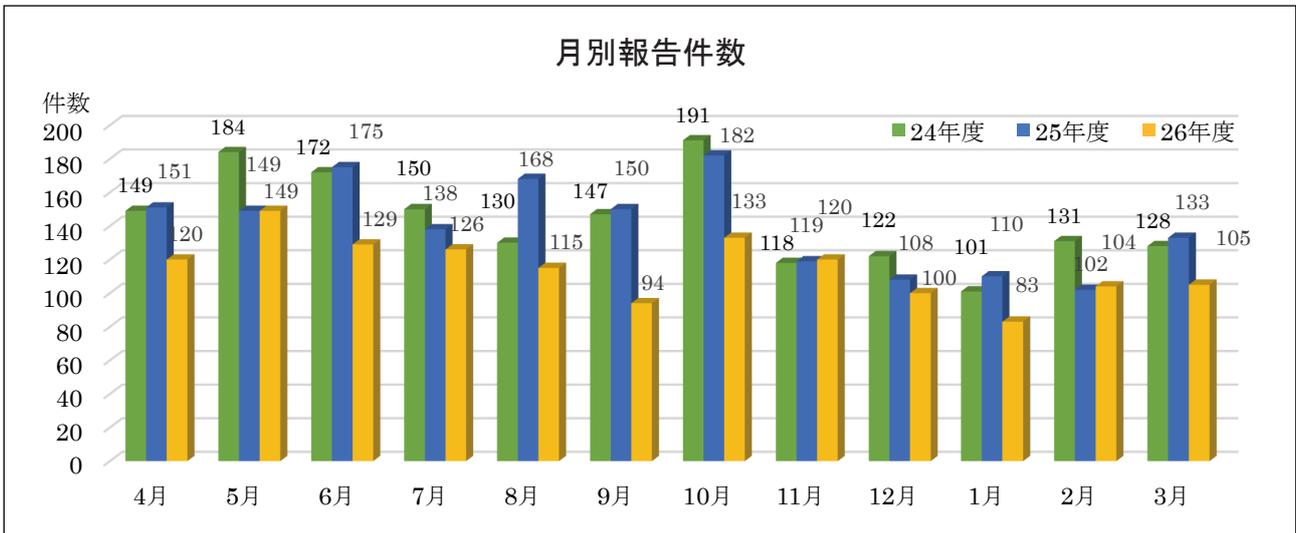
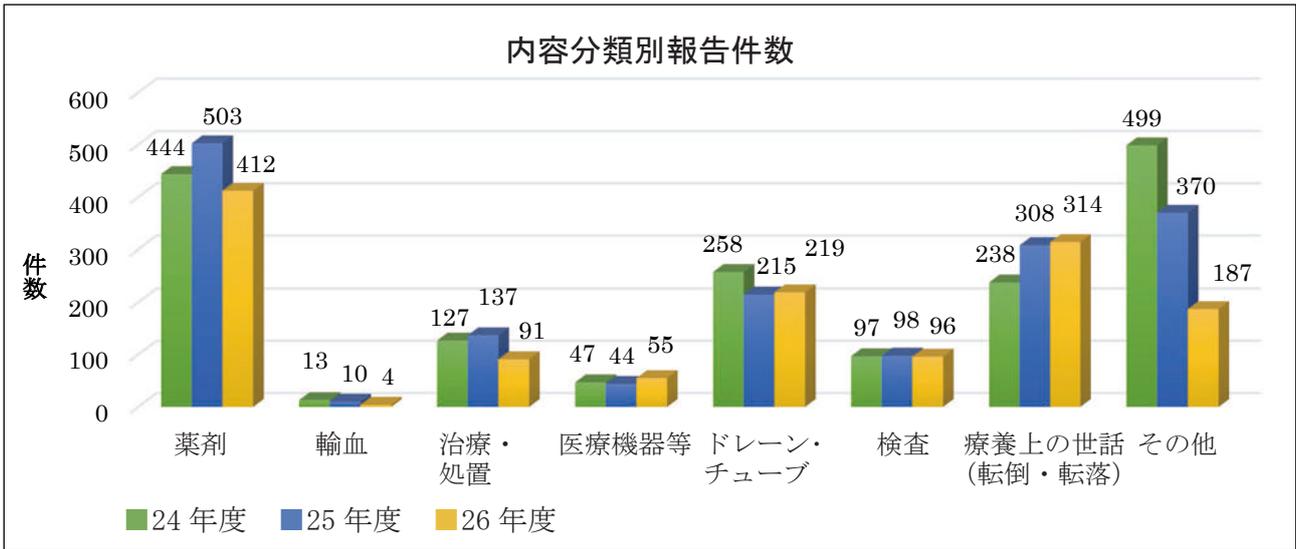
〈カンファレンスメンバー〉

松永俊二副院長（チーフ統括セーフティマネージャー）、高橋真理（医薬品安全管理責任者）
斎藤謙一（医療機器安全管理責任者）、岩下邦子（看護副部長）、山下真理恵（看護安全対策委員会委員長）
千田清美（専従医療安全管理者）、長野みつ美（専従医療安全管理者）、田中英樹（施設課課長）
野口桂一（事務局長）、川井田祐一郎（事務局長代理）、濱田敏彦（クリニック事務長）
益田阿佑美（総務企画課）：書記

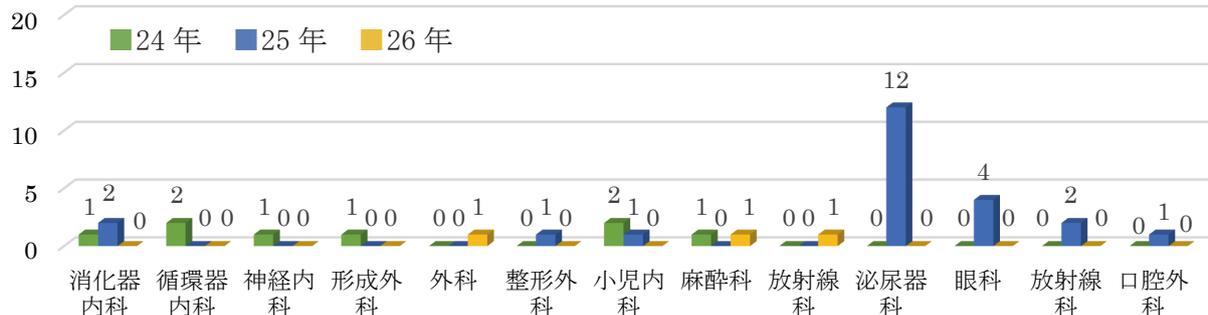
【院内報告件数の推移：平成24年～26年】

平成26年度の報告件数は1378件の登録があり、前年度より307件の減少を認めました。事象レベル別では、インシデント98%・アクシデント2%の割合でした。薬剤は全体の30%と前年度と変わらない割合でしたが報告件数としては91件の減少となりました。報告者割合は、看護職が81%を占めていました。

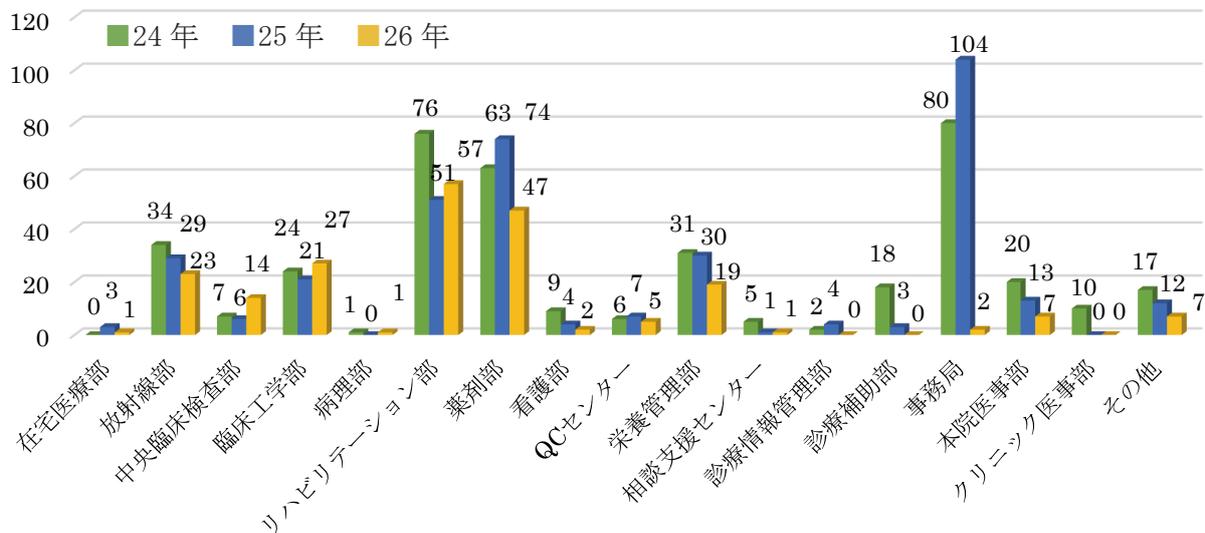




診療科別報告件数



コメディカル部門別報告件数



【平成 26 年度 院内教育研修】

日程	内容	対象者
平成 26 年 3 月 27 日 13:30~16:10	医療安全管理について、個人情報の保護について	新入職者 45 名
平成 26 年 4 月 3 日 16:00~17:00	医療安全管理の基本的考え方	研修医 2 名
平成 26 年 4 月 30 日 17:30~18:30	院内報告の傾向、ヒューマンエラーの考え方、患者確認、病院の暴言・暴力	リハビリテーション部門 60 名
平成 26 年 5 月 8・9 日 2 日間 12:30~13:30	食事・栄養に関する安全管理	栄養管理課・厨房職員・ 日清医療食品 43 名
平成 26 年 6 月 3 日 17:30~18:30	医療安全意識調査結果と患者確認のポイント、エラー要因とエラー対策	歯科口腔外科 8 名
平成 26 年 6 月 23 日 17:15~18:00	医療安全～事象レベルについて、医療安全意識調査の結果と患者確認のポイント、エラー要因とエラー対策	4 西病棟スタッフ 20 名
平成 26 年 7 月 16 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー:医療安全の取り組み 血糖測定インシデントのエラー対策を考える	レベル4 21 名
平成 26 年 8 月 26 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー:薬剤インシデント	レベル3 27 名

平成 26 年 9 月 9 日 13:30～14:30	看護部クリニカルラダー:安全確保と危険認識、KYT	レベル2 29 名
平成 26 年 10 月 3 日 13:30～14:30	看護部クリニカルラダー:転倒・転落、病院の暴言・暴力	レベル4 19 名
平成 26 年 10 月 31 日 18:00～19:30 11 月 1 日 13:30～15:00	医療安全多職種研修 患者・家族を不安にさせない対応を考えよう ～医療者の連携不足の事例を通して～ 東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室 玉利英子先生	全職員対象 2 日間:719 名
平成 26 年 11 月 14 日 14:40～15:40	看護部クリニカルラダー:転倒・転落への対策 ～GW	レベル4 19 名
平成 27 年 3 月 6 日 13:30～14:30	看護部クリニカルラダー:まとめ	レベル4 11 名

【救急蘇生ワーキンググループ】

当院職員を対象に、日本救急医学会認定プログラムのBLSコースとICLSコースを開催。BLSコース100名、ICLSコース18名の受講生に修了証が発行されました。

○コースディレクター

西山淳(麻酔科)

○インストラクター

齊藤謙一(臨床工学技士)、橋口恒夫(救急認定看護師)、尾堂知子(看護師)、有菌さつき(看護師)、熊迫智枝(看護師)、伊野知余子(看護師)、永田恵理(看護師)、小野保代(看護師)、藤崎真美(看護師)、千田清美(看護師)、古市寿子(理学療法士)

日 程	内 容	対 象 者
平成 26 年 5 月 23 日	院内 BLS 講習会	受講希望者 6 名
平成 26 年 6 月 29 日	ICLS コース(鹿児島大学総合臨床研修センター)	受講希望者 6 名
平成 26 年 6 月 30 日	救急看護:院内 BLS 講習会	新入職者 32 名
平成 26 年 7 月 25 日	院内 BLS 講習会	受講希望者 12 名
平成 26 年 8 月 24 日	ICLS コース(鹿児島大学総合臨床研修センター)	受講希望者 6 名
平成 26 年 9 月 12 日	院内 BLS 講習会	受講希望者 12 名
平成 26 年 11 月 14 日	院内 BLS 講習会	受講希望者 14 名
平成 27 年 1 月 16 日	院内 BLS 講習会	受講希望者 12 名
平成 27 年 2 月 7 日	ICLS コース(鹿児島大学総合臨床研修センター)	受講希望者 6 名
平成 27 年 3 月 6 日	院内 BLS 講習会	受講希望者 12 名

【その他の活動】

鹿児島県看護協会において委員会活動を実施しました。

(鹿児島地区医療安全情報ネットワーク委員会 委員 千田清美)

1、鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議

平成 26 年 7 月 24 日(木) 18:30～20:00 鹿児島市医師会病院

平成 26 年 10 月 30 日(木) 18:30～20:00 鹿児島市医師会病院

平成 27 年 1 月 22 日(木) 18:30～20:00 鹿児島市医師会病院

・鹿児島県医療安全情報ネットワーク会義

平成 27 年 1 月 31 日(土) 11:00～13:00 鹿児島県看護研修会館

2、鹿児島県看護協会評議員会

平成 26 年 8 月 22 日(金) 14:00～17:00 鹿児島県看護研修会館

平成 26 年 11 月 28 日(金) 14:00～17:00 鹿児島県看護研修会館

平成 27 年 1 月 23 日(金) 14:00～17:00 鹿児島県市町村自治会館

3、鹿児島県看護協会医療安全研修

平成 26 年 9 月 27 日(土) 8:30～17:00 鹿児島県看護研修会館

平成 27 年 2 月 28 日(土) 13:00～16:00 鹿児島県看護研修会館



褥瘡管理課

主任 下前百合香

1、スタッフ 4 名(皮膚・排泄ケア認定看護師 1 名、日本褥瘡学会認定師(看護師)1 名、事務 1 名、平成 26 年 12 月 15 日～増員：皮膚・排泄ケア認定研修修了者 1 名)

2、部門実績

業務内容：・入院患者の褥瘡対策・褥瘡患者管理、スタッフ指導、形成外来との連携
⇒詳細は褥瘡対策委員会報告書参照

- ・褥瘡対策患者抽出し予防訪問
- ・スキンケア・創傷ケア・ストーマケアコンサルテーション
- ・NPWT(VAC・RENASYS・PICO) 製品物品管理
- ・体圧分散寝具管理(除圧マット・Air マット・ポジショニングクッション)
- ・褥瘡回診(毎週月曜日 14:00～)
(形成外科医、皮膚・排泄ケア認定看護師(下前)、日本褥瘡学会認定師(看護師：逆瀬川)、皮膚・排泄ケア認定研修修了者(椎木)、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、各病棟スタッフ)
- ・NST カンファレンス・回診：日本褥瘡学会認定師(看護師：逆瀬川)参加(毎週火曜日)
- ・褥瘡対策委員会開催(毎月第 1 水曜日：17:15～18:15)
- ・NST 委員会会議参加(毎月第 1 水曜日：13:15～13:45)
- ・札幌市立大学看護学部：「褥瘡患者立脚型 QOL 評価指標の開発研究」調査協力
- ・褥瘡勉強会開催(偶数月開催)

日時	内容	担当講師	参加人数
4 月 3 日	「褥瘡予防対策・治療」(対象：研修医)	褥瘡管理課：下前	2 名
4 月 23 日	「チームで取り組む褥瘡予防」	褥瘡管理課：下前	111 名
6 月 26 日	「褥瘡に関わる診療報酬と記録用紙」	褥瘡管理課：下前	142 名
8 月 27 日	「スキンケア」	褥瘡管理課：逆瀬川	120 名
10 月 5 日	県内 皮膚・排泄ケア認定看護師、その他関係者対象 WOCN に係わる 医療マネジメント 「平成 26 年度診療報酬改定」について	3Mヘルスケア株式会社 高水勝氏	WOCN：11 名 医事・診療情報部 (4 名)
10 月 23 日	「ポジショニング～考え方と方法について～」	パラマウントベッド株式会社 PT 小池清貴氏	124 名
12 月 17 日	「褥瘡・創傷治療に使用する薬剤について」	薬剤部：古賀・竹内	75 名
平成 27 年 2 月 25 日	「DESIGN-R」について	褥瘡管理課：下前	83 名

- ・ストーマケア管理コンサルテーション
新規ストーマ造設患者数：20 名
(コロストーマ：10 名、イレオストーマ：7 名、尿管皮膚瘻術：1 名、回腸導管術：2 名)
ストーマサイトマーキング施行患者数：22 名
- ・ストーマ外来(診察日に合わせて日程調整)

3、学術実績 (学会発表・講演は研究実績の項目参照)

院外開催会議への参加(下前)

- 2014 年 5 月 14 日 日本褥瘡学会 第 11 回九州地方会学術集会(企画・運営会議)
- 2014 年 5 月 24 日 日本褥瘡学会 九州地方会世話人会会議
- 2014 年 7 月 10 日 日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会
第 7・8 回鹿児島県在宅褥瘡セミナー(企画・運営会議)
- 2014 年 8 月 30 日 日本褥瘡学会 第 1 回日本褥瘡学会危機管理ネットワーク会議
(第 16 回日本褥瘡学会学術集集中開催)
- 2015 年 3 月 14 日 日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会
第 8 回鹿児島県在宅褥瘡セミナー(企画・運営会議)



緩和医療課

主任 植屋 明代

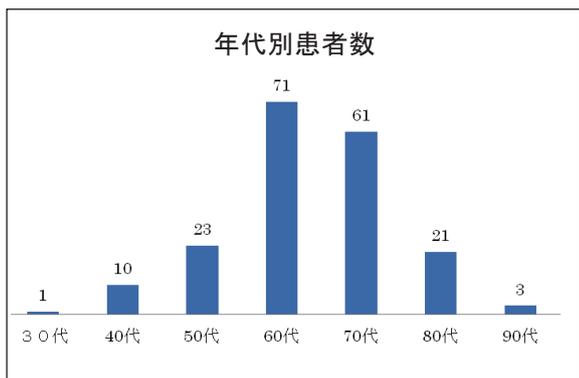
平成 26 年度は“地域がん診療連携拠点病院”として 3 年目を迎え、緩和ケアチーム依頼やがん相談も少しずつ増え、私達の役割も浸透しつつあるようです。緩和ケア・がん相談だけでなく、研修企画やリレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしまに病院あげて参加、ホスピス緩和ケア週間も今年度は新たに『希望の木 (wish tree)』作成など行い啓蒙活動にも取り組みました。患者サロン等いずれの企画も当院は本当にスタッフの協力が良くて感謝しています。

今後も自己研鑽に努め、タイミングよく患者様・ご家族をサポートできるよう、みなさんの協力を得ながら緩和ケア実践と共に、病院全体のがん看護とがん相談の質の向上、広報・周知に力を入れていきたいと思ひます。

- スタッフ：緩和ケアチーム専従 緩和ケア認定看護師：大西玲子・岩山友紀
がん相談支援センター専従 保健師：植屋明代

●緩和ケアチーム実績

チーム依頼件数：190 名(男 88 名・女 102 名 / がん患者 189 名・非がん患者 1 名)



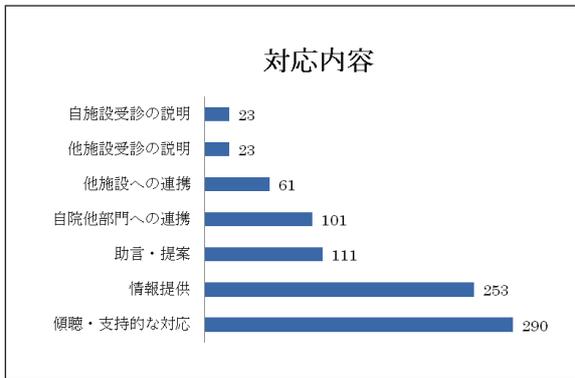
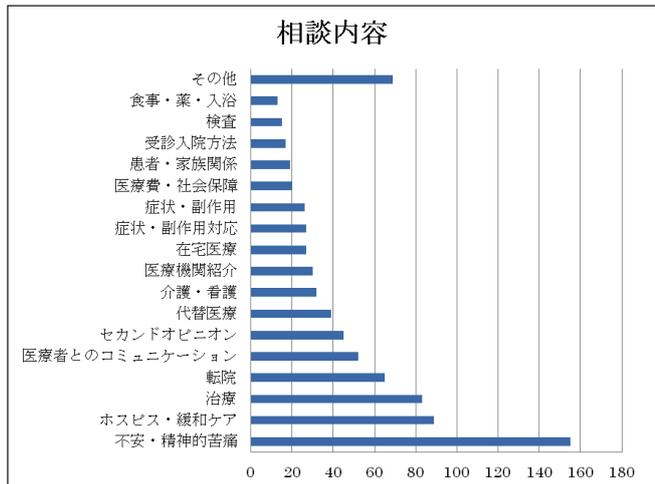
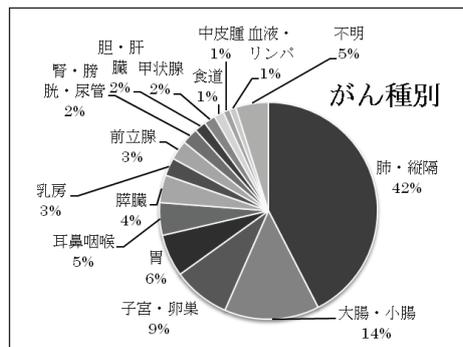
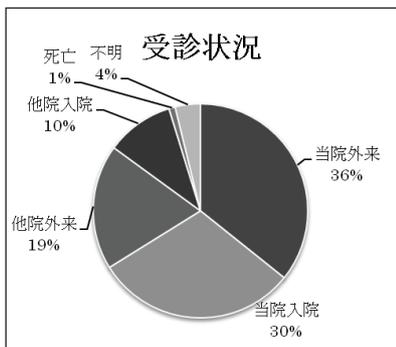
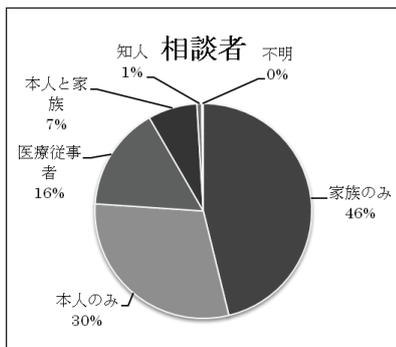
診療科別依頼内容 (重複依頼あり)

診療科	がん性疼痛	疼痛以外の症状	精神症状	家族ケア	倫理的問題	地域連携退院支援
外科	30	10	50	0	0	3
呼吸器外科	6	2	11	1	0	1
呼吸器内科	11	10	18	1	0	6
消化器内科	7	5	9	2	0	6
総合内科	1	1	0	0	0	0
整形外科	10	1	4	0	0	0
耳鼻科	1	0	0	0	0	1
脳外科	0	0	1	0	0	0
婦人科	7	3	14	0	0	0
形成外科	1	1	2	0	0	0
血液内科	2	0	4	0	0	0
泌尿器科	3	2	0	0	0	0
放射線科	1	0	0	0	0	0

●がん相談支援センター(緩和医療課対応分)

相談件数：422 件

(面談：270 電話：143 メール：9 / 初回：161 2回目以上：261)



●ほっとサロン今給黎(第3水曜日 13:00～15:00)

がん患者さん、ご家族が安心して思いを語り合う場として、がんサポートかごしまと協働で開催しています。

月	ミニ勉強会テーマ	担当	参加者(スタッフ含)
4	バルーンアートを作ろう!	藤山みどり(副看護部長)	21
5	ウィッグライフ～選び方・過ごし方～	園田順子(wellina ウェリナ鹿児島)	12
6	がんの治療について	河原尚美(がん化学療法看護認定看護師)	9
7	良好な栄養状態を保つために	田中美帆(管理栄養士)	13
8	ヒトは死んだらどこに行くのか?～緩和ケア医の立場から～	松添大助(緩和医療科身体症状担当)	16
9	絵手紙を書こう!	がんサポートかごしま	10
10	眠れないときはどうする?	小玉哲史(緩和医療科精神症状担当)	8
11	がん患者さんの社会保障	原口一博(医療ソーシャルワーカー)	13
12	クリスマス	参加者のみなさん	17
1	認定看護師さんがいるのを知っていますか?	岩山友紀(緩和ケア認定看護師)	7
2	みんなでストレッチ	古市寿子(作業療法士)	7
3	絵手紙を書こう!	がんサポートかごしま	6

●がん・緩和ケア研修会(2～3ヶ月1回企画)

日付	テーマ	講師	人数
H26. 5. 29	今から使える精神腫瘍学 ～有効に精神科医を使ってもらうためのお願いも含めて～	小玉哲史医師(緩和医療科)	126
7. 23	ヒトは死んだらどこに行くのか?～緩和ケア医の立場から～	松添大助医師(緩和医療科)	127
10. 9	プロフェッショナル仕事の流儀～がん専門看護師田村恵子の仕事～	DVD	66
H27. 3. 8	在宅緩和ケアの実際～訪問看護の立場から～	森恵看護師 訪問看護ステーションかりん	64

●セカンドオピニオン外来 3件

性別	年齢	がん部位	相談内容	対応医師
男	61歳	肺がん	治療方針について	米田(呼吸器外科)
男	63歳	肺がん	診断・治療方針について	米田(呼吸器外科)
女	58歳	肺がん	治療方針・手術方法について	米田(呼吸器外科)

●がん患者カウンセリング料算定(緩和ケア認定看護師大西・岩山対応分)

総数件 58 件 *21 件は未確定診断、研修未終了医師のため算定不可

●退院支援(緩和医療課対応：緩和ケアチーム+がん相談支援センター)(人数)

緩和ケア病棟(計 34)：中央病院(14)相良病院(9)堂園メディカルハウス(6)南九州病院(2)
出水郡医師会広域医療センター(旧阿久根市民病院)(2)鹿児島市医師会病院(1)
緩和ケア病棟・外来(計 28)：天陽会中央病院(17)相良病院(3)南九州病院(3)
堂園メディカルハウス(2)鹿児島市医師会病院(2)今村病院(1)
他医療機関(計 23)：垂水中央(2)湯田内科(2)田上病院・池田病院・鹿児島大学病院・厚生連病院・
内村川上・小田代病院・杉安病院・鹿屋小林クリニック・川内医師会病院・
久保内科・浩然会病院・おやまクリニック・こまきクリニック、加治木温泉病院・
肝属郡医師会病院・済生会川内・希望ヶ丘病院・南さつま中央病院・
指宿医療センター
在宅医療(計 16)：当院在宅医療部(6)ナカノ在宅医療クリニック(1)内村川上内科(1)
五反田内科(1)こまきクリニック(1)訪問看護 St こもれ陽(2)
ナカノ訪問看護 St (1)よしの訪問看護 St (1)
いぶすき訪問看護 St (1)訪問看護 St なのはな(1)

●図書の閲覧・貸出利用者(がん相談支援センター図書) 36名利用(貸し出し：計 63冊)

●リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま 2014 参加

平成 26 年 5 月 10 日(土)正午～11 日(日)正午 呼びかけ“今給黎総合病院チーム”で参加。
24 時間リレーウォーク参加：56 名 ルミナリエバッグ：計 150 枚

●学術実績

- ・学会発表は研究実績の項目参照
- ・講義(院内)看護部研修クリニカルラダーレベルⅠ「我が国におけるがん対策と当院の現状」植屋
〃 レベルⅡ「マウスケア」「エンゼルメイク」岩山
〃 「看護過程」大西
〃 レベルⅣ「がん看護～ガイドランス～」大西
〃 「がん看護～終末期～」「退院前カンファレンス」岩山
- ・院外講師派遣 NPO 法人がんサポートかごしま 「子どもたちに伝えたいがんの基礎知識」大西
〃 「がんってどんな病気？」大西
- ・ほっとサロン今給黎ミニ勉強会「認定看護師さんがいるのを知っていますか？」岩山
- ・研修協力 緩和ケア研修会ファシリテーション 当院：大西・岩山・植屋
〃 鹿児島医療センター：大西・岩山
〃 南風病院：大西

●その他の活動

- ・緩和ケアチームラウンド・カンファレンス(木曜日午後)
- ・病棟カンファレンス・キャンサーボード参加(随時)
- ・呼吸器内科回診参加(金曜日)
- ・在宅医療部カンファレンス参加(第 2・4 火曜日)
- ・化学療法緩和ケアネットワーク(第 1 木曜日)
- ・がん看護委員会(がん関連認定看護師で企画実施)(第 1 木曜日)
- ・緩和ケアに関する地域連携会議(相良病院 2 回/年)
- ・鹿児島県がん相談支援センター部門会議(鹿大病院 2 回/年)
- ・緩和医療科・精神腫瘍科診療の調整・補佐
- ・緩和ケア週間にて PR(10/5-11) 願いの木(wish tree)作成
- ・パンフレット・リーフレットにより情報提供、広報・周知活動、図書館“すまいる”へパンフレット等提供
- ・誕生日カード、グリーフケア(電話・手紙での遺族ケア)・鹿児島県がん相談員メーリングリスト管理
- ・患者図書運営委員会 ・職員教育研修委員会 ・病院運営会議(第 2 月曜日)



感染管理課

立和名聖子

平成 24 年 3 月より QC センターへ感染管理課が新設され専従の感染管理者が配置されている。

当院は、感染防止対策加算 1・地域連携加算を取得しており本年度は、鹿児島赤十字病院の方が赴き当院の感染対策の評価が行われた。指摘事項を関連部署へ通知し改善へ向けた取り組みが行われている。院内では、感染対策チームによる週 1 回の抗菌薬カンファレンスや耐性菌検出状況確認、環境ラウンドを行っており常時、監視・指導を行い院内感染対策の遵守率向上に向け活動している。

感染に関わる組織として院内感染防止対策委員会、感染対策チーム、感染管理課、看護部リンクナース会がある。ほぼすべての感染情報が当課に集結されるため院内の情報を整理し迅速に関係部署へ伝達・介入できるように調整している。また、当課だけで解決困難事例は委員会や感染対策チームへ提示し解決に向け方向性が明確になるよう取り組んでいる。

今年度も各地で様々な感染症発生があった。全国的に感染拡大がみられたインフルエンザに関しては院内でも慎重な判断を要した。厚労省や県からの情報を察知し全職員へメール配信などで注意を呼びかけまた、早期より職員や面会者への対策を実施した。発生数は例年に比べ多い状況であったが職員発生の減少、院内発生は例年と変わらず、入院時持込増加といった状況であり早期の感染対策が功を奏した。新たな取り組みとしてカテール関連尿路感染サーベイランスを開始した。今年度の結果をベースデータとして今後の感染率・感染対策の評価を行っていきたい。

今後も、患者と医療従事者の両方を無用な感染から守るために日々活動していくことが責務であると考えている。

【スタッフ】 1 名(感染管理認定看護師)

【部門実績】

院内感染防止対策委員会の運営(毎月第 4 水曜日)

感染防止対策加算合同カンファレンス 4 回実施(米盛病院)

開催日	主な内容
6 月 19 日	症例検討(水痘)、抗菌薬使用状況
7 月 24 日	平成 25 年度針刺し報告と対応、JANIS 検査データ報告、抗菌薬使用状況
12 月 5 日	米盛病院感染ラウンド、抗菌薬使用状況
3 月 4 日	インフルエンザ・感染性胃腸炎発生状況と対策、インフルエンザ予防投与アンケート結果と今後の課題、抗菌薬使用状況

感染防止対策地域連携加算相互評価の調整、計画、実施(鹿児島赤十字病院、今村分院と連携)

ICT 会議、ラウンド(毎週水曜日)の調整、実施

看護部リンクナース会の運営(毎月第 1 火曜日)

院内の相談 103 件

相談項目	件数	相談項目	件数
環境整備	3	ケア手順	1
患者配置	16	就業制限	1
消毒・滅菌	3	廃棄物	5
培養結果	0	職業感染	3
感染	51	その他	20

院外からの相談 9件

- カテーテル関連尿路感染サーベイランス(2病棟で開始)
- 血液培養セット数に関するサーベイランス
- 厚労省サーベイランス事業(JANIS)全入院部門参加(1月～)
- 速乾式アルコール消毒剤使用量サーベイランス(全病棟対象1月～開始)
- 手洗い強化月間(リンクナース会主導で手洗い評価、全病棟対象)
- 職種別感染対策指導
- 感染発生時の保健所報告と対応(デング熱疑い、結核接触者検診)
- 院内感染防止対策マニュアルの改訂(インフルエンザ、緑膿菌)
- 感染物品の整理(プラスチック手袋、ディスポガウンなど)

【学術実績】

院内感染研修

(全職員対象)

- 第1回 院内感染対策の基礎知識～手指衛生の重要性～ 講師：戸島英城氏
参加率：92%
- 第2回 インフルエンザ・ノロウイルスの流行に備えて 講師：村岡正浩氏
参加率：96%

(看護部)

- クリニカルリーダーⅡ：手指衛生 KYT
- リーダーⅢ：感染管理～経路別対策が必要な患者発生時の対応 リーダーとして～
- リーダーⅣ：基礎 4回実施
感染の基礎、医療器具関連感染について、感染予知訓練、
実践活動報告
- 応用 4回実施(感染ベストプラクティス)

看護助手研修：感染性廃棄物について(DVD視聴)

リンクナース会：ミニレクチャー 全2回

(研修医) 研修医ガイダンス「感染」

院外講演会・学会発表は研究実績の項目参照



がん化学療法課

主任 河原尚美

【はじめに】

平成24年12月に、がん化学療法をうける患者様やご家族、または化学療法にかかわる看護師への支援を目的にがん化学療法課が新設されました。平成26年度は、化学療法を安全に行うための環境調整を薬剤部とともに取り組みました。

がん化学療法看護認定看護師は、がん化学療法が治療の選択肢となる治療期の患者・家族を対象に治療の決定から化学療法薬の投与管理、治療中および治療後の経過のなかで行われる身体的・心理社会的側面からの看護を主体としています。その役割をふまえ、がん化学療法に関わる全ての人が安心して治療を行えるようサポートしていきたいと考えております。

【スタッフ】

河原 尚美 2013年 がん化学療法看護認定看護師取得

【部門実績】

- 化学療法緩和ケアネットワーク委員会（毎月第1木曜日）
- がん看護委員会開催（毎月第1木曜日）
- 外来化学療法室での直接ケア、病棟訪問し指導
- スピルキット作成への取り組み
- 歯科との連携への取り組み
- 閉鎖式器具導入への取り組み
- 龍桜高等学校専門課程2年生（H26.6.17 6.24） 1年生（H26.12.10 12.17）授業
- 第15回臨床腫瘍夏期セミナー参加（H26.7/10-11）
- 第12回日本臨床腫瘍学会参加（H26.7/17-19）
- 第52回日本癌治療学会参加（H26.8/26-30）
- リンパ浮腫の予防に対する患者教育・指導に関する看護師研修参加（H26.11/1-3）
- がん研有明病院チーム研修参加（H27.3/26-28）

【相談】（H26.4～H27.3） 82 件

（投与管理・副作用について、手技に関して、曝露に関して、血管外漏出に関して、経口抗がん剤に関して、CVポートに関して、患者への看護に関して 等）

【院内での講義】

4/2 研修医への研修	5/29 「血管外漏出を知りましょう」	6/10 「CVポートの管理」
6/18 「がんの治療について」	6/23 「血管外漏出について」	6/24 「プロイメンドのミニレクチャー」
7/28 レベル4「がん看護」	8/22 「ロンサーフにミニレクチャー」	10/28 「CVポートフォローアップ研修」
11/25 「CVポートの管理」	11/28 レベル1「化学療法概論について」	12/1 レベル3「曝露について」
12/26 レベル1「血管外漏出について」	12/26 「イレッサについて」	1/21 CDDPショートハイドレーションについて
1/23 G-CSF 骨痛について	2/5 「2東レジメンについて」	3/23 レベル1「曝露と抗がん剤の副作用について」

計 18回



施設課

課長 田中英樹

【はじめに】

当課は、病院全体の施設の管理を行う部署で、24時間体制で業務を行っています。

病院の理念、基本方針、目標に沿って目標課題を毎年設定し達成できるように業務を推進しています。

また、病院で活動する全ての方に安全で快適な環境を提供するために建物、設備のメンテナンスをサポートしています。老朽化した建物、設備に対して単純に修理・更新の手配をするのみではなく、運営方針や経費対効果を考慮した、適切な修繕計画の策定も担っています。また東日本大震災以降、大規模災害時にも、建物の機能不全に陥ることがないよう、日常の点検業務・修繕に取り組んでいます。

【スタッフ】 7人体制

1・2級ボイラー技士、第1・2種電気工事士、危険物取り扱い、冷凍機、防火管理者等の有資格者

田中・米盛・佐々木・山元・小土橋・大迫・永野
資格を取得することだけでなく、どんな物でも修理できる発想力の豊かさが求められます。

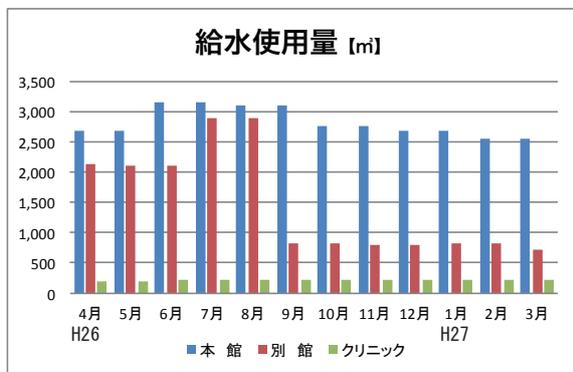
【実績】

4月	本・別館冷温水機分解整備 全館害虫駆除 エレベータ点検【全館】 医療ガス研修会	10月	熱交換器、分解整備 全館害虫駆除 自動ドア総合点検 エレベータ点検【全館】
5月	中材・消毒器性能検査【3缶】 本・別館、受・高架水槽清掃 クリニック電気年次精密点検 ホルムアルデヒド残留濃度測定 消防設備機器点検【本・別館】 エレベータ点検【全館】 総合防火訓練	11月	本館2号ボイラー性能検査 火祭り ホルムアルデヒド残留濃度測定 消防設備総合点検【本・別館】 ガス器具保守点検 本・別館冷温水機分解整備 総合防火訓練 エレベータ点検【全館】
6月	自動ドア総合点検 エチレングス残留測定 エレベータ点検【全館】 コンセントプラグ点検 消防設備機器点検【クリニック】	12月	本館1号ボイラー性能検査 エレベータ点検【全館】 コンセントプラグ点検 消防設備総合点検【クリニック】
7月	自家発電設備精密点検 手術室消毒器性能検査【2缶】 エレベータ点検【全館】	1月	医療ガス設備保守点検【本・別・クリ】 エレベータ点検【全館】
8月	別館ストレージタンク性能検査 窒素酸化物・ばいじん量測定 ガス器具保守点検 エレベータ点検【全館】	2月	本館ストレージタンク性能検査 本・別館電気年次精密点検 窒素酸化物・ばいじん量測定 エレベータ点検【全館】 汚水検査 自動ドア総合点検
9月	汚水検査 エレベータ点検【全館】	3月	CE設備検査 ガス器具保守点検 エレベータ点検【全館】 在庫管理

【給水使用量実績表】
2014年4月分～2015年3月分

単位【m³】

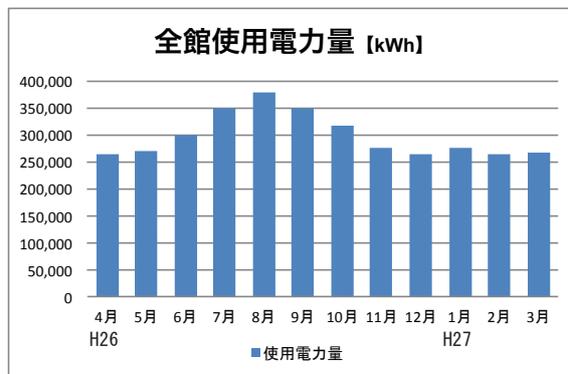
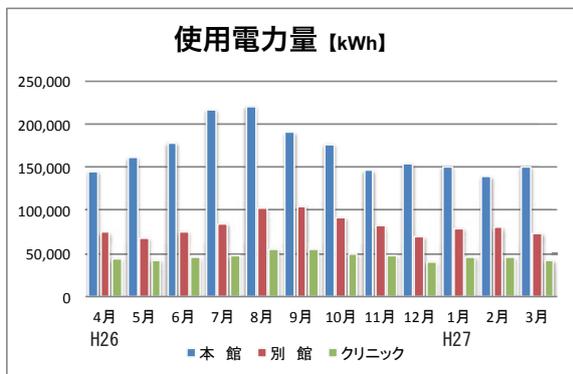
給水使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本館	2,686	2,687	3,139	3,139	3,110	3,110	2,768	2,769	2,684	2,684	2,552	2,552	33,880
別館	2,141	2,111	2,110	2,885	2,884	832	832	796	795	814	813	733	17,746
クリニック	206	205	222	221	218	218	228	227	219	219	217	216	2,616
合計	5,033	5,003	5,471	6,245	6,212	4,160	3,828	3,792	3,698	3,717	3,582	3,501	54,242



【電力使用量実績表】
2014年4月分～2015年3月分

使用電力量【kWh】

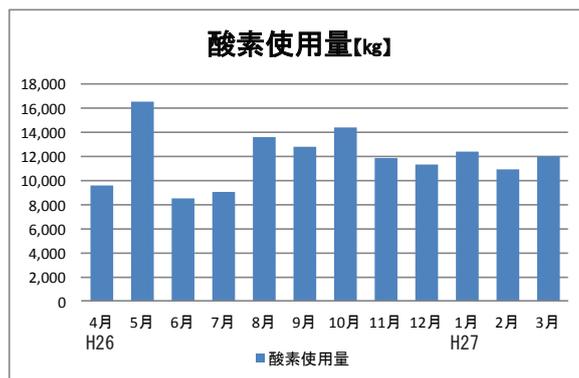
使用電力量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本館	144,696	160,476	177,444	215,868	219,864	189,720	176,556	145,716	153,720	150,144	138,456	150,264	2,022,924
別館	74,088	67,812	75,300	84,468	102,540	104,532	91,944	81,552	69,204	79,260	79,668	72,900	983,268
クリニック	44,058	42,600	45,216	47,658	55,002	54,468	49,236	47,394	40,482	46,356	45,126	42,096	559,692
合計	262,842	270,888	297,960	347,994	377,406	348,720	317,736	274,662	263,406	275,760	263,250	265,260	3,565,884



【医療用酸素使用量実績表】
2014年4月分～2015年3月分

使用電力量【kWh】

酸素使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
酸素使用量	9,580	16,501	8,470	9,025	13,608	12,728	14,396	11,756	11,271	12,380	10,830	11,941	142,486





栄養管理部

課長 上平田美樹

●スタッフ構成(平成27年3月末現在)

施設側：管理栄養士9名、NST専従管理栄養士1名、栄養士(事務)2名

日清医療食品(株)：管理栄養士1名、事務栄養士4名、厨房栄養士4名、

調理師11名、調理員11名、洗浄パート6名 合計49名

●認定資格取得状況(平成27年3月現在)

・病態栄養専門師認定	上平田美樹	鈴木聖子	鵜瀬裕美	田中美帆
・NSTサポートチーム専門療養士認定	上平田美樹	鈴木聖子		
・NSTコーディネーター認定	上平田美樹	鈴木聖子		
・糖尿病療養指導士認定	上平田美樹	鵜瀬裕美		
・がん病栄養態専門師認定	上平田美樹			
・認定褥瘡管理栄養士	鈴木聖子			
・健康運動療養指導士認定	鵜瀬裕美			
・特定保健従事者認定	鈴木聖子			

●栄養管理

今年度は、給食管理の見直しと病棟における活動の拡充を目標に活動して参りました。平成26年4月より新規配膳車及び食器の導入、給食委託の検討と連携を実施。病棟活動では、電子カルテを活用し、入院時から栄養不良や合併症予後因子を早期に発見しケアへと繋げ、褥瘡対策とリンクした栄養スクリーニングを実施。特別食が必要な患者様に於いては、栄養指導の早期介入と治療食に対する理解や生活習慣病改善に対しベッドサイドでの栄養指導の実施、糖尿病教室(集団指導)補助を行いました。その他、外科・呼吸器・回復期リハへのカンファレンス参加、緩和ケア回診・脳外科回診・神経内科回診・口腔ケア回診への同行など病棟活動への参加機会が増え、術前・術後の栄養改善、個別対応の調整、食事だけでなく栄養機能食品を効果的に用いるなど、栄養状態の早期改善や食事対応の充実を他職種と協働して行い、より良い患者理解と栄養介入へ繋げるよう尽力致しました。

地域向けの活動として、一般市民向け生活習慣病予防の為の講習会、在宅褥瘡に携わる専門スタッフへの講演、I型小児糖尿病患者会では患者家族を交えた講演会、がん患者の会(ほっとサロン今給黎)では、夏バテ予防の栄養状態を保つ為の講習会や試食も行いました。

当院給食施設は、平成26年5月23日に鹿児島県議会庁舎にて鹿児島県知事より「栄養関係功労者知事表彰」を受賞致しました。この賞は、昭和22年以来長年にわたり病院給食を実施し、衛生面に配慮した食事提供、患者様の栄養管理や栄養指導の実施、嗜好調査を配慮した内容の考慮、治療時の食事対応など、給食施設の実績に対して受賞に至りました。「安心・安全で喜ばれる給食」を目指し、給食スタッフ一丸となり、また病院スタッフのご協力の基、頂いた賞だと思っております。これを励みに、毎日の業務に精進して参りたいと思います。

●栄養指導

平成26年度の指導実績は、入院3,603件(前年度比109%)、今給黎総合病院外来栄養指導127件(前年度比72.6%)、昭和会クリニック外来栄養指導143件(前年度比82.2%)、合計3,905件(前年度比107.8%※1)という実績でした(疾患別内訳；図1参照、※1；栄養指導算定・非算定を含む実施数)。食習慣に起因する栄養指導(高血圧・心疾患・糖尿病・肥満・脂質異常症・痛風)は3,093件、全体の79.2%を占める結果となりました。近年CKD(慢性腎臓病)罹患者も増加傾向にあり、当院での指導実績でも指導件数の増加を示しました。今後も益々栄養士としての指導技能の向上や栄養教育、食習慣の改善の必要性があると考え、引き続き充実した活動と自己研鑽を行って参りたいと思います。

図 1) 年度別栄養指導件数の推移

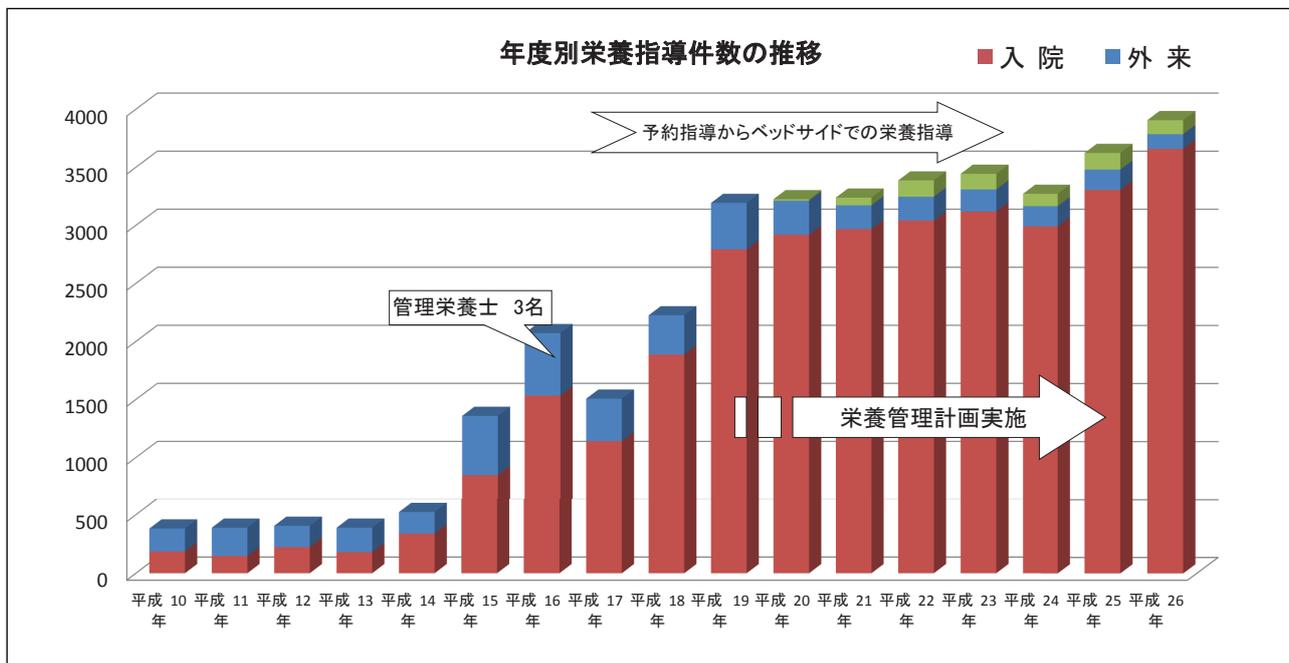
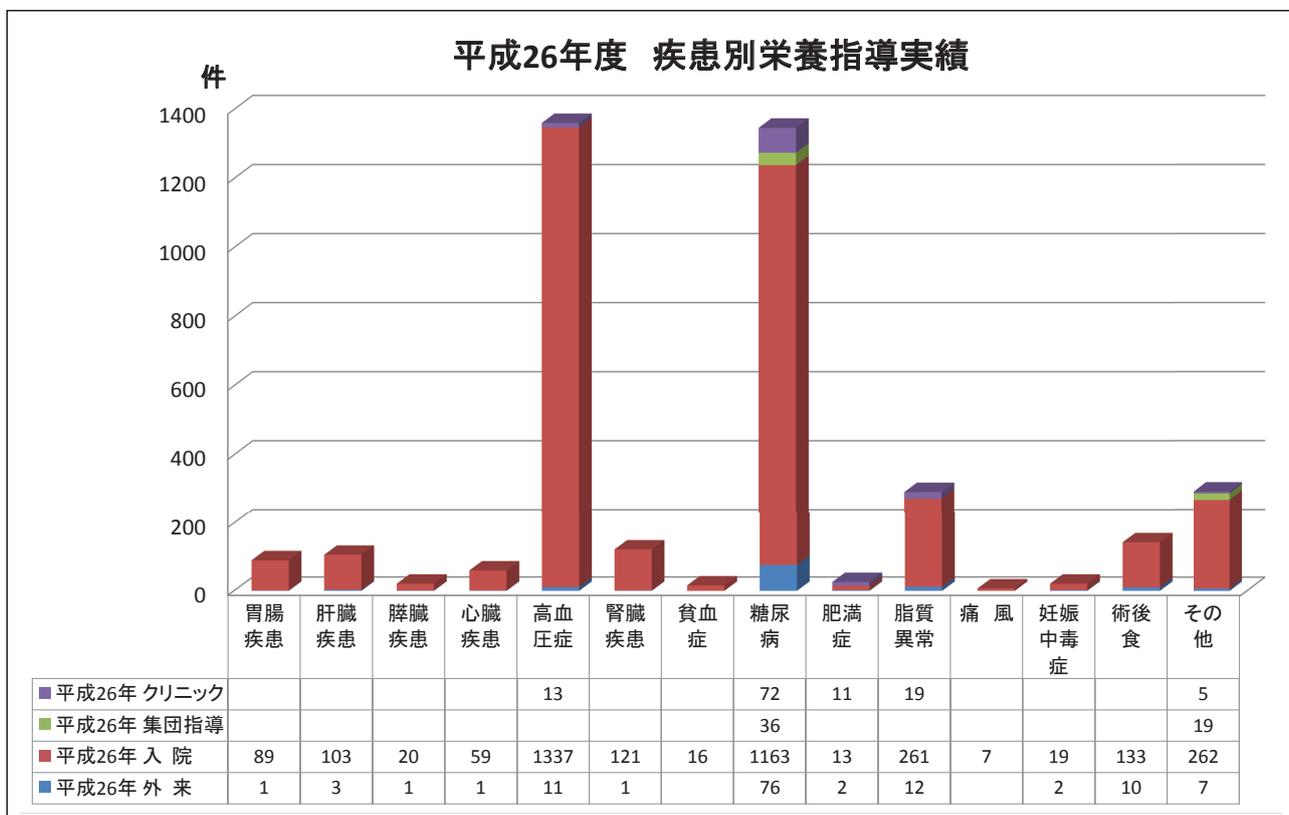


図 2) 平成 26 年度 疾患別栄養指導実績



●平成 26 年度 栄養管理部活動状況報告

・表彰

平成 26 年 5 月 23 日
鹿児島県知事より特定給食施設部門
「栄養関係功労者知事表彰」 表彰



・実習生受け入れ状況

平成 26 年 8 月 18 日～8 月 29 日 鹿児島純心短期大学 食物栄養専攻 2 年
給食管理実習(病院給食実習) 1 名
平成 27 年 3 月 2 日～3 月 13 日 九州女子大学 家政学部 栄養学科 3 年
臨地実習(I I)校外実習 1 名

・インターンシップ(職場体験学習)受け入れ

平成 26 年 11 月 12 日「病院における栄養士の役割」「給食体験」
鹿児島県立東高校 普通科 2 名

・病院施設の公開利用

平成 26 年 4 月 26 日 「みんなでいきいき健康まつり」
栄養相談及び食事提供 栄養相談コーナー・食事提供
協力スタッフ 上平田、鈴木、田中、染川、森田、鶴瀬、
日清医療食品 大西、中村、上平田(智)
平成 26 年 6 月 29 日 I 型小児糖尿病患者会 「さくらんぼの会」
1 型糖尿病の食事(カーボカウントを含む食事管理) 講師 上平田美樹
協力スタッフ 玉田医師、看護師 2 名、保育士 1 名、
管理栄養士 5 名(上平田、鈴木、田中、染川、鶴瀬)
平成 26 年 7 月 16 日 がん患者サロン 「ほっとサロン今給黎」ミニ勉強会
「良好な栄養状態を保つために」 講師 田中美帆
平成 26 年 7 月 31 日 在宅健康教室 夏場の熱中症対策 栄養相談 鈴木聖子
平成 26 年 10 月 25 日 第 7 回上町さるつきんぐ シルミル「メディカルコース」
「生活習慣病～食事を学ぼう」 講師 上平田美樹

・院外講師活動

平成 27 年 3 月 14 日 在宅褥瘡セミナー「栄養管理」 講師 鈴木聖子

・院外発表活動

平成 26 年 5 月 24 日 褥瘡学会九州地方会 「アルギニン補充患者の栄養状態」 鈴木聖子

・院外ボランティア活動

平成 26 年 5 月 10 日～11 日 リレーフォーライフ～命のリレー～ 上平田、鈴木、田中、福元
平成 26 年 6 月 21 日 第 10 回びくるすの会研究会 鈴木聖子 末平亜里沙
平成 26 年 7 月 26 日～27 日 第 45 回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ 鶴瀬裕美

・災害関連研修会への参加状況

平成 26 年 5 月 10 日 エマルゴ研修参加 上平田美樹
平成 26 年 8 月 30 日 JDA-DAT(栄養士会 災害支援チーム)研修 上平田美樹

・院外研修会参加

(鹿児島県主催)
平成 26 年 10 月 19 日 鹿児島県慢性腎臓病(CKD)に関する研修会
染川麻美 森岡万悠子 末平亜里沙
平成 27 年 3 月 23 日 鹿児島県保健所主催 給食従事者研修会 篠田佳那

(公益社団法人鹿児島県栄養士会主催研修会)

平成 26 年 5 月 17 日 総会及び研修会 染川麻美、鶴瀬裕美、森岡万悠子、末平亜里沙
平成 26 年 8 月 30 日 栄養士会生涯学習(栄養管理の基礎) 篠田佳那 松尾さやか
平成 27 年 2 月 1 日 栄養士会生涯学習(肥満・メタボ) 染川麻美 鶴瀬裕美

(鹿児島県医師会在宅医療提供体制推進事業)

平成 26 年 12 月 9 日 第 4 回関係職種の技術向上のための研修会 松尾さやか

・その他、研修会・学会参加状況

平成 26 年 4 月 19 日	PEG 研究会(鹿児島)	田中美帆
平成 26 年 5 月 24 日～25 日	褥瘡学会九州地方会学会及び教育セミナー(鹿児島)	上平田美樹、鈴木聖子
平成 26 年 5 月 22 日～23 日	糖尿病年次学術集会(大阪)	鶴瀬裕美
平成 26 年 6 月 7 日	鹿児島県糖尿病スタッフセミナー	篠田佳那、松尾さやか
平成 26 年 6 月 7 日	NST 研究会	鈴木聖子 田中美帆
平成 26 年 6 月 18 日	N+1 セミナー「嚥下・口腔ケア」	鶴瀬裕美
平成 26 年 7 月 20 日	病態栄養教育セミナー受験者用講習会(福岡)	田中美帆
平成 26 年 7 月 23 日	ネスレ臨床栄養セミナー	鈴木聖子 田中美帆
平成 26 年 7 月 28 日	鹿児島県健康づくり運動指導者協議会	鶴瀬裕美
平成 26 年 8 月 22 日	ウイズガスフォーラム	篠田佳那
平成 26 年 8 月 29 日～30 日	褥瘡学会(名古屋)	鈴木聖子
平成 26 年 11 月 29 日～30 日	日本糖尿病療養指導士認定機構主催 更新者用講習会(福岡)	鶴瀬裕美
平成 27 年 1 月 9 日～11 日	第 18 回日本病態栄養学会及び教育セミナー(京都)	染川麻美、鶴瀬裕美
平成 27 年 2 月 20 日～30 日	糖尿病学の進歩(岡山)	上平田美樹
平成 27 年 2 月 12 日～13 日	第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会(神戸)	鈴木聖子



診療情報管理部

主任 畑 中 幸 子

【院内がん登録集計(2013年1月1日～2013年12月31日)】

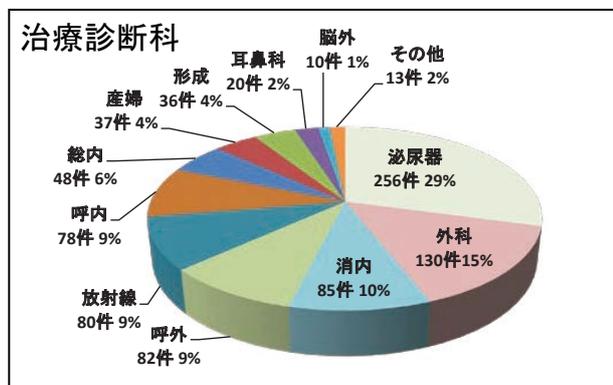
※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断および治療の対象となった症例

● 1腫瘍1登録 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録

①治療診断科

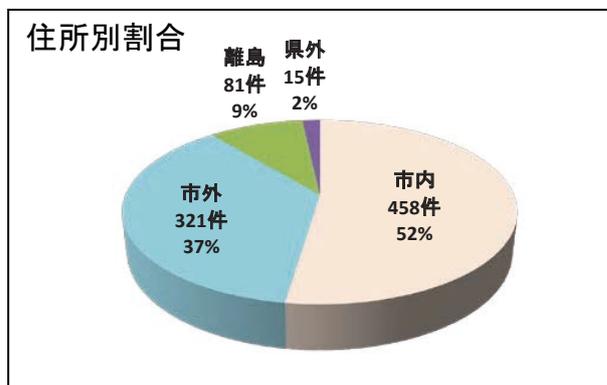
診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
治療を行った場合：初回治療を行った診療科
どちらも行った場合は、治療をした診療科を1としています

(例) 消化器内科にて診断、外科にて治療
⇒ 外科でカウント



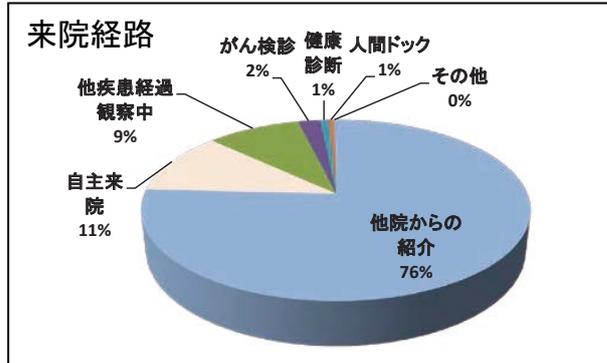
②住所別割合

患者様の居住されている地域別分類です。
市外では多い順に、薩摩川内市 40、始良市 37、日置市 31、離島では、種子島、屋久島の順になっています。



③来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。



④ 症例区分

診断治療の決定：

当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

他施設診断自施設治療：

がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

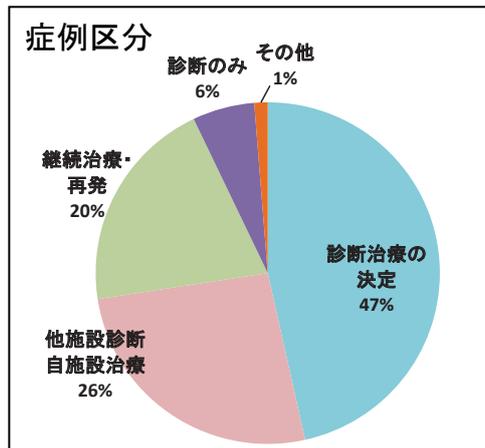
継続治療・再発：

他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例
もしくは、他施設にて治療後、再発し、当院にて治療を行った症例

診断のみの症例：

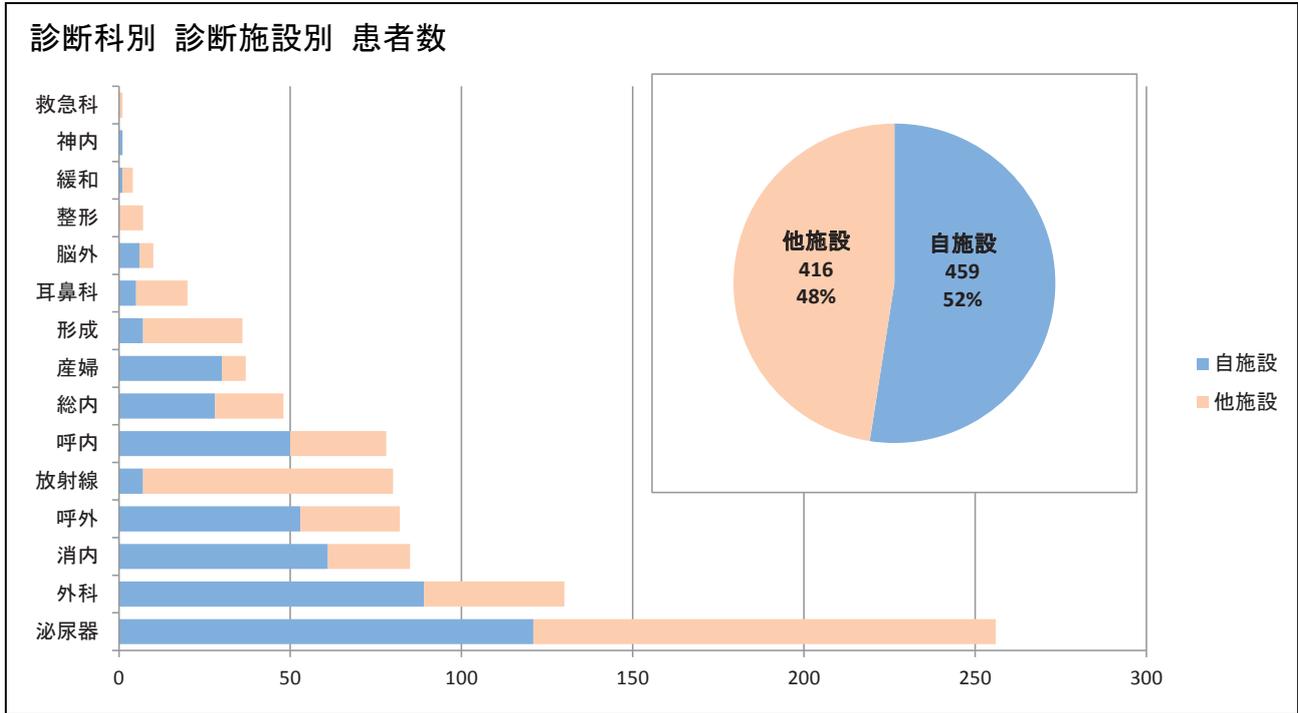
当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行った
もしくは治療を選択しなかった症例

その他：セカンドオピニオン症例



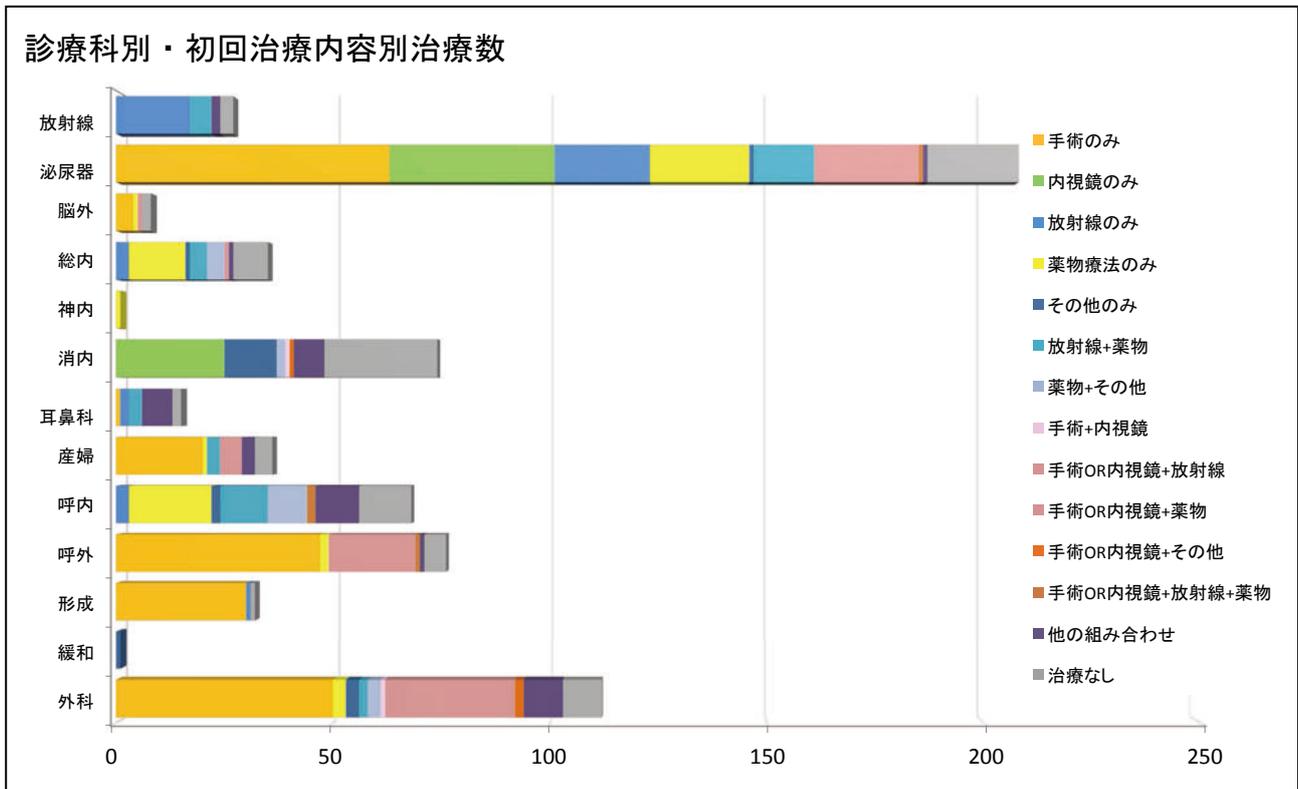
⑤ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者様の診断をどこで行われたかを診療科別で示しています。



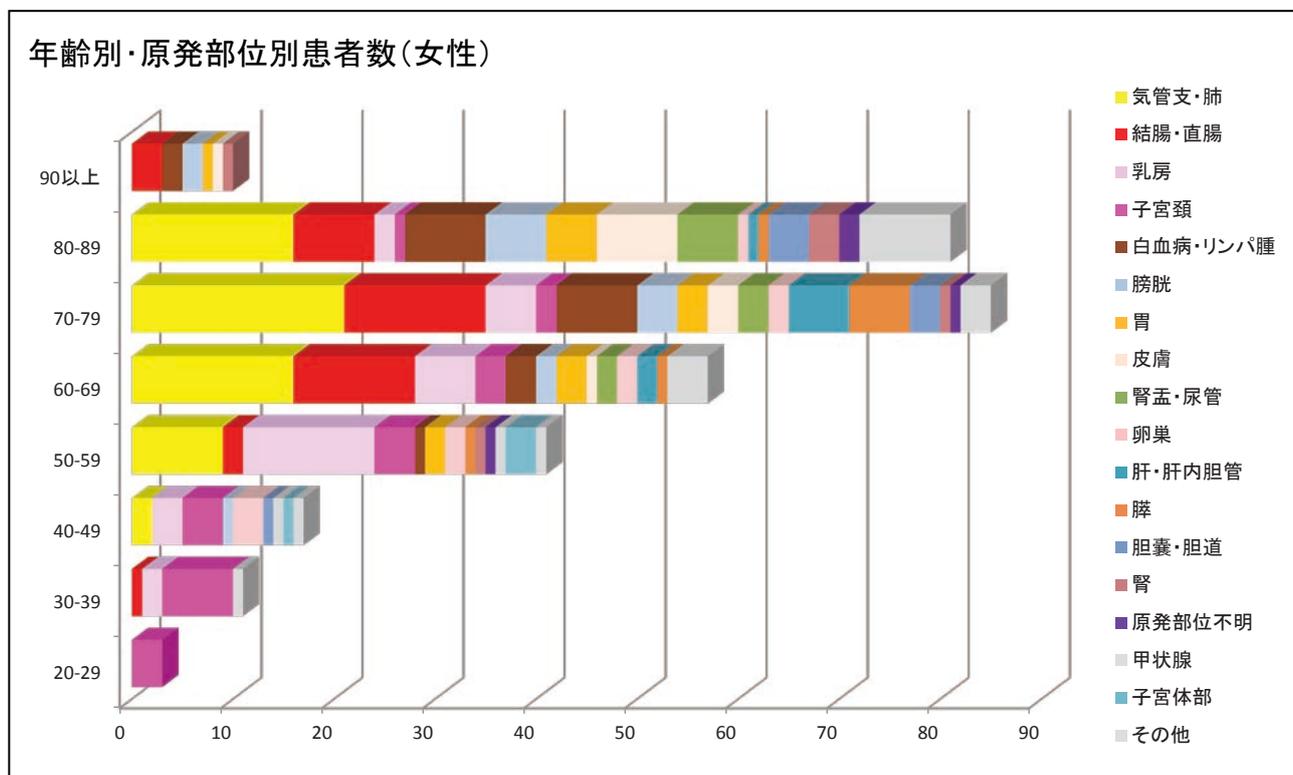
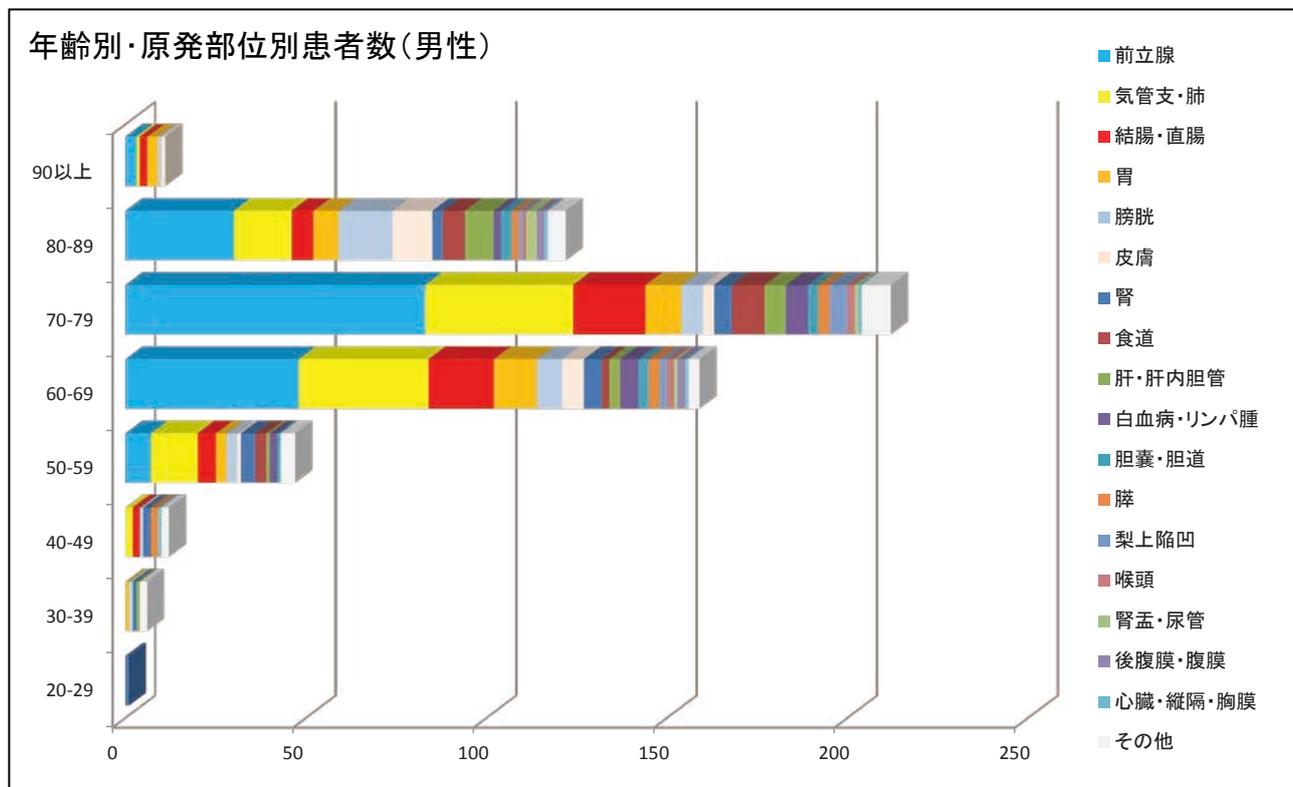
⑥ 診療科別・初回治療内容別治療数

初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています



⑦性別・年齢階層別・原発部位別 患者数

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています





患者サポートチーム

看護副部長 岩下邦子

患者サポート窓口3年目を迎えた。昨年より看護師1名が午前午後常駐する体制がとれたことにより、昨年に比してすべての項目に対して件数が上がった。当院の外来・入院施設の立地上の不便さ、構造上の複雑さからどうしても患者搬送や館内案内が多くなる。しかし、診療科相談の件数が増加したことや、療養中に困っていることや気になることを相談に来られるケースも増え、患者サポート窓口の本来の機能が果たせてきていると思われる。

患者サポート体制は窓口対応に加え、毎週月曜日に院長、事務長、クリニック事務長、看護部長を含め13名で窓口や意見箱に寄せられたさまざまな内容に対しカンファレンスを行なっている。その他、月1回患者サービス委員会も開催している。委員会の構成員は各部署の代表者であったが、診療部門からは院長のみであった。ここ最近医師に対する意見も多いため、今年度より副院長の出席を依頼し、参加メンバーが増えた。委員会ではカンファレンス内容の伝達・周知とを各部門が把握している患者様からの意見・要望や医療提供上の問題に対し検討している。

主な今年度カンファレンスで検討された内容は、以下の通りである。

- ・患者サポート窓口専用のPHSの設置と運用
- ・患者サポート窓口専用ICレコーダーの保管・管理
- ・外来正面に待機するタクシーの停車位置について
会社側と取り決めを行なう
- ・マスク着用のポスター作成・掲示
- ・2東のシャワー室運用並び設備内容の検討について
- ・一階ホールの公衆電話の再設置
- ・院内放送の内容検討・アナウンス技術の向上
- ・別館ホールへの新聞の配置
- ・入院時の必要物品の自動販売機による販売決定
- ・院内喫煙者対策考案実施
- ・院内掲示物の掲示基準の決定

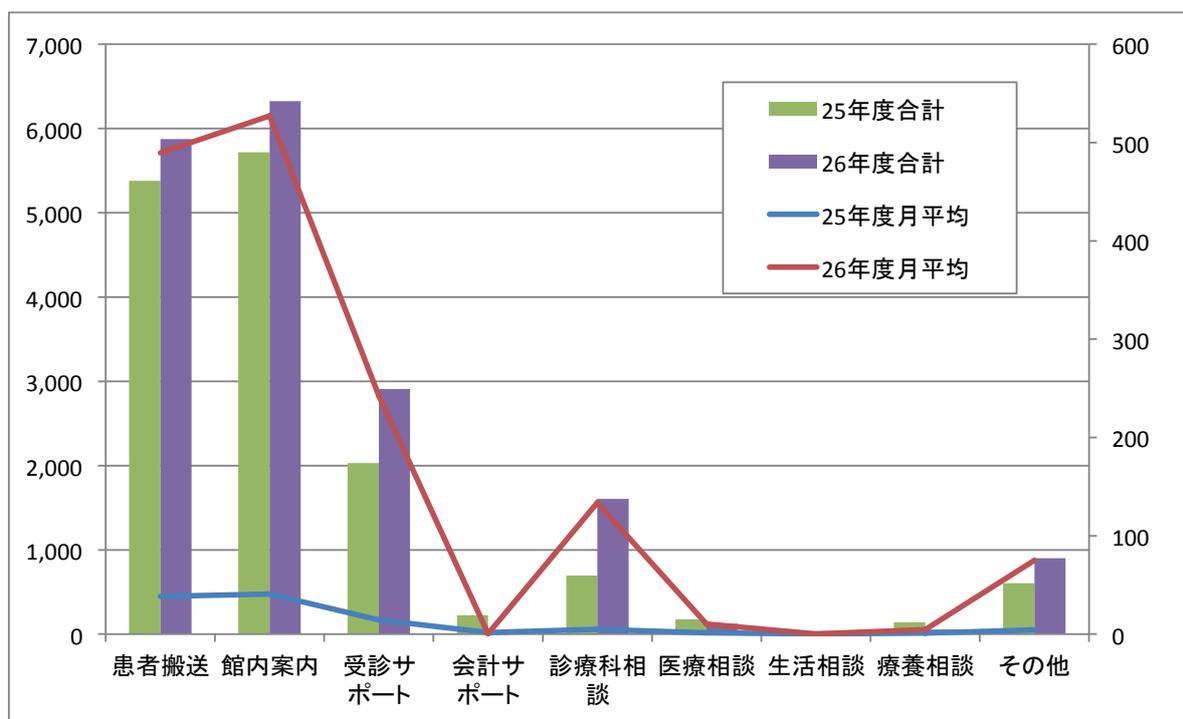
【平成26年度患者様サポート相談窓口項目別対応件数と月平均】

	患者搬送	館内案内	受診サポート	会計サポート	診療科相談	医療相談	生活相談	療養相談	その他
4月	509	550	249	0	145	6	0	7	59
5月	505	536	232	0	126	9	0	0	55
6月	519	567	251	0	156	8	0	2	68
7月	489	574	240	2	135	17	0	8	80
8月	497	545	235	0	141	16	1	3	81
9月	500	532	238	0	136	8	0	5	71
10月	496	509	265	0	137	12	0	5	80
11月	432	437	221	0	120	13	0	6	71
12月	485	516	260	1	140	12	1	4	78
1月	474	485	236	1	127	12	0	5	98
2月	470	532	233	0	115	8	0	6	81
3月	499	543	248	0	126	4	0	3	80
月平均	490	527	242	0	134	10	0	5	75
年間合計	5,875	6,326	2,908	4	1,604	125	2	54	902

その他の主な内容

- ・ 車椅子移乗走行介助
 - ・ ストレッチャー移乗走行介助
 - ・ 走行介助
 - ・ 受診の予約
 - ・ 受診手続きのサポート
 - ・ 聾啞者の対応
 - ・ 検査前の食事に対する相談
 - ・ 排泄誘導介助
 - ・ 入院前相談
 - ・ 電話による相談対応
 - ・ 付添証発行・回収
 - ・ 重心者申請書代筆
 - ・ クレーム(職員・設備など)
 - ・ 授乳室として相談室を提供
 - ・ ベビーカー貸し出し
 - ・ 休診時の他院への紹介
 - ・ 各所汚染時の清掃依頼
 - ・ 駐車場の案内・料金説明
 - ・ 荷物預かり
 - ・ ホテルの手配
 - ・ 周辺案内(銀行・飲食店・バス停)
 - ・ 駐車場案内(料金・場所)
 - ・ 公共交通機関の場所・時刻案内
 - ・ タクシー手配
 - ・ タクシーへの移乗介助
- など

【患者様サポート相談窓口項目別対応件数と月平均の25年度と26年度の比較】



	患者搬送	館内案内	受診サポート	会計サポート	診療科相談	医療相談	生活相談	療養相談	その他
25年度月平均	448	477	169	19	58	15	2	12	50
26年度月平均	490	527	242	0	134	10	0	5	75
25年度合計	5,379	5,718	2,030	225	694	176	26	142	605
26年度合計	5,875	6,326	2,908	4	1,604	125	2	54	902



事務部

事務局長 野口 桂一

平成26年度 特記事項 平成27年1月より 回復リハビリテーション病棟移行

1. 院内行事

4月26日	みんなでイキイキ健康まつり	一般来場者171名
5月10日・11日	リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま	
5月14日～16日	職員健診	848名実施
7月19日	リフレッシュ研修	43名参加
7月23日	市民公開講座 「ヒトは死んだらどこに行くのか?～緩和ケア医の立場から～」 緩和医療科 部長 松添大助	院内127名聴講 外部35名聴講
9月19日	かごしま医療IT研究会	18医療機関参加
10月16日	鹿児島地区 がん診療連携クリティカルパス説明会 鹿児島地区に従事している医師・看護師薬剤師保健師等	院内148名参加 外部119名参加
10月18日・19日	がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会	
10月25日	鹿児島県院内がん登録研修会 「前立腺がんについて」 「標準登録様式について」	泌尿器科 部長 立和田得志 済生会川内病院 診療情報管理室 前田雄介 院内 36名聴講 外部 31名聴講
11月12日～14日	職員健診	510名実施
2月25日	地域支援病院総会	
3月13日	鹿児島県臨床研修病院見学ツアーAコース	県外医学生10名
3月25日	入社式	

2. 実習生の受入

鹿児島情報ビジネス専門学校	8月18日～22日 (4日間)	1名
鹿児島東高校 インターンシップ研修 (その他は各部署・委員会報告に掲載)	11月13日 (半日間)	2名

3. 視察・見学の受入

7月24日	岡山県病院協会 病院見学	20名
12月9日	鹿児島大学教育学部 (その他は各部署・委員会報告に掲載)	1名

4. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動

毎月第一木曜日	病院周辺清掃活動 主任級以上20名程度で活動	
6月20日	鹿児島赤十字血液センター献血 当院リニアックセンター前駐車場にて集団献血	23名実施
9月20日・21日	第68回県民体育大会 東開庭球場	1名選手派遣
11月6日	鹿児島赤十字血液センター献血 当院リニアックセンター前駐車場にて集団献血	22人実施

5. 入院患者不在者投票実施

4月27日執行	衆議院鹿児島県第2区選出議員補欠選挙	不在者投票1名実施
12月14日執行	第47回衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査	不在者投票18名実施

6. 各種補助金関係

- | | | |
|---|---|--------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・へき地医療拠点病院運営費補助金 ・臨床研修費等補助金 ・がん診療連携拠点病院整備事業補助金 ・周産期母子医療センター ・病院内保育所運営補助事業 ・産科医等確保支援事業補助金 | } | 以上6つの項目において
申請手続きを行った |
|---|---|--------------------------|

7. その他の活動報告

乳がん検診	154名受付
子宮がん検診	174名受付
大腸がん検診	71名受付
低線量CT肺がん検診	57名受付
脳ドック	7名受付

- 9月9日 多数傷病者発生事故救急訓練における電話連絡訓練
- 10月6日 産科退院患者様による「おぎゃー献金」 日母おぎゃー献金基金へ献金6,785円
- 10月下旬 PO法人「医療の質に関する研究会」より約100冊の追加寄贈を受け予定していた3年間700冊の寄贈完了
- 12月25日 職員によるNHK歳末助け合い募金121,712円
- 1月～2月 院内託児所の環境整備（床張替え・台所等）
- 2月5日 国立がんセンター「がん実施調査」を受ける

8. 会計監査

監査法人監査（北三会計社）

25年度	現金実査・棚卸立会	平成26年4月2日・3日
	下半期監査	平成26年5月25日・26日
	決算監査	平成26年6月9日・10日
26年度	上半期監査	平成26年12月11日・12日

会議・委員会活動報告

IV

- 各会議
- 法令関連
- 医療安全
- 医療の質向上
- 教育研修推進
- 病院運営
- 地域サービス



病院業務運営会議

【目的】

総合医療推進に伴い、病院運営上の実務についての連絡調整、意見集約を図りながら、より充実したチーム医療を構築する。

【本会議の開催】 毎月第2月曜日 (18:00分～19:30分)

【出席者】

理事長、院長、各科部長、各科医師、看護部長、看護師長、薬局長、放射線・検査技師長
療法士長、栄養管理課長、事務局長、事務部課長、各責任者

本会議は、病院運営上において、原動力的会議として位置づけられ、毎月1回開催されている。各科各部署よりの連絡事項、報告、問題点、提案等を提議して、多面的な立場より検討し『より適切な医療とサービスの提供』を目標にしている。

本年度も多くの課題が検討され、医療機能の質の向上・改善が図られた。

まず診療報酬の改定があり、医事課より変更内容の説明を行い認識の統一を図った。

次に老朽化に伴い、改善・充実を図る為、消化器内科外来、内視鏡室の改修工事を行った。工期は短期間で組み、極力患者さまへご迷惑が掛からないよう半月で終了した。

次に、外来駐車場も機械の老朽化、違反車防止、利用者へのサービス向上、管理機器費用負担軽減の為、6か所ある患者様駐車場をタイムズ24主導のもと整備を行った。

今後も、患者様はじめ、地域医療関係機関へ、更なる貢献向上に向けて、全職員一体となり取り組んでいきたいと考える。

《今年度の主な検討事項》

- ・各部署からの現状実績報告
- ・各委員会からの報告
- ・収入支出報告、稼働状況報告
- ・医療安全・院内感染対策
- ・サマリー、診療記録監査、がん登録報告
- ・クリニカルパス使用率報告
- ・各講演会関係開催
- ・在日数短縮、病床利用率
- ・インフル、ノロウイルス対策
- ・病院移転関係 他



薬事委員会

【目的】 採用薬の整理・後発品への切替え

【委員会スタッフ】

大久保幸一 昇卓夫 中目康彦 大場一郎 野口桂一 末吉美津代 前嶋一友 高橋真理

【平成26年度の活動内容】

平成26年度は、新規採用・削除薬を審議する定期の薬事委員会を第81回～84回まで4回開催した。新規採用薬は39品目、新規採用に伴い16品目を削除した。

平成26年診療報酬改定 DPC機能評価係数Ⅱの見直しにより、後発医薬品係数が新設されたことを受け、後発品への切替えを検討する薬剤をほぼ毎月提示し、内服薬60剤、注射薬18剤、外用剤21剤の計99剤を後発品へ切替えた。後発品の使用割合を数量ベースで見た後発医薬品置換率は39.18%となり、前年度30.45%より8.73%上昇し、後発医薬品係数は平成26年度0.00736から、平成27年度0.00832となった。

分子標的薬・生物学的製剤など高額な薬剤が増えてきており、薬剤費は年々増加している。前年度と比較した薬剤費の増加額は昨年度2,900万円だったが、今年度は8,500万円と大幅に増加している。これは、新規経口抗がん薬の購入費が今年度は5,200万円であったことによると思われる。今年度発売された経口抗がん薬のうち当院では7成分11剤を購入している。これらの経口抗がん薬は1日あたりの薬価が10,000円以上の薬剤もあり、治療費は高額療養費制度の対象となる。患者様が高額医療費支給申請手続きを行う際、医療機関の窓口が一つの方が手続きを簡素化できることから、外来であっても院内処方として対応している。その結果、医業収入に対する薬剤費率は昨年度より0.9%増加し、11.8%となった。

薬剤費率(医業収入に対する薬剤費の割合)と薬剤費に対する後発品の割合 前年度との比較

	平成25年度		平成26年度		平成27年度
	合計	月平均	合計	月平均	
医業収入	9,878,558,084	823,213,174	9,860,579,845	821,714,987	
薬剤費	1,080,610,045	90,050,837	1,165,893,769	97,157,814	
薬剤費率	10.90%	-	11.8%	-	
後発品金額	104,778,492	8,731,541	103,785,429	8,648,786	
後発品割合(金額)	9.70%	-	8.90%	-	
後発医薬品置換率	-	-	30.45%	-	39.18%
後発医薬品係数	-	-	0.00736	-	0.00832

●平成27年度の後発医薬品指数は、平成25年10月から平成26年9月までの後発医薬品置換率に応じて決められる。後発医薬品置換率(=後発医薬品使用数量/後発品が発売されている医薬品の使用数量 *使用数量は薬価単位)60%の場合、後発医薬品指数は0.01274となる。

後発医薬品係数による今年度の医業収入を試算してみた。DPCの1日平均点数2,518点、病床数450症、病床稼働率82.9%とすると、今年度の後発医薬品係数0.00736による収入は1年間2,500万ほどと試算される。後発医薬品係数は、前年度の9月までの1年間の後発品置換率に基づいて決められ、置換率60%で最も高い係数となる。平成26年9月までの1年間の当院の後発品置換率は39%であった。後発医薬品係数の加算上限の後発医薬品置換率を現在の60%から80%に上げることが、財政制度等審議会で検討されていることも踏まえ、後発品への切替えを進めなくてはならない。今後も採用薬の適正化と後発品への切替えを随時検討し、薬剤費を少しでも抑えられるよう努めたい。



労働安全衛生管理委員会

【目的】

職員の健康保持及び職場の環境衛生の改善について必要な事項を定め、職場の勤務能力を向上させる。

【活動報告】

1. 労働環境衛生、施設等の改善
2. 職員の健康保持の判定及び事務処理に関する事
3. 職員の疾病予防に関する事
4. 常時飲食物を扱う職員の保菌検査及び保健衛生や指導に関する事
5. 放射線技師及び放射線科に勤務する職員の保健衛生や指導に関する事
6. 夜勤を行う職員の保健衛生や指導に関する事
7. その他衛生管理に必要な事

【総括】

例年どおり、5月に全体の職員健康診断、11月に電離放射線・深夜業務従事者健診、インフルエンザ予防接種と予定をこなした。

今年は、職員に対して健康に関する講演会を2回開催した。一つ目は『熱中症』に関して、麻酔科の西山医師に、二つ目は『職業性腰痛について』と題し、整形外科の松永医師にそれぞれ講演してもらい、職員が改めて知識の習得と予防について勉強した。

来年度は、労基法の改正があり、職員に対してストレスチェックの実施、化学物質についてリスクアセスメントの実施を、今後検討していかなくてはならない。

職員が安全で安心して仕事ができるよう、当委員会が中心となり、今後も取り組んでいきたいと思う。



治験審査委員会

去年度引き続き、新日本科学臨床薬理研究所がSMO(治験施設支援機関)として参加して頂きました。委員会に関しては毎月開催しています。

今年度、審査対象試験としては、

● 昭和会クリニック神経内科実施試験

- キッセイ薬品工業株式会社依頼による、KPS-0373の脊髄小脳変性症患者を対象とした第Ⅲ相検証試験
- キッセイ薬品工業株式会社依頼による、KPS-0373の脊髄小脳変性症患者を対象とした長期継続投与試験
- 日本セルヴィエ株式会社依頼による、アルツハイマー型認知症患者を対象としたS47445の第Ⅱ相試験

● 今給黎総合病院消化器内科実施試験

- アストラゼネカ株式会社依頼による、難治性逆流性食道炎を対象としD961Hの第Ⅲ相試験

今給黎総合病院実施試験は1試験、昭和会クリニック実施試験は3試験と昨年度同様の試験数でした。院外からの審査依頼試験数は2試験であった。審査依頼施設としては、昨年度の3施設から天保山内科のみの1施設に減少しました。

来年度は当院、昭和会クリニックでの実施試験数の増加及び外部医療機関の治験審査依頼数の増加に努めていきたいと考えます。



防火対策委員会

【目的】

火災の予防及び火災発生時の対応について、日常的に職員の防火意識の高揚と防火訓練の立案・計画・実施等により、患者様・職員の人命を守る事を最大の目的とする。

本委員会の第一目標は、火災発生時の初期消火と患者様の人命救助である。

日常においては、消火設備、非常ベルの位置、避難経路の確保及び周知、廊下の物品管理消火設備・防火戸の前に物を置かない等、職員の防火意識向上を図ることである。

今年度も、消防署上町分遣隊立ち合いのもと、消防への通報・初期消火・避難誘導の防火総合訓練を2回実施した。訓練では、患者の避難誘導・担架による搬出方法などまだまだ改善が必要である。また、実際に消火器を使用した消火訓練を行い使用方法の周知を図った。

今後も、火災予防の意識と実際の火災時に職員が落ち着いて行動、判断出来るよう基本的な訓練は怠らず本委員会を通じて、職員一人一人の防火意識の向上に努めたい。

【委員】 病院長（委員長）、事務長、看護部長、看護副部長、各部火元責任者（26名）

【平成26年度の主な活動】

- H26.4 鹿児島市自衛防火協会定期総会（事務長出席）
- 4/22 本委員会開催（28名出席）
- 5/27 昼間想定防火訓練実施（通報・初期消火・避難誘導） 123名参加
消火器取扱い（6名実施）
- 6/27 訓練反省会（21名出席）
- 10/22 中央消防署査察
- 10/24 本委員会開催（27名出席）
- 11/27 昼間想定防火訓練実施（通報・初期消火・避難誘導） 107名参加
消火器取扱い（5名実施）
- 11/26～11/29 消防設備総合点検（4日間）



個人情報保護推進委員会

当委員会は、毎月第3月曜日午後5時より開催しております。

年2回(7月、1月)に、職員による院内巡視を実施し、個人情報や、患者様に目につきやすい部分がないか確認し、指導等を行っております。

平成26年度は、意識不明者の病状告知に関し、ご家族間トラブルにより告知対象者と対象外の依頼を受けるなど、マニュアル化の困難な事例がまれに発生があり、顧問弁護士を含め担当で話し合いながら対応する事例もありました。最近の傾向としては患者様へ手渡す書類に他の書類がまざりこんでしまうなどの事故が数件発生しております。これらに対しては、2重チェックの厳格化を行っております。

最近の事故や対応の困難な例を見ますと、職員各自の意識レベルや知識の底上げが一番重要かと思われまます。院内での講演会などの教育がますます重要になってきておりますので、講演会、研修会などを行ってゆく予定です。



医療ガス設備安全管理委員会

【点検活動実績】

- *エチレンオキシド作業環境測定 5月・11月 / 年2回 *医療ガス配管設備年次点検 12月 / 4日間
 *高気圧酸素治療装置点検 12月 / 2日間 *7トンCEタンク(液体酸素)点検 / 2月
 *新人看護師医療ガス研修 / 4月

【委員会目的、目標】 医療ガスの安全及び管理について審議し決定し以て医療事故防止を図る

【委員会議事録】

1. CE受入側保安責任者を宮下道男から田中英樹に11月20日付で変更になりましたことをご報告いたします。CEタンクの表示板は、1月28日に名義変更後の表示で取付けてあります。
2. Q. 2北詰所の医療ガス圧力監視盤の警報誤動作防止透明アクリル板取付とありますが、何故必要なのですか。
 - A. 設定方法はツマミを引いて回して上限下限を設定するのですが、監視盤の前に物を置いてあり、横に動かした時に監視盤のツマミを回転させ正常値内でブザーを鳴す誤動作がありましたので誤動作防止に監視盤の前にアクリル板を10cmせり出して取付けてあります、師長さんには監視盤の前に物を置かないように指導しました。
3. Q. OP2室の吸引アウトレットでトラブルが多発している様ですが
 - A. 吸引供給圧力 -50 ~ -66kpa と供給値に幅があり下限値で吸引処置をされた場合には、引きが悪いと感じるのではないのでしょうか。OP師長よりの圧力確認の臨時点検・月例点検などでも他の部屋と比較した圧力データに大差はありませんでした。配管詰まりなど予防の意味も含めまして吸引アウトレットは新品に交換してあります。
4. Q. サツマ酸素工業の点検の指摘事項に空気リール式アウトレットのホースの経年劣化の交換は対応されましたか
 - A. アウトレットホースは多重構造であり耐摩耗性で幾層にも重ねた構造になっております。現在はホースを折り曲げた点検で表面にひび割れを確認できる程度の状態でホースなどの設備に洩れはありません。現時点では経過観察中で交換は未定で月例点検などで劣化の状況を確認し必要があれば、交換をします。
5. 医療ガス・配管設備などの取扱い職員研修
 医療ガス取扱い講習会を2015/4/2に新人看護師対象に行います。新人看護師対象とありますが講習の参加に制限はありませんので、興味のある方は参加してください。

年1回開催

日時場所： 3月27日 本宅会議室
 時間： 16:00 ~ 17:00

出席者名簿

役付委員又は役割	名 前	病院内職務名	欠席理由
委員長・・・・総括責任者	牟 禮 洋	副院長	
副委員長	池 田 耕 自	麻酔科部長	
副委員長	有 村 智 代	看護部長	講演会出席
委員(監督責任者)	田 中 英 樹	施設課長	
委 員	東 美 津 子	サブライ師長	東京出張
委 員	田中 かすみ	IC 師長	
委 員	藤山 みどり	看護副部長	
委 員	斉 藤 謙 一	臨床工学部 技士長	
委 員	坂 口 聖 治	事務局	
委 員	寿 明 伸	薬剤師	
委 員	米 盛 正 志	施設課	

出席者：9名 欠席：2名



栄養管理委員会

目的：患者栄養管理の内容充実
栄養管理業務の改善向上

会議内容：院内約束食事箋に関する事項
入院患者の嗜好調査に関する事項
入院及び外来患者様の栄養指導に関する事項
栄養管理業務の運営に関する事項
NST・医療安全管理に関連する事項
電子カルテ使用に関する事項
給食委託管理、委託連携に関する事項

委員：院長・事務長・看護部長・副看護部長 2 名・病棟師長 5 名
管理栄養士 1 名・NST専従管理栄養士 1 名
給食委託管理部 1 名・チーフ 1 名・調理スタッフ 1 名

平成 26 年度の活動内容及び取り組み

＝平成 26 年＝

- 4 月 食事アンケート結果報告(配布数 133 名、有効回答数 111 名：回収率 83%)
診療報酬改定(短期滞在手術基本料)による変更事項
温冷配膳車切り替え実施(4 月導入・食器類 新規購入)
- 5 月 前年度インシデントアクシデント報告及び対策
時間外変更、連絡についての調査
- 6 月 夏場の衛生対策・確認、食中毒対策及びマニュアルの改訂
- 7 月 緊急時食事箋(システムダウン時)の食事対応への検討
- 8 月 食事アンケート調査実施(全病棟の一般常食・全粥食の方を対象)
- 9 月 食事アンケート結果報告(配布数 119 名、回答数 91 名：回収率 76%)
- 10 月 医師による検食記載率向上の為の対策
- 11 月 ワーファリン内服時における併用禁忌対策
- 12 月 ノロウイルス対策強化・感染拡大防止策検討

＝平成 27 年＝

- 1 月 食品アレルギー問診票の見直し(看護記録委員会からの提言)
異物混入予防対策
- 2 月 時間外変更、連絡についての調査
助手業務負担軽減に対する返答及び改善案検討
- 3 月 食事アンケート調査実施(全病棟の一般常食・全粥食の方を対象)
日清医療食品との契約見直し(年間評価・連携・人員配置について)



放射線安全管理委員会

【目的】

本委員会は、「予防規程」及び「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」(以下「法」という)の今給黎総合病院における運用について審議し「予防規程」及び「法」の目的とする放射線障害の発生の防止と、公共の安全を確保することを目的とする

開催日：平成27年7月2日(木)17:00～

出席者：21名

- (1) 本院・クリニック院長
- (2) 放射線治療部長(放射線安全管理委員会委員長・放射線取扱主任者兼務)
- (3) 医療安全管理課委員長(産業医)・他専任医療安全管理課員
- (4) 事務部(事務局長・総務・庶務・施設課)
- (5) 看護部(副看護部長等)
- (6) 中央放射線部(業務従事者等)
- (7) 医療相談室長

【議事】：挨拶

1. 前年度(26年度)報告

(1) 放射線障害防止法に基づく職務審議案件報告

①業務従事者の登録とその教育・訓練・健康診断及び被曝管理に関すること

- ・6月業務従事者の新規登録は1名(川畑 朋之)。2名は、解除で現在8名
- ・放射線業務従事者教育訓練講習会1名・定期講習2名受講
- ・被ばくに関して、スタッフの5mSv以上の放射線被ばく者なし
- ・健診(前期)5月14日から16日まで、(後期)11月12日から14日まで実施
～放射線被ばくの影響による障害の発生なし

②規約、規程集の変更や見直し人選等について

- ・放射線障害予防規程の変更届：文部科学省より原子力規制庁への移行に伴う文言の変更や新規規制対象となった放射化物等の規程を盛り込み、提出を行い受理された
- ・業務内容等の変更に伴う放射線業務従事者等の人事変更を行った

(2) 各部門(リニアック・シード・CT・X線テレビ・一般撮影等)より安全管理報告

- ①多方面でアンギオ装置の利用が見られ、検査精度の向上や安全性に繋がった
- ②救急コールや連絡網等の見直しを実施、素早い対応に繋がった
- ③16年間使用した骨密度測定装置の更新が図られた。以前よりトラブルが改善し検査測定時間等が短くなり患者負担が減り、検査精度の向上に結び付いた

2. 今年度(27年度)事業計画について

(1) 医療監視への対応：7～8月にかけて医療監視が予定されている。準備作業を行う

(2) 職員、電離健診実施について：前期5月19日から21日まで実施、後期は、11月中旬に実施予定

(3) 新たにオペ室スタッフ等の放射線管理(被ばく線量、健康診断結果、教育訓練受講等)業務が加わった。教育訓練等の充実を図り被ばく低減につなげたい

以上

*上記の項目に対して、報告協議し了承を頂きました。次回については、来年の6・7月に開催(臨時招集はその都度)予定です



化学療法緩和ケアネットワーク委員会

【目的】

本委員会は、院内で行われているがん化学療法の問題点などを議論し解決策を見出すことを目的としている。さらに院内で実施されている化学療法のレジメン(治療内容)の妥当性を評価し、承認する。また、外来化学療法室の現状を報告し、問題点を洗い出し、解決策を見出す。そして、緩和ケアに関する問題点を議論し、院内で統一化を計る

【委員会スタッフ】

委員長 米田 敏(呼吸器外科)

委員 寺原 賢人(産婦人科) 加藤 明彦(産婦人科) 濱之上 雅博(外科) 立野 太郎(外科)
野口 智弘(外科) 巻幡 聡(呼吸器外科) 今給黎 尚幸(呼吸器外科) 小濱 浩介(血液内科)
窪田 幸司(呼吸器内科) 立和田 得志(泌尿器科)
財間 富士子、前嶋 一友、中目 貴子、尾上 博隆、寺田 真衣子(薬剤部)
古市 寿子(リハ) 田中 美帆(栄養管理部) 福徳 里佳、田中 泉美(医事課)

【看護部 2014.4～12月まで】

酒匂 英子、松永 雅美、柴多 陽子(2西) 松野下 恵子、村崎 まこと、久永 可奈子(2東)
稲森 優子、木原 智美(3東) 水元 英子、大脇 美枝(3西) 池田 美智子、上野 京(2北)
屋野 由貴(2南) 松山 真衣(4北) 布市 多美子、同免木 直美(外来)

【看護部 2015.1～3月まで】

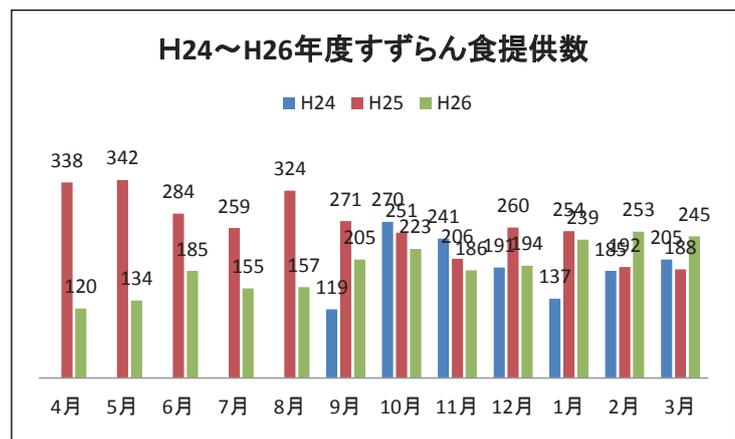
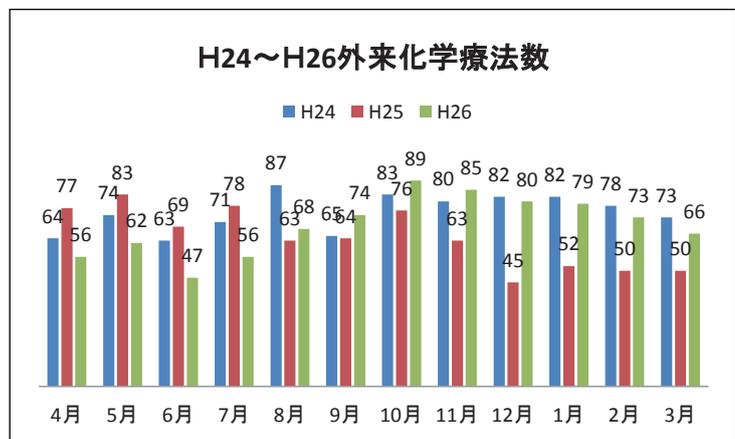
酒匂 英子、柴多 陽子、片平 幸恵(2西) 中村 章子、村崎 まこと、四村 朋美、濱田 美香(2東)
有菌 さつき、恒吉 ひろみ(3東) 水元 英子、大脇 美枝、松元 香奈(3西)
上野 京、新徳 まゆみ、池田 美智子、芝 こずえ(2北) 稲森 優子、斎藤 潔子(2南)
松山 真衣(4北) 布市 多美子、同免木 直美(外来)
植屋 明代、大西 玲子、岩山 友紀 (緩和医療課) 河原 尚美(がん化学療法課)

【平成 26 年度の活動内容】

毎月 1 回 第 1 木曜日(17 時 30 分～)

- ・ 毎月の外来化学療法実績報告
- ・ 院内の化学療法数・主な有害事象報告、化学療法に関わる医療安全事案、解決すべき問題点の提案が行われた。
※特にアレルギーや血管外漏出などの情報を共有することができた。

・ 栄養管理部(右図)



・医事課

算定報告並びに化学療法・緩和ケアに関する診療報酬改定内容の説明

●平成 26 年診療報酬改正について

がん患者指導管理料(旧)がん患者カウンセリング料

→病状経過説明・同意書の右側に同意を得る文書をコピー&ペーストできるように設定してあるの
で、必要時、使用していただきたい。各科の医師へ担当医事から説明を行ってもらう予定。

→同月内に複数回の算定可能

施設要件 :③患者の希望に応じて・・・

→個室という一文に対して、サポート室や病棟個室などを使用しての解釈で妥当である。

・緩和ケア

ほっとサロン案内、緩和ケア研修会案内(詳しい内容に関しては、緩和医療課の項参照)

・薬剤部

毎月、入院化学療法調剤数報告

●薬剤に関する情報提供

●電子カルテのオーダーに関する注意点

●エルプラットのアレルギー対応

●下痢発現時の対応

●B型肝炎対策キット検査について

●GEM、PTX、DTC 採用メーカー切り替え

●ゾフラン注

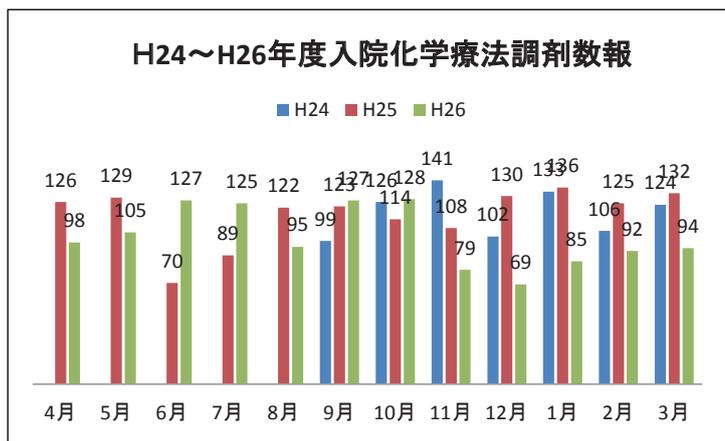
→オンダンセトロン注へ切り替え。

プロイメンド採用(血液内科・呼内・婦人科)

●ネクサバル

→甲状腺がんへの適用追加。処方する

ためには留意する点がある。施設要件と医師の要件 などを報告した。



・医師

承認月	申請診療科	レジメン名	適応がん
5月	外科	IR IS+BV	大腸がん
		バージェタ+ハーセプチン+PTX	乳がん
6月	消化器内科	FOLF IR INOX	膵臓がん
8月	外科	TS-1+PTX(vp)	胃がん
	呼吸器外科	DOC+BV	肺がん
	泌尿器科	GEM+CBDCA	膀胱がん
10月	外科	FP 改変	食道がん
		S-1+CDDP	食道がん
	呼吸器外科	CDDP ショートハイドレーション	肺がん
12月	外科	カドサイラ療法	乳がん
1月	外科	TS-1+DOC	胃がん
		GEM+nabPTX	膵がん
		nabPTX 単剤	膵がん
	呼吸器内科	nabPTX 単剤	非小細胞肺がん
2月	外科	SOX	胃がん
		XELOX	胃がん

以上、16 件申請されすべて承認された。

・その他

●歯科との連携について・・・周術期の口腔機能管理算定について

算定対象患者・・・肺癌患者とFP療法またはFP+放射線療法患者とする(当面の間)

手順として、主治医から口腔管理の必要性を説明していただき、了解を得た上で歯科へ院内紹介・予約をとっていただく。その後は、歯科主導で診療を行う。

●厚労省より「発がん性等を有する化学物質を含有する抗がん剤等に対する曝露防止対策について」の布令があった。それに関連して揮発性薬剤の閉鎖式器具を使用した調製方法と払い出しについて検討する。提案書を提出し、現状と問題点について理解を求め、閉鎖式器具を導入したい旨を報告。



院内がん登録委員会

【目的】

今給黎病院における院内がん登録業務の適正な企画、管理及び運用を図ることを目的とする

【委員】 昇 卓夫(院長) 野口 桂一(事務長) 米田 敏(呼吸器外科) 川島 寿史(呼吸器内科)
中禮 久彦(放射線科) 銚立 博文(放射線科) 寺原 賢人(産婦人科) 加藤 明彦(産婦人科)
中目 康彦(泌尿器科) 立和田 得志(泌尿器科) 高木 信介(形成外科) 小濱 浩介(血液内科)
白濱 浩(病理診断科) 松添 大助(緩和医療科)
畑中 幸子(診療情報管理部) 黒丸 恭弘(診療情報管理部)

【平成 26 年度活動】

平成 26 年度は 1 回の開催でした。

がん診療連携拠点病院説明会と合同開催

がん診療連携拠点病院 新要件 必須項目

『説明時には、初期治療内容のみならず長期的視野に立ち治療プロセス全体について十分な
インフォームド・コンセントに努めている』

上記要件を満たすために、積極的に病状経過説明同意書を使用していただくよう依頼しました。

院内がん登録の現状報告

平成 26 年 11 月 業務運営会議にて 2013 年院内がん登録報告を行いました。

院内がん登録に関する施設調査

平成 27 年 2 月 厚生労働省委託事業 独立行政法人国立がん研究センターより
西本先生、江森先生による施設調査が行われました。

【総括】

院内がん登録の精度を向上させるために、サマリー内がん情報の入力、病状経過説明同意書の使用、告知情報の記載等、依頼を行いました。

また、国立がん研究センターより施設調査が入り、当院の院内がん登録の現状、セキュリティーの問題、組織との位置づけ等を指摘されました。

今後は、指摘された部分の改善および、予後調査にも力をいれていきたいと考えております。



DPCコーディング委員会

【活動報告】

当委員会は、年4回(4、7、10、1月)開催しております。
委員の構成は、病院長をはじめとして副院長、事務局長、診療情報管理士、医事課スタッフ17名 総勢約21名で構成されます。

【目的】

標準的な診断及び治療方法について院内で周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とする。

委員長 牟禮 洋(副院長)

委員 昇 卓夫(病院長)	野口 桂一(事務局長)	畑中 幸子(診療情報管理士)
上唐湊 芳一(医事課長)	東 貴史(医事課長補佐)	坂口 聖治(ICU 医事担当)
永野 一彰(2 東医事担当)	柿木 浩希(3 東医事担当)	越間 北斗(4 西医事担当)
岩元 正子(手術室医事担当)	道岡 美香(2 西・N・GCU 医事担当)	
東 知子(3 中央医事担当)	針山 朋美(2 南医事担当)	小湊 麻美(2 北医事担当)
米満 久美(4 北医事担当)	若松 めぐみ(2 東医事担当)	福德 里佳(3 西医事担当)
河野 真子(3 北医事担当)	中村 亜希子(3 南医事担当)	田中 博子(2 北医事担当)

議事内容としまして、様々な報告、提案をしています。

【議題】

- | | |
|--|---|
| <p>26.4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例検討(呼吸器内科)
入院期間Ⅱの把握、DPC 期間別の把握
(平成24・25年度の比較) ・DPC 資源最投入傷病名の検討、入院期間区分別割合報告
症例を5例使用して検討
カルテを熟読することの重要性 ・平成26年度 DPC 包括日数・点数の見直し ・平成26年度 DPC 算定ルールの見直し
7日以内の再入院ルール、持参薬の取扱い、コーディングテキストの活用 <p>26.7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例検討(外科)
透析算定の確認、尿管ヘルニアの算定方法の確認 ・DPC データ提出の取扱い ・副傷病付与について
平成24・25年副傷病付与率の報告、副傷病付与に伴う診療報酬金額アップについての報告 | <p>26.10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例検討(整形外科)
エンブレ注施行について、傷病名ごとの副傷病付与について ・DPC 出来高 / 包括点数比較 ・在院日数について ・適切なコーディングについて
症例を5例使用して検討(詳細不明コードについて、傷病名の妥当性、アップコーディングのおそれのある症例 等) <p>27.1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例検討(形成外科)
硬化療法(血管腫と動静脈奇形について)、骨髄炎の副傷病について ・適切なコーディングについて
症例を3例使用して検討(原疾患の検索について) ・DPC データ活用とヒアリングについて
ミスコーディング事例をもとに当院の現状を確認 |
|--|---|

【総括】

適切なコーディングを行うために、関係部署でよく議論し診療報酬請求業務等を行っております。
症例検討等は医事スタッフにより輪番で議題を提出しています。
また、ICDの知識が浅いと誤ったコードにより、診療報酬請求業務にも影響がありますので、皆でより一層の向上を図りたいと考えております。
先生方にもDPC制度・請求業務に関して啓発活動をもう少しできたらと思います。
また、DPCのデータを提出していることから行政や患者さんからの評価も受けているとの認識をもち、正確なデータが提出できるよう日々精進していきたいと考えております。



医療安全対策委員会

【目的】

本委員会は医療安全対策の確立を促進し、より適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。また、医療事故発生時の適切な対応及び医療事故等の経験を無駄にしないため、原因分析と再発防止策を検討の上、安全教育の場にフィードバックするなど、より強固な安全対策により、医療の質の確保と向上を図る。

【平成 26 年度委員会スタッフ】

松永俊二（委員長）、牟礼洋（副委員長）、昇卓夫、丸山芳一、古賀喬充、有村智代、藤山みどり、岩下邦子、千田清美（専従医療安全管理者）、長野みつ美（専従医療安全管理者）、下前百合香、高橋真理（医薬品安全管理者）、室屋純一、今堀貴之、児島邦幸、齊藤健一（医療機器安全管理者）、徳永敬之、鈴木聖子、山元真貴子（～6月）、江口万美（7月～）、野口桂一、原口一博、濱田敏彦、岩元正子、田中英樹、向田剛（～12月）、中間誠（1月～）、益田阿佑美
（外部）東京海上日動メディカルサービス株式会社メディカルリスクマネジメント室
玉利英子、工藤千佳（年4回）

【今年度の主な活動】

※看護安全対策委員会との連携

- ・同委員会で特に課題となったアクシデント報告の再検討と対策を図る

※毎週医療安全管理責任者により、インシデント管理システムによる、内容分類別、事象レベル×発生月別、事象レベル別の報告あり、検討を加える

※医療安全対策研修会 H26.10.31（金）、H26.11.1（土）2日間開催

- ・全職員対象：総参加者数719名

「患者・家族を不安にさせない対応を考えよう～医療者間の連携不足の事例を通して～」

講師：東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室 玉利英子先生

※医療安全推進週間 11月25日～11月30日

※医療安全推進月間 12月1日～12月30日（安全標語・ポスター作成、レポート入力への促進）

※その他、主な検討実施事項

- ・医療安全管理指針改定
- ・安全管理報告とフィードバック
- ・リスクマネジメント関連情報の検討
- ・安全関係委員会からの報告、情報提供
- ・評価機構の安全情報の検討
- ・医薬品、医療機器材料、褥瘡管理者よりの安全情報の検討
- ・安全管理部門カンファレンスの実施（毎週月曜）
- ・院内避難経路・施設ラウンド
- ・その他
 - *経口抗がん剤の院外処方時の連携
 - *施設内外の転倒事案の検討
 - *自動車運転死傷行為処罰法の検討
 - *三法活栓、血ガス採取キットの取扱い
 - *造影剤禁止事項について（ウログラフィン）
 - *吸引圧・低電圧事案の検討
 - *外来処方箋発行時の確認について



病院感染防止対策委員会

委員長 丸山芳一(神経内科、ICD)、 副委員長 川島寿史(呼吸器内科)、立和名聖子(CNIC)

委員 昇 卓夫(病院長)、古賀喬充(歯科)、

有村智代、藤山みどり、岩下邦子、近藤ひとみ、酒匂英子、尾之上稲子、末吉美津子、上ノ園洋子、中村章子、有菌さつき、東 美津子、山下真理恵、上ノ町和呼、田中かすみ、水元英子、上野 京、稲森優子、松野下恵子、古川秀子、尾堂知子、横山睦美(看護部)

高橋真理、久津輪久世、児玉理子(薬剤部)、肥後 真(病理部)、竹之内 学(放射線部)、

村中利也、今堀小百合(議事記録)(検査部)、吉川絵里香(リハ部)、斉藤謙一(臨床工学部)、

千田清美(医療安全部)、上平田美樹(栄養部)、小野純子(訪問看護部)、山本あかり、野口桂一(事務部)

Infection Control Team (ICT)

丸山芳一、川島寿史、池田聖子、田中かすみ、久津輪久世、児玉理子、村中利也、山本あかり、日高 亮

病院感染防止対策委員会と Infection Control Team (ICT) を 2 本柱として感染防止に尽力した。例年、抗菌薬の適正使用が大きな議題であるが、7 月 30 日ゾシン、メロペン、チエナム耐性菌の増加があり、届出も不十分であったために電子カルテ処方時に届け出書が自動出力されるようにした。抗菌薬使用届制になり抗菌薬の長期使用例は減った。

感染防止対策マニュアルのインフルエンザ発症時の同室患者への予防投与、感染職員の出勤停止などに改正を加えた。免疫抑制状態の患者におけるデノボ B 型肝炎に関する対策フローチャートを作成し、流行性角結膜炎、流行性耳下腺炎のマニュアル改訂を行った。緑膿菌対応を経路別対策から標準予防策とした。エボラ出血熱対策では新型インフルエンザ対応時の取り決めに基づいて対応することとした。

院内感染事例としては 12 月 8 日アイアイ保育園でノロ感染症集団発生があり、発生時の対応の取り決めを行った。おむつをすべて感染性として処理することに決した。インフルエンザ流行に備えて 12 月 1 日から職員、お見舞い者にマスク着用を義務付けた。1 月 14 日 2 北病棟でインフルエンザ発生があり職員、リハビリスタッフ、接触患者にリレンザ予防投与を行った。1 月 23 日 3 階西、3 階中央で、一時フロア閉鎖した。1 月 26 日から 2 月 16 日 6 日まで全体朝礼は中止した。本県の定点患者発生ならびに警報発令に応じて 3 月 12 日面会制限一部解除、3 月 24 日面会制限全面解除とした。流行期を踏まえて早めの予防対策を講じたために病棟閉鎖は例年より少なく、期間も短縮できた。

平成 27 年 1 月から厚労省院内感染対策サーベイランス事業(感染管理加算 I の要件)として検査部門に加えて全入院部門のサーベイランスについても報告を開始した。全患者を対象に MRSA、VRE、MDRP、PRSP、VRSA、MDRA の症例を毎月厚労省に報告している。

対外的には 10 月 24 日鹿児島赤十字病院から地域相互ラウンドをうけた。赤十字病院から 5 名の ICT の皆さんが 9 部署のラウンドをされた。

11 月 7 日今村病院分院へ地域相互ラウンドに出かけた。病院長、副院長、看護部長などが積極的に討議に参加され、病院一丸となって感染対策がなされていることに感銘を受けた。また、施設内はよく整理されて、少ない職員数で動きの止まった職員がいないことが印象的であった。しかし、感染対策においては当院も他院に遜色のないレベルであることは言うまでもない。

院内感染対策講演会は 5 月 26 日、6 月 26 日の 2 回にわたり「手指衛生の重要性」ファイザー感染症領域学術 戸島英城先生、11 月 13 日、11 月 18 日の 2 回にわたり「インフルエンザ、ノロウイルスの流行に備える」大日本住友製薬 エリアアカデミックコーディネーター村岡正浩先生にて行われた。ビデオ研修も含めて 90% 以上の職員が参加した。

ICT は毎週水曜日午後指定抗菌薬の使用状況を全使用例にわたり検討し、不適切使用や、疑義のある場合は直接、主治医に適正使用のお願いをした。病棟は毎週 2 部門を抜き打ち的に感染監査を行い、その結果はただちにかつ具体的に現場にフィードバックした。一連の感染監査の中で薬剤や消耗品の必要以上の病棟ストックや不適切使用があり、各部門と協議の上、ガウン、手袋、ミルトン、お手持加熱用滅菌水等の適正使用や整理を行った。

ちなみに ICT の、久津輪が感染コントロール薬剤師の資格を取得し、当委員会委員ではないが林茂昭部長、生野博久部長が Infection control doctor の資格を取得、感染対策に重要な助言をもらうことが期待できる。



輸血療法委員会

委員長 丸山芳一(神経内科)、 副委員長 濱之上雅弘(外科)、小濱浩介(血液内科)

委員 昇 卓夫 (病院長)、

有村智代、藤山みどり、近藤ひとみ、中村章子、田中かすみ、橋口恒夫、濱田 緑、徳 恵梨香、(看護部)
高橋真理 (薬剤部)、川井田祐一郎 (事務部)、村中利也、今堀貴之、宝代聡美 (検査部)

当委員会は隔月の第4水曜日に開催した。主な協議事項は血液製剤の適正使用を目標に診療科ごと、医師ごとの血液製剤発注と使用量、製剤ごとの廃棄量とその原因につき詳細な検討を行った。廃棄は期限切れが一番の理由であり、新鮮凍結血漿ではバッグ破損も原因であった(表)。

貯血式自己血は当院では主に整形外科の待機手術に利用されるが採血時の陰圧ポンプの扱いに不慣れな場面があり、使用法の手順周知を図った。輸血回避が最優先であり、止むを得ない場合の自己血利用が原則であり、無用な自己血利用は医療安全の観点から慎重であるべきである。

輸血同意書については一連の輸血処置で承諾書が必要で、血液疾患など定期的な輸血では1年に一度の承諾書を持って代えることができるとした。

平成 26 年度血液製剤使用量
(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月)

製剤名	単位	薬価 (円)	購入本数	購入金額 (円)	使用本数	廃棄本数	廃棄金額 (円)	廃棄率 (%)
濃厚赤血球	1 単位	8,864	25	221,600	24	1	8,864	3.94
	2 単位	17,726	1,241	21,997,966	1,196	49	868,574	
新鮮凍結血漿	120m l	8,955	6	53,730	6	0	0	0.47
	240m l	17,912	623	11,159,176	623	4	71,648	
	480m l	23,617	134	3,164,678	134	0	0	
血小板製剤	5 単位	39,665	2	79,330	2	0	0	0
	10 単位	79,007	163	12,878,141	163	0	0	
	15 単位	118,499	0	0	0	0	0	
	20 単位	157,999	0	0	0	0	0	
自己血	1 単位		5		4	0	0	7.14
	2 単位		109		102	8		
計			2,308	49,554,621	2,254	62	949,086	1.83



看護安全対策委員会

【目的】

本委員会は、医療事故防止対策の確立を促進すると共に、安全な医療看護を提供し、万一事故発生時は、速やかに誠心誠意取り組む。それを生かし、安全教育の場にフィードバックし再発防止策に努め、医療看護の質の確保と向上を図る。

【目標】

26年度は、各病棟単位の目標とした活動シートによりインシデントの傾向確認

【委員メンバー】

有村看護部長、近藤副看護部長、藤山副看護部長、岩下副看護部長
医療安全管理課：千田課長、長野 各部署師長、中尾主任、岡村主任、各部署委員

【活動内容】

毎月第3火曜日 13:30～14:30

- ①毎月の安全管理報告書件数、事例レベル、発生事例についての報告
- ②医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理者からの周知事項の提示
- ③報告書の内容からの検討事項
 - ・経鼻的胃管カテーテル留置中の管理について検討（マニュアル見直し）
 - ・内服の与薬・指示受け～準備について
内服確認所要時間の調査
- ④外部リスクマネジメント関連情報提示
 - 医療機能評価機構からの医療安全情報、PMDA情報
 - 東京海上日動メディカルサービスからのリスクマネジメント関連情報
- ⑤委員メンバーにて4チーム編成しそれぞれのチームの課題に取り組んだ
 - 1) 薬剤チーム
 - 2) 転倒・転落チーム
 - 3) チューブ・ドレーン管理チーム
 - 4) 分析チーム

毎月の会議の中で報告事項が多く、事例検討の時間が少なかった。

来年度は、病棟から事例提示しグループ内で検討し、検討した内容を実践、評価までできるような会議にしていきたい。



救急医療部門運営委員会

当委員会は麻酔科池田部長のお世話でICU、手術室、中央材料部、NICU運営委員会、更に物品購入委員会と合同で月1回開催されています。救急部門は主に救急車受け入れや休日の当番医の体制などについて討議しています。

毎月、前月の救急車の受け入れ状況、入院率、オンコールの回数、特にお断り例の検討を行い改善策について討議しています。本年度は米盛病院の新築移転、外傷センターのオープン、ドクターヘリの運用開始による影響が危惧されましたが、救急車の搬入件数自体は大きな変化はなく、若干重症の外傷例が減った程度でした。来年度は市立病院の移転の影響を見守る必要があります。



地域医療支援病院委員会

【目的】

地域における医療の確保、向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

【委員】

鹿児島県医師会副会長	野村秀洋	今給黎総合病院院長	昇卓夫
鹿児島市医師会副会長	池田耕治	今給黎総合病院副院長	西澤輝彦
鹿児島県立病院事業管理者	福元俊孝	今給黎総合病院看護部長	有村智代
鹿児島市消防局長	山下裕二		

当院は、平成25年3月22日地域医療支援病院に承認されました。

【議事内容】

- 1、委員長の選出 西澤委員を委員長として選出。
- 2、年度業務報告 年度業務報告を県知事への業務報告書に沿って行った。
- 3、質疑応答 年度業務報告についての質疑、外部委員からの助言を頂いた。



診療録検討委員会

委員長 丸山芳一(神経内科)

委員 昇 卓夫(院長)

有村智代、岩下邦子、近藤ひとみ、松野下恵子、尾堂知子、千田清美(看護部)
高橋真理、堀之内智裕(薬剤部) 豊留研二、前迫篤(リハビリテーション部)
上平田美樹(栄養管理部) 畑中幸子、小西佑典、黒丸恭弘(診療情報管理部)
川井田祐一郎、東 貴史、野島雄二郎、神野博幸、道岡美香、米満久美(事務部)

本委員会は毎月第2火曜日に開催した。

診療録のシステムについては改善を加えているが、公文書としての診療録記録内容にはまだ多くの課題が残されている。とりわけ医師記録に関する問題が多い。平成25年4月から毎月、診療録監査を行っているが平成26年5月から各診療科部長に持ち回りでご参加いただいている。

手術や各種処置・検査の承諾書に従来は説明医のみの署名から説明医・主治医・術者が各々署名することとした。輸血関連では自己血貯血承諾書、血液成分輸血承諾書の部分的改訂を行った。

入院時指示と条件付き指示の使用規定が不明確で医療情報システム年委員会とその使用規定を作成した。

当委員会の重要な関心事として退院サマリー完成率があるが、残念ながら100%完成はわずかの差で達成できていない。特に特定の診療科でサマリー完成率が低く、アシスタントによるサマリー作成を許可した。手術記録の未完了が目立つため当委員会から注意を勧告した。病名登録は医師による記載が原則であるが、医事課あるいはクラークによる記載後に医師が必ず承認するシステムを電子カルテに盛り込んだ。

当委員会はサブグループとして診療録監査(昇、丸山、近藤、岩下、尾堂、酒匂、千田、豊留、前迫、畑中、小西、新地、黒丸、高橋、医事課職員)を毎月第4金曜日に実施してきた。昨年5月からは持ち回りでご参加の参加をお願いしている。公文書たる診療録の体をなしているかが重要であるが、いまだ不十分である。サマリー完成率は改善しているが手術記録、傷病名登録、日々の診療内容記載、短絡で断片的な記載、スキャンもれ、病状説明承諾書未記載など多くは医師に関する記載不備が目立った。患者数の多い診療科で記載不備が目立ったので、クラーク制度の導入による診療録記載の充実が期待される。

**【目的】**

今給黎総合病院および昭和会クリニックで行われる医学研究や医療行為に対し、倫理上の対応指針を示すことを目的とする。ヒトを対象とした医学研究については「ヘルシンキ宣言」、日常の医療については「リスボン宣言」を審議上の基準とし、医学的、倫理的および社会的観点から調査検討し、審議する。また、倫理に関する職員への教育や研修等により、患者の意思の尊重と人権保護の意識高揚を図る。

【平成 26 年度 倫理審査委員会委員】

今給黎 尚典、昇 卓夫、大久保 幸一、丸山 芳一、寺原 賢人、牟礼 洋、佐藤 榮一、白濱 浩、高橋 真理、有村 智代、藤山 みどり、野口 桂一、原口 一博、前野 浩一、上唐湊 芳一、長野 芳幸（外部委員）、蓑毛 長史（外部委員）

【平成 26 年度 倫理審査小委員会委員】

昇 卓夫、丸山 芳一、寺原 賢人、牟礼 洋、白濱 浩、高橋 真理、有村 智代、藤山 みどり、野口 桂一、前野 浩一、上唐湊 芳一、山内 茂（外部委員）

【平成 26 年度 医学研究に関する倫理審議概要】

小委員会開催回数(平成 26 年度)： 8 回

開催頻度：月 1 回(第 2 金曜) 申請がない月は開催しない

審査件数：合計 19 件(治験審査 0 件、介入研究 5 件、観察研究 12 件、その他 2 件) 全て承認

会議の記録：厚生労働省「倫理審査委員会報告システム」に、委員名簿および規定とともに掲載
(H25.1～) URL <<http://rinri.mhlw.go.jp/>>

【平成 26 年度 申請受付番号、委員会開催日、課題名、申請者】

No. 124 H26. 4. 11(金)

『パーキンソン病の早期発見法の開発に関する研究』

申請者： 神経内科部長 長堂 竜維

No. 125 H26. 4. 11(金)

『慢性腰痛に対する薬物治療法の臨床経済研究』

申請者： 整形外科部長 松永 俊二

No. 126 H26. 5. 9(金)

『切除不能悪性腫瘍による胃通過障害に対する消化管ステント留置の有用性をカバーの有無により比較検討する多施設共同無作為比較試験』

申請者： 消化器内科科長 今給黎 和幸

No. 127 H26. 6. 13(金)

『ゴアテックス使用に関して』

申請者： 形成外科部長 高木 信介

No. 128 H26. 6. 13 (金)

『IVR症例登録事業』

申請者： 放射線診断科部長 鉾立 博文

No. 129 H26. 6. 13 (金)

『血清点眼について』

申請者： 眼科医師 徳永 義郎

※ 条件付承認

(場所の確保、準備が出来てから検討)

No. 130 H26. 6. 13(金)

『BRONJ Stage II 症例に対する外科的治療の有効性に関するアンケート』

申請者： 歯科口腔外科 歯科医師 古賀 喬充

No. 131 H26. 6. 13(金)

『顎矯正手術に伴う呼吸状態の機能的な変化』

申請者： 歯科口腔外科 歯科医師 古賀 喬充

No. 132 H26. 6. 13(金)

『ストレッチポールの素材がベーシックセブン施行後に与える効果の比較検討』

申請者： リハビリテーション部 理学療法士 松下 卓矢

No. 133 H26. 8. 8(金)

『当院の保育士活動』

申請者： 看護部 医療保育専門士 吉村 加奈子

No. 134 H26. 10. 10(金)

『コーデン病の遺伝子解析等研究への協力依頼』

申請者： 循環器内科部長 大場 一郎

No. 135 H26. 9. 12(金)

『フロートラック市販後調査』

申請者： 麻酔科部長 池田 耕自

No. 136 H26. 9. 12(金)

『重篤な皮膚障害有害事象の診断・治療と遺伝子マーカーに関する研究』

申請者： 耳鼻咽喉科 鎌田 知子

No. 137 H26. 10. 10(金)
『血中マイクロRNA・サイトカインの測定による腎細胞癌診断および予後予測マーカーの研究(他施設共同研究)』
申請者： 泌尿器科部長 中目 康彦

No. 138 (書面審査：承認判定日 H26. 11. 11)
『ストレッチポールの素材と床面の環境がベーシックセブンに与える影響』(No. 132 の内容変更)
申請者： リハビリテーション部 理学療法士 松下 卓矢

No. 139 H26. 12. 12(金)
『本邦における肺切除後脳梗塞に関する周術期、手術因子の解析：他施設共同研究』
申請者： 呼吸器外科部長 米田 敏

No. 140 H27. 3. 13(金)
『2%セフトジジム硝子体注入用 0. 2ml の臨床研究に係る使用』
申請者： 眼科部長 薄井 隆宏

No. 141 H27. 3. 13(金)
『帝王切開における出産体験のとらえ方尺度の検討(多施設研究の協力)』
申請者： 助産師 / 2階西病棟師長 酒匂 英子

No. 142 H27. 3. 13(金)
『既治療進行・再発非小細胞肺癌に対する weekly nab-Paclitaxel 単独療法の Phase II 試験』
申請者： 呼吸器内科部長 川島 寿史



[医療の質向上]

委員長 中目 康彦 報告 水元 英子

クリニカルパス委員会

当院は、平成 17 年度に電子カルテが導入され、平成 25 年 10 月から電子クリニカルパス化に取り組み現在 62 種類の電子パスが使用されている。

パス委員会では、平成 26 年度電子カルテへのパスの導入を増やし使用率を図る・パス知識の向上を目標にパス委員を中心に SSI 操作指導を受け、統一したパスの作成や、日本クリニカルパス学会学術集会・院外研修へ参加によりパスの知識の向上に努めてきた。電子カルテの活用によりオーダーリングシステムの効率化、パスの標準化を図り治療や看護の統一のために、対等に各分野が話し合い協力しパス作成に取り組んでいる。

【スタッフ】

医師	2 名	診療情報管理部	2 名	リハビリテーション部	2 名
薬剤師	1 名	医事部	5 名	看護師	38 名
中央臨床検査部	1 名	管理栄養部	1 名		

【H26 年度の活動内容・院内外研修参加】

H26 年

5 月 10 日・11 日	日本マネジメント学会 鹿児島医療センター	3 名
6 月	フレキシブルパス 大阪(株)ソフトウェア・サービス	3 名
8 月 26 日	SSI 操作指導(ソフトウェア・サービス)今給黎総合病院	15 名
10 月 8 日	クリニカルパス講座 済生会熊本病院	4 名
10 月 16 日	がん診療連携パス講演(私の手帳)今給黎総合病院	10 名
10 月 23 日	院内クリニカルパス大会 今給黎総合病院 成田 淳医師講演	192 名



NST(栄養サポートチーム)委員会

【目的・目標】

栄養サポートチーム(以下:NST)とは、栄養障害のある患者様に対し、生活の質の向上、原疾患の治癒促進、感染症などの合併症予防を目的とした多職種で構成されたチームです。当院 NST は主治医からの申し込みを原則としています。栄養管理を行うためには、主治医の治療との連携が必要であるという理念からです。多岐にわたる病態に応じた、適切な助言・補助ができるよう今後も努めて参ります。

【活動】

2005年に日本静脈経腸学会より NST 稼働施設認定を、2011年には栄養サポートチーム専門療法士取得に関わる実地修練施設として認定を受け、カンファレンス・回診を行っています。構成メンバーは、総合内科医師・口腔外科医師、管理栄養部、褥瘡管理課・薬剤部・中央検査部・リハビリテーション部・看護部・事務部です。毎週火曜日 14 時より、病棟にてカンファレンス・回診を実施し、あらゆる職種の視点から知識を出し合い患者様の栄養改善に取り組んでいます。平成 23 年 6 月から、栄養管理についてオンコール体制を開始し、食事摂取不良症例の相談や経腸栄養の選択について主治医や看護師・コメディカルからの相談を行っております。地域医療における貢献の一つとして、院外からの研修視察や勉強会へ受け入れを行いました。

【委員】

院長、内科医 2 名、歯科医 1 名、看護師長 1 名、看護師主任 2 名、看護師(病棟・外来・クリニック) 25 名、褥瘡管理課看護師 2 名、薬剤部 4 名、リハビリテーション部 11 名、臨床検査部 5 名、管理栄養士 6 名、事務部 2 名

【主な活動内容】

●NST対象者スクリーニング

電子カルテの抽出機能より A1b2. 5g/dl 以下の症例の抽出
MNA-SF を用いたスクリーニングによる低栄養症例の抽出
NST 介入の必要な症例に対して主治医へ低栄養報告書を提示

●NSTカンファレンス・回診 毎週火曜日 14時00分～

参加者：医師・歯科医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・臨床検査技師
場所：各病棟をラウンドし、カンファレンス・病棟回診を行っている
アセスメント：身体計測・臨床検査データ・栄養量などの推移を確認
ディスカッション：各アセスメントを踏まえ、栄養補充方法やルート、内容について検討
ミニ会議：NST コアメンバー（運営委員）での検討事項の確認や伝達事項の確認
カンファレンスを基に患者の身体状況の確認 栄養投与ルートの確認と現在の問題点の把握、
リスクマネジメント、患者様やご家族への説明指導、主治医への提言

●NST会議 毎月第1水曜日 13時15分～

NST 委員会からの報告、統計報告
病棟 NST からの報告や情報共有
NST 専門療法士などによる学会報告や症例検討会

●NST勉強会 奇数月第3木曜日 17時30分～18時30分または不定期

知識向上のため、院外講師や NST コアメンバーが講師となり勉強会を開催しています

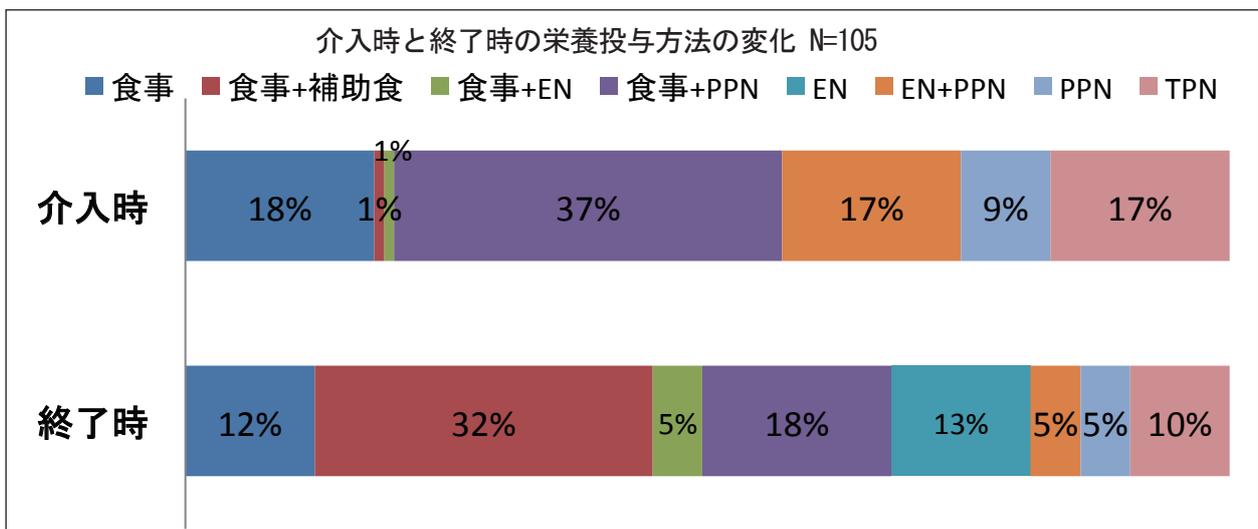
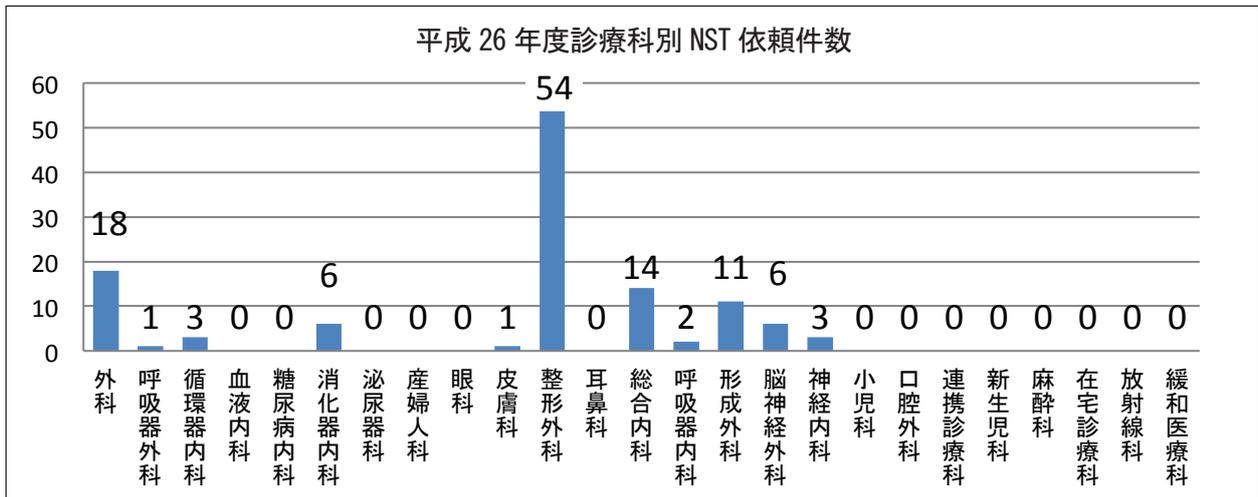
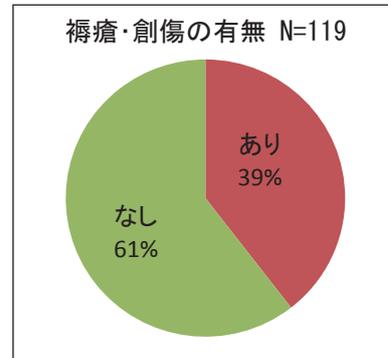
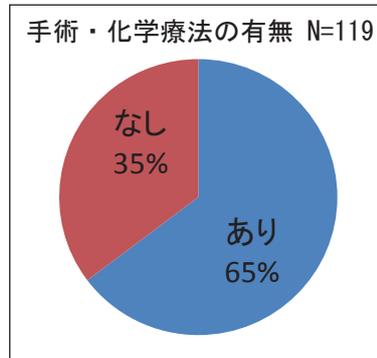
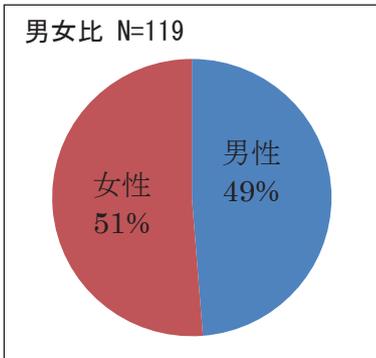
平成 26 年 4 月 24 日 (木) 肝硬変の栄養管理 20 名
平成 26 年 5 月 15 日 (木) NST トピックス、当院採用の栄養補助食品について 64 名
平成 26 年 7 月 17 日 (木) 輸液について～院内採用薬を中心に～80 名
平成 26 年 7 月 25 日 (金) エネーボについて 20 名
平成 26 年 9 月 18 日 (木) 嚥下訓練・口腔ケア 59 名
平成 26 年 11 月 20 日 (木) 検査データ関連 74 名
平成 27 年 1 月 15 日 (木) 褥瘡予防における栄養補助飲料について 19 名
平成 27 年 3 月 19 日 (木) 栄養アセスメントと模擬症例検討会 20 名

●その他

日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士 平成26年度合格者 管理栄養士1名
 その他NST専門療法士有資格者 管理栄養士1名、薬剤師1名、看護師1名

【年間報告】

年間依頼件数 119名（男性58名、女性61名） 年間回診述べ件数 714件



平成26年度NST依頼は年間119名、延べ714件のカンファレンス・回診を実施しました。整形外科からの依頼が最も多く、次いで外科、総合内科、形成外科、脳神経外科、消化器内科、神経内科の依頼がありました。当院は急性期病院であり介入患者の約半数48.6%が転院にて終了となります。そのため、切れ目なく栄養管理を継続できるよう、転院先の病院や施設へ栄養情報提供書を送付しております。次年度も引き続き、栄養管理の重要性を院内外に啓蒙しつつ、患者様の栄養管理が行えるようサポートしていく所存です。今年度より外科カンファレンスに専従者が参加し、外科待機手術症例の外来栄養指導を外科病棟担当栄養士と協力して行いました。今後は外科手術症例や化学療法患者様の栄養管理においても適宜介入できるよう努めて参ります。

また地域貢献として、NST専門療法士取得に関わる実地修練施設認定を受けており体制も整って参りました。次年度より、院外研修生の受け入れをチーム一丸となって取り組んで参りたいと存じます。



[医療の質向上]

委員長 西澤 輝彦 報 告 野島 裕二郎

医療情報システム委員会

医療情報システム委員会（通称システム委員会）は通常は月一回、木曜日に定例の会を行っています。特に新しいシステムの運用開始時には臨時の会議や実際的な運用を決めるためのWG（ワーキンググループ）を適宜行っています。単に電子カルテの運用だけではなく、病院全体のシステム化に向けて全領域からの参加があるのが大きな特徴です。

本年度は、昨年度入替を行った電子カルテシステムの残作業を中心に各部門の導入・調整・協議が行われました。職員の出退勤を把握する出退勤システム・前システムから各部門で参照が出来なかった歯科システムの改良改善・電子カルテ端末からの臨床情報データベース（今日の診療）閲覧・新電子カルテシステムになったことから障害対応マニュアルの見直し・基幹ネットワークの冗長化・回復期リハビリテーション病棟新設に伴う追加と変更作業・また、診療報酬改定への対応など、多くの作業を医療情報システム委員並びに多くの職員の協力を頂き達成することができました。

年度末には新電子カルテシステムに関してアンケートを実施し、前システムから比較すると回答件数こそ前回より少なく半数ではありましたが、比率として比較した場合良い傾向になっていることを伺い知ることができました。他方では、一定量の改善すべき個所があることも認識ができ、今後の課題と考えています。

ここ最近では、PACSの動作不良を起こす事象が頻発していることもありこの点を早急に解決回避する手段を見出す必要があると考察いたします。

来年度は、様々な問題点を洗い出し、システム・運用全体のブラッシュアップを図っていきます。



褥瘡対策委員会

【目的】

- ・褥瘡対策に関する診療・看護計画を作成し、予防及び対策を実施する
- ・専門的知識・技術で患者・家族のQOLを高める

褥瘡対策が必要な患者数は、年間3688名で入院患者数の約46%と昨年より2%増加していた。

その中で、褥瘡ハイリスク対象患者は1947名で褥瘡対策患者の約53%を占めていた。

高齢者の入院が年々増加し、褥瘡ハイリスク項目では皮膚脆弱が約76%を占め、褥瘡や皮膚トラブルの発生リスクは高い状態であった。

しかし、昨年より褥瘡は28件・医療機器関連圧迫創は24件と減少し、褥瘡推定発生率もほぼ全国平均以下となった。医療関連圧迫創を除く褥瘡推定発生率では、0%の月が増えてきている。

体圧分散寝具が充実してきており、褥瘡予防に対するスタッフの認識が高まり、効果的な予防ケアが行われ、リハビリテーション部・NSTチーム等との連携が図れていることや、褥瘡ハイリスク患者に対しては、褥瘡管理課にて訪問し患者状態に合わせたケアの確認や指導を継続していることにより減少していると思われる。

ポジショニングクッションやポジショニンググローブが不足している部署もあり、今後、患者の睡眠障害を考慮した対策が必要であり、自動体位変換付マットレスレンタル導入の検討も必要である。

院内褥瘡発生部位は仙骨から臀部周囲と踵が多く、治療規制・体動制限・末梢循環障害など全身状態悪化・栄養低下があり、予防困難な症例もあった。医療機器関連圧迫創ではBiPAPマスク・SpO2モニタープローブでの発生が多かった。

入院時より褥瘡発生している患者は、昨年より70名多く184名であり、多発褥瘡患者も多かった。

診療科別では、院内発生は整形外科45%と最も多く、院外は総合内科33%であった。

褥瘡回診は毎週月曜日：14時より形成外科医・WOCN・褥瘡学会認定Ns・リハビリテーション部・栄養管理部・薬剤部と共に各病棟を訪問し、病棟Nsと褥瘡回診チームにて褥瘡やケア内容の評価を行い、褥瘡経過記録を作成しケア統一が図れるようにしている。又、褥瘡患者転院時は入院中の写真経過を看護サマリーへ添付し、継続ケアを依頼している。

院内勉強会は偶数月に開催し、リハビリテーション部・薬剤部にも講義を依頼し参加人数は、約70～140名/回で、年間655名の参加であった。

第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会において、褥瘡管理課・栄養課・薬剤部・リハビリテーション部・病棟と6演題口演発表を行った。

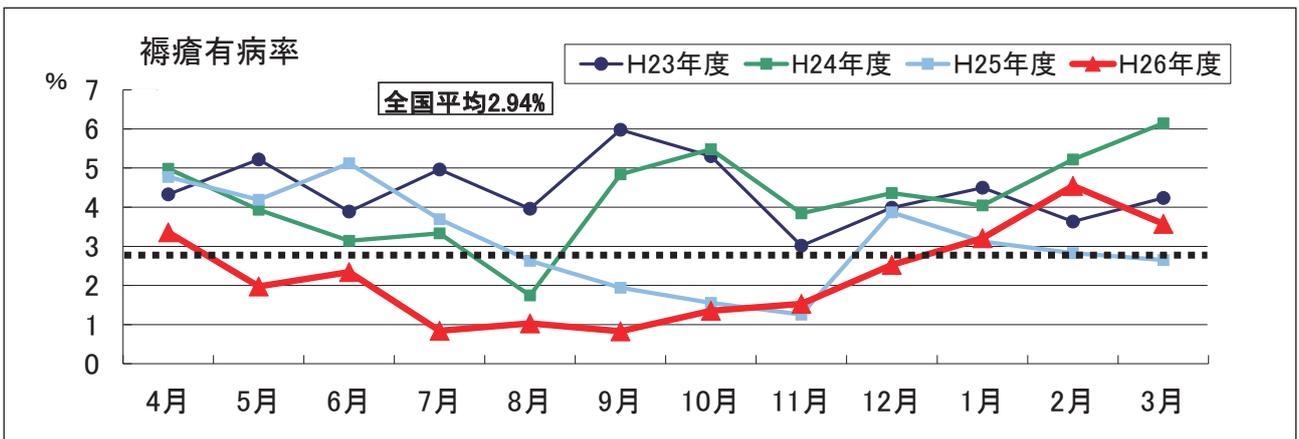
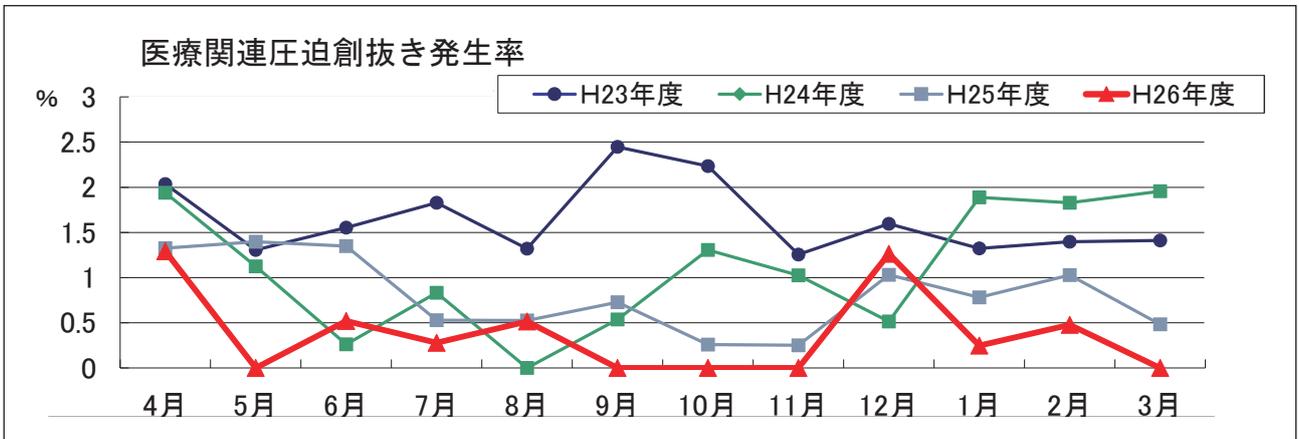
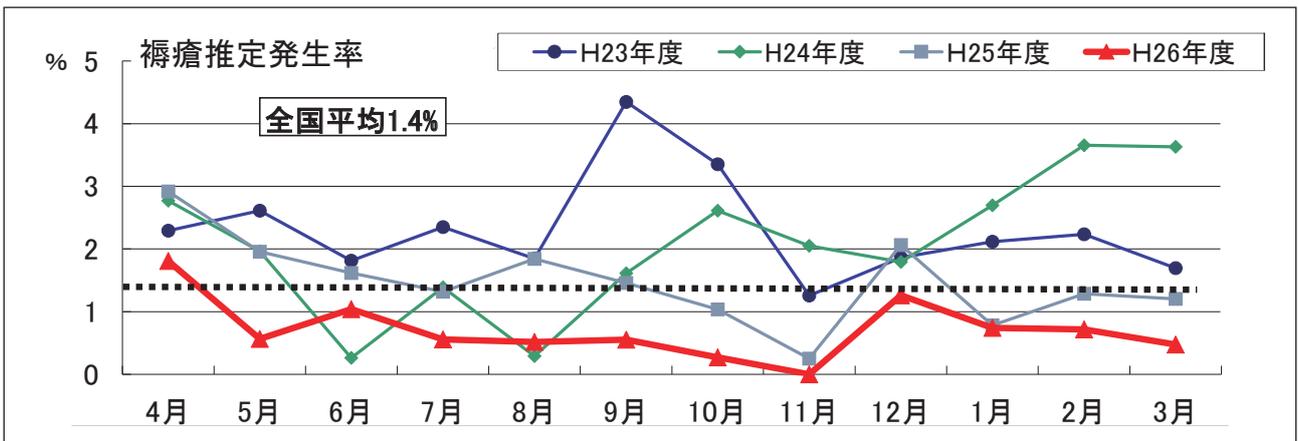
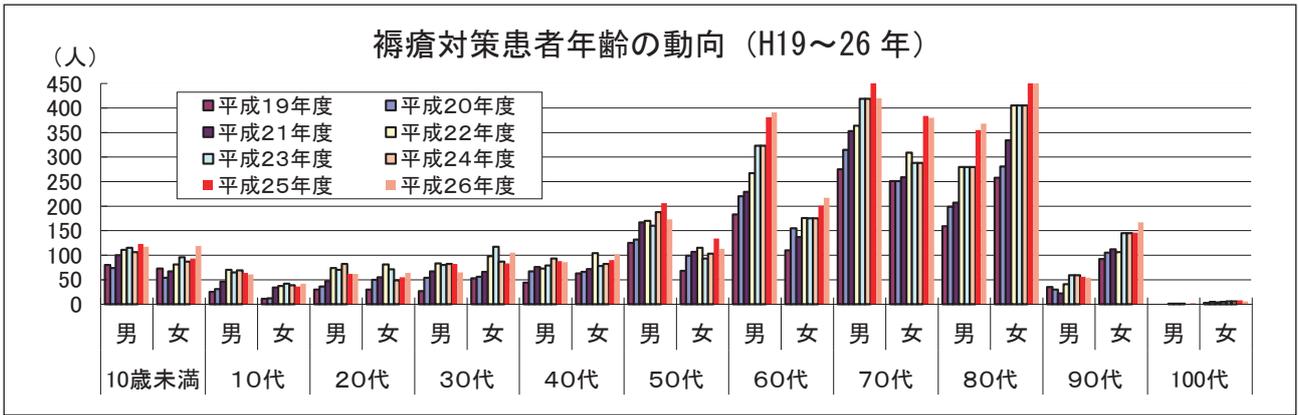
平成25年度より、褥瘡と医療機器関連圧迫創を区別するよう示唆され、以下のグラフは院内発生・院外発生において、病棟単位・発生部位・診療科を院内・院外で、それぞれ褥瘡と医療機器関連圧迫創に分けたデータである。

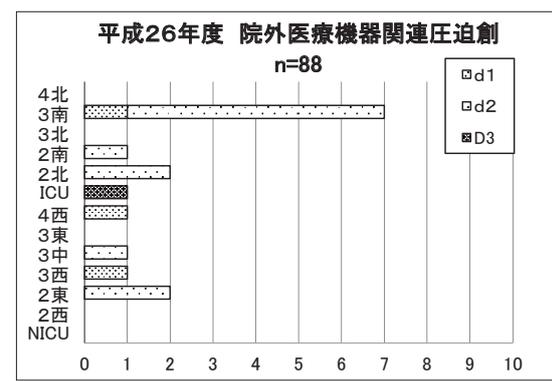
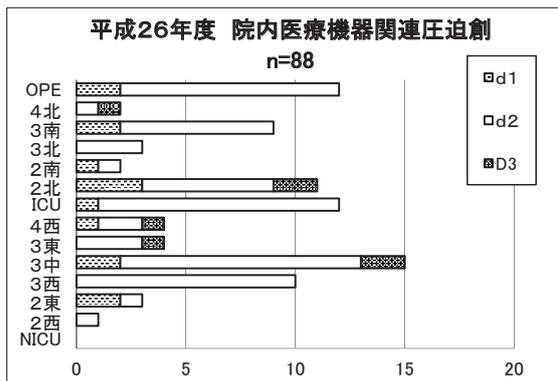
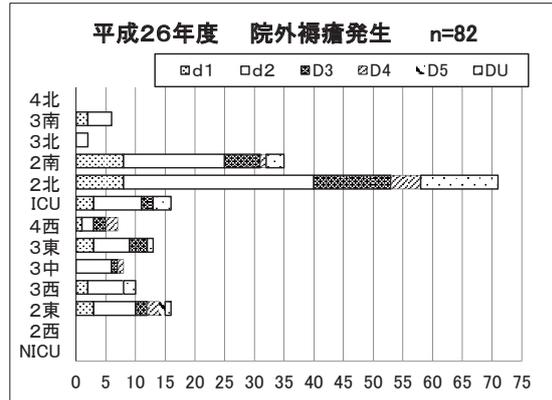
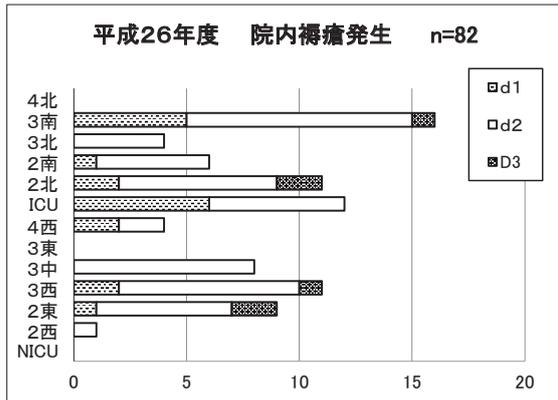
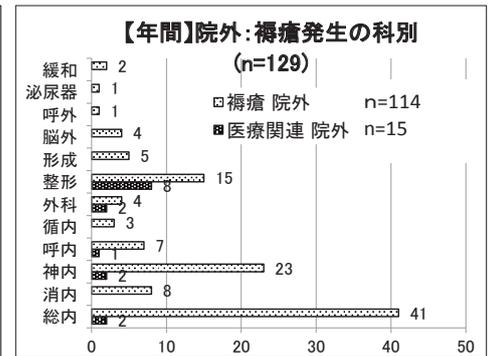
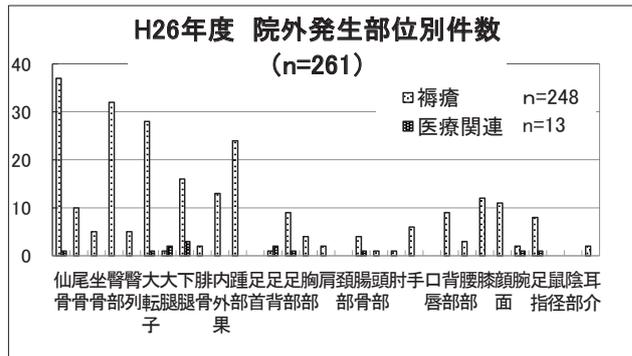
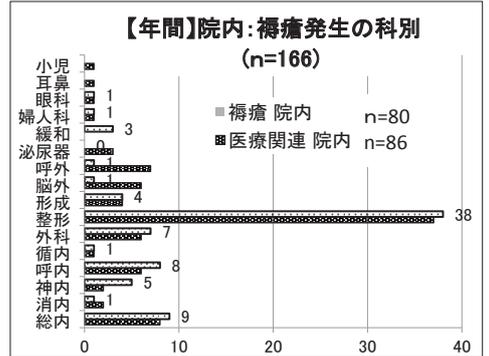
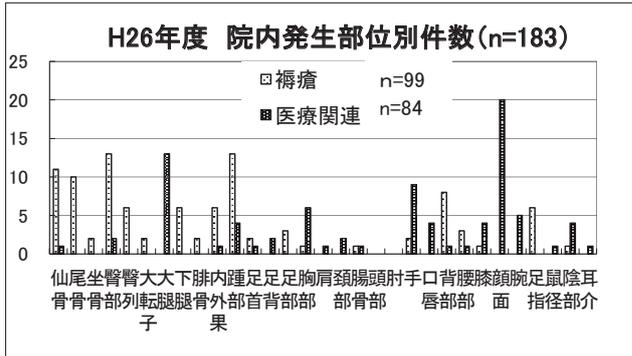
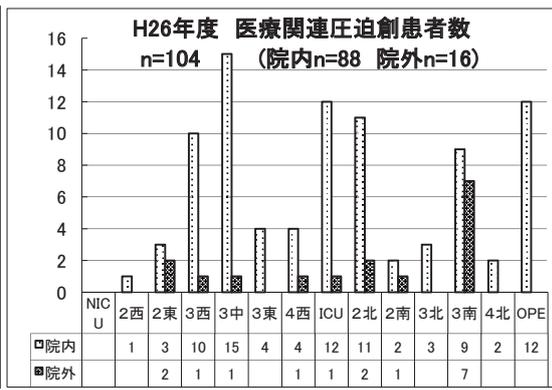
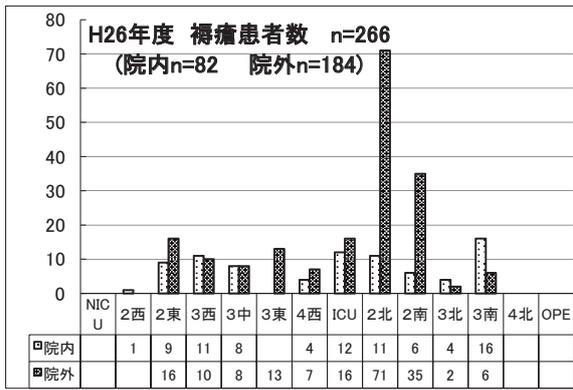
【委員会メンバー】

形成外科：信太医師、褥瘡管理課(下前・逆瀬川、12月～椎木)、看護部(松野下師長・上山副師長・伊野主任)、外来・クリニック・各病棟・OPE室、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション部(PT・OT・ST)、医事課

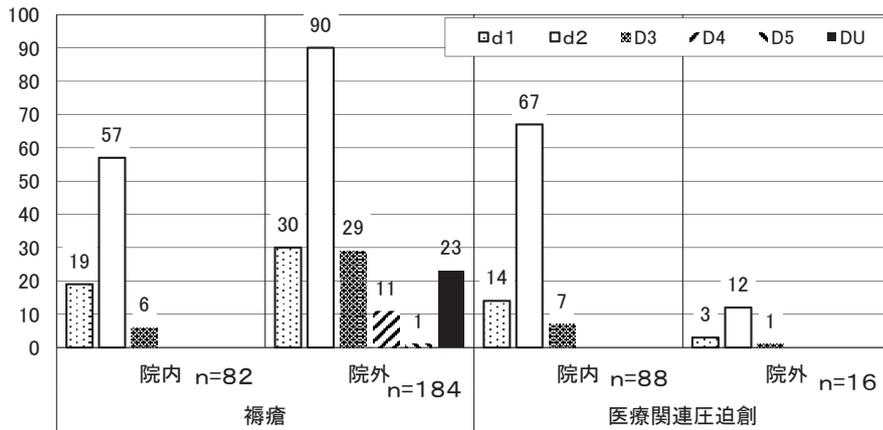
	入院患者数	要対策	ハイリスク	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡
4月	642	112	173	11	47	40	12	41	1	125	23
5月	635	111	147	7	51	41	7	33	1	108	19
6月	662	140	155	7	48	45	15	40	4	116	18
7月	730	159	167	11	51	34	8	40	4	122	15
8月	706	155	163	13	49	44	11	51	1	110	21
9月	667	160	144	8	49	39	9	29	4	112	11
10月	722	179	164	13	53	42	12	37	3	123	21
11月	599	138	155	11	57	30	9	24	5	125	20
12月	635	132	191	10	78	38	13	34	3	153	27
1月	680	149	169	10	61	41	12	25	1	133	26
2月	675	141	160	14	45	32	12	38	0	129	31
3月	708	165	159	9	48	33	8	37	0	131	26
計	8061	1741	1947	124	637	459	128	429	27	1487	258

	入院患者数	要対策	ハイリスク	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡
NICU	211	20	190		74					189	
2西	456	147	9		2	5		2		5	1
2東	1262	248	165	10	46	38	5	18	7	140	22
3西	835	121	130	12	97	34		3	1	118	28
3中	390	95	218	5	46	44	14	111	3	118	22
3東	740	213	96	5	26	2	1	10	4	96	8
4西	1115	173	61		12	3	3	4		53	10
ICU	134	102	384	77	150	260	100	188	6	172	34
2北	613	108	180	8	94	7	1	2	5	183	58
2南	655	141	158	6	53	5				154	27
3北	278	124	116		9	33		44		74	6
3南	475	157	219	1	27	28	4	46		174	31
4北	898	88	12		1			1	1	11	1
OPE											10
計	8062	1737	1938	124	637	459	128	429	27	1487	258



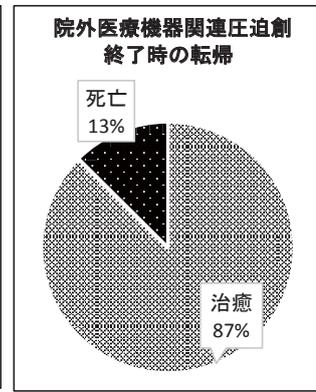
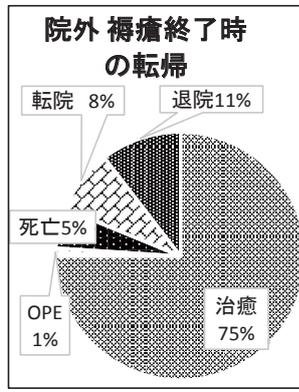
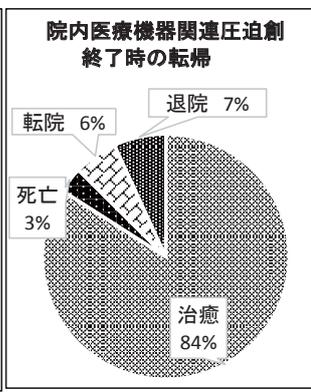
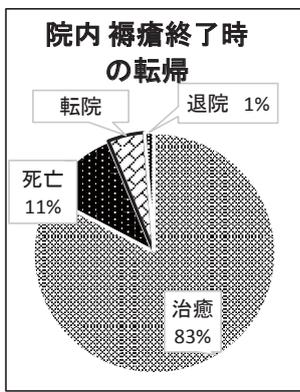


平成26年度 褥瘡・医療関連圧迫創 患者総数:深達度別 n=300

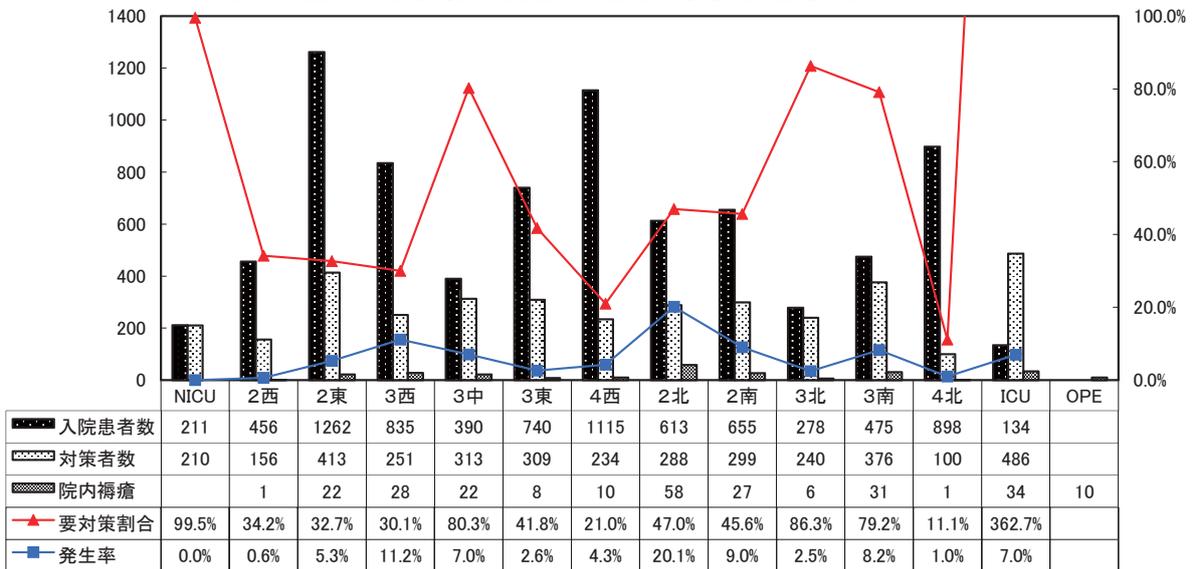


H26年度 治癒日数

	院内		院外	
	褥瘡	医療	褥瘡	医療
d1	7	7	7	6
d2	12	8	9	8
D3	21	21	23	
D4				
D5				
DU			63	



平成26年度入院患者総数と褥瘡対策患者および、褥瘡発生割合(病棟単位)





看護業務委員会

【目的】 看護業務の統一化並びに、看護水準の維持、向上を図る事を目的とする

【平成 26 年度目標】 ナーシング・スキルの活用を通して統一した看護実践ができる

【開催日時】 毎月第 3 水曜日 13:30～14:30

【委員】 有村看護部長 近藤副部長 中村師長 山下師長 副委員長 日高主任 杉崎主任
病棟・手術室・外来・クリニック 各委員 1～2 名

【活動内容】

- 4 月～ H27 年 1 月 各病棟、毎月 2 課題（ナーシング・スキル）試験の実施
1 課題の監査・評価の実施と報告
- 7 月 NBL 時の使い捨て手袋の装着／血糖チェック時の手洗励行
- 9 月 褥瘡処置：被覆材の交換日記入／インスリン部位の確認
- 10 月 アンブル保管／内容と記録(ハイリスク薬剤等)
CV 挿入時の介助
抗生剤の用法と副作用の観察
入院時の血圧測定
- 11 月 CV ポート消毒
- 12 月 輸血終了時の輸液ルート内残量血液 輸血療法委員会へ
- H26 年 1 月 CV 輸液セット／マンメーターの使用
- 2 月 ナーシング・スキル機能追加：当院は「資料」項目名
- 3 月 血液製剤の承諾書／血液管理 補足事項へ追加
ナーシング・スキル活用例報告資料（他施設）

【評価】

今年度、病棟の特徴である看護手順をそれぞれ病棟ごとに課題設定し、また、それらが正しく実践できているか監査・評価を行った。監査の方法が統一されず結果内容が課題のみの評価病棟もみられたが、監査・評価より、スタッフへの統一した看護実践への教育として携わりがみられる。また、毎回のチェックリスト・試験を通して個人の習得度アップにも関わられたと考える。

次年度もナーシング・スキルの啓蒙活動と看護手順の監査は引き続き行い、質の高い看護を目指して統一された看護実践へ繋がられるように活動していく。



看護部入退院支援調整委員会

【目的】 各部署における円滑な入退院支援調整の実践を支援することで、患者の早期退院・ケアの質の向上を図ることを目的とする。

【目標】 1. 受け持ち看護師として意識向上と責任感を持つことができる
2. 退院の問題点の明確化と適切な支援ができる

【委員】 看護部長 有村 智代
副看護部長 岩下 邦子
委員長 近藤 ひとみ 副委員長 原田副師長・大野主任
2西 中原梨江子 2東 石橋 薫 NICU 宮崎由香里 3西 金子さおり
3東 下水流智美 3中 穂満一代 4西 朝廣美香 ICU 都甲博美
2北 赤崎みずえ 上野師長 2南 都甲あずさ 井上勇哉
3北 前田ゆかり 3南 外園春香 新川知沙
4北 上温湯和美 外来 中馬たまみ クリニック 上山真紀 國生かおる
MSW 原口一博 吉満実 上西章子 春山留実

【活動内容】

退院調整マニュアルの読み合わせ・見直し
MSWによる学習会「社会資源と退院調整」
退院支援・調整に関する患者家族および看護師のアンケート調査（3回／年）
事例プレゼンテーション（グループワーク：毎月）
他部署の退院支援カンファレンスの見学
他施設実習
グループワーク・演習
退院調整加算算定状況の報告
地域連携入退院支援月刊情報誌の購読・活用（6冊／年間：輪番制）

【反省】

今年度は受け持ち看護師の役割に着目し、受け持ち看護師がどのように退院支援に関わっているか退院支援の現状や認識の調査を実施し、受け持ち看護師の役割に関する課題を明確にして取り組んだ。しかし、アンケートの結果から、受け持ち看護師の役割を認識する機会にはつながったと考えるが、現状は、退院支援・調整に向けて情報収集は行っても退院支援・調整の知識が不十分であり、個別的な退院支援・調整が出来ていない結果となった。今年度より、国の政策である「鹿児島県退院支援ルール」が開始され、当院の退院支援ルールも合わせて変更となる。退院支援ルールの定着のためにも、まずは、退院支援調整委員一人ひとりが理解し、自部署に周知させ部署全体・病院全体で取り組む必要がある。次年度は、退院支援に関する教育に取り組んでいきたい。



臨床検査適正化委員会

平成26年度臨床検査適正化委員会は、精度管理報告、新規検査項目の実施、外注化項目の決定や中止、検査運用の変更等、臨床検査の適正化を目的、目標に年2回(4, 11月)程度開催しています。

【委員会スタッフ】

委員長	白濱 浩	(診療支援部長)
副委員長	佐藤 榮一	(中央臨床検査部長)
副委員長	生野 博久	(総合内科部長)
委員	岩下 邦子	(看護副部長)
	尾堂 知子	(外来看護副師長)
	濱田 敏彦	(クリニック事務長)
	御供田 貴之	(経営企画課長)
	東 貴史	(医事課長補佐)
	村中 利也	(中央臨床検査部技師長)
	山崎 泰代	(中央臨床検査部主任)
	宝代 聡美	(中央臨床検査部：議事録担当)

【平成 26 年度の活動内容】

(精度管理報告)

- ・平成26年度日本医師会臨床検査精度管理報告
参加項目数49で総合評点99.1と良好な成績でした。
- ・平成26年日本臨床検査技師会精度管理報告
224項目中223項目がA～B判定であり良好な成績でした。

(新規検査システム、機器、検査項目等の更新)

- ・尿検査 クリニテックアドバンタスに変更 (機器が10年経過し、部品がないため) 2014. 5. 31
- ・生理検査 イベントレコーダー 貸出検査開始 (2週間記録、循環器内科より依頼) 2014. 6. 2
- ・尿素呼気試験 POC one 院内検査開始
(外注検査であったが検体数増加のため消化器内科より院内検査導入の依頼) 2014. 6. 25
- ・血液部門より血球自動分析装置 ADVIA2120からADVIA2120iへ変更
(9年経過し、中検は24時間稼働しているため消耗が激しいため変更となった。) 2014. 8. 20
- ・動脈硬化検査 VaSera VS-3000TE 検査開始 2014. 10. 1
- ・睡眠時無呼吸検査 ウォッチパット 貸出検査開始 2014. 10. 2
- ・生化学免疫部門より免疫分析装置 AIA1800からAIA2000へ変更
(8年経過したため変更となった。処理能力が向上した。) 2014. 10. 29
- ・血液ガス分析装置【RAPID Point500】導入
SIEMENS社製の血液ガス分析装置【RAPID Point500】を中央検査室と外来検査室にそれぞれ導入した。
クリニック検査室は従来通りsysmex社製の【AVL-OPTI-CCA】での運用となっている。
従来の測定項目
PH/PCO2/PO2/Base(B)/tCO2(P)/HCO3(P)/tHb/SO2/Hct/Na+/K+
上記に加えて、今回測定出来るようになった項目
FO2Hb/FCOHb/FMetHb/FHHb/nBili/Ca++/Cl-/AnAap/Glu/Lac
電子カルテのオーダー場所：『検査/臨床検査/血液ガス分析』や結果の保存場所：『検査結果』は変更なし。2015, 3, 6より

(検査項目の変更、中止)

- ・院内検査 輸血部門より赤血球製剤Ir-RCC-LRがIr-RBC-LRへ名称変更
(名称の変更。内容の変更はありません。)2014. 8より順次
尿中レジオネラ検査キットの変更
(コスト減が見込まれる為の変更 原理や採取方法、検査時間等の変更はなし)2015. 2, 1より
- ・外注検査 マイコプラズマ核酸同定の採取スワブの変更2014. 10. 20
フィブロンクチン採取容器の変更 (新試薬への変更の為)2015. 4, 1より

(その他)

- ・血液培養ボトルの保管について・・・各病棟によって保管場所がバラバラであった為、最低限の在庫で使用時まで冷蔵庫で保管するよう統一した。(温度管理の徹底や降灰による細菌汚染の防止)採血後はすみやかに検査室に提出し培養を始める。
- ・採血管BCロボ・・・10年目に入り故障が頻発しており、購入へ向けて価格等の検討中。
- ・採血業務の協力・・・引き続き採血業務の看護部への協力を行っていく。

以上のことが2回の委員会で報告、決定されました。



[医療の質向上]

委員長 松野下 恵子(報告)

看護記録委員会

【目 標】 患者が見える看護記録の取組み

【記録委員会スタッフ】

看護部長	有村 智代		
副看護部長	岩下副看護部長		
委員長	松野下 恵子		
副委員長	上野 京 仮屋 由美 江口 しおり		
委員			
2 西 末増 枝里子 2 南池増 さおり NICU 榎満 香織			
3 北 内田 志帆・安田 有希 2 東 西迫 晃子・中馬 聖藍	3 南 松平 美紀・前原 瑞紀		
3 西 下内 広美 4 北 西 洋子	3 中 永田 三千代・竹迫 智美		
外来 窪田 みどり CL 上村 麻美	3 東 中迫 誠		
4 西 小屋敷 優姫 ICU 鬼塚 里子・小野 保代	2 北 戸高 孝子 手術室 岩切 まどか		

【平成 26 年度活動内容及び実績】

5月より、看護記録マニュアルとSSI電子カルテ操作マニュアルを基に、一体化した看護記録マニュアルの見直しを開始。3グループに分け平成27年5月には提出完了し調整依頼予定。今回は、看護記録マニュアルを優先していたため、看護記録監査ができなかった。看護必要度監査は2回実施。看護必要度の改訂もあり見直しをしたが再検討の必要あり。委員会で記録についての検討は随時実施したが、経過記録についての学習会ができなかった。委員の中では、目標の「患者が見える看護記録の取組み」については、日々のカンファレンスで記録指導を行い、不備のある記録については、声掛けし働きかけたが記録の充実には不十分との意見。記録の現状として、記録内容についてのアセスメントが不十分のため、記録の内容が浅い等の意見が上がっている。平成27年度は、「看護記録のマニュアルを完成させ看護記録監査を行う。委員会での学習会を持ち記録についての知識を深めていく。また、看護記録監査の結果をもとに、各病棟の問題点を分析してグループで事例検討を行い、各委員が記録指導にあたる」とした。看護必要度監査については、看護必要度委員会へ一任。



患者図書室運営委員会

【委員会目的・目標】

患者図書室の管理・運営を円滑に遂行し、より充実した利用者サービスを提供できるよう患者図書室サービスを検討し、また患者図書室としての意向を反映できるようにする。

【患者図書室目的・目標】

患者さんご自身が病気や検査・治療法について理解を深め、医療提供者の医療に関する説明の質と効率の向上を図り、協働の医療を促進する。

【委員会構成】

医師（病院長・運営委員長）1名、看護部1名、リハビリテーション部1名、患者サポートセンター1名、緩和医療課1名、事務局（事務局長、総務企画課）3名、総務企画課 学術情報室 2名。
上記のほか人事課ボランティア担当1名が参加。

【平成26年度の活動内容・実績】

患者図書室運営委員会の開催は3回。利用統計、蔵書点検、ボランティアスタッフの活動状況の報告や運営に関する細部について話し合いを行った。5月にはNPO法人『医療の質に関する研究会』の『患者図書室プロジェクト』による「患者図書室のこれから」と題したシンポジウムに1名が参加した。また、広報用に「患者図書室すまいる通信」を創刊した。

患者図書室『すまいる』は前述のNPO法人の支援のもと、平成25年4月19日にオープンし2年が経過した。ボランティアスタッフを中心に原則2名ずつで運営しており、26年度は23名のボランティアが活動した。26年度の延べ利用者数は2,711人、1日平均利用者数11人、入院患者比率50.2%、図書貸出数684冊であった。

本館7Fというアクセスには不便な場所であるが、眺めがよいと聞いて訪れる利用者も多く、書架にはボランティアによる折り紙や様々な飾りも増え癒しの空間となっている。利用者はまだまだ多いとは言えないが、入院から退院までの間に繰り返し利用される患者様も見受けられ、図書の利用により病院で説明されたことが納得しやすかったというご意見もいただいた。

平成27年度も引き続き、患者様への紹介や患者様同士の口コミにつながるよう、まずは職員への認知度の向上や利用の促進を図るとともに、広く職員の利用をお願いしたい。



がん看護委員会

【目的】

- 1: 地域がん診療拠点病院であり、がん患者と家族がどの時期であっても安心して治療・療養できるように病院全体のケアの質向上を図る。
- 2: 院内における治療期から看取りにわたって緩和ケアの問題点などを議論し、緩和ケアへの関心を高め、本委員会で一緒に考えることによって質の向上を目指すことを目的とする。
- 3: 院内で実施されているがん化学療法が“確実に”“安全に”“安楽に”行われるよう支えることを看護師の役割として自覚し、実践できるよう問題の共有化をはかり、対策を講じていく。

【会議開催】 毎月第1木曜日 16時30分～17時30分 医局3階

【平成26年度委員長】 緩和ケア認定看護師 岩山友紀(緩和医療課)

【平成26年度委員】

- | | | | |
|------|------------------|-------|-----------------------|
| 2 東 | 四村朋美、神園加奈子⇒濱田美香 | OP室 | 齋藤民子 |
| 2 西 | 松永雅美⇒片平幸恵 | 2 北 | 池田美智子 |
| NICU | 原田純子 | 2 南 | 本田隆行⇒齋藤潔子 |
| 3 西 | 大脇美枝、永野ひとみ、松元香奈 | 3 北 | 永尾幸江(病棟編成に伴い12月までの参加) |
| 3 東 | 野中直子⇒恒吉ひろみ | 3 南 | 南沙矢香 |
| 3 中 | 山崎英理、上松瀬奈々、小田奈津紀 | 4 北 | 松山真衣 |
| 4 西 | 東村まさ子⇒四元美紀子、松元美保 | 外来 | 布市多美子、同免木直美 |
| ICU | 井黒真姫、里恵理子、徳重沙耶 | クリニック | 入江田徳美⇒高倉加代子 |

緩和医療課：植屋明代　がん化学療法看護認定看護師：河原尚美(がん化学療法課)

緩和ケア認定看護師：大西玲子(緩和医療課)　乳がん看護認定看護師：村崎まこと(2東)

がん放射線療法看護認定看護師(研修修了者)：芝こずえ(2北)

【活動内容と実績】

- 5月 「医療におけるコミュニケーション」講義
- 6月 「基本的コミュニケーション技術について」講義
- 7月 「基本的コミュニケーション：共感・反復」講義・ロールプレイ
- 8月 「基本的コミュニケーション：反復・ちょっと待つ(沈黙)」講義・ロールプレイ
- 9月 「コミュニケーションを用いたロールプレイ」ロールプレイ
- 10月 「基本的コミュニケーション：反復・沈黙・共感」ロールプレイ
- 11月 「がん看護委員として活動するために」講義・GW
- 12月 「がん看護委員として活動するために」GW
- 1月 「がん看護委員として活動するために」各部署の中間報告
- 2月 「がん看護委員として活動するために」活動報告 今年度のまとめ
- 3月 「カンファレンスを上手に活用するために」講義・模擬カンファレンス

昨年度に引き続き質の高いがん看護の提供をすべく今年度も全病棟からがん看護委員を選出し会議を行った。患者とその家族との接し方に対する困難感もあり、円滑なコミュニケーションや信頼関係の構築のため今年のテーマを「傾聴」とした。コミュニケーションスキルの講義やロールプレイを行うことで委員自身の技術の向上が図れ、委員会で学んだことをそれぞれが病棟へフィードバックすることもでき、そのことにより各部署のがん看護への意識が高まり質の向上へつながったと考える。次年度も継続して質の向上や病棟全体のスキルアップに努めていきたい。



医師臨床研修管理委員会

【委員会目的・目標】

本委員会の医師臨床研修活動は、医師としての基盤形成期において、人格の涵養性、プライマリ・ケアの基本的な診療能力等を習得し、将来の地域医療を担う専門医の育成を目的とする。また、研修に専念できる環境の整備を図る。

【H26 年度委員(H27.3 現在)】

委員長 昇 卓夫

副委員長 / プログラム責任者 牟礼 洋

(指導医講習会修了医)

牟礼 洋、丸山 芳一、松永 俊二、濱之上 雅博、長堂 竜維、米田 敏、巻幡 聰、堀之内 兼一、玉田 泉、田代 幸恵、加藤 明彦、生野 博久、今給黎 尚幸、銚立 博文、今給黎 和幸、西山 淳、石田 育男、甲斐 太、信太 薫、三宅 健治、大磯 陽子、吉永 英希、高橋 誉(谷山病院；研修協力型病院)、茨 聡(鹿児島市立病院；研修協力施設)

(上級医)

昇 卓夫、西澤 輝彦、大場 一郎、池田 耕自、高木 信介、中目 康彦、盛満 慎吾、小濱 浩介、川島 寿史、宮口 文宏、薄井 隆宏、丸山 有子、中禮 久彦、下舞 浩二、松邨 宏之、玉井 真理子、浜畑 弘記(長島町立鷹巣診療所；研修協力施設)

(外部委員)長野 芳幸

(委員)

有村 智代、高橋 真理、兒島 邦幸、村中 利也、室屋 純一、上平田 美樹、原口 一博、野口 桂一、永井 美由紀、山本 あかり

【平成 26 年度の活動内容及び実績】

平成26年度は、基幹型初期臨床研修医2年次3名(佐保明Dr、中間恵美子Dr、大田哲也Dr)が在席、加えて2名(上塘彩子Dr、藍嵐Dr)を採用、鹿児島大学病院の協力型として研修医2名(木下伊寿美Dr、小倉拓馬Dr)、医師会病院の協力型として研修医1名(上敷領俊晴Dr)を受け入れ、合計17診療科で指導を行った。

2名の上級医が指導医講習会を修了し、当院常勤医における厚労省指定の指導医は計22名(28%)となった。また、研修プログラム責任者講習会を長堂部長が修了した。

一部の委員で研修医体制会議を計13回(毎月1回以上)開催した。救急症例カンファレンスは計22回開催し、研修医と救急担当指導医が参加した。修了判定会においては、委員20名が参加し、研修医2名(佐保明Dr、中間恵美子Dr)の研修修了が承認された。

採用状況について、鹿児島県における平成27年度採用医師臨床研修マッチング(平成26年度実施)マッチャ者94名(前年度比10名増)、採用者は92名(前年度比19名増)であり、県内の実績目標100名に近い結果が得られた。当院においては、マッチャ者4名(前年度比1名増)、2次募集1名、採用者5名(前年度比3名増)であり、増加の一因として、ポリクリや病院説明会を通して鹿児島大学の医学生に当院の研修が更に認知されたことが挙げられる。

今後も、研修プログラムをはじめ、救急カンファレンス、環境等の向上に励み、鹿児島県内の研修指定病院や医療機関とも協力しながら多方面における受け入れ体制の充実が必要不可欠である。

また、医師法第16条の2第1項「臨床研修に関する省令の施行について(H15年6月付)」の中で「指導医はプライマリ・ケアの指導方法等に関する講習会を受講していること」と規定されていることから、当院でも引き続き、研修指導に携わる医師に対する指導医講習会受講の推進が必須課題である。

初期臨床研修関係事業(平成 26 年度)

日 付	事 業 名 称	当院参加者	場 所	主 催
H26. 4. 25	平成 26 年度研修医歓迎レセプション	3 名	県医師会館	県医師会
H26. 6. 1	e レジフェア 2014 in 西日本	7 名	西日本総合展示場	株式会社リンクスタッフ
H26. 6. 6	平成 26 年度第 1 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議	3 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H26. 6. 30	平成 26 年度第 1 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会	1 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H26. 7. 17	夏の臨床研修病院合同説明会	5 名	鹿児島大学鶴陵会館	県初期臨床研修連絡協議会
H26. 9. 6	第 10 回鹿児島県臨床研修医合同研修会(藍研修医の症例発表)	8 名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
H26. 9. 23	第 9 回九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会	5 名	福岡国際会議場	九州厚生局
H26. 11. 8,9	平成 26 年度臨床研修指導医講習会(三宅医師修了)	1 名	全日本病院協会	全日本病院協会
H26. 11. 26,27	平成 26 年度プログラム責任者講習会(長堂部長修了)	1 名	スペースアルファ神戸	臨床研修協議会
H26. 11. 22,23	第 5 回臨床研修指導医養成講習会(巻幡部長修了)	5 名	鹿児島大学病院総合臨床研修センター	県初期臨床研修連絡協議会
H26. 12. 1	平成 26 年度第 2 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議	3 名	鹿児島市勤労者交流センター	県初期臨床研修連絡協議会
H26. 12. 11	平成 26 年度第 2 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会	1 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H27. 1. 17	第 11 回鹿児島県臨床研修医合同研修会(上塘研修医の症例発表)	5 名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
H27. 3. 1	レジナビフェア 2015 in 福岡	5 名	マリンメッセ	民間医局
H27. 3. 22	レジナビフェアスプリング 2015 in 東京(中間研修医、藍研修医を派遣)	2 名	東京ビッグサイト	民間医局
H27. 3. 13	鹿児島県臨床研修病院見学ツアー事業(A コース ; 10 名来院)		県内 11 病院	県初期臨床研修連絡協議会
H27. 3. 14	春の臨床研修病院合同説明会	5 名	サンプラザ天文館	県初期臨床研修連絡協議会

(その他) ・ 県内外の医学部医科学学生 28 名の病院見学受入
 ・ 平成 27 年度研修プログラムより、社会医療法人天陽会 中央病院および公立種子島病院を研修協力施設として厚労省に申請

(歯科医師研修医)

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院研修歯科医 27 名受入



[教育研修推進]

委員長 藤山 みどり(報告)

看護教育委員会

「保健師助産師看護師法」「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の改正により、2010 年 4 月から新人看護職員の卒後臨床研修が努力義務化となりました。看護の質向上、医療安全の確保、早期離職防止の観点から、新人看護職員研修は不可欠であり、努力義務となっています。新人看護職卒後研修ガイドラインを基に新人に関する研修は充実してきていると感じます。教育委員は看護実践と、病棟内の教育、集合研修での教育企画、運営、評価と一生懸命に活躍しています。数年前からは、認定看護師も集合研修、呼吸ケア、がん看護、感染管理研修など多くの場面で講師として、協力してくれています。

看護教育委員会としては、大きな枠組みの再構築中であり、日本看護協会の看護師のラダーが提示されることを待ち望んでいます。日本看護協会のラダーからヒントを得て、当教育委員会の構成に役立て、全スタッフのスキルアップができるよう頑張ります。

平成 26 年度実績報告 看護教育院内研修： 90 研修 延べ 2769 名参加
 院外研修参加： 223 研修 延べ 853 名参加



職員教育研修委員会

【目的】

安全で質の高い医療を効率的に提供するには、職員の生涯に亙る教育研修は極めて重要である。病院の業績を上げ発展させる要素は多種あるが、究極には職員各人の能力の向上とその十分な発揮が最大の要素であり、各人の能力水準を組織的、継続的に発展させる事が重要である。

【活動内容】

- * 全職員対象講演会、院内学術、各委員会主催講演会の管理・運営
- * 各部署の学会・研修会・旅費等の把握
- * 学会・研修会等の職員の要望、意見、改善等の対策

【総括】

講演会に関して、がん関係の講演会で副作用に関する講演会以外は、開催することができた。

副作用については、講師の都合などもあり、なかなか日程調整などでできなかったのが、来年度は早めに日程等調整し開催したい。

今年は、職員の健康に関して講演会を2回行った。日常生活と密接に結び付く講演とあって職員の参加も多く、今後も要望を聞き開催していきたい。

学会参加について、毎年各部署、くまなく参加しており一定の評価をしたい。医師が176件程度、その他の部署は312件と500件近く参加している。

学会に行きたくてもなかなか行けない職員の為に、参加した者は必ず、部署内でフィードバックをして職員の底上げにも取り組んで頂きたい。



看護臨地実習指導者会議

【委員会目的】

本会は、臨地実習の意義と実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導を行い、実習指導者としての資質の向上を図る。

【委員会スタッフ】

有村看護部長 藤山副看護部長 委員長 上之菌 副委員長 酒匂・田川
各病棟から選出された看護師29名

【平成 26 年度の活動内容及び実績】

- 1) 平成26年度の目標を①学生が学習しやすい環境と興味を持って実習できる雰囲気を作る。②学校教員と協働し学生の個性や学習習得度を考えた指導ができる。と掲げ各病棟取り組んだ。その結果、実習前に実習要項の読み合わせを行い、スタッフへの周知は図れていたが実習目標に合わせた効果的なケアがスタッフとともに行えず、学生への声かけが不十分であった。そのため、次年度は指導案を作成し実施・評価していくことにする。
- 2) インシデントとしては転倒・与薬・配膳・提出物紛失などがありその都度カンファレンスにて対策を行った。
- 3) 1月の実習期間中、9名の学生がインフルエンザに罹患したが早めの対応で患者への感染はなかった。
- 4) 平成26年度看護師国家試験問題の内容確認や臨床指導者研修の伝達講習も取り入れた。
- 5) 毎月各学校の実習打ち合わせや反省会を行った。学校名は以下の通りである。
久木田学園看護専門学校 鹿児島医療法人協会立看護専門学校 神村学園専修学校
龍桜高等学校 鹿児島医療技術専門学校 鹿児島中央看護専門学校 鹿児島高等看護学院 神村学園高等部



労使委員会

【目的】

職員にとって働きやすい環境づくりに取り組み、労働意欲と健康の維持、向上を図る。労使協力して職場の繁栄を目指し、相互の満足、共存共栄を目的とする。

【委員会】

労使代表者が集まり、定例8月に行う。但し必要に応じて随時開催する。
平成26年度開催実績 8月・3月

【活動状況】

- ・時間外労働に関する協定書・協定届の確認
- ・就業規則 第26条改定
- ・育児休業規程 第13条改定
- ・独身寮規程 第2条、第4条、第16条改定
- ・保育室運用規定 第12条改定
- ・給与規程 第19条改定



病床運営委員会

【目的】

病院全体の病床の効率的な各科の割り当て・入退院の状況及び空床状況に合わせ急性期のDPCの医療機関として適切かつ効率的病床の有効利用を目指す

長期入院患者（3ヶ月以上）の把握と社会的入院患者の減少を目指す

DPC病院であり効率化の向上を目指す

【開催日時】

毎月1回 業務連絡会前 別館地下講義室

【委員】

昇院長（委員長）・今給黎理事長・牟禮副院長・西澤副院長・

大久保クリニック院長・丸山クリニック副院長・寺原産婦人科部長・生野内科部長

有村看護部長・藤山看護副部長・近藤看護副部長・岩下看護副部長・尾堂外来副師長

野口事務長・川井田事務長補佐・御供田経営企画課長・原口MSW・吉満MSW

【会議議題】

前月の病院全体平均在院日数及び各科の在院日数の報告と改善策

前月の病床稼働率の報告及び改善策

長期入院患者数（3ヶ月以上）の報告と各患者状況把握

入退院調整会議報告からの運営改善

その他、病床の有効利用や用途変更について

【総括】

平成26年度は診療報酬の改訂により在院日数・看護必要度に対する病床運営が必要となりました。特に在院日数については長期入院患者の在院日数への算入・短期滞在手術の在院日数除外などがあり18日以下への取り組みが強化されました。

また、連携パス（頸部骨折・脳卒中）実施のためには在院日数17日以下を目標に運営が必要となり、より一層の在院日数への取り組みの強化が必要となりました。

在院日数短縮化を実行していくと稼働率低下が著しく80%前半で推移してきたため稼働率維持の病棟運営として回復期病棟（亜急性病床は9月で廃止）の運営を27年1月より実施し（3階北病棟33床）稼働率・在院日数の課題解決を図りました。

来年度においても在院日数及び稼働率に対する取り組みは病床運営として引き続き病院全体の課題として有効な手段を検討していきます。

平成26年度（平均在院日数・稼働率・入退院数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均値
在院日数	17.0	18.3	17.8	16.4	16.9	16.5	16.6	19.6	17.5	17.7	15.8	16.8	17.2
稼働率	80.5%	77.6%	82.8%	82.4%	83.8%	79.5%	80.6%	83.8%	82.6%	83.7%	89.0%	88.5%	82.9%
入院数	642	635	662	729	706	667	722	599	635	680	675	708	671.7
退院数	635	641	653	705	745	672	695	607	715	589	678	703	669.8



労務委員会

【目的】

働きやすい環境づくりを基本に、規程の策定や見直し、各部署からの事案の検討、検証、解決を図り、職員人事考課制度の運用と適正な人件費管理を目的とする。

【委員】

昇卓夫(委員長)・有村看護部長・野口事務局長・堀経営企画室長・十島人事課長補佐

【主な議題】

- 4月 人事考課の進捗・人件費、介護福祉士来年度新卒対策、病院指標（ディンクル）
- 5月 人事考課進捗の確認、人事異動の検討、平成27年薬剤師募集対策、正職員登用の申請、資格手当申請状況確認、入退院コントロールセンター新設、看護師求人
- 6月 人事考課の決定、昇給昇格の決定、人事異動の検討、障害者雇用の対策、資格手当申請状況確認、薬剤師採用状況進捗確認、労務問題
- 7月 人件費・時間外推移、平成26年度総人件費増減確認、正職員登用検討、人事異動、初任給検討、病床管理部新設に伴い組織図の変更
- 8月 人件費・時間外推移、規定の整備（ハラスメント防止規程）、労務問題
- 9月 人件費・時間外推移、規程の整備（ハラスメント防止規程）、パート職員人事考課検討、人事考課中間面談実施検討、人事異動
- 10月 人件費・時間外の推移、WLBからの報告、医師昇格の検討、全職員勤続年数分析、パート人事考課の昇給検討、職員向け求職報奨金の検討
- 11月 人件費・時間外の推移の検証、組織図変更、ナースアシスタント採用検討、人事異動、正職員登用検討、常勤昇任基準の変更、パワハラアンケート調査結果報告、永年勤続表彰制度の検討
- 12月 人件費・時間外の推移の検証、認定看護師支援、研修医国内留学支援の検討、人事考課説明会日程調整、医師多面評価日程検討、正職員登用検討
- 1月 人件費・時間外の推移の検証、人事異動の検討、医師多面評価日程確認、職員人事考課日程確認、初任給の調整、新卒採用状況進捗確認、インセンティブ支給の検討
- 2月 人件費・時間外の推移の検証、医師多面評価進捗確認、職員人事考課進捗確認、新卒採用状況進捗確認、規程変更・整備（資格手当、育児休業規程、独身寮規程、保育室運用規定）インセンティブ支給の検討、部署変更による組織改編検討
- 3月 人件費・時間外の推移の検証、医師多面評価進捗確認、職員人事考課進捗確認、新卒採用状況進捗確認、平成28年度新卒薬剤師採用対策検討、正職員登用検討

【総括】

平成26年度本委員会では引き続き「人件費の適正化」「職員のモチベーション向上」「規程の整備」を主な施策として取り組みました。（人件費率：平成24年度54.2%⇒平成25年度53.6%）



働き続けられる職場作り (Work Life Balance) 検討委員会

ワークライフバランス (WLB) を推進するに当たり、「全職員が健康でやりがいをもって働き続ける職場づくり」をめざし、質の高い医療看護を提供する地域に根ざした救急病院としての役割を果たすために活動している。

< 昨年からの継続取り組み >

- ・月 1 回の WLB 推進会議の開催
- ・全職員対象のピタッとカエルデーの実施 (第 4 金曜日)
- ・産休・育休対象者へのリーフレットによる各種制度の案内
- ・看護部保健室の定期、不定期の開催は継続実施中
- ・誕生日に年休を使用できるシステム
- ・託児所の夜間・休日保育数 3 回 / 週

現在、委員の構成は人事課 2 名、看護部は看護副部長 1 名、師長 1 名、副師長 1 名、主任 3 名、子育てママ看護師 1 名、子育てパパ看護師 1 名、独身看護師 1 名、放射線技師 1 名、臨床工学部 1 名、リハビリテーション部 2 名、栄養課 1 名である。本年度看護部では、日本看護協会が主催する 3 回目のインデックス調査に参加。主なデータ分析の結果は以下のとおりである。

- ・キャリア開発、育児、介護に関する指標が高い
- ・看護職員を大切にできる職場である 50⇒60% へ上昇
- ・労働環境は改善傾向にあるが経営・組織に対する不満、不安あり
- ・活用できる制度を管理職も含め周知する必要がある
- ・勤務作成手順の明文化 (連日勤務・連休の入れ方)
- ・子育て世代には手厚いが独身者への負担は増えていないか
- ・病棟間の格差がある
- ・肩こり、腰痛、倦怠感、頭痛、疲れ目の順に多い腰痛予防などに取り組む必要がある

上記結果を受けて、4 つのグループ (研修グループ、分析グループ、業務グループ、広報グループ) に分かれて活動を行った。

広報グループは WLB だよりを発行した。研修グループは腰痛体操を 2 回企画実施し、多部門の参加があり、好評であった。次回からは労働安全衛生委員会とも協力運営していく方向で、今回は肩こり体操を企画中である。

また、委員からの提案で遠距離通勤者に対する通勤手当の見直しや子育て中のリハビリスタッフの勤務時間の考慮や各部署が管理している部署会費の取扱いについて統一がなされた。その他、永年勤続賞与については現在も検討中である。

外部への活動として、11 月 5 日福岡で開催された九州モダンホスピタルショーで WLB の取り組みについて紹介した。カエルバッジや看護部保健室の利用状況、担当者の選出方法についての質問があった。

12 月 12 日鹿児島県看護協会での 3 年間の施設での取り組みについて発表した。

今後はすべての部署へ推進委員を置き、ひろく意見の集約をはかりたい。また活動については PDCA サイクルを機能させさらなる推進を図りたい。

病児保育室

【平成 26 年病児保育室業績】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ利用者数	63	38	55	46	41	60	49	50	42	44	42	51	582
開設日数	25	24	25	26	26	24	26	23	24	23	23	25	294
満室おこわり	27	10	17	7	9	9	7	4	37	28	11	4	170

以上、多くの方々のご協力の下、順調に7年目の運営を展開しております。

昨年度が合計789名をお預かりに対し本年度582名とやや減少しておりますが、本年度は産休中などのスタッフ不足などでお預かり数に対応できなかったことも一因と考えます。平成26年4月からは保育士が1名増員となり預かり数増加につながるものと考えます。

子育て中の方もそうでない方も働き続けられる職場環境の提供の一つと考え、今後も病児保育室を通して貢献できたらと思います。

【参加学会】

平成 26 年 5 月 30～31 日 日本医療保育学会 青森県

平成 26 年 7 月 全国病児保育研究大会 東京

平成 26 年 10 月 19 日 日本医療保育学会 九州・沖縄ブロック研修

平成 26 年 10 月 全国病児保育協議会 鹿児島支部会

参加者 吉村・鈴木

参加者 吉村・鈴木

会頭 吉村 参加者 鈴木・畠中

参加者 玉田・畠中・吉村・鈴木



広報委員会

【目的】 医療の公共性や、地域に開かれた病院としての観点から、広報誌の発行、病院パンフレット、インターネットを通じての患者さまや他医療機関、地域の方々に対する広報を目的とする。

【委員会】 年4回 但し必要に応じて随時開催

【委員】 委員長 西澤輝彦副院長
総務企画課 前野浩一課長、中央放射線部 稲留 久恵・池田 真一、中央検査部 花房雅子、
薬剤部 壽 明伸、リハビリテーション部 福森・甲斐、栄養管理部 福元 のぞみ、
相談支援センター 吉満実・岡本 美穂、看護部(師長担当)、
学術情報室 大原美保子(書記)・永井美由紀(司会)

【活動状況】

広報委員会では広報誌『四季だより』の発行が主な活動となっている。

広報誌 四季だより (季刊誌 年4回発行)

院内報 いまきいれ (毎月発行)

病院業績集 昭和会誌 (年報) 平成26年10月発行

ホームページ・Facebook

今年度はホームページのスタッフの写真の差し替えと看護師募集サイトを新設のため写真撮影を行った。

また、リビングかごしまに産婦人科、形成外科、歯科、呼吸器外科の各外来と、がん診療連携拠点病院としてチーム医療に取り組むスタッフが紹介され、よいPRができたと思う。

Facebookへの記事も前年度に比べ増え、病院のお知らせだけでなく、職員の活動報告の場としても利用されている。

その他 病院案内、看護師募集案内パンフレット作成 (担当：永井)

広報誌・ホームページ等からの情報提供により病院への信頼、理解、好意を得られ、患者さまの満足度も高められると思う。今後もより多くの情報を発信し、患者さま、関連施設、地域の方々とのコミュニケーションを図りたい。



健康まつり実行委員会

【開催目的】

地域住民を対象に、健康は日常の食事・運動などの生活習慣によることが多大であるとの認識と共に、「楽しい健康づくり」の観点より健康増進への普及を図っていく。

【報告】

1. 開催日／平成 27 年 5 月 23 日（土）
2. 場 所／今給黎総合病院：外来駐車場、別館 1 階、講義室、リニアックセンター
3. 健康チェック／身長・体重測定、血圧、検尿、体脂肪率、骨密度測定、頸部エコー
4. 健康相談／専門医による健康相談（整形外科、形成外科、眼科、乳がん相談等）
5. 催し物／職員による合奏・合唱、ナースの卵（写真撮影）、バルーンアート、手洗いチェック、腰痛体操、健康ヨガ体操、エア遊具、救急車撮影、ヨーヨー釣り等
6. 院外参加／大龍小学校金管バンド演奏、しょうぶ学園・まかない・串ぼうずさんの飲食出店

毎年恒例の「みんなでイキイキ健康祭り」も今年で12回目を無事開催することができました。

今年は当院が財団法人設立50周年を迎え、記念講演として山田邦子さんをお招きし「大丈夫だよ、がんばろう！」のテーマでご自身の体験談をユーモアたっぷりにお話いただき大変好評でした。また、今回は院外からのご協力も頂き、大龍小学校の金管バンドによる生演奏やしょうぶ学園・まかない・串ぼうずさんの飲食コーナーを出店し、盛況のうちに完売となりました。そのほか、職員によるハンドベル合奏やバルーンアート、腰痛・ヨガ体操、イベント会場では、かき氷やわたあめなどの出店も行い、多くの地域の方々と触れ合うことができました。

当日は延べ301名の来場者で賑わい、なかでも健康相談は120件の相談で、地域の方々がご自身の健康について関心を持たれていることが分かりました。今後も「楽しく健康づくり」をコンセプトに地域の方々と交流を深め、健康の輪を広げていきたいと思っております。

研究実績

V

■ 各診療科・各部署別 研究実績

- 論文・誌上発表
- 学会発表 他

■ 院内研修会・講演会一覧

■ 院外活動報告

血液内科

【論文・誌上発表】

原著

1. Obama K.

Concomitant use of radiotherapy and two topoisomerase inhibitors to treat adult T-cell leukemia with a radiotherapy-resistant bulky disease: a case series. Am J Blood Res. 2014 Dec 15:106-9

【学会発表】

1. Kosuke Obama

Bortezomib, thalidomide and dexamethasone as salvage therapy for multiple myeloma patients. 日本血液学会総会 2014年10月 大阪

呼吸器内科

【学会発表】

1. 美園俊祐、鶴木泰自、窪田幸司、川島寿史、井上博雅

悪性腫瘍との鑑別に苦慮した肺放線菌症の1例

第73回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部秋季学術講演会 2014年10月 鹿児島市

2. 鶴木泰自、美園俊祐、窪田幸司、川島寿史、水野圭子、井上博雅、今給黎尚幸、巻幡聰、米田敏

完全切除し得た原発不明縦隔リンパ節癌の1例

第73回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部秋季学術講演会 2014年10月10～11日 鹿児島市

神経内科

【学会発表】

1. 甲斐太、荒田仁、林茂昭、長堂竜維、西澤輝彦、丸山芳一

急性内頸動脈閉塞症に対してtPA静注療法が有効であった2例

第39回日本脳卒中学会総会 2014年3月14日 大阪

2. 野村美和、長堂竜維 牧美充、荒田仁、松浦英治、高嶋博 樋口理、中根俊成

中枢神経症状を呈した抗ganglionicアセチルコリン受容体抗体（抗gAChR抗体）陽性の2症例

第55回日本神経学会学術大会 2014年5月21日 福岡

3. 上塘彩子、甲斐太、田澤真吾、野村美和、林茂昭、長堂竜維、丸山芳一

急性小脳炎と小脳失調型橋本脳症との鑑別が困難であった1例

日本神経学会九州地方会 2014年12月20日 沖縄

【座長】

丸山芳一

鹿児島HIV感染症研究会「HIV感染症の新知見」九州医療センター エイズ診療センター長 山本政弘先生
鹿児島大学医学部 鶴陵会館 2014年11月22日 鹿児島

【講演（院外）】

長堂竜維 パーキンソン病診療のちょっとしたPoint“患者さんの疾患理解のための言葉選び”

沖縄パーキンソン病医療講演会 ザ・ナハテラス 2014年4月25日 沖縄

長堂竜維 パーキンソン病の臨床武田薬品 武田薬品鹿児島支社 2014年4月17日

丸山芳一 パーキンソン病治療の実際と問題点 ノバルティスファーマ（株）2014年7月8日

長堂竜維 パーキンソン病の診断と治療 久光製薬 久光製薬鹿児島支店 2014年7月25日

丸山芳一 パーキンソン病診療の実際 協和キリン発酵（株）2014年7月31日

長堂竜維 パーキンソン病の診断と治療 大日本住友製薬 大日本住友製薬鹿児島支店 2014年8月27日

丸山芳一 心原性脳塞栓症の再発抑制におけるNOACの有用性 第一三共MR研修会 2014年12月16日

【講演（院内）】

長堂竜維 パーキンソン病ってどんな病気？ 講義室 2014年1月17日

外科

【学会発表】

1. 和田 真澄、立野 太郎、野口 智弘、濱之上 雅博、牟禮 洋
小腸捻転によるイレウスを発症した小腸GISTの1例 鹿児島市外科医会 2014年3月 鹿児島
2. 立野 太郎、濱之上 雅博、野口 智弘、牟禮 洋
著明な粘液排出を認めた肝内胆管のIPMBの1例 日本肝胆膵外科学会 2014年6月13日 和歌山
3. 下之菌将貴、濱之上雅博、立野太郎、野口智弘、牟禮 洋
肝内胆管腺腫の一例 鹿児島県肝癌研究会 2014年6月21日 鹿児島
4. 野口 智弘、濱之上 雅博、和田 真澄、立野 太郎、牟禮 洋
肝門部リンパ節転移を伴った低分化型肝細胞癌の一例 鹿児島肝癌研究会 2014年11月23日 鹿児島

【講演（院外）】

濱之上雅博 がん病診連携パス（大腸癌）について 大腸癌治療カンファレンス 2014年3月28日 鹿児島

呼吸器外科

【論文・誌上発表】

原著

1. Toshiro Obuchi, Takayuki Imakiire, Satoshi Yoneda, Akinori Iwasaki
Efficacy of arginine supplementation for the treatment of air leakage
Asian cardiovascular & thoracic annals (2014)22(2): 172-5

原著

2. Toshiro Obuchi, Kan Okabayashi, Takayuki Imakiire, Satoshi Yoneda, Akinori Iwasaki
The outcomes of surgery in lung cancer patients with schizophrenia Surgery Today (2014) 44:
855-858
3. 今給黎尚幸、米田 敏、巻幡 聰、岩崎 昭憲
後縦隔原発神経節細胞腫（ganglioneuroma）の2手術例 呼吸器外科学会誌 2015; 29(1):20-24

【学会発表】

1. 今給黎尚幸、巻幡 聰、米田 敏、岩崎昭憲
気管管状切除後の気管内挿管に伴う気道狭窄に対してレーザー焼灼術を施行した1例
第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 2014年4月14～15日 京都
2. 佐保 明、巻幡 聰、今給黎尚幸、米田 敏、下倉真平、加藤明彦、白濱 浩、田代幸恵
妊娠29週の自然気胸に対して鏡視下手術を行った1例 第51回九州外科学会 2014年5月9～11日 北九州
3. 今給黎尚幸、巻幡 聰、米田 敏、岩崎昭憲
右後上葉区静脈（V2）破格を認めた2例 ～3D-CTは全例に必要なか～
第31回日本呼吸器外科学会総会 2014年5月29～30日 東京
4. 米田 敏、今給黎尚幸、巻幡 聰、岩崎昭憲
破格を伴う右肺下葉S※+S10区域切除の経験—3D-CTの有用性—
第31回日本呼吸器外科学会総会 2014年5月29～30日 東京
5. 巻幡 聰、今給黎尚幸、米田 敏
当院で外科治療を行った肺非結核性抗酸菌症の検討 第10回鹿児島胸部感染症研究会 2014年8月 鹿児島
6. 巻幡 聰、今給黎尚幸、米田 敏
高齢者気胸 当科の経験 ～中年者を対照として～ 南九州VATSクラブ 2014年10月 鹿児島
7. 鶴木泰自、美園俊祐、窪田幸司、川島寿史、水野圭子、井上博雅、今給黎尚幸、巻幡聰、米田敏
完全切除し得た原発不明縦隔リンパ節癌の1例
第73回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部秋季学術講演会 2014年10月10～11日 鹿児島市
8. 諸鹿俊彦、大淵俊朗、今給黎尚幸、米田 敏、岡林 寛、岩崎昭憲
重度の精神障害を有する肺癌患者に対する手術症例の検討
第54回日本肺癌学会総会 2014年11月14～16日 京都
9. 今給黎尚幸、巻幡 聰、米田 敏、岩崎昭憲
胸骨正中切開が有用であった原発不明癌およびサルベージ手術の2例
第54回日本肺癌学会総会 2014年11月14～16日 京都

9. 佐保 明、今給黎尚幸、巻幡 聰、米田 敏、岩崎昭憲
術後病理組織で診断した肺放線菌症の3例 第47回日本胸部外科学会九州地方会総会 2015年1月24日 沖縄
10. 今給黎尚幸、巻幡 聰、米田 敏
完全鏡視下右肺中葉切除のリンパ節郭清範囲の検討 七隈癌治療フォーラム 2015年1月16日 福岡
11. 藍 嵐、今給黎尚幸、巻幡 聰、米田 敏、岩崎昭憲
縦隔腫瘍との鑑別が困難であった孤立性線維性腫瘍 (solitary fibrous tumor : SFT) の1例第55回日本肺癌学会九州支部学術集会 2015年2月27～28日 福岡

【座長】

米田 敏 日本肺癌学会九州地方会総会 鶴陵会館 2015年2月28日 鹿児島

【主催】

南九州VATSクラブ 2014年10月18日

整形外科

【論文・誌上発表】

1. 川口善治、松本守雄、岩崎幹季、和泉智博、大川 淳、松永俊二、千葉一裕、辻 崇、山崎正志、藤森孝人、吉井俊貴、戸山芳昭
C Tを用いた頸椎後縦靱帯骨化症における骨化巣の新分類
厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業・脊柱靱帯骨化症に関する調査研究班平成25年度総括・分割報告書 76-82, 21014
2. Tanaka N, Konno S, Takeshita K, Fukui M, Takahashi K, Chiba K, Miyamoto M, Matsumoto M, Kasai Y, Kanamori M, Matsunaga S, Hosono N, Kanchiku T, Taneichi H, Hashizume H, Kanayama M, Shimizu T, Kawakami M
An outcome measure for patients with cervical myelopathy: the Japanese orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ) : an average score of healthy volunteers J Orthop Sci 19:33-48, 2014
3. 松永俊二
宮大工の技と整形外科手術 臨床整形外科 視座49 : 409 2014
4. 松永俊二
超高齢社会における骨粗鬆症治療の重要性 出水郡医師会報 21 : 47, 2014
5. Kawaguchi Y, Matsumoto M, Iwasaki M, Izumi T, Okawa A, Matsunaga S, Chiba K, Tsuji T, Yamazaki M, Fujimori T, Yoshii T, Toyama Y.
New classification system for ossification of the posterior longitudinal ligament using CT images. J Orthop Sci 19:530-536, 2014
6. 松永俊二、小宮節郎、戸山芳昭
頸椎後縦靱帯骨化症の自然経過 脊椎脊髄ジャーナル 27 : 823-8/27, 2014

【学会発表】

1. Okamoto N, Ishida I, Inagaki K
Clinical results of distal radius fractures treated with VATCP.
The 19th Annual meeting of Federation of European Societies for shoulder and Hand (FESSH) 2014/6/18 Paris France
2. 松永俊二、宮口文宏、井尻幸成、小宮節郎、戸山芳昭
シンポジウム 臨床に役立つ脊椎の疫学知識：頸椎後縦靱帯骨化症の疫学と自然経過
第43回日本脊椎固定術脊髄病学会 2014年4月18日 京都
3. 田中信弘、紺野慎一、竹下克志、川上 守、高橋和久、宮本雅史、松本守雄、笠井裕一、金森昌彦、松永俊二、細野 昇、寒竹 司、種市 洋、橋爪 洋、金山雅弘、清水敬親
日本整形外科学会頸部脊髄症評価質問票 (JOACMEQ) 健常者基準値作成のための調査報告
第43回日本脊椎固定術脊髄病学会 2014年4月18日 京都
4. 宮口文宏、古賀公明、松永俊二
頸椎椎弓切根スクリュウをイメージ側面像とC Tの計測値のみで正確に刺入する方法
第43回日本脊椎固定術脊髄病学会 2014年4月18日 京都

5. 松永俊二、井尻幸成、宮口文宏、小宮節郎
RA頸椎病変の手術成績-生命予後の観点から-
第87回日本整形外科学会学術総会 2014年5月23日 神戸
6. 岡松伸明、川崎恵吉、稲垣克記、小磯宗弘、前田利雄、池田純
高齢者の橈骨遠位端骨折に対するVA-TCPの治療成績と術後転位症例の検討-
第87回日本整形外科学会学術総会 2014年5月23日 神戸
7. 城光寺 豪、堀川良治、山口聰、宮口文宏、井尻幸成、松永俊二
稀な足関節周辺骨折であるMaisonneuve骨折、Bosworth骨折の治療経験
第56回鹿児島整形外科懇話会 2014年5月31日 鹿児島市
8. 宮口文宏、松永俊二
PED導入期 (MEDと比較して) 第81回西日本脊椎研究会 2014年6月6日 岡山
9. 中辻晋太郎、松永俊二、米 和徳
ロコモティブシンドロームの認知度調査-当院で実施したアンケート調査結果より-
第26回日本運動器科学会 2014年7月5日 浜松
10. 宮口文宏、松永俊二
化膿性脊椎炎に対し、PEDを施行した症例 第127回西日本整形災害外科学会 2014年7月8日 福岡
11. 堀川良治、高木信介、信太 薫、小坂健太郎
血管柄付き骨移植においてlocking compression plateを用いた内固定の工夫
第41回日本マイクロサージェリー学会 2014年12月5日 京都

【座長】

- 松永俊二 後縦靭帯骨化症2 第43回日本脊椎脊髄病学会 京都国際会議場 2014年4月17日 京都市
 松永俊二 後縦靭帯骨化症2 第87回日本整形外科学会総会 神戸ポートピアホテル 2014年5月24日 神戸市
 松永俊二 脊髄の病態38 第29回日本整形外科学会基礎学術集会 2014年10月10日 鹿児島市

【院外講演】

- 松永俊二 骨粗鬆症治療のup to date 第431回始良地区内科医会学術講演会 2014年1月21日 鹿児島
 松永俊二 超高齢社会における骨粗鬆治療の重要性 出水郡医師会学術講演会 2014年3月14日 鹿児島
 松永俊二 超高齢社会の骨粗鬆治療における骨形成促進剤の意義-脊椎外科の観点から-
 m3comフォルテオWebカンファレンス 2014年3月20日

【院内講演】

- 松永俊二 高齢者の腰痛と肩の痛みについて 院内健康講座2014 講義室 2014年9月30日
 松永俊二 職業性腰痛について 院内労働安全研修講演 講義室 2014年11月27日

【主催】

- 鹿児島外傷セミナー 平成26年11月10日 今給黎総合病院講義室
 第24回今給黎総合スポーツフォーラム 平成26年12月6日 今給黎総合病院講義室

【受賞】

- 松永俊二 平成26年度日本整形外科機関誌JOS Best Paper Award
 Tanaka N, Konno S, Takeshita K, Fukui M, Takahashi K, Chiba K, Miyamoto M, Matsumoto M, Kasai Y, Kanamori M, Matsunaga S, Hosono N, Kanchiku T, Taneichi H, Hashizume H, Kanayama M, Shimizu T, Kawakami M. An outcome measure for patients with cervical myelopathy: the Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ): an average score of healthy volunteers
 J Orthop Sci 19:33-48, 2014

形成外科

【学会発表】

1. 高木信介
シンポジウム
重度四肢損傷における治療法の選択 ー上肢と下肢の比較ー
第41回日本マイクロサージャリー学会 2014年12月4日 京都
2. 堀川良治
パネルディスカッション
血管柄付き骨移植においてLocking Compression Plateを用いた内固定の工夫
第41回日本マイクロサージャリー学会 2014年12月5日 京都
3. 高木信介
鹿児島県における血管腫血管奇形治療
第17回九州昭和大学同門会学術集会 2014年1月25日 熊本
4. 信太薫
重度四肢外傷におけるwound bed preparationを目的とした陰圧閉鎖療法
第17回九州昭和大学同門会学術集会 2014年1月25日 熊本
5. 小坂健太郎
植皮を用いない合指(趾)症手術
第17回九州昭和大学同門会学術集会 2014年1月25日 熊本
6. 信太薫
GustiloIIIB型開放骨折に伴う慢性化した高度軟部組織欠損に対する四肢再建の検討
第57回日本形成外科学会総会学術集会 2014年4月9日-11日 長崎
7. 小坂健太郎
尿管管遺残症に対する臍半周切開を用いた手術法の検討
第57回日本形成外科学会総会学術集会 2014年4月9日-11日 長崎
8. 高木信介
骨髄内静脈還流を利用した指尖部再接着術の検討
第57回日本手外科学会学術集会 2014年4月17日-18日 沖縄
9. 信太薫
CG静注による術中蛍光血管造影を用いた新しい下肢虚血の定量評価
第44回日本創傷治癒学会 2014年12月2日-3日 仙台

産婦人科

【論文・誌上発表】

1. 稲田加奈子、加藤明彦、寺原賢人
原発不明の癌性腹膜炎に対し、腹水セルブロックによる補助診断が有用であった原発性卵巣漿液性腺癌と思われる1例 鹿児島産科婦人科学会雑誌 23, 12-17, 2014

新生児内科

【論文・誌上発表】

1. 丸山有子
妊婦と風疹. 「女性と感染症UP to Date」産科と婦人科. 2014 (59)473-479.

【学会発表】

1. 丸山有子
超低出生体重児の3歳時における発達：第2報～領域別の検討～
第59回未熟児新生児学会 2014年11月10日、11日 愛媛

【院外講演】

- 丸山有子 NICUから在宅～各機関との連携を踏まえて～ 九州連合シンポジウム 2014年8月30日 鹿児島

小児科

【学会発表】

1. 吉重道子、水流尚志、玉田泉、亀之園明
心室中隔欠損術後の経過中に2歳で診断された汎下垂体機能低下症の1例。
第117回日本小児科学会学術集会 2014年4月11日～4月13日 名古屋
2. 玉 泉、森田智、大坪喜代子、小木曾文乃、溝田美智代
デスマプレシン酢酸塩水和物口腔内崩壊錠（OD錠）を使用した中枢性尿崩症（DI）の3症例
第48回日本小児内分泌学会学術集会 静岡 2014年9月25日～9月27日
3. 山遠剛、長倉智和、脇口宏之、久保田 知洋、山崎雄一、野中由希子、赤池治美、根路銘安仁、
嶽崎智子、今中啓之、銚之原 昌、武井修治、河野嘉文
小児期発症シェーグレン症候群における耳下腺超音波検査所見
第24回日本小児リウマチ学会総会・学術集会 2014年10月3日-10月5日 宮城
4. 玉田泉、堀之内兼一、堀之内泉、銚之原昌
二次性偽性低アルドステロン症（PHA）を呈した両側重複腎盂尿管・水腎症の1例
第155回日本小児科学会鹿児島地方会 2014年2月2日 鹿児島
5. 柿本令奈、玉田泉、大坪喜代子、森田智、溝田美智代
大腿骨頭すべり症を発症した胚細胞腫治療後下垂体低下症の1例
第19回鹿児島県小児内分泌研究会 鹿児島

【院外講演】

- 銚之原昌 児童虐待について 鹿児島医療センター研修会 2014年4月14日
 銚之原昌 乳児保育の意義と役割 平成26年度鹿児島県保育所乳児保育研修会講演 2014年10月21日
 （鹿児島県・日本保育協会主催、鹿児島県保育連合会後援：鹿児島県庁にて）
 銚之原昌 鹿児島県新規採用養護教諭研修会 2014年10月29日（県教育委員会：県教育センターにて）

【受賞】

- 銚之原昌 平成26年度鹿児島県母子保健事業功労者県知事表彰 2014年11月21日 鹿児島県

眼科

【学会発表】

1. 徳永義郎、薄井隆宏、吉永就正
視力低下、嚙下障害を併発した肥厚性硬膜炎の一例
第68回日本臨床眼科学会 2014年11月13-16日 神戸
2. 吉永就正 他
円孔周囲網膜上に肥厚増殖組織を持つ前奏黄斑円孔
第53回日本網膜硝子体学会 2014年11月28-30日 大阪
3. 吉永就正 他
視神経乳頭陥凹拡大に伴う網膜分離症剥離に対する硝子体手術
第68回日本臨床眼科学会 2014年11月13-16日 神戸

放射線診断科・放射線治療科

【学会発表】

1. 銚立博文、中禮久彦、大久保幸一、高木信介、今井茂樹
直接穿刺による硬化療法を施行した下肢動静脈奇形の2例 第37回九州IVR研究会 2014年12月20日

【講演(院外)】

- 中禮久彦、銚立博文、大久保幸一、松下芳正、田川伸夫、小屋俊彰、川畑朋之、飯伏順一
放射線治療Update、有害事象への対策を含めて 地域がん拠点病院 対外教育講演 2014年3月18日

【講演(院内)】

- 鈴木博文 画像診断ざっくばらん～基本編～
第7回今給黎総合病院リハビリ看護部合同勉強会 2014年5月8日
- 中禮久彦 鈴木博文 大久保幸一
放射線治療をもっと知ってもらうために…、新研修医の先生方へ 2014年4月17日

緩和医療科

【学会発表】

1. 岩山友紀、松添大助、植屋明代、大西玲子、財間富士子、下前百合香、河原尚美
終末期患者の家族がぶつける怒り、その奥にある苦悩を支える
第19回日本緩和医療学会学術大会 2014年6月20日 神戸市
2. 小玉哲史、岩山友紀、河原尚美、村崎まこと、鈴木聖子、徳永弘樹、水流弘文
がん化学療法後の嚥下困難に行動療法を行った一例
鹿児島緩和ケア・ネットワーク 第17回大会 2014年10月25日

【主催】

- がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 2014年10月18～19日 ホテル福丸 鹿児島市

【講演(院外)】

- 松添大助 ヒトは死んだらどこへ行くのか?～緩和ケア医の立場から～
長崎附属28セミナー 2014年9月13日 長崎市
- 松添大助 ヒトは死んだらどこへ行くのか?～緩和ケア医の立場から～
長崎県長与町老人会連合会 2014年11月8日 長与町
- 松添大助 どうして“がん”が怖いのか? がんのことをもっと知ろう講演会 2014年12月6日 曾於市
- 小玉哲史 精神科に紹介する前にできること
平成26年度 第6回 オンコロジーセミナー 2014年11月28日 松山赤十字病院 松山市
- 小玉哲史 PEACEに載っていないメンタルケア～不眠編～
鹿児島県緩和ケア部門会 第1回緩和ケア部門 事例検討会 2015年1月24日 鹿児島大学病院

【講演(院内)】

- 松添大助 ヒトは死んだらどこへ行くのか?～緩和ケア医の立場から～
今給黎総合病院市民公開講座 2014年7月23日

病理診断科

【論文・誌上発表】

1. Shibahara H, Higashi M, Yokoyama S, Rousseau K, Kitazono I, Osako M, Shirahama H, Tashiro Y, Kurumiya Y, Narita M, Kuze S, Hasagawa H, Kato T, Kubota H, Suzuki H, Arai T, Sakai Y, Yuasa N, Fujino M, Kondo S, Okamoto Y, Yamamoto T, Hiromatsu T, Sasaki E, Shirai K, Kawai S, Hattori K, Tsuji H, Okochi O, Sakamoto M, Kondo A, Konishi N, Batra SK, Yonezawa S.
A comprehensive expression analysis of mucin in appendiceal carcinoma in a multicenter study: MUC3 is a novel prognostic factor.
PLoS One. 2014 Dec 31;9(12):e115613. doi: 10.1371/journal.pone.0115613. eCollection 2014.
2. Takahashi Y, Takata K, Kato S, Sato Y, Asano N, Ogino T, Hashimoto K, Tashiro Y, Takeuchi S, Masunari T, Hiramatsu Y, Maeda Y, Tanimoto M, Yoshino T.
Clinicopathological analysis of 17 primary cutaneous T-cell lymphoma of the $\gamma\delta$ phenotype from Japan. *Cancer Sci.* 2014 Jul;105(7):912-23. doi: 10.1111/cas.12439. Epub 2014 Jun 18.
3. 中間恵美子、今給黎尚幸、巻幡聰、米田敏、白濱浩、田代幸恵、
胸水貯留を契機に発見された限局性悪性腹膜中皮腫の1例 気管支学Vol.36 No.3 Page.324 (2014.05.25)
4. 田代幸恵
スライドカンファレンス リンパ節 日本臨床細胞学会九州連合会雑誌 Vol.45 Page.139-140(2014.06.12)
5. 中間恵美子、今給黎尚幸、巻幡聰、米田敏、白濱浩、田代幸恵 (昭和会 今給黎総合病院)

- 胸水貯留を契機に発見された限局性悪性腹膜中皮腫の1例 気管支学 vol. 36 No. 3 Page. 324 (2014. 05. 25)
6. 野村美和、甲斐太、林茂昭、長堂竜維、丸山芳一、西澤輝彦、松邨宏之、田代幸恵、佐保明
免疫能低下が推測される患者に発症したトキソプラズマ脳症の1例 臨床神経学 Vol. 54 No. 4 Page. 374
(2014. 04. 01)
7. 三浦美沙、加藤明彦、下倉眞平、寺原賢人、田代幸恵
子宮手術後に筋層内妊娠を起こした二例 鹿児島産科婦人科学会雑誌 Vol. 22 Page. 26-31 (2014. 03. 28)

【学会発表】

1. 花園幸一、帆北修一、濱之上雅博、前田光喜、渡邊照彦、田代幸恵、白濱浩、夏越祥次
S-1, paclitaxel, trastuzumabによる化学療法で治癒切除が可能となった進行胃癌の一例
第36回日本胃癌学会総会 2014年3月20日～22日 横浜
2. 蓮井和久、永井拓、賈心善、金蔵拓郎、河野嘉文、出雲周二、松山隆美、田代幸恵、青笹克之、佐藤栄一
プログラム細胞死の免疫組織科学 第103回日本病理学会総会 2014年4月24～26日 広島
3. 蓮井和久、賈心善、竹屋元裕、青笹克之、永井拓、金蔵拓郎、出雲周二、河野嘉文、松山隆美、
田代幸恵、佐藤栄一
鼻リンパ腫におけるマクロファージと樹状細胞の免疫組織化学的検討：マクロファージと樹状細胞はリン
パ腫亜型で特徴的な細胞性微小環境を構成している
第54回日本リンパ網内系学会総会 2014年6月19～21日 山形
4. 佐藤栄一、田代幸恵、白濱浩
癌の免疫細胞療法（BAK）をうけた一例の癌病巣組織所見
第54回日本リンパ網内系学会総会 2014年6月19日～21日 山形

【Commentator】

田代幸恵 鹿児島Lymphoma Conference 2014 2014年7月5日 鹿児島

【講演】

新村泰子 今給黎病院における免疫染色について 2014年2月18日 相良病院病理 鹿児島

歯科口腔外科

【論文・誌上発表】

1. Tokutaro Minamizato¹⁾, Haruka Kohara²⁾, Takayoshi Tobita¹⁾, Seigo Ohba³⁾, Takamitsu Koga¹⁾,
Yousuke Kawai¹⁾, Noriaki Yoshida²⁾, Masashi Yoshida⁴⁾, Izumi Asahina¹⁾
1)Departments of Regenerative Oral Surgery, Nagasaki University Graduate School of Biomedical
Sciences
2)Orthodontics and Dentofacial Orthopedics, Nagasaki University Graduate School of Biomedical
Sciences
3)Division of Dentistry and Oral Surgery, Department of Sensory and Locomotor Medicine, Facul-
ty of Medical Sciences, University of Fukui
4)Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Imakiire General Hospital
Clinical Observation of the Postoperative Stability of Bone Segments In Short
Lingual Osteotomy without Fixation Using the New “Physiological Positioning Strategy” .
J Dent Oral Health 2014(1), 1-5

【学会発表】

1. 吉田雅司、三浦桂一郎
当科における上顎骨骨切り術単独症例における臨床的検討
第24回日本顎変形症学会総会 2014年6月10日 11日 福岡
2. 吉田雅司、三浦桂一郎
顎枝矢状分割術における術後ドレナージの検討
第58回日本口腔外科学会学術総会 2014年10月17～19日 千葉

【講演(院外)】

- 吉田雅司 国際医療ボランティア活動 鹿児島大学探訪 2014年5月21日 鹿児島大学
 吉田雅司 幼児期から青年期にかけて ～歯科口腔外科を通した子育て～
 なでしこ幼稚園 2014年6月15日 鹿児島市
 吉田雅司 歯医者って楽しい！ 歯科口腔外科って面白い！長崎大学歯学部 2014年6月17日 長崎市
 吉田雅司 下顎枝矢状分割法においてLooseな骨固定を行った Short Lingual Osteotomyの検討
 第2回沖縄県形成外科研究会・沖縄県歯科矯正専門医会・沖縄県歯科口腔外科 合同勉強会
 2014年9月6日 沖縄市
 吉田雅司 学校歯科保健の疑問について考える 平成26年度 学校保健・安全・歯科保健講習会
 2014年11月12日 霧島市

歯科

【主催・企画運営など】

今給黎総合病院口腔ケア研修会 2015年3月13日

看護部

【論文・誌上発表】

1. 宮菌瑞帆 (ICU)
J-PADガイドライン 現場での落とし所 痛み・鎮痛・せん妄の評価ツールはどう取り入れる？
重症集中ケア Vol. 13 No. 6 Page. 71-85 (2015. 02. 25)

【学会発表・院外研究発表】

1. 原田純子 (NICU)
マイクロファイバー素材クリーニングクロスによる保育器の清拭効果の検討～次亜塩素酸ナトリウムによる消毒との比較～ 第64回九州新生児研究会 2014年5月10日 福岡
2. 大重智子 (3階南病棟)
整形外科病棟における褥瘡予防の現状と課題
第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島
3. 外村和代 (2階南病棟)
看護学校を受けた理由
看護協会 看護師職能委員会主催 県委託研修会 准看護師研修会 2014年8月6日 鹿児島
4. 吉村加奈子、西郷今日子、鈴木詩織 (病児保育室)
保育士活動紹介
日本医療保育学会 九州・沖縄ブロック研修 2014年10月19日 鹿児島
5. 原田純子 (NICU)
発達遅延の両親への地域と連携した育児支援～虐待防止のための取り組み～
第65回九州新生児研究会 2014年10月25日 福岡
6. 岩下邦子 (看護副部長)
ワーク・ライフ・バランスを考える職場の工夫と実際
九州ホスピタルショウ2014 「看護セッションセミナー」 実践活動発表 2014年11月6日 福岡
7. 戸高かおる (NICU)
呼吸気変換方式経鼻持続陽圧呼吸器 (N-DPAP) 使用中の回路交換の時期の検討～回路内の細菌培養を行って～ 第24回日本新生児看護学会学術集会 2014年11月10日、11日 愛媛
8. 山口妙子 (NICU)
地域でのNICU同窓会「出張もじょかくらぶ」～ハイリスク児フォローアップにおけるアウトリーチ活動～
第24回日本新生児看護学会学術集会 2014年11月10日、11日 愛媛
9. 俊彩、森山朋佳、野間愛子、酒匂英子 (2西病棟)
当院産科領域の電子パス導入における現状 (ポスター発表)
第15回日本クリニカルパス学会学術集会 2014年11月14～15日 福井
10. 田中かすみ (4階西病棟)
ワーク・ライフ・バランスを考える職場の工夫と実際
平成26年度 看護職のWLB フォローアップ・ワークショップ 及び報告会 2014年12月12日 鹿児島
11. 有村こずえ (NICU)
当院のファミリーセンタードケア 佐賀・福岡地区新生児看護勉強会 2015年1月24日 福岡
12. 戸高かおる (NICU)
呼吸気変換方式経鼻持続陽圧呼吸器 (N-DPAP) 使用中の回路内の細菌培養検査を行ってみて：
第16回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム 2015年2月13～15日 長野
13. 楠元友梨 (NICU)
マイクロファイバー素材クリーニングクロスによる保育器の清拭効果の検討～次亜塩素酸ナトリウムによる消毒との比較～ 第16回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム 2015年2月13～15日 長野
14. 下門美樹・田中範晃・池上紀代子・安藤友香里 (4階西病棟)
PNS導入における現状と今後の課題 第2回PNS研究会 2015年3月21日 福井
15. 里恵理子 勝山茜 中久保真耶 中村章子 (ICU)
集中治療室におけるPNS導入の取り組み (ポスター発表) 第2回PNS研究会 2015年3月21日 福井

【座長】

- 東美津子 (中央材料室) 鹿児島県滅菌業務研究会 特別演題座長 2014年7月19日 鹿児島
 近藤ひとみ (看護副部長) 日本医療マネジメント学会 第13回九州・山口連合大会 2014年9月27日 鹿児島
 岩下邦子 (看護副部長) 看護協会 第48回鹿児島県保健看護研究学会 2015年1月23日 鹿児島

【司会】

東美津子(中央材料室) 鹿児島県滅菌業務研究会 特別演題座長 2014年7月19日 鹿児島
 東美津子(中央材料室) 日本医療機器学会 第14回医療機器安全対策研究会講演 2015年2月7日 鹿児島

【講演】

古川秀子(NICU) NICU等への長期入院児の現状と課題について～小児在宅医療の視点から～
 NICU等への長期入院児の支援に関するシンポジウム 2014年9月16日 鹿児島
 古川秀子(NICU) NICUでの看護の実際と課題と期待
 独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター附属看護専門学校 2014年10月22日 鹿児島
 橋口恒夫(手術室) 一時救命処置 鹿児島県診療放射線技師会 BLS講習会 2014年11月28日 鹿児島
 橋口恒夫(手術室) 救急 上町健康大学 2015年2月21日

薬剤部

【学会発表】

- 濱崎かおる、古賀亜希子、竹内さやか、園田奈緒子、下前百合香、逆瀬川布美、信太薫
 褥瘡に対する外用薬の病棟での説明と、説明前後の病棟看護師の意識変化について(ポスター発表)
 第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島
- 久津輪 久世
 抗菌薬適正使用を目指したICT 薬剤師の取り組み
 第13回感染制御薬物療法講習会 2015年3月7日 鹿児島
- 久津輪 久世
 感染制御に関わる薬剤師の役割
 第4回 臨床微生物検査部門研修会 2015年3月28日 鹿児島

中央放射線部

【論文・誌上発表】

- 浮田啓一郎
 FSE(ファーストスピンエコー)について一日立編 MRIfan.net 2014年11月号
- 浮田啓一郎
 コイルの配置によって画像のSNが変わる! MRIfan.net 2014年12月

【学会発表・院外研究発表】

- 池田真一
 RAPID併用RADAR有用性の検討 日本放射線技術学会総会学術大会(JRC2014) 2014年4月10日 横浜
- 丸尾美由紀
 骨シンチ画像の表示及び出力の統一化 -SUVの概念を利用したBone Display Valve法-
 日本放射線技術学会総会学術大会(JRC2014) 2014年4月10日 横浜
- 池田真一
 RAPID併用RADAR有用性の検討 第18回鹿児島MRI研究会 2014年5月17日 鹿児島
- 丸尾美由紀
 骨シンチ画像の表示及び出力の統一化 -SUVの概念を利用したBone Display Valve法-
 鹿児島県診療放射線技師会春期学術大会 2014年5月31日 鹿児島
- 濱田智太郎
 当院の四肢プロトコール 第27回鹿児島CT研究会 2014年8月20日 鹿児島
- 濱田智太郎
 当院における手術支援画像 鹿児島県診療放射線技師会秋季学術大会 2014年11月8日 鹿児島
- 加治屋博一
 救急撮影のプロトコール第28回鹿児島CT研究会 2014年11月19日 鹿児島
- 浮田啓一郎
 関節領域のMRI 鹿児島MRI研究会 2014年12月6日 鹿児島

【座長】

新村栄次 奨励研究発表 第6回九州CT研究会・CTフォーラム 2014年5月17日 福岡
 新村栄次 手術支援画像について 鹿児島県診療放射線技師会秋季学術大会 2014年11月8日 鹿児島
 飯伏順一 フラジーソース他施設共同総合均一性から導かれた日常点検の重要
 第30回鹿児島核医学技術検討会 2015年1月17日

【ディスカッション等 司会】

新村栄次 CT装置の最新情報提供 第26回鹿児島CT研究会 2014年5月21日 鹿児島
 新村栄次 人工股関節置換術の為にCTによる評価 第27回鹿児島CT研究会 2014年8月20日 鹿児島
 新村栄次 フィリピン台風被害JICA医療チーム派遣から
 第28回鹿児島CT研究会 2014年11月19日 鹿児島
 新村栄次 術前検査における3D画像の有用性について 第29回鹿児島CT研究会 2015年2月18日 鹿児島

【講演】

浮田啓一郎 MRIの基礎力診断テスト 第16回鹿児島MRI研究会 2014年5月17日 鹿児島
 浮田啓一郎 「MRI 検査」脂肪抑制・アーチファクト・造影剤 診療放射線技師基礎技術講習会
 2014年6月14日 鹿児島
 丸尾美由紀 撮影技術と臨床画像評価基準 診療放射線技師基礎技術講習「乳房撮影」2014年8月3日
 浮田啓一郎 若葉マークを卒業するためのMR実践テクニック 九州GYROミーティング 2014年10月25日
 濱田智太郎 当施設における心臓CT 心臓CT学術講演会 2014年11月18日
 丸尾美由紀 診療放射線技師について 出前授業「リアルごとびと」 2014年12月3日
 浮田啓一郎 肩関節のMRI 霧島・始良支部研修会 2015年1月31日
 浮田啓一郎 「MRI 検査」脂肪抑制・アーチファクト・造影剤 診療放射線技師基礎技術講習会
 2015年2月14日 宮崎
 新村栄次 鹿児島県診療放射線技師会活動 第36回大隅地域研修会 2015年2月14日

中央臨床検査部

【学会発表・院外研究発表】

1. 村中利也、播磨佐江子、今堀小百合
 当院の抗酸菌の現状 臨床微生物検査部門・薬剤師会合同研修会 2014年7月19日 鹿児島
2. 上鶴昭知、福崎愛、小原旅人、村中利也
 頸椎症性脊髄症を伴ったCharcot-Marie-Tooth病の一症例
 第49回九州医学検査学会 2014年11月1～2日 沖縄
3. 原菌真由美、西田智佳、久永洋一郎、村中利也
 臨床検査でのクリニカルパスへの取り組み 日本クリニカルパス学会 2014年11月14～15日 福井
4. 西田智佳
 フォトテスト解説 日臨技九州支部一般検査研修会 2015年2月14～15日 熊本
5. 蓮井和久、田代幸恵、佐藤榮一、他
 プログラム細胞死の免疫組織化学 第103回日本病理学会総会 2014年4月24～26日 広島
6. 蓮井和久、田代幸恵、佐藤榮一
 鼻リンパ腫におけるマクロファージと樹状細胞の免疫組織化学的検討
 第54回日本リンパ網内系学会総会 2014年6月19～21日 山形
7. 佐藤榮一、田代幸恵、白濱浩
 癌の免疫細胞療法(BAK)をうけた一例の癌病巣組織所見
 第54回日本リンパ網内系学会総会 2014年6月19～21日 山形

リハビリテーション部

【学会発表】

1. 鮫島隆洋、鮫島隆洋、宮之原俊一、鶴田和也、下前百合香、逆瀬川布美、信太薫
 ハンディグローブを使用した、前腕の創外固定の症例に対して行った環境設定 (ポスター発表)
 第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島

臨床工学部

【学会発表】

1. 鮫島隆洋、鮫島隆洋、宮之原俊一、鶴田和也、下前百合香、逆瀬川布美、信太薫
ハンディグローブを使用した、前腕の創外固定の症例に対して行った環境設定（ポスター発表）
第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島

【主催】

1. 多職種連携が患者の予後を変える」～人工呼吸器離脱困難症例について～ 2. 特定看護師としての活動と今後の展望 講師：社会医療法人敬愛会 中頭病院 芹田 晃道 先生 2014年7月
- バスキュラーアクセス勉強会 講師：ユニチカ株式会社 佐藤 様 2015年2月
- (口腔ケアチーム・RST 共催)千鳥橋病院における口腔ケアの実際 ～RST 活動への取り組み～
公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院 山岸真由美 先生 2015年3月

QCセンター 褥瘡管理課

【学会発表】

1. 鈴木聖子、下前百合香、逆瀬川布美、信太薫、高木信介、生野博久
アルギニン補充患者の栄養状態について
第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島
2. 大重智子、下前百合香、逆瀬川布美、宮之原俊一、中辻晋太郎、信太薫
整形外科病棟における褥瘡予防の現状と課題
第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島
3. 逆瀬川布美、下前百合香、信太薫、高木信介
当院におけるRENASYS◇GO陰圧維持管理装置を使用した一例 ～認知症患者への使用～
第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島
4. 下前百合香、逆瀬川布美、上山真紀、吉田百合香、信太薫、高木信介
晩期放射線障害が基盤にある患者の褥瘡予防 ー難渋した仙骨部褥瘡症例を通してー
第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島
5. 濱崎かおる、古賀亜希子、竹内さやか、園田奈緒子、下前百合香、逆瀬川布美、信太薫
褥瘡に対する外用薬の病棟での説明と、説明前 後の病棟看護師の意識変化について（ポスター発表）
第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島
6. 鮫島隆洋、宮之原俊一、鶴田和也、下前百合香、逆瀬川布美、信太薫
ハンディグローブを使用した、前腕の創外固定の症例に対して行った環境設定（ポスター発表）
第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島

【座長】

- 下前百合香 一般演題「口演8：その他」日本褥瘡学会第11回九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島
下前百合香 日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会 第7回鹿児島県在宅褥瘡セミナー
2014年7月20日 鹿児島

【司会】

- 下前百合香 日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会
第8回鹿児島県在宅褥瘡セミナー（「在宅褥瘡管理者」対応講習） 2015年3月14日 鹿児島

【講演】

- 下前百合香 『褥瘡ケア』～スキンケアとDRSIGN-R®～
ネスレ日本株式会社ネスレヘルスサイエンスカンパニー主催 N+1セミナー in 加世田
2014年11月15日 南さつま市

QCセンター 緩和医療課

【学会発表】

1. 岩山友紀
終末期患者の家族がぶつける怒り、その奥にある苦悩を支える（ポスター発表）
第19回日本緩和医療学会学術大会 2014年6月20日 神戸

QCセンター 感染管理課

【学会発表】

1. 立和名聖子
感染管理認定看護師のリンクナース会への関わり
第30回日本環境感染学会総会・学術集会 2015年2月20日～21日 神戸

【講演】

- 立和名聖子 感染対策の基本的な考え方～院内ラウンド結果を踏まえて～
2014年度第2回感染管理認定看護師フォローアップ研修（山口県立大学看護研修センター）
2014年6月21日 山口
- 立和名聖子 当院での感染対策の取り組み～専従感染管理者の奮闘記～
第14回院内感染防止対策に関する講演会 2014年8月23日 鹿児島
- 立和名聖子 感染対策の基本的な考え方～院内ラウンド結果を踏まえて～
医療法人慈圭会 八反丸病院 感染研修 2014年10月2日 鹿児島

栄養管理部

【学会発表】

1. 鈴木聖子
アルギニン補充患者の栄養状態について
第11回日本褥瘡学会九州地方会学術集会 2014年5月24日 鹿児島

【講演】

- 鈴木聖子 褥瘡の予防と管理：栄養
2014年3月14日 日本褥瘡学会 第8回鹿児島県在宅褥瘡セミナー

院内研修会・講演会一覧

平成 26 年度講義室にて開催された研修会・講演会一覧

月 日	演 題	講 師	参加者数
4 月 26 日	「第 11 回みんなでイキイキ健康まつり」	当院各診療科医師と当院職員にて	外部 171 名
5 月 10 日	今給黎スポーツフォーラム 「肩肘の投球障害にならない工夫」	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 スポーツ整形外科教授 筒井廣明 理学療法士 千葉慎一 尾崎尚代	64 名 (外部 17 名)
5 月 26 日	院内感染講演会 「手指衛生の重要性」	ファイザー（株）南九州営業所 所長 戸島英城	753 名 (院内のみ)
5 月 29 日	がん・緩和ケア研修会 「今日から使える精神腫瘍学 ~有効に精神科医を使ってもらうためのお願いも含めて~」	当院 緩和医療科部長 小玉哲史	126 名 (外部 14 名)
6 月 28 日	かごんま GYRO ミーティング	MRI 装置を使用している施設同士の 勉強会、交流会	3 名 (外部 37 名)
7 月 4 日	人工呼吸器講演会 「多職種連携が患者の予後を変える」 「特定看護師としての活動と今後の展望」	社会医療法人敬愛会 中頭病院 看護部キャリア開発室 特定看護師 臨床工学技士 芹田晃道	65 名
7 月 18 日	労働安全研修会 「熱中症~傾向と対策 2014~」	当院 麻酔科 西山淳	97 名 (院内のみ)
7 月 23 日	市民公開講座 「ヒトは死んだらどこにいくのか~緩和ケア 医の立場から~」	当院 緩和医療科部長 松添大助	127 名 (外部 35 名)
7 月 31 日	健康教室 「熱中症予防と対策・脱水状態に経口補水療法」	(株) 大塚製薬工場 OS-1 事業部 栄養情報担当 中村環	17 名 (外部 12 名)
9 月 30 日	健康教室 「高齢者の肩と腰の痛みについて」	当院 整形外科部長 松永俊二	32 名 (外部 25 名)
10 月 2 日	院内講演会 「B型肝炎ウイルス再活性化の現状と対策」	鹿児島大学病院 消化器疾患生活習慣病 教授 井戸章雄	129 名
10 月 5 日	鹿児島県内 皮膚・排泄ケア認定看護師勉強会 「WOCに係わる平成 26 年度診療報酬改定について」	3M ヘルスケア（株） 医療用製品事業部 マネージャー 高水勝	15 名 (外部 10 名)
10 月 9 日	がん緩和ケア研修会 DVD 講演 「プロフェッショナル仕事の流儀 希望 は必ず見つかる~がん看護専門看護師 田村恵子の仕事~」	がん看護専門看護師 田村恵子	66 名
10 月 16 日	鹿児島地区 がん診療連携クリティカル パス説明会	鹿児島地区に従事している医師・看護 師・薬剤師・保健師など	148 名 (外部 119 名)
10 月 23 日	クリティカルパス講演会 「スケジュールパスではなくアウトカム 達成型&分岐型電子パスであるフレキシ ブルパス」 「パスに患者をあわさない患者に電子パ スをフレキシブルにあわそう」	永野中央病院 外科部長 成田淳 他 院内より 3 演題発表有	192 名

10月25日	鹿児島県院内がん登録研修会 「前立腺がんについて」 「標準登録様式について」	当院 泌尿器科部長 立和田得志 済生会川内病院 診療情報管理室 前田雄介	36名 (外部31名)
10月25日	第7回鹿児島駅周辺まち歩き さるっきんぐ 上町シルミルコース 「メディカルコース」	一般市民参加者に対し当院の栄養管 理士による食事について	20名 (外部15名)
10月31日 11月1日	医療安全研修会 「患者・家族を不安にさせない対応を考えよ う~医療者の連携不足の事例を通して~」	東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室 玉利英子	719名
11月10日	鹿児島外傷セミナー 「脊髄損傷に対する急性期診療~脊損セ ンターの方針~」	総合脊損センター 整形外科部長 前田健	89名 (外部45名)
11月13日・ 18日・ 1月7日	院内感染研修会 「インフルエンザ・ノロウイルスの流行 に備えて」	大日本製薬(株)西日本地域本部 地域統括 戦略グループ 村岡正浩	837名 (院内のみ)
11月27日	労働安全衛生委員会 「職業性腰痛について」	当院 副院長 整形外科部長 松永俊二	63名
12月6日	今給黎スポーツフォーラム 「肩・肘障害の診断と治療」	昭和大学藤が丘リハビリテーション 病院 スポーツ整形外科 教授 筒井廣明 江東豊洲病院 整形外科 鈴木昌 理学療法士 千葉慎一 尾崎尚代	77名 (外部45名)
2月28日	DUMO 理論オープンセミナー 「靴とインソールを活用した最新の問題 解決テクニック」	NPO オーソテックソサエティ 理事 溝口憲一	33名 (外部30名)
3月13日	口腔ケア講演会 「千鳥橋病院における口腔ケアの実際」	千鳥橋病院 歯科衛生士 山岸真由美	101名 (外部19名)
3月18日	がん・緩和ケア研修会 「在宅緩和ケアの実際~訪問看護の立場 から~」	訪問看護ステーションかりん管理者 看護師 森恵	64名 (外部11名)
3月20日	がん診断講座 1. 胆膵癌の画像診断と放射線科的治療 2. 胆膵癌における外科治療 3. 早期膵癌へのアプローチ	当院 放射線診断科部長 鉾立博文 当院 外科部長 濱之上雅博 当院 消化器内科科長 今給黎和幸	54名 (外部5名)
3月30日	放射線安全教育研修会 「放射線業務従事者として理解して頂き たいこと」 「当院におけるバッジと電離検診の運用 について」	長瀬ランダウア(株) 永井慎一 中央放射線部 小屋俊彰	48名

院内外活動報告

緩和ケア研修会を開催致しました。

2007年、がん対策推進基本計画で「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことが国の目標として掲げられました。これにより各地のがん拠点病院が中心となり全国で緩和ケア研修会が開かれています。

当院では10月に平成26年度 緩和ケア研修会を開催致しました。



◎ 緩和ケア研修会に参加して

研修医 佐保 明

10月18日、19日と2日間にわたり緩和ケア研修会に参加させて頂きました。研修会のメインは患者や家族のメンタルケアだろうと思って参加しましたが、実際は呼吸困難・疼痛管理・抗がん剤やオピオイド使用に伴う消化器症状への対処法なども学ぶことが出来、非常に有意義な時間となりました。

研修会を通して一番印象に残ったのはコミュニケーション（がん告知）に関するロールプレイでした。研修医である私が外来の場に立つのは主に救急外来に限られ、現場でのがん告知になどは全く経験がなく、想像も難しいものでした。ロールプレイを経験して、話を聴くスキル・話を聴き出すスキル・共感するスキル等まだまだ全く出来ていないと痛感しました。同じグループには臨床経験豊富な先生もおられ、そのような先生の診察や考え方なども身近で触れることが出来、非常に勉強になりました。

今回の研修会での経験は、緩和医療にとどまらず今後の医療行為に活かせると感じております。

最後になりましたが、会場設営・快適な研修環境・見やすい資料を提供して下さったスタッフの方々、本当にありがとうございました。

◎ 緩和ケア研修会に参加して

研修医 藍 嵐

二日間の緩和ケア研修会に参加してきました。日頃の診療ですぐに役に立つ知識を学ぶことができ、大変有意義な二日間でした。

まだ研修が始まって半年で、終末期の患者と接するチャンスが少ないですが、講義とロールプレイを通じて大まかなイメージができた気がします。今回の研修会で学んだことを今後の診療に生かしていきたいと思っております。研修会を立ち上げていただいた先生方、スタッフ方に感謝致します。

広報誌「四季だより」平成26年12月号より

リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま

「今年もそろそろリレーの季節だね・・・今年も参加するからね」と廊下で声をかけられ嬉しくなりました。リレーとは“リレー・フォー・ライフ”というがん患者さんやご家族、支援者の皆さんがチームを組んで交代で24時間にわたって歩くチャリティーイベントのことで、1985年にアメリカの外科医が、がん患者を励まし対がん運動組織に寄付する目的で「がんは24時間、眠らない」「がん患者は24時間、がんと闘っている」をメッセージとしてフィールドを走ったことから始まりました。

今給黎総合病院チームとして毎年開催されるこのイベントに参加するようになって今年で5回目となります。今年は5月10日～11日にウォーターフロントパークで開催されました。

初めて参加したのは2010年。3名での参加でした。さすがに3人で24時間歩き続けることは難しく、夜になったら休憩室の固い床で泥のように眠りましたがミシミシいう身体と寝ぼけ眼で見た朝日がとてもきれいで、来



年はもっと沢山のひとと参加出来たらいいね・・・と話しあったことを思い出します。

参加回数を重ねるにつれ参加者や協力者は増え、今年は56名が参加、応援者や見学者そしてその家族を含めると100名を超える方が共に歩いてくれました。今では会場に張られる自前のテント(事務長私物)と今給黎総合病院の緑の法被はリレーの名物となっています。

また、会場のリレーコースにはがん患者さんへ向けてのメッセージが書かれたルミナリエバッグが並べられるのですが、今年も当院の大勢の職員が思いを込めてメッセージを書いてくれました(実にその数150枚)。

毎年何かしらのハプニング(雨どころか台風直撃だったり)に見舞われるリレーですが、今年は桜島の迷惑な応援(多量の火山灰・2006年からの観測史上2番目の大噴火)や夜間の強風と寒さに心が折れかけたものの、襷を繋いで24時間途切れることなく歩き続けてくれた参加者はもちろんのこと、差し入れもって駆けつけてくれた応援の皆さんなど、多くの方のお陰で無事にゴールすることが出来ました。有難うございました。

来年もがん患者さんやご家族の支援者として今給黎総合病院チームは参加します。リレー・フォー・ライフの3つのテーマである①がんの告知を乗り越え、今を懸命に生きている患者と家族をたたえ、祝福する(Celebrate)②亡くなった人を偲ぶ(Remember)③がんの予防や検診を啓発し、制圧のための寄付を募り、がんに負けない社会を作る(Fight Back)に賛同してくださる方!!是非、一緒に歩きませんか?



広報誌「四季だより」平成26年6月号より

NICU 同窓会「出張もじょかくらぶ」

平成25年度に鹿児島県から委託を受け、「小児在宅療養支援事業」の一環として、地域でのNICU同窓会を開催しています。事業は平成27年度までの計画で、NICUやフォローアップ外来、保健福祉機関のスタッフが地域へ赴き、お子様やご家族との交流や情報交換を行うなど、育児のことを考える会として支援の場を広げています。

*内容

- 1) 親子あそび
児の成長発達を見るための運動遊びや体操、工作
- 2) 医師による講話
テーマ「早産児の発育と発達」
- 3) 家族とスタッフの交流会

*参加者

- 1) 当院フォローアップ外来の対象児とご家族(きょうだい・祖父母含む)
- 2) 上記の児とご家族を支援している地域の保健・福祉・医療機関関係者 等
- 3) 当院NICU等の医師・看護師・リハビリスタッフ

平成26年5月種子島、9月・12月霧島・始良、平成27年3月曾於・志布志にて開催しました。



広報誌「四季だより」平成26年6月号より

昭和会クリニック VI

■ 現状・医療設備概要・業績

- (1) 標榜科目
- (2) 病床数 無床
- (3) 医療設備概要
- (4) 科別外来患者数
- (5) 外来患者市町村別分布図

昭和会クリニックの現況

(1) 標榜科目(15診療科)

内科、糖尿病内科、神経内科、呼吸器内科、小児科、整形外科
 形成外科、脳神経外科、皮膚科、新生児内科、
 気管食道・耳鼻いんこう科、放射線科、
 歯科、歯科口腔外科、病理診断科

(2) 病床数 無床

(3) 医療設備概要(放射線部門、検査部門)

※印：今年度購入(新設・更新)
 外来部門は除く

(放射線部門)

検査室名(撮影室番号)等	メーカー	機種名	台数
1 一般撮影室(10)	島津 キャノン	(1)UD-150B-40(RADIOTEX)	1
		(2)CXDI-50G(臥位用X線デジタルカメラ)	1
2 一般撮影室(9)	島津 キャノン	(1)UD-150B-40(RADIOTEX)	1
		(2)CXDI-50G(立位用X線デジタルカメラ)	1
		(3)CM-100(超音波骨密度測定)	1
3 X線CT(MDCT)室(8)	フィリップス	ブリリアンス Brilliance16(16列MDCT)	1
5 骨密度測定室	ホロジック	※Discovery Wi	1
6 MRI室	フィリップス	インテラ アチーバ ノバ Intera Achieva Nova(1.5テスラ)	1
受付・ 操作室	C R レーザーイメージャー	コダック コダック	(1)CR850 1 (2)ドライビュー 8900 1
	画像処理	テクマトリックス 富士	画像ネットワークシステム(PACS・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)
口腔外科	デンタル室	朝日レントゲン	サテライト MX-60N 1

(検査部門)

コーナー	機器名称	メーカー	用途	台数
血液一般	総合血液学検査装置 ADVI 2120	シーメンス	血液像・血算項目他	1
	※クリニテック アドバンタス	シーメンス	尿定性検査	1
	自動血沈計 モニター20	常光	血沈測定	1
	双眼顕微鏡 BX-4 5	オリンパス	尿沈査・血液像他	1
	遠心分離器 2010	クボタ	遠心作業	1
生化学	自動分析装置クリナライザJCA-BM6010	JEOL	生化学・免疫検査	1
	遠心分離器 2410	クボタ	血清分離	1
	業務用冷凍冷蔵庫	サンヨー	試薬管理・血清保存	1
	自動採血管準備装置 BC・ROB0-686	テクノメディカ	採血管システム	1
	スーパーデサリナー SDA-0080-001型	オルガノ	蒸留装置	1
生理	自動解析装置付心電計	フクダ電子	心電図	1
	AVL OPTI	AVL	pH、PCO ₂ 、PO ₂	1
	マイクロ coモニター (一酸化炭素ガス分析装置)	ヒデイ	co	1
	SPiro Sift SP-370 COPD 肺 Per+	フクダ電子	肺機能 (VC・FVC)	1
	呼吸機能測定装置マスタースクリーン IOS-J	フクダ電子	VC-FVC・呼吸抵抗	1
	アプノモニター-mini	チェスト株式会社	睡眠評価装置	1

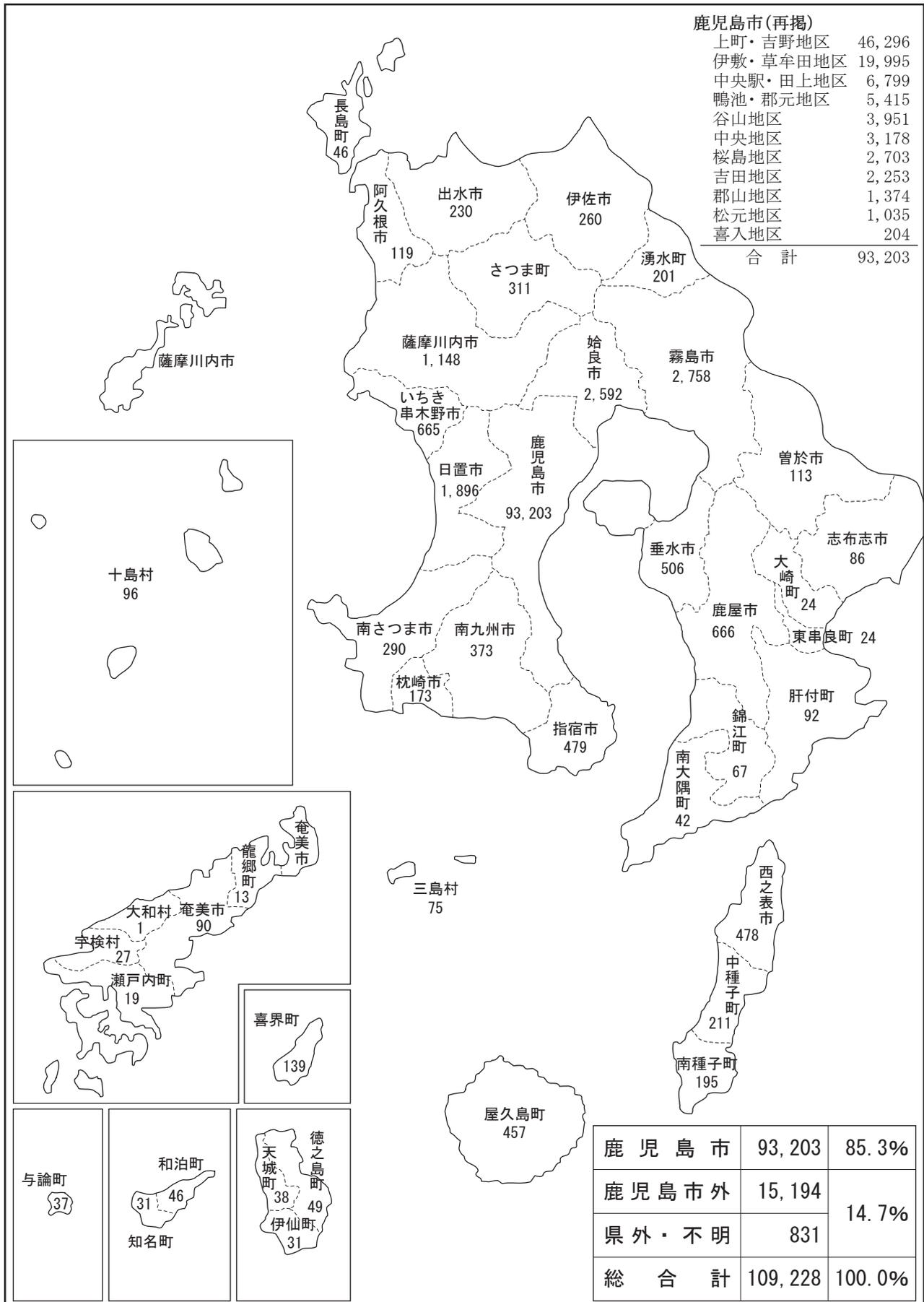


(4) H26年度 科別外来患者数(複数診療科受診を各々1とした場合) ・ 1日平均:患者数÷平日・土曜日数(祝日除く) ・ 在宅医療含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	1月平均	1日平均	初診率(%)
総合内科	826	802	755	730	711	701	844	1,065	1,192	1,181	871	947	10,625	885	39.3	38.8
糖尿病内科	111	115	93	107	97	105	118	95	92	111	94	129	1,267	106	4.7	0.8
呼吸器内科	541	532	538	538	504	529	559	520	582	501	479	572	6,395	533	23.6	8.0
神経内科	926	860	880	948	876	913	938	810	929	850	787	870	10,587	882	39.1	10.8
整形外科	2,670	2,755	2,637	2,703	2,644	2,675	2,723	2,372	2,593	2,450	2,353	2,676	31,251	2,604	115.5	14.0
形成外科	452	496	573	548	584	547	544	483	515	445	519	548	6,254	521	23.1	19.5
脳神経外科	303	242	287	264	265	281	290	267	320	284	240	322	3,365	280	12.4	9.3
新生児内科	159	101	86	94	119	125	124	116	121	129	113	153	1,440	120	5.3	1.5
小児科	896	879	907	989	853	872	1,035	1,106	1,309	1,283	986	1,098	12,213	1,018	45.1	34.2
気管食道・耳鼻いんこう科	745	711	769	728	745	669	692	630	680	633	613	652	8,267	689	30.6	34.3
皮膚科	925	937	932	1,057	1,093	998	992	845	841	761	743	857	10,981	915	40.6	21.2
放射線科	19	21	25	18	12	18	15	16	18	11	15	14	202	17	0.7	91.6
歯科	251	216	249	261	217	198	235	188	242	201	208	240	2,706	226	10.0	10.0
歯科口腔外科	323	283	291	350	346	355	295	312	303	280	252	285	3,675	306	13.6	33.3
合計	9,147	8,950	9,022	9,335	9,066	8,986	9,404	8,825	9,737	9,120	8,273	9,363	109,228	9,102	-	-
1日平均	398	407	392	389	386	408	392	430	423	434	394	398	-	-	403.8	-
救急車患者数(再掲)	1	4	1	4	1	2	0	2	1	1	0	2	19	-	-	-

初診	1,882	1,902	1,906	1,922	1,858	1,709	1,799	1,774	2,040	2,136	1,808	1,979	22,715	1,893	84.0	-
再診	7,265	7,048	7,116	7,413	7,208	7,277	7,605	7,051	7,697	6,984	6,465	7,384	86,513	7,209	319.8	-
初診率(%)	20.6	21.3	21.1	20.6	20.5	19.0	19.1	20.1	21.0	23.4	21.9	21.1	20.8	-	-	-

(5) 平成26年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



公益財団法人昭和会
昭 和 会 誌 (第20号)

発行日 平成27年9月

発 行 公益財団法人昭和会

今給黎総合病院

〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号

電 話 099-226-2211(代表)

FAX 099-222-7906

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp

公益財団法人昭和会

昭和会クリニック

〒892-8502 鹿児島市下竜尾町2番6号

電 話 099-226-2212(代表)

FAX 099-222-3366

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp

平成 26 年度 特記事項
平成 27 年 1 月より 回復リハビリテーション病棟移行

目 次

1. がん医療対策関連	P1~10	5 疾病
地域がん診療連携拠点病院活動報告		
1) 公開緩和ケア研修会		
2) がん・緩和ケア研修会		
3) がんに関する講演会・研修会		
4) 「ほっとサロン今給黎」		
5) 患者図書室「すまいる」		
6) 講師派遣		
7) 院内がん登録集計		
8) 施設基準に基づく主傷病名大分類		
9) がん検診実績		
2. 脳卒中	P11	5 事業
3. 急性心筋梗塞	P11	
4. 糖尿病	P11	
5. 精神疾患	P11	
6. 救急医療	P12~14	
1) 洋上救急出動簿		
2) 離島緊急医療活動一覧		
3) 救急隊との合同勉強会		
4) 鹿児島市医師会休日当番医・全夜間オンコール担当		
5) 鹿児島市高規格救急車指示病院活動		
6) 年度別救急車受入台数（患者数）		
7) 平成 26 年度救急患者受入時間帯・年齢別分類		
8) 県消防・防災ヘリコプター輪番日		
7. 災害時における医療	P15	
災害訓練等への参加		
8. へき地医療	P15	
1) 代替看護師		
2) 歯科巡回診療車事業		
9. 周産期医療	P15~16	
10. 小児（救急）医療	P16	
1) 平成 26 年度小児科救急車一覧表		
2) 学校検診関係		
11. 地域医療支援病院活動報告	P17~19	
12. H26 年度クオリティーインディケータ（入院・救急・手術・紹介に関する指標）	P20~21	
13. 初期臨床研修病院実績	P22	
14. 実習病院としての実績	P23~25	
15. 視察・研修・見学（社会人の個人、団体、および学生）の受入	P25~26	
16. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動	P27	
17. 教育機関への講師派遣	P28	
18. 主な公的会議・研修会への参加、講師派遣	P28~32	
19. 入院患者不在者投票	P32	
20. その他の活動報告	P32	
21. 表彰	P32	

1. がん医療対策関連について

地域がん診療連携拠点病院活動報告

1) 厚生労働省局長通知による「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催方針」に則り、地域のがん診療に携わる医師を対象に、当院主催により次の通り「公開緩和ケア研修会」を開催した。

(日 時) 10月18日(土) 14:00~19:00
10月19日(日) 9:00~19:00
(場 所) ホテル福丸
(参加者) 10名

2) がん・緩和ケア研修会

10月9日 がん緩和ケア研修会 DVD講演
プロフェッショナル仕事の流儀 希望は必ず見つかる
～がん看護専門看護師 田村恵子の仕事～
講師 田村恵 66名参加
3月18日 がん・緩和ケア研修会 在宅緩和ケアの実際～訪問看護の立場から～
講師 訪問看護ステーションかりん管理者 看護師 森恵
64名参加(外部参加11名)

3) がんに関する講演会・研修会

4月18日 鹿児島膀胱癌研究会 4名参加
9月5日 肺がん検診均てん化研修会 2名参加
7月26日 鹿児島県がん相談員部門会及び緩和ケア部門会 2名参加
10月16日 鹿児島地区 がん診療連携クリティカルパス説明会
鹿児島地区に従事している医師・看護師・薬剤師・保健師を対象に
148名参加(外部参加119名)
10月25日 鹿児島県院内がん登録研修会
・前立腺がんについて 泌尿器科部長 立和田得志
・標準登録様式について 済生会川内病院 診療情報管理室 前田雄介
36名参加(外部参加31名)
11月7日 鹿児島県がん相談員部門会 1名参加
2月6日 肺がん検診均てん化研修会 4名参加
2月6日 乳がん検診従事者研修会 4名参加
2月20日 消化器癌治療カンファレンス
「倉敷中央病院における胃癌・大腸癌患者を対象とした地域連携パスの
施行」
「当院における消化器癌の連携について」
当院 外科部長 濱之上雅博 44名参加(外部参加4名)
2月27日 大腸がん検診研修会 3名参加
3月11日 乳がん検診均てん化研修会 4名参加
3月20日 がん診断講座
1. 胆膵癌の画像診断と放射線科的治療 放射線診断科部長 鉾立博文
2. 胆膵癌における外科治療 外科部長 濱之上雅博
3. 早期胆膵癌へのアプローチ 消化器内科科長 今給黎和幸
54名参加(外部参加者5名)
3月21日 鹿児島県がん相談員研修会及び緩和ケア部門会 2名参加
3月25日～27日 がん研究会 がん治療 実践研修会 2名参加

4) がん患者とその家族を対象に、病気や心の悩み、体験などを気軽に語り合い、思いを共有する場として「がんサポートかごしま」と共同で「ほっとサロン今給黎」を院内開催してサポートした。(毎月第3水曜日開催、無料) 139名参加

5) 患者図書室「すまいる」

患者図書室「すまいる」は協働の医療を目的として、NPO法人「医療の質に関する研究会」の患者図書室プロジェクトの支援のもと、平成25年4月にオープンし2年が経過した。分かりやすい医療の本を中心に約700冊を所蔵している。

利用サービスとして、図書の閲覧・貸出し、インターネットの利用、映像の視聴、パンフレット・チラシの提供を行っている。利用時間は月曜から金曜の10時から12時、13時から16時である(土・日・祝日を除く)。

原則2名ずつのボランティアスタッフで運営しており、26年度は23名のボランティアが活動した。

26年度の延べ利用者数は2,711人、1日平均利用者数11人、入院患者比率50.2%、図書貸出数684冊であった。

27年度も引き続き患者さまへの利用を促進するとともに、まずは広く職員の利用を促進したいと考えている。

6) 講師派遣

5月17日・18日

県立薩南病院主催 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
コミュニケーション講師 緩和医療科部長 小玉哲史 派遣

7月20日

国立病院機構 南九州病院主催
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会

コミュニケーション講師 緩和医療科部長 小玉哲史 派遣

8月23日・24日

済生会川内病院主催 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
コミュニケーション講師 緩和医療科部長 小玉哲史 派遣

9月14日・15日

県民健康プラザ 鹿屋医療センター主催
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
コミュニケーション講師 緩和医療科部長 小玉哲史 派遣

9月20日

NPO法人がんサポートかごしま主催
「子どもたちに伝えたいがんの基礎知識」講師
緩和ケア認定看護師 大西玲子 派遣

11月22日・23日

南風病院主催 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア
ファシリテーター 緩和ケア認定看護師 大西玲子 派遣

12月20日

NPO法人がんサポートかごしま主催 「がんってどんな病気？」講師
緩和ケア認定看護師 大西玲子 派遣

1月11日・12日

鹿児島医療センター主催 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
コミュニケーション講師 緩和医療科部長 小玉哲史
講師 緩和ケア認定看護師 大西玲子・岩山由紀 派遣

3月7日・8日

鹿児島大学病院主催 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
コミュニケーション講師 緩和医療科部長 小玉哲史

7) 院内がん登録集計

【院内がん登録集計（2013年1月1日～2013年12月31日）】

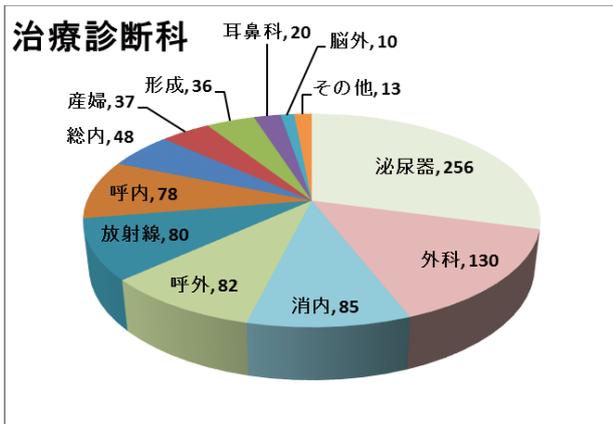
※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断および治療の対象となった症例

●1腫瘍1登録 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録

①治療診断科

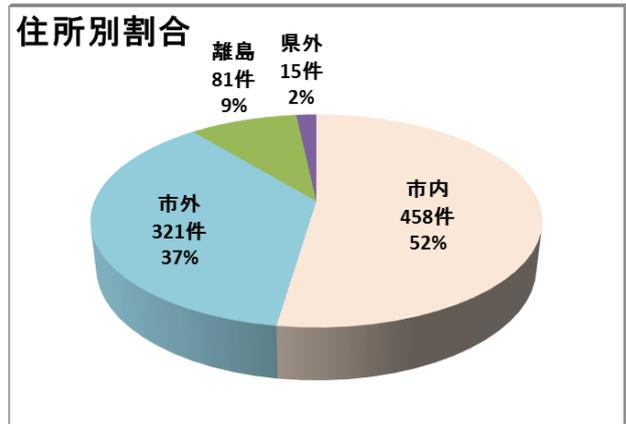
診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
 治療を行った場合：初回治療を行った診療科
 どちらも行った場合は、治療をした診療科を1としています。

例) 消化器内科にて診断、外科にて治療
 ⇒外科でカウント



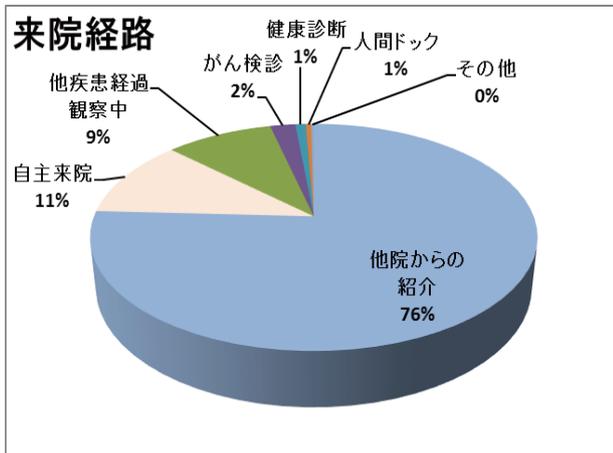
②住所別割合

患者様の居住されている地域別分類です。
 市外では多い順に、薩摩川内市、始良市、日置市、離島では種子島、屋久島の順となっています。



③来院経路

がんの診断・治療のために当院を受診した来院経路別分類です。



④症例区分

診断治療の決定：当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

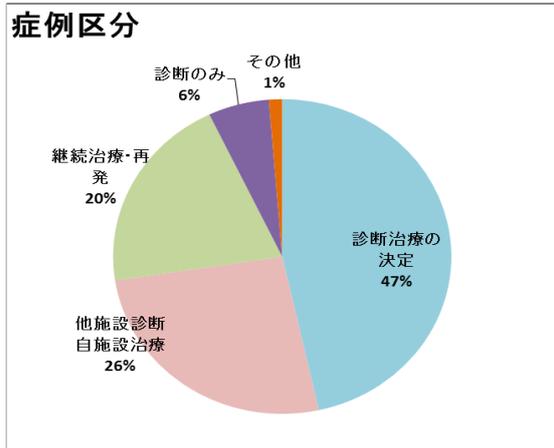
他施設診断自施設治療：がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

継続治療・再発：他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例
 もしくは、他施設にて治療後再発し、当院にて治療を行った症例

診断のみの症例：当院でがん診断を行ったが、治療は他施設で行った

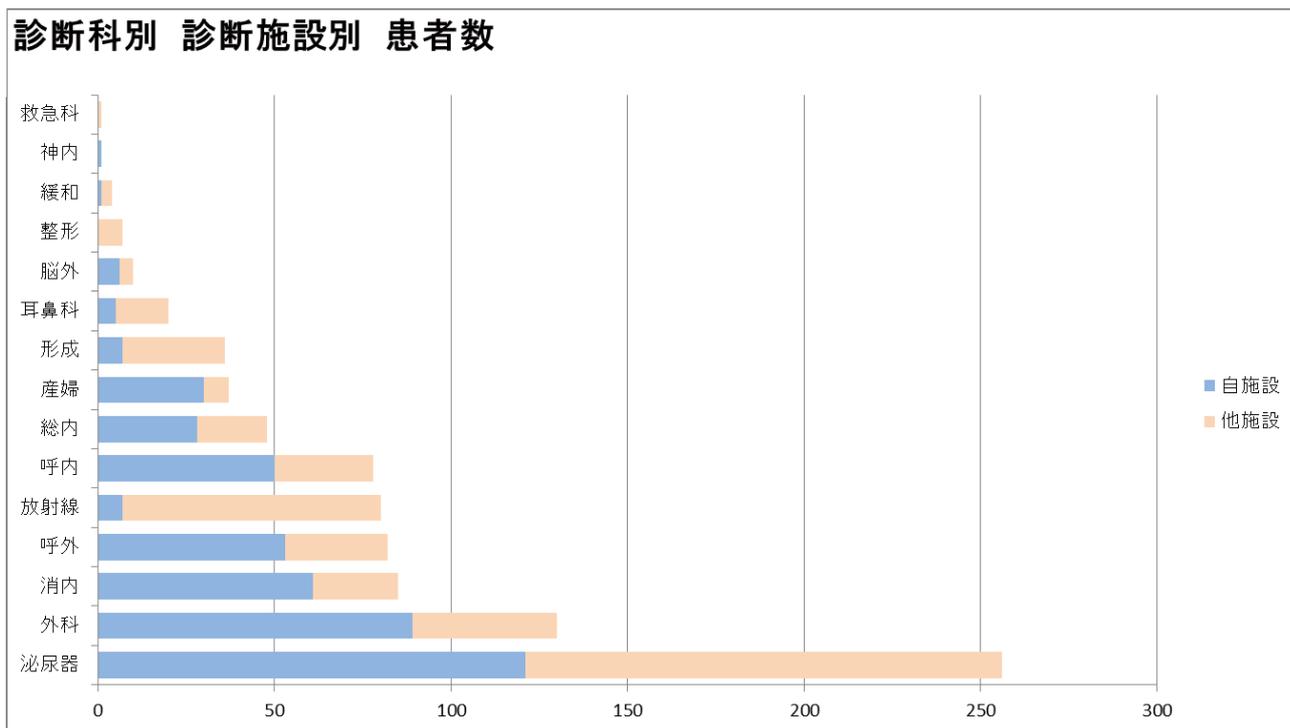
もしくは治療を選択しなかった症例

その他：セカンドオピニオン症例



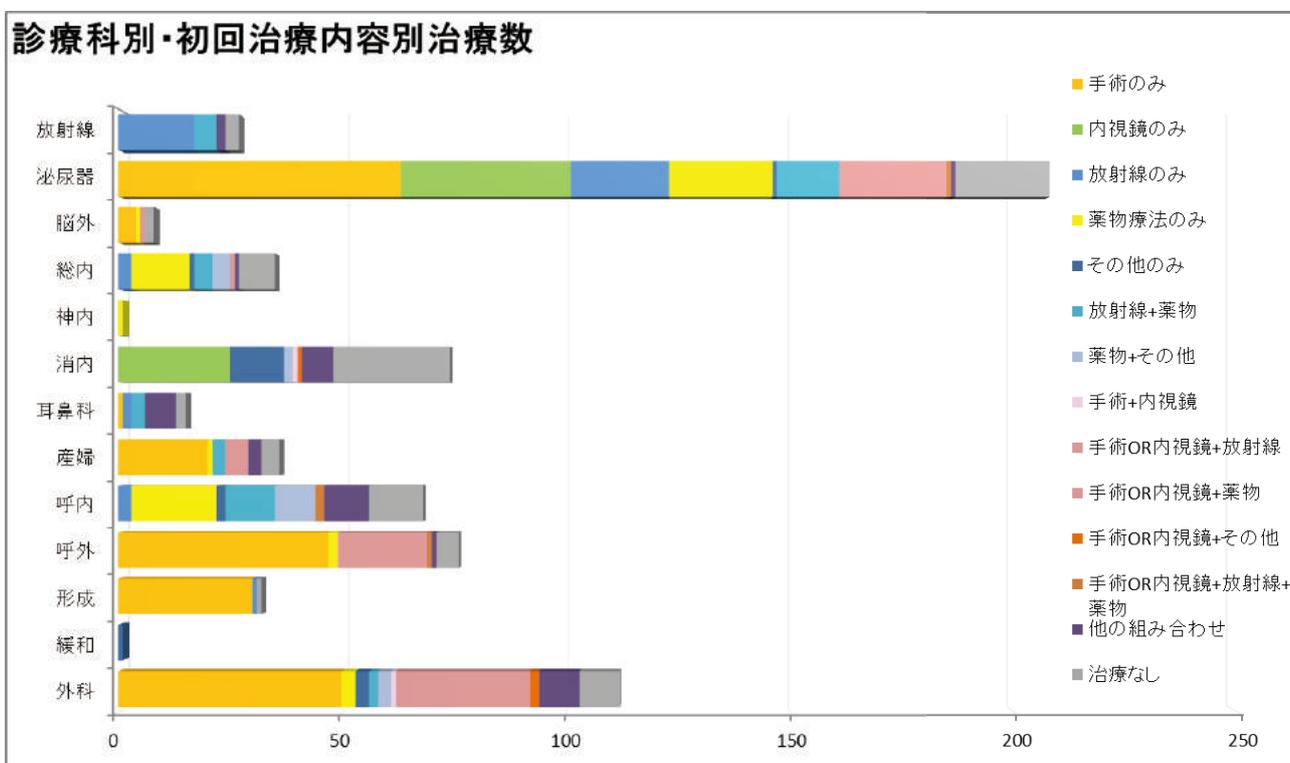
⑤ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者様の診断をどこで行われたかを診療科別で示しています。



⑥ 診療科別・初回治療内容別治療数

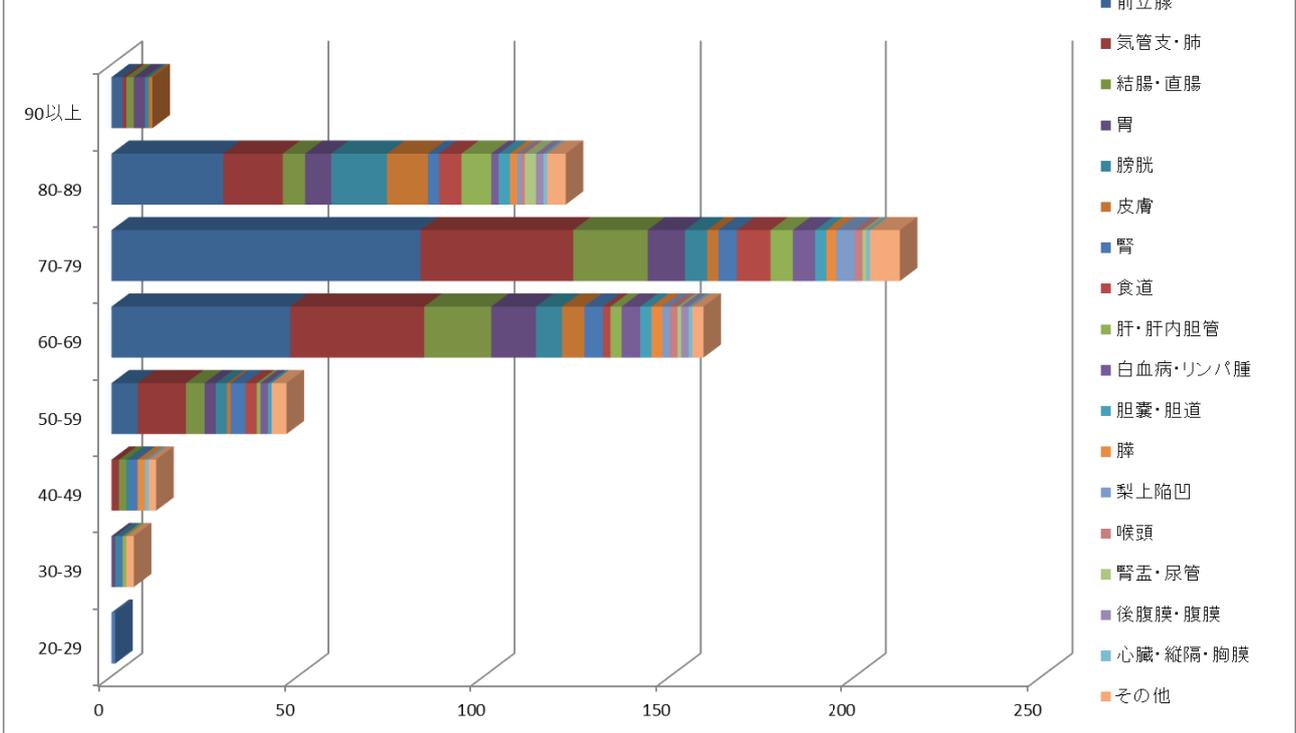
紹介治療として選択された治療内容を診療科別で示しています。



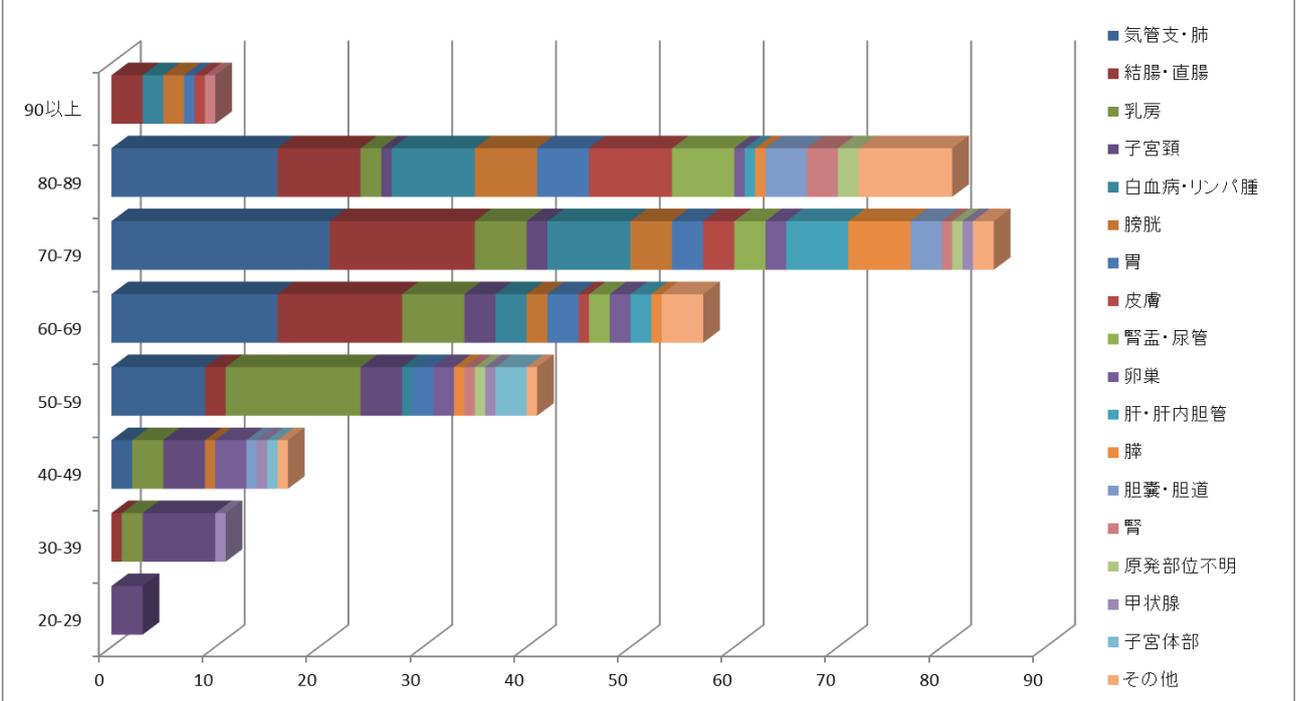
⑦性別・年齢階層別・原発部位別 患者数

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています。

年齢別・原発部位別患者数(男性)

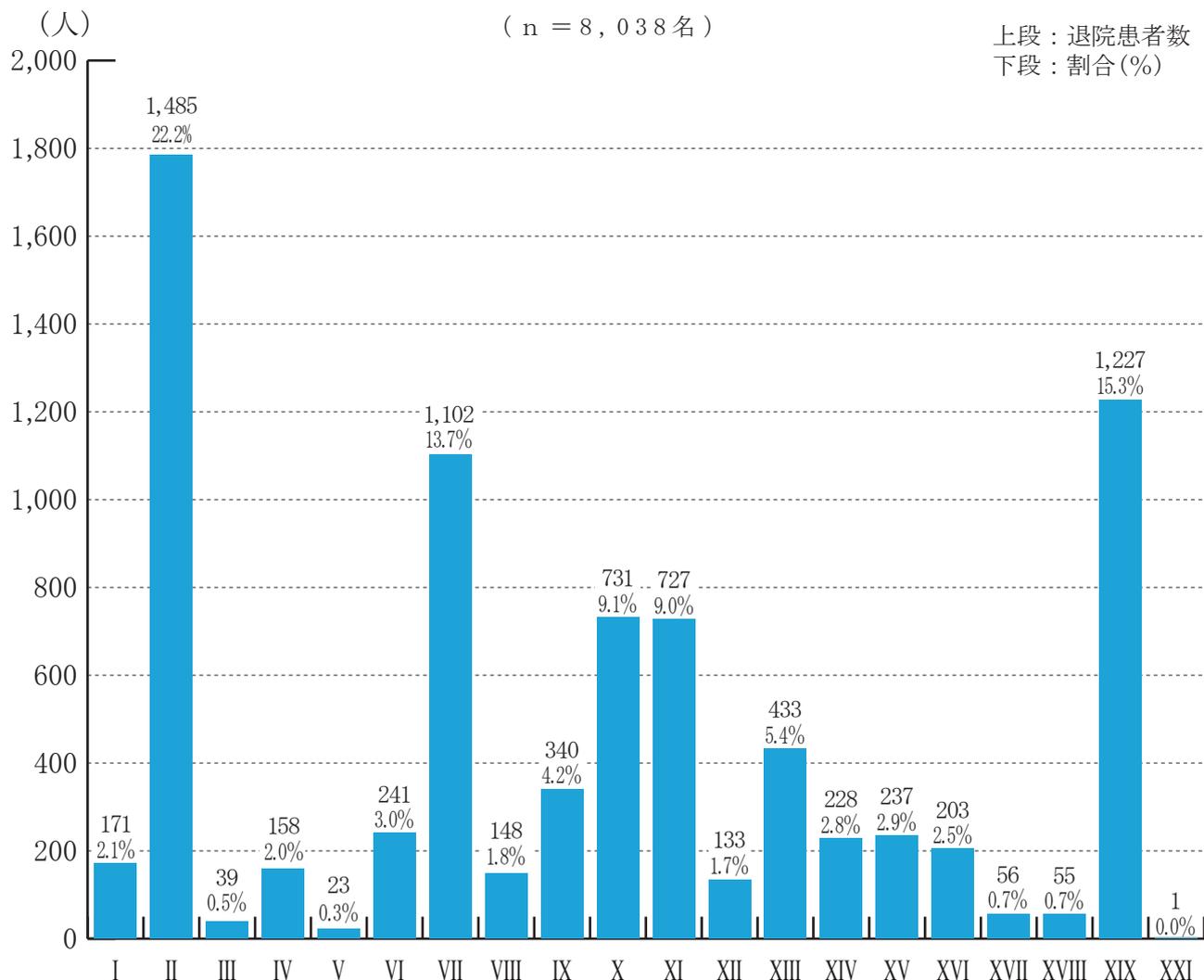


年齢別・原発部位別患者数(女性)



8) 施設基準に基づく主傷病名大分類

主 傷 病 名 大 分 類



- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| I 感染症及び寄生虫症 | XII 皮膚及び皮下組織の疾患 |
| II 新生物 | XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | XIV 腎尿路生殖器系の疾患 |
| IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 | XV 妊娠、分娩及び産褥 |
| V 精神及び行動の障害 | XVI 周産期に発生した病態 |
| VI 神経系の疾患 | XVII 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| VII 眼及び付属器の疾患 | XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| VIII 耳及び乳様突起の疾患 | XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| IX 循環器系の疾患 | XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |
| X 呼吸器系の疾患 | |
| XI 消化器系の疾患 | |

平成26年度 ICD大分類・診療科別・性別・退院患者数

ICD大分類	男女合計	総数	総内	神内	呼内	消内	循内	糖	小	外科	呼外	皮	整形	脳	泌	産	新内	婦	眼	耳	放	麻	口腔	緩和	
総数	8,038	男 4,187 女 3,851	147	269	360	264	40	7	84	326	220	39	579	225	173	399	-	110	-	536	301	32	7	46	23
I 感染症及び寄生虫症	171	男 79 女 92	7	17	8	10	-	-	11	1	1	14	-	-	3	-	-	-	1	6	-	-	-	-	
II 新生物	1,785	男 1,116 女 669	34	4	272	49	1	-	-	184	130	5	19	54	4	293	-	-	-	1	15	31	-	1	19
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	39	男 20 女 19	3	4	3	1	-	-	2	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	158	男 77 女 81	10	15	-	1	1	7	11	-	1	2	2	3	2	1	-	-	-	21	-	-	-	-	
V 精神及び行動の障害	23	男 13 女 10	1	6	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	
VI 神経系の疾患	241	男 128 女 113	1	79	1	-	1	-	2	1	4	-	9	4	20	-	-	-	-	5	-	1	-	-	
VII 眼及び付属器の疾患	1,102	男 516 女 586	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	497	1	-	-	-	
VIII 耳及び乳様突起の疾患	148	男 66 女 82	2	11	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	50	-	-	-	
IX 循環器系の疾患	340	男 169 女 171	4	53	4	5	29	-	2	4	3	1	3	1	57	1	-	-	-	-	-	1	-	1	
X 呼吸器系の疾患	731	男 464 女 267	48	23	67	3	2	-	49	5	53	1	2	-	7	-	-	-	-	203	1	-	-	-	
XI 消化器系の疾患	727	男 359 女 368	3	7	-	181	1	-	-	116	1	2	-	2	2	-	-	-	-	3	-	-	41	-	
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	133	男 64 女 69	5	-	1	-	-	-	1	-	-	12	2	36	-	1	-	-	-	2	3	-	1	-	
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	433	男 226 女 207	10	18	-	-	1	-	-	-	-	1	178	13	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	228	男 116 女 112	7	5	1	2	1	-	3	2	1	-	-	1	2	88	-	-	-	3	-	-	-	-	
XV 妊娠、分娩及び産褥	235	男 - 女 235	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
XVI 周産期に発生した病態	205	男 108 女 97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	108	-	-	-	-	-	
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	56	男 20 女 36	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11	2	3	-	2	-	1	-	-	-	-	
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	55	男 35 女 20	2	8	1	6	-	-	2	-	6	-	-	1	3	1	-	-	-	5	-	-	-	-	
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,227	男 610 女 617	9	15	2	4	3	-	1	9	14	1	362	85	70	6	-	-	-	14	5	-	4	4	
XX 健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	1	男 1 女 -	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

9) 当院で実施しているがん検診実績

【乳がん検診】

乳がんは、日本人女性の 14 人に 1 人かかる病気とされています。
 早期に発見して治療すればほんどの方が助かるとされており、検診による早期発見が
 とても重要です。

- 検診項目：視触診及びマンモグラフィー検査
- 当院の乳がん検診対象の方
 - ・ 鹿児島市「いきいき受診券・乳がん検診」対象の方
 - ・ 下記の市町村による「無料クーポン券」事業へも参加しております。
 (鹿児島市・霧島市・垂水市・屋久島町)

対象者の検査項目	40 歳代	視触診及びマンモグラフィー検査 (2 方向)
	50 歳以上	視触診及びマンモグラフィー検査 (1 方向)

※ 検診日：平日 月～金曜日 午前中 (受付時間 午前 8 時～午前 11 時 30 分)

- 乳がん検診費用 (40 歳未満の方も対象) について
 - ・ 視触診のみ ¥2,500
 - ・ 視触診+乳房超音波エコー ¥3,500
 - ・ 視触診+マンモグラフィー (2 方向) ¥4,500
 - ・ 視触診+マンモグラフィー (2 方向) +乳房超音波エコー ¥5,000

乳がん検診受診件数

/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計/名
平成 21 年度	4	2	6	3	4	1	7	5	6	5	5	7	55
平成 22 年度	1	2	2	3	0	3	2	2	7	2	2	6	32
平成 23 年度	5	8	16	11	3	7	11	13	11	4	6	19	114
平成 24 年度	5	8	14	7	4	14	18	13	11	9	17	7	127
平成 25 年度	6	9	16	9	6	4	8	7	8	9	21	6	109
平成 26 年度	10	5	12	15	11	10	9	14	9	14	39	6	154

【子宮がん検診】

子宮がんは早期に発見して治療すればほぼ 100% 治るがんです。定期的に検診をして早期発見に努めましょう。

- 検診項目：頸部、体部検査（細胞診）※体部検査は、医師の判断により実施
- 当院の子宮がん検診対象の方
 - ・ 鹿児島市「いきいき受診券・子宮がん検診」対象の方
 - ・ 下記の市町村による「無料クーポン券」事業へも参加しております。
(鹿児島市・霧島市・垂水市・屋久島町)

子宮がん検診受診件数

/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計/名
平成 21 年度	16	16	19	14	11	5	19	15	8	10	15	29	177
平成 22 年度	9	17	13	11	16	14	18	14	8	10	9	26	165
平成 23 年度	6	17	12	18	11	10	18	20	11	11	9	22	165
平成 24 年度	10	11	30	15	11	17	21	24	6	14	16	17	192
平成 25 年度	14	16	22	13	11	13	12	7	4	8	12	5	137
平成 26 年度	11	2	13	27	12	20	16	20	14	11	22	6	174

【低線量 CT 肺がん検診】

低線量 CT 肺がん検診とは、従来のレントゲン検診より、がん発見率が高く、通常の CT 検診より被爆量が少ない検診です。

当院は鹿児島県「低線量 CT 肺がん検診事業」へ参加しております。

- 当院の低線量 CT 肺がん検診対象の方
 - ・ 鹿児島県在住、50 歳以上の方
 - ※ 肺がん治療中または肺がん疑いで経過観察中、肺がん術後の方は対象外です。

低線量 CT 肺がん検診受診件数

/月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計/名
平成 22 年度	-	-	37	39	27	6	8	5	8	23	153
平成 23 年度	-	25	5	3	2	9	2	1	0	6	53
平成 24 年度	4	5	2	4	2	4	1	3	3	2	30
平成 25 年度	8	4	2	1	2	5	4	1	34	18	79
平成 26 年度	5	8	2	6	5	4	2	7	9	9	57

【大腸がん検診】

大腸がんは増加傾向にあり、年々増え続けています。原因は、食生活の欧米化によるものといわれています。早期の大腸がんは、完全に治すことが可能ですので、定期的に検診を受けて、早期発見することが重要です。年1回は必ず受診しましょう。

- 検査項目：便の潜血反応検査
- 当院の大腸がん検診対象の方
 - ・ 鹿児島市「いきいき受診券・大腸がん検診」対象の方
 - ・ 40歳以上の方

大腸がん検診受診件数

／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計/名
平成 21 年度	6	27	9	8	4	1	6	3	4	6	6	7	87
平成 22 年度	4	1	9	2	5	2	4	7	3	1	5	8	51
平成 23 年度	5	5	4	2	3	3	4	5	5	5	5	19	65
平成 24 年度	7	7	15	7	9	10	16	3	5	6	10	2	97
平成 25 年度	4	5	14	4	5	4	4	6	2	3	8	3	62
平成 26 年度	5	6	6	8	8	7	5	7	4	7	5	3	71

【前立腺がん検診】

高齢化や食生活の欧米化などの影響により、50歳以降の男性の前立腺がんが増加しています。前立腺がんの初期では、ほとんど症状がなく有効な予防法もないため、定期的に受診して、早期発見、早期治療を心がけましょう。

- 検査項目：PSA（特異抗原）検査（血液検査）
- 当院の前立腺がん検診対象の方
 - ・ 鹿児島市「いきいき受診券・前立腺がん検診」対象の方
 - ・ 50歳、55歳、60歳、70歳になる男性

前立腺がん検診

／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計/名
平成 21 年度	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	6
平成 22 年度	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1	5
平成 23 年度	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2	8
平成 24 年度	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
平成 25 年度	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
平成 26 年度	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4

2.脳卒中

t-PA（超急性脳卒中）2件	※詳細は P20
----------------	----------

2月24日 鹿児島県脳卒中地域連携ネットワーク研究会
「第17回鹿児島県脳卒中地域連携ネットワーク研究会かすたねっと」
3名派遣

3.急性心筋梗塞

11月25日 健康教室「心臓の病気について」講師 循環器内科 大場一郎 派遣

4.糖尿病

5月14日/6月11日/7月9日/8月13日/9月10日/10月8日/11月12日/12月10日/
1月14日/2月12日/3月11日
糖尿病教室 41名参加
(毎月第2水曜日午後 当院7階カンファレンスルーム 入院患者対象)
糖尿病内科部長 盛満慎吾・栄養士

6月29日 1型小児糖尿病患者会「さくらんぼの会」
1型糖尿病の食事(カーボカウントを含む食事管理)
小児科部長 玉田泉・看護師2名・保育士1名・管理栄養士5名 派遣

7月5日 鹿児島小児糖尿病懇談会 医師1名参加

7月26日・27日 第45回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ
小児科部長 玉田泉・看護師1名参加

第27回さくらんぼの会 当院主催 講演会と懇談会 9名参加(外部参加65名)

5.精神疾患

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会講師 6病院
緩和医療科部長 小玉哲史 派遣

第6回オンコロジーセミナー「精神科に紹介する前にできること」
緩和医療科部長 小玉哲史 参加

6.救急医療

1) 洋上救急出動簿 平成 26 年度は出動要請なし

2) 離島緊急医療活動一覧

	市町村名	搬送日	症 状
1	西之表市	4 月 3 日	妊娠 32 週切迫流産
2	屋久島町	4 月 18 日	右大腿骨骨幹部骨折
3	南種子町	5 月 1 日	急性胃腸炎
4	西之表町	5 月 12 日	膝損傷
5	喜界町	5 月 22 日	腰椎椎間板ヘルニア
6	十島村	6 月 2 日	急性出血性胃潰瘍
7	十島村	6 月 4 日	びまん性脳損傷
8	屋久島町	6 月 12 日	下部消化管出血
9	西之表市	7 月 2 日	右腎出血
10	屋久島町	8 月 11 日	右環指切断
11	西之表市	8 月 23 日	切迫流産
12	屋久島町	9 月 2 日	腫瘍性環椎骨折
13	西之表市	10 月 19 日	切迫流産
14	屋久島町	10 月 29 日	上部消化管出血
15	屋久島町	11 月 13 日	急性間質性肺炎

4) 鹿児島市医師会休日当番医輪番担当及び夜間急病センターの全夜間輪番オンコール担当を次の様に担当し、診療活動を行った。

①休日当番医

4 月 20 日 (日) 皮膚科・泌尿器科
 6 月 8 日 (日) 内科・外科・産婦人科
 7 月 6 日 (日) 眼科
 9 月 15 日 (月) 皮膚科・泌尿器科
 11 月 23 日 (日) 眼科
 11 月 30 日 (日) 内科・外科・整形外科・産婦人科
 1 月 18 日(日) 泌尿器科・産婦人科
 2 月 11 日 (水) 皮膚科
 2 月 22 日 (日) 内科・外科

②全夜間オンコール

眼科 延 12 日
 皮膚科 延 10 日
 泌尿器科 延 10 日
 整形外科 延 8 日
 産婦人科 延 12 日

③バックアップ

整形外科 延 39 日

5) 鹿児島市高規格救急車指示病院としての活動

	日付	救急隊	年齢	性別	指示医師	指示要請
1	4月12日	吉野	88	女	栢木太郎	あり
2	6月19日	伊敷	81	男	巻幡聡	あり
3	6月27日	上町	49	男	三宅健治	あり
4	8月5日	吉野	83	男	米田敏	あり
5	8月30日	上町	89	女	巻幡聡	あり
6	9月10日	上町	73	男	小坂健太	あり
7	9月25日	吉野	69	男	石田育男	あり
8	11月6日	上町	81	女	今給黎和幸	あり
9	11月15日	吉野	87	男	宮口文宏	あり
10	1月2日	吉野	82	男	松邨宏之	あり
11	1月2日	西本	84	女	松邨宏之	あり
12	1月10日	上町	67	女	今給黎和幸	あり
13	1月12日	吉野	49	男	前迫慎吾	あり
14	1月15日	吉野	68	男	西森宏雄	あり
15	2月3日	西本	48	女	内村暢幸	あり
16	2月14日	西本	75	女	大磯陽子	あり
17	2月16日	南本	25	男	松邨宏之	あり
18	2月16日	上町	90	女	岡松伸明	あり
19	3月12日	上町	78	男	岡松伸明	あり
20	3月21日	上町	70	男	西森宏雄	あり
21	3月29日	西本	69	男	前迫慎吾	あり

※救急救命処置に対する医師の具体的な指示状況 21件

6) 年度別救急車受入台数（患者数）

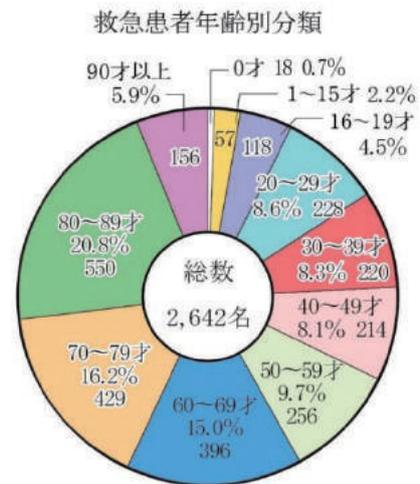
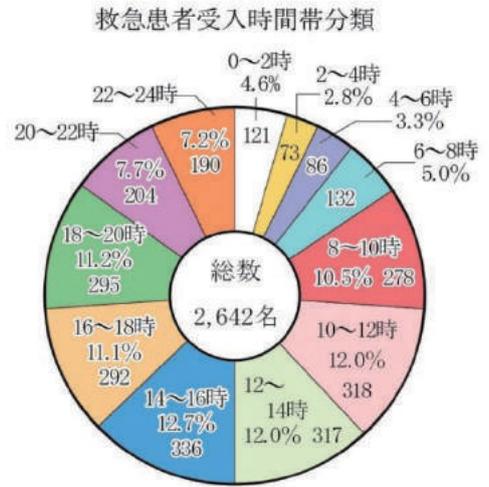
年度別救急車受入台数(患者数)

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
4 月	156 (160)	180 (182)	220 (221)	214 (220)	199 (202)
5 月	184 (187)	196 (196)	219 (221)	228 (235)	213 (217)
6 月	164 (165)	185 (188)	194 (195)	208 (213)	206 (209)
7 月	196 (205)	212 (216)	218 (223)	247 (251)	225 (229)
8 月	186 (188)	250 (266)	251 (256)	249 (253)	212 (216)
9 月	187 (190)	214 (218)	217 (222)	197 (201)	224 (226)
10 月	202 (205)	247 (251)	238 (242)	230 (233)	202 (205)
11 月	185 (188)	212 (215)	245 (249)	224 (226)	222 (224)
12 月	215 (215)	237 (239)	224 (225)	218 (223)	227 (232)
1 月	201 (205)	239 (241)	214 (219)	201 (208)	244 (243)
2 月	155 (157)	172 (175)	209 (210)	212 (221)	204 (209)
3 月	203 (204)	228 (228)	214 (215)	209 (217)	227 (230)
合計	2,234 (2,269)	2,572 (2,615)	2,663 (2,698)	2,637 (2,701)	2,605 (2,642)
月平均	186.2 (189.1)	214.3 (217.9)	221.9 (224.8)	219.8 (225.1)	217.1 (220.2)
日平均	6.1 (6.2)	7.0 (7.1)	7.3 (7.4)	7.2 (7.4)	7.1 (7.2)
高規格救急車 指示(再掲)	18	26	17	18	21

7) 平成 26 年度

救急患者受入時間帯・年齢別分類

平成 26 年度 救急患者受入時間帯・
年齢別分類



8) 県消防、防災ヘリコプターの積極的活用に係る医師搭乗システム移動病院として輪番を担当した。

4 月 28 日・29 日・30 日

5 月 2 日・3 日・4 日

9 月 8 日・9 日・10 日・12 日・13 日・14 日

11 月 10 日・11 日・12 日・14 日・15 日・16 日

1 月 1 日

2 月 16 日・17 日・18 日・20 日・21 日・22 日

7.災害時における医療

災害救護訓練等への参加

【医師】

4月26日	エマルゴコース（災害机上訓練）インストラクター	1名参加
6月27日	BDLS（米国災害医療教育プログラム）	1名参加
10月18日・19日	ADLS（米国災害医療教育プログラム）	1名参加

【看護部】

4月26日	エマルゴコース（災害机上訓練）インストラクター	5名参加
5月10日	今給黎総合病院エマルゴ院外研修	41名参加
6月27日	BDLS（米国災害医療教育プログラム）	2名参加
2月11日	第十管区海上保安部 洋上救急慣熟訓練	8名参加

【放射線部】

5月10日	エマルゴトレーニング	6名参加
-------	------------	------

【栄養管理部】

5月10日	エマルゴ院外研修会	1名参加
8月30日	JDA-DAT（栄養士会 災害支援チーム）研修	1名参加

【事務部】

9月9日	多数傷病者発生事故救急訓練における電話連絡訓練	
------	-------------------------	--

8.へき地医療

1) 離島看護師スキルアップ事業の一環として、診療所へ代替看護師の派遣を行った。

8月25日～27日	十島村 6診療所へ	
	・口之島 2名 ・中之島 2名 ・平島 2名	
	・悪石島 2名 ・子宝島 2名 ・諏訪瀬島 2名	各3日間12名派遣

2) 歯科医区住民の歯科医療確保の為、歯科巡回診療者事業に歯科医師を派遣した。

2月8日～12日	ミャンマー 歯科診療	歯科口腔外科部長 吉田雅司 派遣
----------	------------	------------------

9.周産期医療

NICU受入	（鹿児島市立病院）	118件
	（その他の病院）	9件

5月10日	第64回九州新生児研究会「マイクロファイバー素材クリーニングクロスによる保育器の清拭効果の検討」	7名派遣
5月18日	第3回出張もじょかくらぶ（NICU同窓会）開催 種子島地区（西之表市保健センターすこやか）	49名参加 医師1名・看護師11名派遣
6月15日	ハイリスク児フォローアップ研究会	2名派遣
7月2日	母子保健課 第1回子ども健やか安心ねっと事業調整会議	6名派遣

7月20日	第10回リトルスター 「霧島市及び周辺地域で小さく生まれた子供達と家族の集い」	1名派遣
9月16日	NICU長期入院時の支援に関するシンポジウム 「NICU等への長期入院時の現状と課題について」	1名派遣
10月25日	第65回九州新生児研究会 「発達遅滞の両親への地域と連携した育児支援」	2名派遣
11月16日	第4回出張もじょかくらぶ（NICU同窓会）開催 始良地区（始良保健センター）	41名参加 医師1名・看護師12名派遣
12月4日	第5回出張もじょかくらぶ（NICU同窓会）開催 霧島地区（霧島市すこやか保健センター）	28名参加 医師1名・看護師12名派遣
12月8日	鹿児島市母子保健課 母子保健連絡会	4名派遣
1月24日	佐賀・福岡地区新生児看護勉強会 「当院のファミリーセンタードケア」	1名派遣
1月29日	鹿児島県保健福祉部 かごしま妊娠・出産支援事業に係る小冊子作成検討委員会	2名派遣
3月12日	社会福祉法人麦の芽福祉会 利用児（リハビリ通院）に関する情報交換 並びに連携会議	医師1名・看護師6名派遣
3月15日	第6回出張もじょかくらぶ（NICU同窓会）開催 曾於地区（そお生きいき健康センター）	20名参加 医師1名・看護師7名派遣
3月18日	鹿児島県周産期医療協議会 新生児マスククリーニングクレチン症・副腎皮質過形成症疑い精査症例受け入れ	医師1名派遣 小児科

10.小児（救急）医療

1) 平成26年度小児科救急車一覧表

	月 日	時間帯	救急隊	年齢	性別	症 状	担当 医師	入院・ 外来
1	5月7日	17:46	上町	9	女	急性肺炎	玉田	入院
2	5月12日	11:47	市立病院	5	女	1型糖尿病・ケトアシドーシス合併あり	玉田	入院
3	6月25日	13:20	上町	11	男	意識消失	堀之内	外来
4	7月31日	13:34	上町	3	女	熱性痙攣	玉田	外来
5	9月9日	17:05	上町	0	女	異物誤飲	堀之内	外来

2) 学校検診関係

4月1日～3月31日

同胞保育園 嘱託医	園児の健康診断	小児科医	1名派遣
4月23日 坂元中学校歯科検診			約400名検診 歯科医師3名・歯科衛生士3名派遣
鹿児島市医師会学校腎臓病検診	委員・3次検診の受け入れ		小児科
鹿児島市医師会学校糖尿病検診	精査症例受け入れ		小児科
鹿児島市小児生活習慣病予防検診	精査症例受け入れ		小児科
鹿児島県・市	予防接種・乳児健診受け入れ		小児科

11.地域医療支援病院活動報告

医師・看護師・保健師・栄養士・検査技師による、地域の医療従事者・地域住民の方を対象に、健康増進への普及を図った。

	月 日	演 題	講 師	参加者数
1	4月26日	「第11回みんなでイキイキ健康まつり」	当院各診療科医師と当院職員にて	外部171名
2	5月10日	今給黎スポーツフォーラム 「肩肘の投球障害にならない工夫」	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院スポーツ整形外科教授 筒井廣明 理学療法士 千葉慎一 尾崎尚代	64名 (外部17名)
3	5月24日	健康大学 「目の変化と治療の決断」	当院 眼科部長 薄井隆宏 ・眼科外来スタッフ	51名
4	5月26日	院内感染講演会 「手指衛生の重要性」	ファイザー(株)南九州営業所 所長 戸島英城	753名 (院内のみ)
5	5月29日	がん・緩和ケア研修会 「今日から使える精神腫瘍学～有効に精神科医を使ってもらうためのお願いも含めて～」	当院 緩和医療科部長 小玉哲史	126名 (外部14名)
6	6月28日	かごんまGYROミーティング	MRI装置を使用している施設同士の勉強会、交流会	3名 (外部37名)
7	7月4日	人工呼吸器講演会 「多職種連携が患者の予後を変える」 「特定看護師としての活動と今後の展望」	社会医療法人敬愛会 中頭病院 看護部キャリア開発室 特定看護師 臨床工学技士 芹田晃道	65名
8	7月18日	労働安全研修会 「熱中症～傾向と対策2014～」	当院 麻酔科 西山淳	97名 (院内のみ)
9	7月23日	市民公開講座 「ヒトは死んだらどこに行くのか～緩和ケア医の立場から～」	当院 緩和医療科部長 松添大助	127名 (外部35名)
10	7月31日	健康教室 「熱中症予防と対策-脱水状態に経口補水療法-」	(株)大塚製薬工場 OS-1 事業部 栄養情報担当 中村環	17名 (外部12名)
11	9月30日	健康教室 「高齢者の肩と腰の痛みについて」	当院 整形外科部長 松永俊二	32名 (外部25名)
12	10月2日	院内講演会 「B型肝炎ウイルス再活性化の現状と対策」	鹿児島大学病院 消化器疾患生活習慣病 教授 井戸章雄	129名
13	10月5日	鹿児島県内 皮膚・排泄ケア認定看護師勉強会 「WOCに係わる平成26年度診療報酬改定について」	3Mヘルスケア(株) 医療用製品事業部 マネージャー 高水勝	15名 (外部10名)

14	10月9日	がん緩和ケア研修会 DVD 講演「プロフェッショナル仕事の流儀 希望は必ず見つかる～がん看護専門看護師 田村恵子の仕事～」	がん看護専門看護師 田村恵子	66名
15	10月16日	鹿児島地区 がん診療連携 クリティカルパス説明会	鹿児島地区に従事している 医師・看護師・薬剤師・保健師など	148名 (外部119名)
16	10月23日	クリティカルパス講演会 「スケジュールパスではなくアウトカム達成型&分岐型電子パスであるフレキシブルパス」 「パスに患者をあわさない患者に電子パスをフレキシブルにあわそう」	永野中央病院 外科部長 成田淳 他 院内より3演題発表有	192名
17	10月25日	鹿児島県院内がん登録研修会 「前立腺がんについて」 「標準登録様式について」	当院 泌尿器科部長 立和田得志 済生会川内病院 診療情報管理室 前田雄介	36名 (外部31名)
18	10月25日	第7回鹿児島駅周辺まち歩き さるっきんぐ 上町シルミルコース 「メディカルコース」	一般市民参加者に対し当院の栄養管理士による食事について	20名 (外部15名)
19	10月31日 11月1日	医療安全研修会 「患者・家族を不安にさせない対応を考えよう～医療者の連携不足の事例を通して～」	東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室 玉利英子	719名
20	11月8日	「ヒトは死んだらどこに行くのか」	当院 緩和医療科 松添大助	100名
21	11月10日	鹿児島外傷セミナー 「脊髄損傷に対する急性期診療～脊損センターの方針～」	総合脊損センター 整形外科部長 前田健	89名 (外部45名)
22	11月13日・18日・1月7日	院内感染研修会 「インフルエンザ・ノロウィルスの流行に備えて」	大日本製薬(株)西日本地域本部 地域統括 戦略グループ 村岡正浩	837名 (院内のみ)
23	11月25日	健康教室 「心臓の病気について」	当院 循環器内科部長 大場一郎	外部16名
24	11月27日	労働安全衛生委員会 「職業性腰痛について」	当院 副院長 整形外科部長 松永俊二	63名
25	12月6日	今給黎スポーツフォーラム 「肩・肘障害の診断と治療」	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院スポーツ整形外科 教授 筒井廣明 江東豊洲病院 整形外科 鈴木昌 理学療法士 千葉慎一 尾崎尚代	77名 (外部45名)

26	2月20日	<p>消化器癌治療カンファレンス</p> <p>セッション1「倉敷中央病院における胃癌・大腸癌患者を対象とした地域連携パスの施行」</p> <p>セッション2「当院における消化器癌の連携について」</p>	<p>倉敷中央病院 外科部長 河本和幸</p> <p>当院 外科部長 濱之上雅博</p>	<p>44名 (外部4名)</p>
27	2月21日	<p>健康大学 「まさかの事故への備え」</p>	<p>当院 救急認定看護師 橋口恒夫</p>	<p>外部59名</p>
28	2月28日	<p>DUMO 理論オープンセミナー「靴とインソールを活用した最新の問題解決テクニック」</p>	<p>NPO オーソテックソサエティ 理事 溝口憲一</p>	<p>33名 (外部30名)</p>
29	3月13日	<p>口腔ケア講演会 「千鳥橋病院における口腔ケアの実際」</p>	<p>千鳥橋病院 歯科衛生士 山岸眞由美</p>	<p>101名 (外部19名)</p>
30	3月18日	<p>がん・緩和ケア研修会 「在宅緩和ケアの実際～訪問看護の立場から～」</p>	<p>訪問看護ステーションかりん 管理者 看護師 森恵</p>	<p>64名 (外部11名)</p>
31	3月20日	<p>がん診断講座</p> <p>1.胆膵癌の画像診断と放射線科的治療</p> <p>2.胆膵癌における外科治療</p> <p>3.早期膵癌へのアプローチ</p>	<p>当院 放射線診断科部長 鉾立博文</p> <p>当院 外科部長 濱之上雅博</p> <p>当院 消化器内科科長 今給黎和幸</p>	<p>54名 (外部5名)</p>
32	3月30日	<p>放射線安全教育研修会 「放射線業務従事者として理解して頂きたいこと」 「当院におけるバッジと電離検診の運用について」</p>	<p>長瀬ランダウア(株) 永井慎一 中央放射線部 小屋俊彰</p>	<p>48名</p>

12. 平成 26 年度クオリティインディケータ（入院・救急・手術・紹介に関する指標）

	H26.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H27.1月	2月	3月	平均
平均在院日数(日)	7対1入院基本料条件 → 18日以内(3ヶ月平均)												
調整後	17.0	18.3	17.8	16.4	16.9	16.5	16.6	19.6	17.5	17.7	15.8	16.8	17.2
未調整	17.0	17.0	17.0	16.0	16.1	16.0	15.9	18.8	17.1	18.4	16.6	17.5	17.0
3ヶ月平均	16.2	16.9	17.7	17.4	17.0	16.6	16.6	17.5	17.8	18.2	17	16.8	17.1
入院・退院患者(人)／病床稼働率(%)													
入院患者数(人)	642	635	662	729	706	667	722	599	635	680	675	708	672
退院患者数(人)	635	641	653	705	745	672	695	607	715	589	678	703	670
稼働率(%)	80.5	77.6	82.8	82.4	83.8	79.5	80.6	83.8	82.6	83.7	89.0	88.5	82.9
医療・看護必要度(%)	7対1入院基本料条件 → 15%以上												
A2点、B3点以上割合	15.9	18.2	17.8	17.0	15.6	16.4	20.8	18.2	16.0	17.3	18.4	18.4	17.5
在宅復帰率(%)	7対1入院基本料条件 → 75%以上												
自宅等復帰割合	88.7	90.4	90.2	91.1	92.5	90.9	92.2	91.3	91.4	91.6	90.9	90.4	91.0
救急科実績	()内は入院数												
救急車台数(台)	199	213	206	225	212	221	202	222	227	244	204	227	217
搬送者数(人)	203	217	209	229	216	228	205	223	232	247	209	229	221
入院	99	104	105	109	111	115	127	104	125	125	120	109	113
外来	104	117	104	120	105	113	78	119	107	112	86	120	107
入院率	48.8%	47.9%	50.2%	47.6%	51.4%	50.4%	62.0%	46.6%	53.9%	50.6%	57.4%	47.6%	51.2%
ドクターへリ搬送(件)	4	5	2	6	5	5	7	5	2	4	2	1	4
洋上救急件数	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
紹介患者	43(38)	28(26)	34(34)	39(38)	37(36)	35(34)	43(40)	37(34)	43(40)	51(50)	54(51)	43(41)	41(39)
交通事故患者	31(9)	39(14)	30(10)	37(12)	31(8)	44(13)	29(14)	31(10)	41(13)	29(6)	28(9)	31(8)	33(11)
外傷患者	42(17)	59(27)	65(32)	43(23)	55(26)	52(33)	54(31)	67(29)	56(12)	46(23)	46(26)	61(25)	54(25)
急病患者	87(35)	91(31)	78(29)	110(36)	93(41)	131(69)	79(42)	88(31)	92(46)	121(46)	81(34)	94(35)	95(40)
CPA(心肺停止)件数	2	1	3	0	2	1	0	4	5	9	5	5	3
t-PA(超急性期脳卒中)件数	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
手術件数(件)													
手術件数	375	344	373	399	406	341	400	340	369	344	382	399	373
初診・紹介・逆紹介患者数／紹介・逆紹介率	※地域医療支援病院計算式に準ずる(紹介率50%、逆紹介率70%が当院の基準)												
初診患者数(人)	999	886	843	869	767	892	790	801	863	883	869	819	857
紹介患者数(人)	293	275	320	344	308	330	349	286	307	315	324	348	317
逆紹介患者数(人)	511	459	504	532	526	523	505	421	515	414	510	516	495
紹介率(%)	45.9	49.8	62.3	67.2	65.5	63.7	68.2	66.8	63.4	68.8	67.5	67.2	63.0
逆紹介率(%)	80.0	83.2	98.1	103.9	111.9	101.0	98.6	98.4	106.4	90.4	106.3	99.6	98.2

※手術の施設基準に基づき、平成 26 年（2014 年）の 1 年間に実施した手術名、手術件数

手術区分	手術名	手術件数
区分 1	頭蓋内腫瘍摘出手術	15 件
区分 1	黄斑下手術等	149 件
区分 1	鼓室形成手術等	9 件
区分 1	肺悪性腫瘍手術等	75 件
区分 2	靭帯断裂形成手術等	7 件
区分 2	水頭症手術等	26 件
区分 2	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0 件
区分 2	尿道形成手術等	5 件
区分 2	角膜移植術	0 件
区分 2	肝切除術等	18 件
区分 2	子宮附属器悪性腫瘍手術等	5 件
区分 3	上顎骨形成術等	21 件
区分 3	上顎骨悪性腫瘍手術等	1 件
区分 3	バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	1 件
区分 3	母子化手術等	6 件
区分 3	内反足手術等	0 件
区分 3	食道切除再建術等	0 件
区分 4	胸腔鏡下及び腹腔鏡下手術等	263 件
その他の区分	人工関節置換術	48 件
その他の区分	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	10 件

入院患者に関する年度別実績

	H24 年度	H25 年度	H26 年度
平均在院日数	15.4	15.3	17.2
病床利用率（％）	80.9	83.3	82.9

年度別手術症例数

	H24 年度	H25 年度	H26 年度
手術症例数	4,013	4,480	4,472

年度別紹介率

	H24 年度（地域支援）	H25 年度（地域支援）	H26 年度（地域支援）
紹介率（％）	45.9	50.5	62.4

年度別逆紹介率

	H24 年度（地域支援）	H25 年度（地域支援）	H26 年度（地域支援）
逆紹介率（％）	65.4	60.8	97.6

※計算方法・・・地域支援

13.初期臨床研修病院実績

初期（卒後）臨床研修病院として、次の通り研修医を受け入れ、指導教育を行った。

基幹型研修医 4月～3月 4名（2年目：佐保明、中間恵美子、1年目：藍嵐、上塘彩子）
（救急科、消化器内科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科、呼吸器外科、
整形外科、形成外科、脳神経外科、産婦人科、麻酔科、小児科、皮膚科、
病理診断科、放射線科、泌尿器科、新生児内科）

協力型研修医 4月 1名（2年目：田中貴子）（救急科）
11月～1月 1名（2年目：小倉拓馬）（整形外科）
3月 1名（1年目：上敷領俊晴）（呼吸器内科）

初期臨床研修関係事業（平成26年度）

日付	事業名称	当院参加者	場所	主催
4.25	平成26年度研修医歓迎レセプション	3名	県医師会館	県医師会
6.1	eレジフェア2014 in 西日本	7名	西日本総合展示場	株式会社リンクスタッフ
6.6	平成26年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会 担当者会議	3名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
6.30	平成26年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会	1名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
7.17	夏の臨床研修病院合同説明会	5名	鹿児島大学医学部	県初期臨床研修連絡協議会
9.6	第10回 鹿児島県臨床研修医合同研修会 （藍嵐研修医が症例発表）	8名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
9.23	第9回 九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会	5名	福岡国際会議場	九州厚生局
11.22 ～ 11.23	指導医養成講習会（巻幡部長および中央病院医師 [当院の研修協力施設] 1名修了）	1名	鹿児島大学病院 総合臨床研修センター	県初期臨床研修連絡協議会
11.26 ～ 11.27	平成26年度プログラム責任者養成講習会 （長堂部長修了）	1名	スペースアルファ神戸	臨床研修協議会
12.1	平成26年度第2回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会 担当者会議	3名	鹿児島市勤労者 交流センター	県初期臨床研修連絡協議会
12.11	平成26年度第2回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会	1名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
1.17	第11回 鹿児島県臨床研修医合同研修会 （上塘研修医が症例発表）	9名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
3.13	鹿児島県臨床研修病院見学ツアー事業		県内11病院	県初期臨床研修連絡協議会
3.14	春の臨床研修病院合同説明会	5名	NCサンプラザ	県初期臨床研修連絡協議会
3.22	レジナビフェアスプリング2015 in 東京へ派遣 （中間恵美子研修医および藍嵐研修医）	2名	東京ビッグサイト	民間医局

（その他） ・医学部医学科4～6年病院見学者28名を受け入れた。
・平成27年度研修プログラムより、公立種子島病院（地域医療）および天陽会中央病院（循環器内科・心臓血管外科）を研修協力施設として厚生労働省へ追加申請した。

（研修歯科医） 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 研修歯科医28名を受け入れ、指導教育を行った。

14.各学校より実習病院の指定を受け、次の通り実習生を受け入れ、
**医学、看護、理学・作業・言語聴覚療法、放射線、事務等に
 関する実習指導を行った。**

【医師】

鹿児島大学医学部医学科 6年臨床医学学外実習 外科	4月28日～5月30日	1名
鹿児島大学医学部医学科 5年学外臨床実習（ポリクリ） 耳鼻咽喉科	毎週火曜日	各1～2名
鹿児島大学医学部医学科 5年学外臨床実習（ポリクリ） 外科	毎週水曜日・隔週金曜日	各1～2名
鹿児島大学医学部医学科 5年学外臨床実習（ポリクリ） 整形外科	隔週水曜日	各1～2名
鹿児島大学医学部医学科 5年学外臨床実習（ポリクリ） 呼吸器外科	毎週木曜日・隔週火曜日	各1名
鹿児島大学医学部医学科 4年シャドウイング 呼吸器内科	4月18日・5月16日・5月30日・6月13日・7月11日	(各1名の2名)
鹿児島大学医学部医学科 4年シャドウイング 神経内科	4月18日/5月9日・16日/6月20日・27日/7月11日	(各1名の6名)
鹿児島大学医学部医学科 4年シャドウイング 呼吸器外科	4月11日・25日/5月16日/6月13日・27日・7月11日	(各1名の6名)
鹿児島大学医学部医学科 4年シャドウイング 脳神経外科	4月18日/5月16日/6月13日・20日	(各1名の4名)
ミャンマー大学	8月11日～15日	1名
鹿児島大学医学部医学科 3年シャドウイング 呼吸器外科	10月17日・31日/11月28日	(各1名の3名)
鹿児島大学医学部医学科 3年シャドウイング 呼吸器内科	10月3日・17日/11月14日・28日	(各1名の4名)
鹿児島大学医学部医学科 3年シャドウイング 神経内科	10月3日・17日・31日/11月28日	(各1名の4名)
鹿児島大学医学部医学科 3年シャドウイング 脳神経外科	10月17日・31日/11月14日・28日	(各1名の4名)

【看護部】

原田学園鹿児島医療技術専門学校（看護学）	120日間	30名
久木田学園看護専門学校（看護学）	4208日間	1052名
医療法人協会立看護専門学校（看護学）	300日間	75名
神村学園専修学校（看護学）	776日間	194名
神村学園高等部看護学科基礎課程（看護学）	192日間	48名
神村学園高等部看護学科専門課程（看護学）	560日間	140名
鳳凰高等学校看護学科基礎課程（看護学）	120日間	30名
龍桜高等学校看護学科専門課程（看護学）	552日間	138名
鹿児島看護中央専門学校 2年課程（看護学）	264日間	132名
久木田学園看護専門学校（在宅看護）	120日間	30名

鹿児島中央看護専門学校 2年課程（在宅看護）	48日間	24名
神村学園高等部看護学科専門課程（在宅看護）	96日間	24名
鳳凰高等学校看護学科専門課程（在宅看護）	120日間	30名
鹿児島高等看護学院（看護学）	60日間	15名

【リハビリテーション部】

琉球リハビリテーション学院 長期（作業療法学）	4月7日～6月7日	62日間	1名
鹿児島医療技術専門学校 長期Ⅰ（理学療法学）	5月5日～7月11日	68日間	1名
沖縄リハビリテーション福祉学院 長期（作業療法学）	5月12日～7月12日	62日間	1名
鹿児島医療福祉専門学校 長期Ⅰ（理学療法学）	5月12日～7月19日	69日間	1名
九州中央リハビリテーション学院 長期（作業療法学）	5月19日～7月12日	55日間	1名
神村学園専修学校 検査測定（作業療法学）	7月28日～8月2日	6日間	1名
神村学園専修学校 長期（作業療法学）	6月23日～8月16日	55日間	1名
鹿児島大学 長期（理学療法学）	7月24日～9月5日	54日間	1名
鹿児島医療福祉専門学校 検査測定（理学療法学）	7月28日～8月2日	6日間	2名
鹿児島医療技術専門学校 長期（作業療法学）	8月4日～10月10日	68日間	1名
鹿児島医療福祉専門学校 長期Ⅱ（理学療法学）	8月11日～10月18日	69日間	1名
宮崎リハビリテーション学院 長期Ⅱ（理学療法学）	8月18日～10月29日	73日間	1名
神村学園専修学校 検査測定（作業療法学）	8月25日～8月30日	6日間	1名
鹿児島大学 検査測定（理学療法学）	9月8日～9月12日	5日間	1名
福岡リハビリテーション学院 長期（理学療法学）	1月13日～3月5日	52日間	1名
鹿児島医療福祉専門学校 評価（理学療法学）	2月2日～2月21日	20日間	2名
籠島医療福祉専門学校 体験（理学療法学）	2月23日～2月25日	3日間	2名

【中央放射線部】

鹿児島医療技術専門学校診療放射線技術学科 4年	6月2日～27日	26日間	1名
鹿児島医療技術専門学校診療放射線技術学科 4年	6月30日～7月25日	26日間	1名
鹿児島医療技術専門学校診療放射線技術学科 4年	9月1日～30日	30日間	3名

鹿児島医療技術専門学校診療放射線技術学科 3年

10月1日～31日 31日間 2名

【中央臨床検査部】

熊本保険大学保健科学部医学検査学科 4年生	8月20日	1日間	1名
熊本大学医学部保健学科検査技術学専攻 4年生	8月25日～29日	5日間	1名
熊本大学医学部保健学科検査技術科学専攻 3年生	3月10日	1日間	2名
山口大学医学部保健学科検査技術科学専攻 3年生	3月16日	1日間	2名
熊本保健科学大学保健科学部医学検査学科 3年生	3月18日～20日	3日間	1名

【臨床工学部】

九州保健福祉大学保健科学部臨床工学科 4年生	6月16日～26日	11日間	1名
九州保健福祉大学保健科学部臨床工学科 4年生	8月4日～15日	12日間	1名

【栄養管理部】

鹿児島純心短期大学食物栄養専攻 2年生	給食管理実習（病院給食実習）		
	8月18日～29日	12日間	1名
九州女子大学家政学部栄養学科 3年臨地実習（I I）校外学習			
	3月2日～13日	12日間	1名

【在宅医療部】

久木田学園看護専門学校	4月14日～9月4日	144日間	14名
鹿児島中央看護専門学校 2年課程（通信制）看護科			
	7月22日～8月12日	22日間	19名
神村学園高等部看護学科専門課程	9月22日～12月22日	92日間	10名

【事務部】

鹿児島情報ビジネス専門学校	8月18日～22日	4日間	1名
鹿児島東高校 インターシップ研修	11月13日	半日間	2名

15. 視察・研修・見学（社会人の個人、団体、および学生）の受入

【看護部】

4月17日	千葉愛友会記念病院 副院長・看護部 NICU・GCU 見学	3名
4月30日	久木田学園看護専門学校教員 在宅医療部（訪問看護）研修	1名
5月7日	医療法人協会立看護専門学校教員 2西病棟（母性看護）研修	2名
5月23日・30日	かねこクリニック 中央材料室見学	4名
7月22日～9月19日	4校合同インターシップ 福岡大学医学部看護学科・医療法人協会立病院看護専門学校 ・龍桜高等学校看護学科・藤元メディカルシステム付属医療専門学校	12名
8月27日・28日	久木田学園看護専門学校教員 3東病棟実習指導教員の研修	1名
10月22日～12月5日	訪問看護研修（NICU） 21施設から看護師28名・作業療法士8名・理学療法士7名	

10月29日	パラマウントベッド株式会社	NICU・GCU 見学	3名
11月5日	鹿児島医療技術専門学校教員	4北病棟専任教員の研修	1名
11月11日～13日			
	鹿児島県立鹿児島東高等学校普通科2年生	職場体験学習	2名
1月20日	神村学園高等部教務	2西病棟事前実習	2名
2月27日	医療法人玉水会	玉水会病院 口腔ケアチームの活動状況の見学	5名
3月9日～13日			
	訪問看護ステーションめばえ	NICU 病棟	2名

【中央放射線部】

7月24日	岡山県病院協会		21名
11月12日	東高校インターシップ研修	放射線部	2名
11月15日	マレーシア国	MRI 装置観察	2名
1月28日・2月20日			
	大海クリニック	MRI 検査	1名
3月13日	臨床研修病院見学ツアー（医学4・5年生）	放射線部	1名

【病理部】

7月3日・4日	ロシュダイアグノスティックス	免疫染色見学	1名
8月19日・20日	鹿児島大学3年生	病理見学	3名
2月5日	相良病院技師	病理・免疫染色見学	1名

【薬剤部】

4月2日	神戸学院大学6年生		1名
4月12日	保険薬局薬剤師・薬学性		15名
5月15日	熊本大学卒業生		1名
5月30日	熊本大学6年生		2名
7月17日	崇城大学6年生		1名
1月27日～1月30日			
	長田中学校2年生	職場体験学習	2名
3月25日	崇城大学5年生		3名
3月26日	九州保健福祉大学5年生		3名

【栄養管理部】

11月12日	鹿児島県立東高校普通科	「病院における栄養士の役割」「給食体験」	2名
--------	-------------	----------------------	----

【緩和医療課】

3月19日	慈愛会今村病院	がん相談支援センター見学	3名
-------	---------	--------------	----

【消防・救命士】

10月20日～27日・11月10～17日・12月1日～8日・12月8日～15日・1月19日～26日	鹿児島市消防局	救急救命士病院研修	各1名の5名
1月26日～2月2日			
	救急救命九州研修所	病院実習	3名
2月13日	鹿児島県消防学校	病院実習	2名

【事務部】

7月24日	岡山県病院協会	病院見学	20名
12月9日	鹿児島大学教育学部		1名

16. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動

【医師】

5月10日・11日	「リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま」救護班	1名派遣
7月27日	ひまわりの会（小児膠原病親子の会）	1名派遣

【看護部】

4月26日	鹿児島市教育委員会 第1回鹿児島市スポーツ推進委員会	1名派遣
5月10日・11日	「リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま」救護班	1名派遣
5月17日	看護協会 1日まちの保健室ダイエー鹿児島店（ブルーノート）	2名派遣
6月20日～22日	バスケットボール協会 第67回全九州高等学校体育大会バスケットボール競技役員	1名派遣
7月5日	鹿児島市教育委員会 第2回鹿児島市スポーツ推進委員会	1名派遣
7月5日・6日	第5回全九州クラブバスケットボール選抜大会 第3回九州地区予選会競技役員	1名派遣
9月6日	看護協会 まちの保健室（第35回看護展）協力員	1名派遣
9月20日・21日	第68回県民体育大会参加	1名派遣
2月13日～15日	バスケットボール協会 第45回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会・審判役員	1名派遣
2月14日	鹿児島市教育委員会 第62回県下一周市郡対抗駅伝競走大会における自主交通整理員	1名派遣
3月7日	鹿児島市教育委員会 鹿児島市スポーツ推進委員会・社会体育指導者研修会	1名派遣

【中央放射線部】

5月10日	「リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま」	6名派遣
10月5日	市民健康祭り 実行委員活動	1名参加
12月3日	出前事業「リアルしごとびと」診療放射線技師とは	1名派遣
2月22日	ピンクリボンフェスタ イオンモール鹿児島実行委員	2名派遣

【栄養管理部】

10月25日	第7回上町さるっきんぐ シルミルメディカルコース 「生活習慣病～食事を学ぼう～」講師	1名派遣
10月5日	第31回市民健康まつり	2名派遣

【病理部】

4月12日	子宮の日キャンペーン活動	1名派遣
2月22日	ピンクリボンフェスタ	1名派遣

【緩和医療課】

5月10日・11日	「リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま」	3名派遣
-----------	------------------------	------

17.医学・看護学校等の学業教諭として、大学・高校・専門学校等へ

講師を定期的に派遣した。

【医師】

鹿児島市科学院専門学校技工士科	非常勤講師	歯科口腔外科医	派遣
鹿児島大学小児科	非常勤講師	小児科部長 玉田泉	派遣
鹿児島県立短期大学	非常勤講師	小児科部長 玉田泉	派遣
鳳凰高校 10月22日～11月19日	非常勤講師	循環器内科部長 大場一郎	派遣
鹿児島大学医学部3年生 1月8日・9日	講師	神経内科部長 長堂竜維	派遣
鹿児島県消防学校 1月23日・30日	講師	救急科部長 西山淳	派遣

久木田学園看護専門学校 非常勤講師一覧表

授業科目		時間数	講師氏名
病態学Ⅰ	骨格系・筋系	15	松永俊二
病態学Ⅱ	呼吸器系	20	川島寿史
	血液・造血器系	10	小濱浩介
病態学Ⅲ	消化器系	10	前田正彦・今給黎和幸・水流弘文
	腎泌尿器系	10	水間浩平
	女性生殖器系	10	加藤明彦
	内分泌系・免疫系	8	生野博久
病態学Ⅳ	脳神経系	10	長堂竜維
	眼系	7	薄井隆宏
	耳鼻咽喉系	8	昇卓夫
	皮膚系	5	玉井真理子
小児疾病論		30	堀之内兼一
周産期及び新生児の生理と異常		30	加藤明彦
保健医療論		15	昇卓夫

【看護部】

6月17日・24日/12月10日・17日	龍桜高等学校看護学科専門課程	非常勤講師	
	がん化学療法認定看護師	河原尚美	派遣
10月22日	鹿児島医療センター附属鹿児島看護専門学校	特別講義	
	NICU 師長	古川秀子	派遣

18.主な公的会議・研修会への参加、講師派遣

【医師】

4月14日	籠島医療センター研修会 「児童虐待について」 講演	1名派遣
5月17日	鹿児島県小児科医会 監査	1名参加
7月16日	鹿児島県医師会裁定委員会 委員	1名参加
8月1日・29日/10月23日	鹿児島市子ども子育て会議	1名参加
9月10日	南日本子ども健康セミナー（鹿児島県小児科保険協会・山形屋主催） 市民の育児支援のために、育児相談	1名派遣
10月21日	平成26年度鹿児島県保育所乳児保育研修会 「乳児保育の意義と役割」 講師	1名派遣

10月21日	先天性代謝異常等検査連絡協議会	2名派遣
10月29日	鹿児島県新規採用養護教諭研修会 講演	1名派遣
11月22日	鹿児島 HIV 感染症研究会「HIV 感染症の新知見」	1名参加
2月9日	鹿児島県小児慢性特定疾患対策協議会 委員	1名参加
2月20日・27日	救急隊員症例検討会 講師	1名派遣
2月26日	薩摩地域救急業務高度化協議会	1名参加
3月15日	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 歯科医師臨床研修管理委員会	1名参加
鹿児島子ども虐待問題研究会	会長として年6回	1名参加
鹿児島県膠原病研究会	顧問として年2回	1名参加
鹿児島文化サロン 育児支援活動	委員として年3回	1名参加

【看護部】

4月5日/6月7日/7月5日・19日/11月1日・15日/2月7日/3月14日・20日	看護協会 看護師職能委員会	1名参加
4月17日/7月3日	看護協会社会経済福祉委員会	1名参加
4月18日/5月6日/6月13日/10月17日/11月14日/12月10日/1月16日/3月13日	看護協会 看護の日・週間行事実行委員会	1名参加
4月25日	看護協会 役員会及び評議委員会	1名参加
5月16日	看護協会 委員会	1名参加
5月24日	看護協会 通常総会及び3職能合同集会	1名参加
5月24日	看護協会 通常総会	2名参加
5月31日	今給黎総合病院 PNS 院外講演会	288名参加
6月2日	看護協会 訪問看護研修ステップ1受講	1名参加
6月3日	WLB 推進ワークショップに関する検討会	2名参加
6月10日・11日	日本看護協会通常総会・全国職能別交流集会	1名参加
6月14日	看護協会 鹿児島地区集会	1名参加
6月27日	看護協会 役員会及び評議委員会	1名参加
6月27日	第1回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	1名参加
6月28日	看護協会 介護・福祉施設で働く看護師研修	1名参加
7月19日/1月24日	看護協会 理事会	1名参加
7月19日	鹿児島県減菌業務研究会 特別演題座長	1名参加
7月24日/10月30日/1月22日	鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議	
7月29日	看護協会 高齢者権利擁護等推進事業における看護実務者研修会	1名参加
8月1日	看護協会 第1回全国職能委員長会	1名参加
8月6日・9日/9月6日	看護協会 准看護師研修会・看護師研修会及び看護師職能委員会 県委託研修会	1名参加
8月17日	看護協会 鹿児島県小児保険協会理事会	1名参加
8月22日/1月23日	看護協会 評議員会	1名参加
8月23日	第14回院内感染防止対策に関する講演会 「当院での感染対策の取り組み～専従感染管理者の奮闘記～」	1名参加

8月～10月（27日間）	看護協会 平成26年度認定看護管理者ファーストレベル教育課程受講	4名参加
8月23日～10月26日（6日間）	医療事故・紛争対応人材養成講座 福岡コース	1名参加
8月30日/9月27日	看護協会 運営委員会・理事会	1名参加
9月～10月	平成26年度救急医療業務実施修練受講	1名参加
9月～11月（35日間）	看護協会平成26年度認定看護管理者セカンドレベル教育課程受講	1名参加
9月2日～4日	看護協会 日本看護協会との合同派遣訓練への協力	2名参加
9月18日・19日・25日	鹿児島大学病院 PNS 見学研修	26名参加
9月20日・21日/10月18日・19日	全国病児保育協議会「病児保育専門士」「病児保育認定看護師」資格認定講習会	1名参加
9月25日	鹿児島県ドクターヘリ検証会	1名参加
9月26日	第2回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	1名参加
9月26日	エイズ拠点病院研修会	1名参加
9月27日	看護協会 医療安全管理者フォローアップ研修会参加依頼	1名参加
10月18日	看護協会 平成25年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル修了生フォローアップ研修	1名参加
10月23日	看護協会 鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議	1名参加
10月23日/12月15日	都道府県医療介護連携調整実証事業 第1回医療・介護合同会議	1名参加
10月25日	第2回感染管理認定看護師フォローアップ研修 講師	1名参加
10月27日・28日	看護協会 九州地区 地区別職能委員会	1名参加
11月6日	九州ホスピタルショー 「ワーク・ライフ・バランスを考える職場の工夫と実際」	1名参加
11月10日	HIV研修会	1名参加
11月10日・11日	「呼吸吸気変換方式経鼻持続陽圧呼吸器（N-CPAP）使用中の回路交換の時期の検討」	1名参加
11月25日～2月13日（40日間）	看護協会 実習指導者講習会	4名参加
11月27日/12月9日・15日/1月6日/2月5日	看護協会 推薦委員会	1名参加
11月28日	看護協会 役員会ならびに評議委員会	1名参加
12月12日	日本看護協会「ワーク・ライフ・バランスを考える職場の工夫と実際」	1名参加
12月12日	第3回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	1名参加
12月20日	看護協会 鹿児島県看護協会事業検討会	1名参加
1月10日	看護協会 看護師研修会および看護師職能委員会	1名参加
1月21日	実習指導者会議 医療法人協会立看護専門学校	2名参加
1月21日	都道府県医療介護連携調整実証事業にかかる退院支援ルール説明会	1名参加

1月23日	看護協会 第48回鹿児島県保健看護研究学会座長	1名参加
1月31日	よしの訪問看護ステーション「小児虐待と倫理」講義	1名参加
1月31日	看護協会 鹿児島県医療安全情報ネットワーク会議	1名参加
2月4日～6日	看護協会 新人看護職員卒度研修実地指導者研修	4名参加
2月20日	第4回三署合同症例検討会①アドバイザー	1名参加
2月21日/3月14日	看護協会 運営委員会・理事会	1名参加
2月27日	第4回三署合同症例検討会②アドバイザー	
2月28日	看護協会 第7回研修会「医療安全」	1名参加
3月6日	看護協会 第2回全国職能委員会	1名参加
3月7日・8日	ひむかセミナー事務局 第19回ひむかセミナー講演	1名参加
3月11日	看護連盟 鹿児島第2支部会	1名参加
3月13日	医療法人玉昌会高田病院 第11回地域連携ネットワーク情報交換会	3名参加
3月14日	久木田学園看護専門学校 平成26年度臨地実習指導者会議	6名参加
3月17日	新人看護職員卒後研修検討会	1名参加
3月21日	第2回PNS研究会「PNS導入における現状と今後の課題」	4名参加
3月21日	「集中治療室におけるPNS導入の取り組み」ポスターセッション	4名参加
3月25日	第4回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会・意見交換会	2名参加
3月25日	鹿児島県ドクターヘリ運航調整委員会事後検証部会	2名参加
3月26日	鹿児島県保健福祉部障害福祉課 救急医療機関等の職員を対象とした自殺未遂者への支援に係る研修会	2名参加
【中央放射線部】		
7月13日	認知症対応力向上研修会 鹿児島県医師会館	3名参加
【薬剤部】		
4月16日/7月16日/10月15日/1月21日	薬薬連携会議	2名参加
5月21日/8月20日/11月19日/2月18日	がん化学療法薬薬連携研修会	15名参加
9月5日/2月6日	がん化学療法に関する合同研修会	4～7名参加
9月26日	エイズ拠点病院研修会	1名参加
11月10日	HIV研修会	3名参加
【栄養管理部】		
6月21日	第10回びくるすの会研究会	2名参加
8月30日	栄養士会生涯学習（栄養管理の基礎）	2名参加
10月19日	鹿児島県慢性腎臓病（CKD）に関する研究会	3名参加
12月9日	第4回関係職種 of 技術向上のための研修会	1名参加
2月1日	栄養士会生涯学習（肥満・メタボ） （鹿児島県医師会在宅医療提供体制推進事業）	2名参加
3月23日	鹿児島県保健所主催 給食従事者研修会 （公益社団法人鹿児島県栄養士会主催研修会）	1名参加

【在宅医療部】

11月12日	在宅医療推進研修会	1名参加
11月18日	西部地区連携の会	1名参加
3月14日	鹿児島県在宅褥瘡セミナー	2名参加
3月18日	診療報酬改定研修会	1名参加

【事務部】

9月26日	エイズ拠点病院研修会	1名参加
11月10日	HIV研修会	1名参加

19.入院患者不在者投票

4月27日	執行衆議院鹿児島県第2区選出議員補欠選挙 不在者投票	1名実施
12月14日	執行第47回衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査 不在者投票	18名実施

20.その他の活動報告

4月1日	鹿児島大学臨床教授委託 昇卓夫・濱之上雅博・松永俊二・児浦純生・丸山芳一・西澤輝彦・米田敏 ・白濱浩・田代幸恵・長堂竜維・川島寿史	11名
6月20日	鹿児島県赤十字血液センター献血	23人
10月6日	産科退院患者による「おぎゃー献金」を日母おぎゃー献金基金へ献金	6,785円
11月6日	鹿児島県赤十字血液センター献血	22人
12月25日	職員によるNHK歳末助け合い募金	121,712円

21.表彰

平成26年度鹿児島県母子保健事業功労者知事表彰	小児科部長 銚之原昌
5月23日 鹿児島県知事 特定給食施設部門「栄養関係功労者知事表彰」	栄養管理部
6月21日 鹿児島県医師会 鹿児島県医師会長賞（看護業務功労）表彰	2東病棟師長 中村章子
10月13日 鹿児島市教育委員会 鹿児島市社会体育功労者表彰	看護副部長 近藤ひとみ